

[選択項目] 年度：1991～2023 年 分野：13 固有値とその応用

0.1 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & 2 \end{pmatrix}$ に対して,

- (1) 固有値を求めよ.
- (2) 単位固有ベクトルを求めよ.
- (3) $\exp(X) = E + \sum_{n=1}^{\infty} \frac{X^n}{n!}$ と定義されている時, $\exp(tA)$ を求めよ. ただし, t : 定数

(北海道大 1997) (m19970102)

0.2 2 次の正方行列 A を

$$A = \begin{pmatrix} p & 1-p \\ 1-q & q \end{pmatrix} \quad (0 < p < 1, 0 < q < 1)$$

とする. このとき, 以下の間に答えよ.

- (1) A の固有値をすべて求め, それぞれの固有値に対する固有ベクトルを求めよ.
- (2) A を対角化せよ.
- (3) A^n を求めよ.

(北海道大 2003) (m20030103)

0.3 次の行列 A について以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} a-b & 0 & 0 & 0 \\ 0 & a & b & 0 \\ 0 & b & a & 0 \\ 0 & 0 & 0 & a-b \end{pmatrix} \quad (a \neq b, a, b \neq 0, a, b \in R)$$

- (1) A の固有値を求めよ.
- (2) A のそれぞれの固有値に対する固有ベクトルを求めよ.
- (3) A を対角化せよ.

(北海道大 2004) (m20040103)

0.4 次の 2 階の微分方程式 :

$$\frac{d^2y}{dx^2} - 3\frac{dy}{dx} + 2y = 0,$$

は, $y_1 = y, y_2 = dy/dx$ の変数変換により,

$$\frac{d}{dx} \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ -2 & 3 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \end{pmatrix},$$

と表せる. 行列 :

$$\begin{pmatrix} 0 & 1 \\ -2 & 3 \end{pmatrix},$$

の固有値・固有ベクトルを計算することにより, y_1, y_2 の一般解を求めよ.

(北海道大 2005) (m20050101)

0.5 次の 3 次実正方行列 A について, 以下の問いに答えなさい. $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 2 \\ 2 & 2 & 0 \end{pmatrix}$

- (1) A の固有値を求めなさい.
- (2) A のそれぞれの固有値に対する固有ベクトルを求めなさい.
- (3) A を対角化する行列 P を求め, A の対角化 $P^{-1}AP$ を求めなさい.

(北海道大 2006) (m20060102)

0.6 実数列 $a_n (n = 1, 2, 3, \dots)$ が $\begin{pmatrix} a_{n+2} \\ a_{n+1} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} a_{n+1} \\ a_n \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} a_2 \\ a_1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \end{pmatrix}$ を満たすとする. $\mathbf{a}_n = \begin{pmatrix} a_{n+1} \\ a_n \end{pmatrix}, \mathbf{A} = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$ とおく時, 次の設問に答えなさい.

- (1) 行列 \mathbf{A} を対角化する正則行列 \mathbf{P} を求めなさい.
- (2) \mathbf{A}^n を求めなさい.
- (3) $\mathbf{a}_n = \mathbf{A}^{n-1}\mathbf{a}_1$ が成り立つ (ただし, $\mathbf{A}^0 = \mathbf{E}$ (単位行列) とする) ことに注意して, 実数列 $\{a_n\}$ の一般項 a_n を求めなさい.

(北海道大 2008) (m20080101)

0.7 行列, $A = \begin{pmatrix} 3 & 2 \\ -5 & -3 \end{pmatrix}$ が与えられている. 以下の問いに答えなさい.

- (1) \mathbf{A} の固有値と固有ベクトルを求めなさい.
- (2) $\mathbf{P} = \mathbf{I} + \mathbf{A} + \mathbf{A}^2 + \mathbf{A}^3 + \dots + \mathbf{A}^{100}$ を計算しなさい. ここで, \mathbf{I} は単位行列である.

(北海道大 2009) (m20090102)

0.8 次の行列 A について以下の設問 (1), (2) に答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 4 & 1 & 0 \\ -3 & 0 & 0 \\ -1 & -2 & 2 \end{pmatrix}$$

- (1) A の固有値とその固有ベクトルを求めよ.
- (2) A の対角化行列 $P^{-1}AP$ を求めよ. また, そのときの行列 P を示せ.

(北海道大 2010) (m20100104)

0.9 以下に示す行列 P と A について各設問に答えよ. 途中の計算手順を詳しく記述すること.

$$P = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \\ 1 & 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} \quad A = \begin{pmatrix} a & b & c & d \\ d & a & b & c \\ c & d & a & b \\ b & c & d & a \end{pmatrix}$$

- (1) 行列 P の固有値を求めよ.
- (2) 行列 A を, P, a, b, c, d および単位行列 E を用いて表せ.
- (3) 行列 A の固有値を求めよ.
- (4) 行列式 $|A|$ を求めよ.

(北海道大 2011) (m20110104)

0.10 以下の設問に答えよ. 途中の計算結果を詳しく記述すること.

- (1) k を任意の実数とすると、次のベクトルの組 $(\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3)$ が一次独立となる条件を求めよ。

$$\mathbf{a}_1 = \begin{bmatrix} -2 \\ 2 \\ -2 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{a}_2 = \begin{bmatrix} -5 \\ 4 \\ -3 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{a}_3 = \begin{bmatrix} -1 \\ k \\ 1 \end{bmatrix}$$

- (2) $\mathbf{A} = [\mathbf{a}_1 \ \mathbf{a}_2 \ \mathbf{a}_3]$ とする。また、 $k = 0$ とするとき、行列 \mathbf{A} の固有値と固有ベクトルを求めよ。
 (3) \mathbf{A}^n (n は自然数) を求めよ。

(北海道大 2012) (m20120101)

- 0.11 次の対称行列について、以下の設問に答えよ。

$$\mathbf{A} = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \end{pmatrix}$$

- (1) $\mathbf{x}_1 = \begin{pmatrix} \frac{1}{\sqrt{3}} \\ \frac{1}{\sqrt{3}} \\ \frac{1}{\sqrt{3}} \end{pmatrix}$ は \mathbf{A} の固有ベクトルの一つであることを示し、対応する固有値を求めよ。
 (2) \mathbf{A} の固有ベクトルのうち、(1) で与えられた \mathbf{x}_1 を除くもの 2 つ ($= \mathbf{x}_2, \mathbf{x}_3$) を挙げよ。ただし、それらの大きさを $|\mathbf{x}_2| = |\mathbf{x}_3| = 1$ とし、3 つの固有ベクトル $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2, \mathbf{x}_3$ が互いに直交するものを選ぶこと。
 (3) $\mathbf{P}^{-1}\mathbf{A}\mathbf{P} = \mathbf{\Lambda}$ ($\mathbf{\Lambda}$: 対角行列) となるような直交行列 \mathbf{P} を求め、これを用いて \mathbf{A}^n を計算せよ。

(北海道大 2013) (m20130101)

- 0.12 行列 A を $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 1 & -1 & 2 \end{pmatrix}$ で定める。

- (1) A の固有値、固有ベクトルを求めよ。
 (2) n は自然数とする。 A^n を求めよ。

(北海道大 2017) (m20170105)

- 0.13 次の行列 \mathbf{A} に関して以下の設問に答えなさい。ただし、 a と b は実数とする。

$$\mathbf{A} = \begin{pmatrix} a & 1 \\ -b^2 & 4 \end{pmatrix}$$

- (1) 行列 \mathbf{A} が異なる二つの固有値をもつための条件を示しなさい。
 (2) 行列 \mathbf{A} の固有値が 2 と 4 のとき、 a と b を求めなさい。
 (3) 行列 \mathbf{A} の固有値が 2 と 4 のとき、 A^n を求めなさい。ただし、 n は自然数とする。

(北海道大 2017) (m20170109)

- 0.14 次の行列 A について、以下の設問に答えなさい。

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 2 & 2 \\ 2 & 1 & 0 \\ 2 & 0 & -1 \end{pmatrix}$$

- (1) A の固有値を求めなさい。

(2) 各固有値に属する固有ベクトル（ただし大きさが1）を求めなさい。

(北海道大 2020) (m20200103)

0.15 次の行列 A について、以下の設問に答えなさい。

$$A = \begin{bmatrix} 2 & 0 & 1 \\ 0 & 2 & 0 \\ 1 & 0 & 2 \end{bmatrix}$$

- (1) 行列 A の行列式を求めなさい。
- (2) 行列 A の固有値と対応する固有ベクトルを求めなさい。
- (3) 行列 $2A$ の行列式と固有値を求めなさい。

(北海道大 2021) (m20210102)

0.16 次の行列 A について、以下の設問に答えなさい。ただし、 a は任意の実数とする。

$$A = \begin{bmatrix} a & 1 \\ 0 & 3 \end{bmatrix}$$

- (1) 行列 A が正則となるための a の条件を求めなさい。また、このとき逆行列を a を使って表しなさい。
- (2) $a = 3$ のとき、固有値と固有ベクトルを求めなさい。

(北海道大 2022) (m20220103)

0.17 $A = \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 1 & -1 \end{pmatrix}$ とする。 A の固有値、固有ベクトルを求めよ。

(北見工業大 2008) (m20080205)

0.18 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 2 \end{pmatrix}$ につき以下の問いに答えよ。

- (1) 行列 A の固有値をすべて求めよ。
- (2) 各固有値に属する固有ベクトルをひとつ挙げよ。

(北見工業大 2009) (m20090205)

0.19 t を実変数、 x, y を未知関数とする次のような連立微分方程式を考える。

$$\frac{dx}{dt} = 2x + 5y, \quad \frac{dy}{dt} = x - 2y \quad (\text{a})$$

この連立微分方程式は次のように書き表すことができる。

$$\frac{dr}{dt} = Ar \quad (\text{b})$$

ここで、行列 A と列ベクトル r は次のように与えられる。

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 5 \\ 1 & -2 \end{pmatrix}, \quad r = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$$

次の問に答えよ。

- (1) 実定数を成分とする 2 行 2 列の正則行列 P を導入すると, 上記の (b) が次のように書きかえられることを示しなさい.

$$\frac{dR}{dt} = BR \quad (\text{c})$$

ここで, B, R は P とその逆行列 P^{-1} を用いて次のように与えられる.

$$B = P^{-1}AP, \quad R = P^{-1}r$$

- (2) P を次のようにとると, B が対角行列になることが分かった.

$$P = \begin{pmatrix} 5 & -1 \\ 1 & 1 \end{pmatrix}$$

P の行列式 $\det P, P$ の逆行列 P^{-1} , および B を求めよ.

- (3) 次のように, 列ベクトル R の成分を X, Y とする.

$$R = \begin{pmatrix} X \\ Y \end{pmatrix}$$

微分方程式 (c) を解き, X, Y のそれぞれを t の関数として表す一般解を求めよ.

- (4) $t = 0$ において $x = x_0, y = y_0$ という初期条件を満足する連立微分方程式 (a) の解を求めよ.
(岩手大 1996) (m19960304)

0.20 行列 $A = \begin{pmatrix} 4 & -1 \\ 2 & 1 \end{pmatrix}$ に関して, 次の問いに答えなさい.

- (1) 次の式を計算しなさい.

$$(i) A \text{ の逆行列 } A^{-1} \quad (ii) (A + 6A^{-1})(A - 6A^{-1})$$

- (2) 行列 A で表される一次変換を f とするとき, 一次変換 f による直線 $y = 3x - 2$ の像の方程式を求めなさい.
(3) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めなさい.

(岩手大 2009) (m20090303)

0.21 行列 $A = \begin{pmatrix} 5 & 2 \\ 1 & 4 \end{pmatrix}$ に関して次の問いに答えなさい.

- (1) 行列式 $|A|$ および逆行列 A^{-1} を求めなさい.
(2) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めなさい.
(3) $P^{-1}AP$ が対角行列であるような正則な 2 次正方行列 P をひとつ求めなさい.
(4) 任意の自然数 n に対し A^n を求めなさい.

(岩手大 2010) (m20100302)

0.22 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & -3 \\ -1 & 5 & 0 \\ 3 & 2 & 1 \end{pmatrix}, B = \begin{pmatrix} 0 & 2 \\ -1 & 3 \end{pmatrix}$ に関して, 次の問いに答えなさい.

- (1) 行列式 $|A|$ の値を求めなさい.
(2) 行列 B, C と 2 次の単位行列 E に関して $BC = E$ が成り立つとき, 行列 C を求めなさい.
(3) 行列 B の固有値と固有ベクトルを求めなさい.

(4) 行列 B を対角化しなさい.

(岩手大 2012) (m20120302)

0.23 対称行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & 0 & a \\ 0 & 3 & -1 \\ 1 & b & 2 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えなさい. ただし, a, b は定数とする.

- (1) 定数 a, b を求めなさい.
- (2) 行列 A の固有値を求めなさい.
- (3) 行列 A の固有ベクトルを求めなさい.

(岩手大 2013) (m20130302)

0.24 対称行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & 1 \\ 1 & 3 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えなさい.

- (1) 固有値を求めなさい.
- (2) 行列 A を直交行列により対角化しなさい.
- (3) $X^2 - E = A$ を満たす行列 X をひとつ求めなさい.

(岩手大 2014) (m20140302)

0.25 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 4 & 3 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えなさい.

- (1) 固有値を求めなさい.
- (2) 固有ベクトルを求めなさい.
- (3) $P^{-1}AP$ が対角行列になるような行列 P を求め, A を対角化しなさい.
- (4) A^n を求めなさい. ただし, n は自然数とする.

(岩手大 2015) (m20150302)

0.26 行列 $A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}$ に対して $B = \begin{pmatrix} 0 \\ 12 \end{pmatrix}$, $C = \begin{pmatrix} 12 \\ 12 \end{pmatrix}$ を考える. $B' = AB = \begin{pmatrix} 0 \\ 6 \end{pmatrix}$, $C = AC$ であるとき, 次の問いに答えなさい

- (1) a, b, c, d の値をそれぞれ求めなさい.
- (2) 行列 A の逆行列 A^{-1} を求めなさい.
- (3) $D = \begin{pmatrix} u \\ v \end{pmatrix}$ に対し $D' = \begin{pmatrix} 3 \\ 7 \end{pmatrix} = AD$ であるとき, 逆行列 A^{-1} を用いて u, v の値をそれぞれ求めなさい.
- (4) 行列 A の固有値, および, それに属す固有ベクトルを求めなさい. ただし, 固有ベクトルの大きさは 1 とする.

(岩手大 2016) (m20160302)

0.27 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & -1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 2 & 2 & 3 \end{pmatrix}$, $B = \begin{pmatrix} u \\ v \\ w \end{pmatrix}$, $C = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 3 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えなさい.

- (1) 行列 A の逆行列 A^{-1} を求めなさい.
- (2) $AB = C$ であるとき, 逆行列 A^{-1} を用いて u, v, w の値をそれぞれ求めなさい.

- (3) 行列 A の固有値, 固有ベクトルを求めなさい.
 (4) $P^{-1}AP$ が対角行列になるように行列 P を求め, A を対角化しなさい.

(岩手大 2018) (m20180302)

0.28 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 & 1 \\ -1 & 3 & 2 \\ 1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$, ベクトル $e_x = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$, $e_y = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えなさい.

- (1) 行列 A のランク (階数) $\text{rank}(A)$ が 3 であることを示しなさい.
 (2) $e_x' = Ae_x$, $e_y' = Ae_y$ であるとき, 2つのベクトル e_x' , e_y' を二辺とする平行四辺形の面積を求めなさい.
 (3) 行列 A の固有値, および, それぞれの固有値に属する固有ベクトルを求めなさい.
 (4) $P^{-1}AP$ が対角行列になるように行列 P を求め, A を対角化しなさい.

(岩手大 2019) (m20190302)

0.29 行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & 3 & -2 \\ -2 & -2 & 1 \\ 4 & -1 & 6 \end{pmatrix}$, $B = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$, $C = \begin{pmatrix} 1 \\ -5 \\ 39 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えなさい.

- (1) 行列 A のランク (階数) $\text{rank}(A)$ が 3 であることを示しなさい.
 (2) $AB = C$ であるとき, 行列を用いて x, y, z の値をそれぞれ求めなさい.
 (3) 行列 A の固有値, 固有ベクトルを求めなさい.

(岩手大 2021) (m20210302)

0.30 3次の正方行列 $A = \begin{pmatrix} -2 & a & 3 \\ 4 & 1 & -a \\ 10 & 2 & b \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えなさい.

- (1) 行列 A が固有ベクトル $\begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 2 \end{pmatrix}$ をもつとき, a と b の値を求めなさい.
 (2) 行列 A の固有値をすべて求めなさい.

(岩手大 2022) (m20220302)

0.31 a を実数とし, $A = \begin{pmatrix} 3 & a \\ a & 3 \end{pmatrix}$ とする.

- (1) A の固有値が, 5 と 1 になるように, a の値を定めなさい.
 (2) $a > 0$ であり, かつ, A の固有値が 5 と 1 であるとする. このとき, A の固有ベクトルで大きさ 1 のものを求めなさい.

(秋田大 2003) (m20030404)

0.32 a, b を実数とし, $M = \begin{pmatrix} a & 2 \\ 3 & b \end{pmatrix}$ は, トレース (M の対角成分の総和のことで, $\text{tr}(M)$ とも表記する) が 4 で, 行列式 ($\det(M)$ とか $|M|$ とか表記する) が -2 とする. そのとき次に答えなさい.

- (1) a, b を求めなさい.

(2) 行列 M の固有値を全て求めなさい.

(秋田大 2004) (m20040406)

0.33 (1) 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & -1 & 1 \\ -1 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & 2 \end{pmatrix}$ の固有値を求めよ.

(2) 問題(1)の行列 A に対して, $P = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \\ -1 & 1 & 1 \end{pmatrix}$ とおく. このとき, P の各列ベクトルが A の固有ベクトルであることを確かめ, $AP = PX$ となる行列 X を求めよ.

(3) 問題(1)の行列 A の階数 (rank) と行列式 (determinant) を求めよ.

(秋田大 2005) (m20050403)

0.34 A は 2 次正方行列, a, b は A の固有ベクトルで, 固有値はそれぞれ $2, \frac{1}{2}$ であるとする.

$x_1 = a + b, x_2 = Ax_1, x_3 = Ax_2, \dots, x_n = Ax_{n-1}$ とする. x_n を a, b を用いた式で表せ.

(秋田大 2006) (m20060403)

0.35 a を実数とする. 行列 $A = \begin{pmatrix} a & 1 \\ 1 & a \end{pmatrix}$ の固有値を求めよ. また, A が正の値の固有値と負の値の固有値の両方を持つための a の値の範囲を求めよ.

(秋田大 2008) (m20080401)

0.36 行列 $\begin{pmatrix} 2 & 0 & 0 & 0 \\ 3 & -1 & 0 & 0 \\ 1 & -1 & 2 & 1 \\ 2 & 2 & 1 & 2 \end{pmatrix}$ の固有値をすべて求めよ.

(秋田大 2009) (m20090406)

0.37 次のカッコ内に当てはまる整数を記入せよ.

(1) 行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & 1 & 3 \\ 1 & 7 & 1 \\ 3 & 1 & 3 \end{pmatrix}$ の階数は $\boxed{\text{(ア)}}$ であり, A の固有値は, 小さい方から順に

$\boxed{\text{(イ)}}, \boxed{\text{(ウ)}}, \boxed{\text{(エ)}}$ である.

(2) 行列 $B = \begin{pmatrix} 1 & -2 & 0 \\ -1 & 3 & 2 \\ 1 & -1 & 4 \end{pmatrix}$ の行列式の値は $\boxed{\text{(オ)}}$ である. B の逆行列について, B^{-1} の

$(2, 1)$ 成分は $\boxed{\text{(カ)}}$ である.

(秋田大 2010) (m20100401)

0.38 行列 $P = \begin{pmatrix} 3 & 1 \\ 2 & 1 \end{pmatrix}$ に対して, 以下の設問(1),(2)に答えよ.

(1) P の逆行列が $\begin{pmatrix} 1 & -1 \\ -2 & 3 \end{pmatrix}$ になることを確かめよ.

(2) P の第 1 列ベクトルを \mathbf{p}_1 , 第 2 列ベクトルを \mathbf{p}_2 とする. \mathbf{p}_1 が, ある 2×2 行列 A の固有値 1 の固有ベクトルであり, \mathbf{p}_2 が, 同じ行列 A の固有値 -1 の固有ベクトルであるとき, A を求めよ.

0.39 以下の問いに答えよ.

- (1) 以下の四角内に当てはまる値を計算し, 解答欄の指定した箇所に記入せよ.

行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 1 \end{pmatrix}$ に対し, A の 2 つの固有値をそれぞれ α, β とする (ただし, $\alpha < \beta$ とする). また, α と β に対応する固有ベクトルをそれぞれ v_α, v_β とする. このとき

$$\alpha = \boxed{\text{(カ)}}, \beta = \boxed{\text{(キ)}}, v_\alpha = \begin{pmatrix} \boxed{\text{(ク)}} \\ 1 \end{pmatrix}, v_\beta = \begin{pmatrix} \boxed{\text{(ケ)}} \\ 1 \end{pmatrix}$$

となる,

注意 $\boxed{\text{(ク)}}$ と $\boxed{\text{(ケ)}}$ は, それぞれ v_α と v_β のベクトルの第一成分である.

- (2) 2 つのベクトル v_α と v_β が直交するかどうか答え, その理由を述べよ.

(秋田大 2013) (m20130404)

- 0.40 (1) 2 つのベクトル $A = \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ 1 \end{pmatrix}, B = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix}$ がある. ベクトル $sA + B$ と $A + tB$ が直交するとき, スカラー s と t の関係式を求めよ.

- (2) a, b を実数とするとき; 行列 $C = \begin{pmatrix} a & b \\ -b & a \end{pmatrix}$ の固有ベクトルと固有値を求めよ.

(秋田大 2015) (m20150403)

0.41 a, b を実数とし, $ab \neq 0$ とする. 行列 A を,

$$A = \begin{pmatrix} a & b \\ b & a \end{pmatrix}$$

とする. 以下の問いに答えなさい.

- (1) 行列 A の固有値を求めなさい.
- (2) (1) で求めた固有値の固有ベクトルを, ひとつずつ求めなさい.
- (3) (2) で求めた固有ベクトルの図形的関係を答えなさい.

(秋田大 2017) (m20170404)

- 0.42 3次元空間 \mathbb{R}^3 のベクトル $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} \frac{1}{\sqrt{3}} \\ \frac{1}{\sqrt{3}} \\ -\frac{1}{\sqrt{3}} \end{pmatrix}$ に対し, \mathbf{a} を法線ベクトルに持つ原点を通る \mathbb{R}^3 内の平面

を π とする. \mathbb{R}^3 のベクトル \mathbf{x} に対し, 平面 π に関して対称なベクトルを対応させる写像を f とすると, f は線形写像になっている. このとき, 以下の問いに答えよ.

- (1) \mathbb{R}^3 のベクトル \mathbf{x} に対し, $f(\mathbf{x})$ を \mathbf{x} と \mathbf{a} を用いて表せ (内積を用いよ).
- (2) $f(\mathbf{x}) = A\mathbf{x}$ となる 3×3 行列を A とするとき, 行列 A を求めよ.
- (3) A の固有値と, それぞれの固有値に対応する固有空間を求めよ.

(秋田大 2019) (m20190404)

0.43 2つの行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 3 \end{pmatrix}$, $B = \begin{pmatrix} a & b \\ 1 & c \end{pmatrix}$ (a, b, c は定数) について, 以下の問いに答えよ.

- (1) 等式 $(A+B)(A-B) = A^2 - B^2$ が成立するとき, a, b, c の間の関係を求めよ.
- (2) (1) が成立するとき, B による1次変換は, 直線 $2x - y = 3$ を直線 $x - y = -3$ にうつすという. このとき, a, b, c の値を求めよ.
- (3) 行列 A, B の固有値をそれぞれ求めよ.

(秋田大 2020) (m20200404)

0.44 行列 $B = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ -1 & 0 \end{pmatrix}$ について, 以下の問いに答えよ.

- (1) 等式 $B\mathbf{x} = \lambda\mathbf{x}$ を満たすとき, 固有ベクトル \mathbf{x} と固有値 λ を求めよ.
- (2) (1) が成立するとき, 未知ベクトル $\mathbf{y}(t) = e^{\lambda t}\mathbf{x}$ は, 微分方程式

$$\frac{d\mathbf{y}}{dt} = B\mathbf{y}$$

の解であることを示せ.

- (3) $t (0 \leq t \leq +\infty)$ を時間とすると, 未知ベクトル $\mathbf{y}(t)$ の終端はどのような軌跡となるか, 答えよ.

(秋田大 2021) (m20210404)

0.45 (1) 行列 $A = \begin{pmatrix} 5 & 1 \\ 1 & 5 \end{pmatrix}$ のすべての固有値を求め, 各固有値に対する固有ベクトルを求めなさい.

- (2) 2次正方行列 B が, 1と2を固有値として持つとする. さらに,

$$\mathbf{p} = \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{q} = \begin{pmatrix} 5 \\ 2 \end{pmatrix}$$

は, それぞれ, 固有値1に対する固有ベクトル, 固有値2に対する固有ベクトルであるとする. 行列 B を求めなさい.

(秋田大 2022) (m20220404)

0.46 2行2列の行列 $A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}$ と $B = \begin{pmatrix} e & f \\ g & h \end{pmatrix}$ から4行4列の行列

$$C = \begin{pmatrix} ae & af & be & bf \\ ag & ah & bg & bh \\ ce & cf & de & df \\ cg & ch & dg & dh \end{pmatrix}$$

を作り, $C = A \otimes B$ と表わす. $X = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$, $Y = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix}$ とおいて, 次の問いに答えよ.

- (1) $X \otimes Y, Y \otimes X$ を求めよ.
- (2) $X^{-1} \otimes Y^{-1}$ を求めよ. ただし, A^{-1} は行列 A の逆行列を表わす.
- (3) (1) で求めた4行4列の行列 $X \otimes Y$ の固有値を求めよ.

(東北大 1995) (m19950503)

0.47 2次曲線 $C : 3x^2 - 2\sqrt{3}xy + 5y^2 - 18 = 0$ は, 行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & -\sqrt{3} \\ -\sqrt{3} & 5 \end{pmatrix}$, ベクトル $\mathbf{p} = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ を用いて, ${}^t\mathbf{p}A\mathbf{p} - 18 = 0$ と表すことができる. ただし, ${}^t\mathbf{p} = (x \ y)$ である.

- (1) 行列 \mathbf{A} の固有値 λ_1, λ_2 を求め、それぞれに対応する大きさ 1 の固有ベクトル $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2$ を求めよ。
- (2) ベクトル $\mathbf{p}' = \begin{pmatrix} x' \\ y' \end{pmatrix}$ とし、ある行列 \mathbf{U} を用いて、線形変換 $\mathbf{p} = \mathbf{U}\mathbf{p}'$ を行えば、2 次曲線 C は標準形になる。行列 \mathbf{U} を求め、2 次曲線 C の標準形を x', y' を用いて表せ。
- (3) x 軸と x' 軸のなす角度を求め、 x 軸、 y 軸と x' 軸、 y' 軸の関係を図示し、2 次曲線 C の概形を描け。

(東北大 2005) (m20050501)

0.48 対称行列 \mathbf{A} およびベクトル \mathbf{b} を $\mathbf{A} = \begin{bmatrix} 0 & -1 & -1 \\ -1 & 1 & 0 \\ -1 & 0 & 1 \end{bmatrix}$, $\mathbf{b} = \begin{bmatrix} -3 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix}$ で定義する。

- (1) $\mathbf{Ax} = \mathbf{b}$ を満たすベクトル \mathbf{x} を求めよ。
- (2) \mathbf{A} の固有値および固有ベクトルを求めよ。
- (3) \mathbf{A}^n の逆行列を求めよ。ただし、 n は自然数とする。

(東北大 2006) (m20060503)

0.49 行列 \mathbf{A} および直交座標系の位置ベクトル \mathbf{p}, \mathbf{q} をそれぞれ

$$\mathbf{A} = \begin{bmatrix} 3 & 1 & 0 \\ 1 & 3 & 0 \\ 0 & 0 & 10 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{p} = \begin{bmatrix} x \\ y \\ z \end{bmatrix}, \quad \mathbf{q} = \begin{bmatrix} u \\ v \\ w \end{bmatrix}$$

と定義する。このとき、以下の問いに答えよ。

- (1) \mathbf{A} の逆行列を求めよ。
- (2) \mathbf{A} の固有値および固有ベクトルを求めよ。その際、固有ベクトルの大きさは 1 となるように求めよ。
- (3) (2) で求めた固有値を α, β, γ ($\alpha \leq \beta \leq \gamma$) とする。2 次形式 $3x^2 + 2xy + 3y^2 + 10z^2$ を標準形 $\alpha u^2 + \beta v^2 + \gamma w^2$ に変換する線形変換 $\mathbf{q} = \mathbf{U}\mathbf{p}$ を与える直交行列 \mathbf{U} を求めよ。
- (4) 線形変換 $\mathbf{q} = \mathbf{U}\mathbf{p}$ により、平面 $x + y + z = 1$ はどのような図形に変換されるか。変換前後の図形の概形を描け。

(東北大 2008) (m20080503)

0.50 行列 $\mathbf{A} = \begin{bmatrix} 2 & 3 \\ 3 & 4 \end{bmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めよ。

(東北大 2008) (m20080504)

0.51 行列

$$\mathbf{A} = \begin{bmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & 2 \end{bmatrix}$$

の固有値と固有ベクトルを求めよ。さらに、 \mathbf{A} を対角化する直交行列を求めよ。

(東北大 2009) (m20090505)

0.52 行列 \mathbf{A} を次のように定義する。

$$\mathbf{A} = \begin{bmatrix} 3 & -1 & 1 \\ -3 & 0 & 0 \\ 1 & 4 & 0 \end{bmatrix}$$

このとき、以下の問に答えよ。

- (1) A の固有値および固有ベクトルを求めよ. ただし, 固有ベクトルの大きさは任意でよい.
- (2) $A^5 - 13A^3$ を計算せよ.
- (3) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような行列 P を 1 つ求めよ. また, その逆行列 P^{-1} を求めよ.
- (4) A^n を求めよ. ただし, n は自然数とする.

(東北大 2010) (m20100503)

0.53 \mathbb{R}^3 を実数を成分とする 3 次元ベクトルよりなる実ベクトル空間,

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \\ 2 & 1 & 1 \end{pmatrix}$$

とする.

- (1) A の固有値と固有ベクトルをすべて求めよ.
- (2) $v \in \mathbb{R}^3$ に対し, $\left(\frac{1}{2}A\right)^n v$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) が $n \rightarrow \infty$ で収束するとき, その極限を

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \left(\frac{1}{2}A\right)^n v = \begin{pmatrix} x_\infty \\ y_\infty \\ z_\infty \end{pmatrix}$$

とあらわす. この極限が存在し 0 でないとき, 成分の比 $x_\infty : y_\infty : z_\infty$ を求めよ.

(東北大 2011) (m20110503)

0.54 3 次の対称行列 A および 3 次元ベクトル $m = \begin{bmatrix} x \\ y \\ z \end{bmatrix}$ を用いて表される 2 次形式

$$f(m) = {}^t m A m = 5x^2 + 2y^2 + 5z^2 + 4xy + 4yz + 8xz$$

を考える. ここで, 左上付き添字 t は転置を表す. このとき, 以下の問に答えよ.

- (1) A を求めよ.
- (2) (1) で求めた A の固有値を求めよ. また, 各固有値の重複度を答えよ.
- (3) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような直交行列 P を 1 つ求めよ. また, この P を用いて A を対角化せよ.
- (4) 3 次元ベクトル $n = \begin{bmatrix} u \\ v \\ w \end{bmatrix}$ を考える. (3) で求めた P を用いて変数変換 $m = Pn$ を行い, $f(m)$ の標準形を求めよ.

(東北大 2012) (m20120502)

0.55 行列 A と行列 B を次のように定義する.

$$A = \begin{pmatrix} 3 & -2 & 2 \\ 1 & 0 & 2 \\ 1 & -2 & 4 \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} 1 & 3 & 1 \\ 0 & 5 & 4 \\ 2 & 1 & 2 \end{pmatrix}$$

このとき, 以下の問に答えよ.

- (1) AB を求めよ.

- (2) 行列式 $|A|$ を求めよ.
- (3) 逆行列 A^{-1} を求めよ.
- (4) A の固有値を求めよ.

(東北大 2013) (m20130503)

0.56 3次の対称行列 A および3次元ベクトル \mathbf{u} を, 次のように定義する.

$$A = \begin{bmatrix} 9 & -3 & 0 \\ -3 & 12 & -3 \\ 0 & -3 & 9 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{u} = \begin{bmatrix} x \\ y \\ z \end{bmatrix}$$

以下の問いに答えよ.

- (1) A の固有値および固有ベクトルをすべて求めよ.
- (2) $f(x, y, z) = {}^t\mathbf{u}A\mathbf{u}$ と定める (ここで, 左上付き添字 t は転置を表す). $f(x, y, z)$ を x, y および z の多項式で表せ.
- (3) 原点を通り A の固有ベクトルに平行な直線と, 2次曲面 $f(x, y, z) = 18$ との交点をすべて求めよ.

(東北大 2014) (m20140502)

0.57 x を実数とする. $n \times n$ 正方行列である $A_n(x)$ と B_n を以下のように与える.

$$A_n(x) = \begin{pmatrix} -x & 1 & 0 & \dots & 0 \\ 1 & -x & 1 & \ddots & \vdots \\ 0 & 1 & -x & \ddots & 0 \\ \vdots & \ddots & \ddots & \ddots & 1 \\ 0 & \dots & 0 & 1 & -x \end{pmatrix} \quad B_n = A_n(0) = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 & \dots & 0 \\ 1 & 0 & 1 & \ddots & \vdots \\ 0 & 1 & 0 & \ddots & 0 \\ \vdots & \ddots & \ddots & \ddots & 1 \\ 0 & \dots & 0 & 1 & 0 \end{pmatrix}$$

すなわち, $A_n(x)$ は対角要素がすべて $-x$, その両側の斜めの要素が1, それ以外の要素がすべて0の3重対角行列である. B_n は $A_n(x)$ において $x=0$ としたときの行列である.

- (1) B_2 の固有値をすべて求めよ.
- (2) B_3 の固有値をすべて求めよ.
- (3) B_n の固有値のひとつを λ とする. この λ は $|A_n(\lambda)| = 0$ を満たすことを示せ.
- (4) λ が B_n の固有値であるとき, $|A_n(\lambda)|$ は漸化式 $|A_n(\lambda)| = -\lambda|A_{n-1}(\lambda)| - |A_{n-2}(\lambda)|$ を満たすことを示せ. ただし, $|A_0(\lambda)| = 1, |A_1(\lambda)| = -\lambda$ とする.
- (5) $\lambda = -2\cos\theta, |A_n(\lambda)| = \frac{\sin[(n+1)\theta]}{\sin\theta}$ とおくと, これらが(4)の漸化式を満たすことを示せ. ただし, $\sin\theta \neq 0$ である.
- (6) $\frac{\sin[(n+1)\theta]}{\sin\theta} = 0$ を満たす θ を求めよ. これを使って, B_n の固有値 $\lambda = -2\cos\theta$ を求めよ. また, 求めた固有値は, $n=2, n=3$ の場合, それぞれ(1)および(2)で求めた固有値と一致することを示せ.

(東北大 2015) (m20150505)

0.58 3次実対称行列 $A = \begin{pmatrix} -2 & -1 & 1 \\ -1 & -2 & -1 \\ 1 & -1 & -2 \end{pmatrix}$ に対して, 以下の問いに答えよ.

- (1) A のすべての固有値を求めよ.
- (2) (1) で求めた固有値のそれぞれに対して, 固有空間の次元を求めよ.
- (3) 3次直交行列 P で, tPAP が対角行列となるものを一つ求めよ. ただし, tP で P の転置行列を表す.

(東北大 2015) (m20150506)

0.59 実数 x を含む次の行列 A について以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} x & -x-1 & 0 \\ x-1 & -x & 0 \\ 1-x & x+1 & 1 \end{pmatrix}$$

- (1) 行列 A の固有値をすべて求めよ.
- (2) A^2 と逆行列 A^{-1} を求めよ.
- (3) 行列 B を次式で定義する. n が 3 以上の整数であるとき, B を n と x を用いて表せ.

$$B = A^n + nA^{n-1} - A^{n-2} \quad (n = 3, 4, 5, \dots)$$

(東北大 2017) (m20170501)

0.60 3次実正方行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & -1 & 2 \\ 1 & 1 & 0 \end{pmatrix}$ に対して, 以下の問いに答えよ.

- (1) A の固有値と各固有値に対する固有ベクトルを求めよ.
- (2) x, y, z の連立方程式

$$A \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

は解を持つか, その理由も答えよ.

(東北大 2017) (m20170504)

0.61 次の行列 C について, 以下の問に答えよ.

$$C = \begin{pmatrix} 11 & -2 \\ -2 & 14 \end{pmatrix}$$

- (1) 行列 C の固有値および固有ベクトルをすべて求めよ. ただし, 固有ベクトルの大きさを 1 とする.
- (2) P^tCP が対角行列となるような直交行列 P を求め, P^tCP を計算せよ. ただし, P^t は行列 P の転置行列を表す.

(東北大 2018) (m20180506)

0.62 (1) n 次正方行列 A, B を用いて $2n$ 次正方行列 C を

$$C = \begin{pmatrix} A & B \\ B & A \end{pmatrix}$$

で定めるとき, 等式

$$\det C = \det(A+B) \times \det(A-B)$$

が成り立つことを示せ. ただし, $\det C$ は C の行列式を表す.

(2) 4次正方行列

$$D = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 2 & 1 \\ 1 & 0 & 1 & 2 \\ 2 & 1 & 0 & 1 \\ 1 & 2 & 1 & 0 \end{pmatrix}$$

のすべての固有値を求め、それぞれの固有値に対応する固有空間の基底を求めよ。

(東北大 2018) (m20180508)

0.63 次の行列 A について、以下の問に答えよ。

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 3 & -4 \end{pmatrix}$$

- (1) 行列 A の固有値をすべて求めよ。
- (2) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような正則行列 P を求め、 $P^{-1}AP$ を計算せよ。ただし、 P^{-1} は P の逆行列を表す。
- (3) n が 1 以上の整数であるとき、 n を用いて A^n を表せ。

(東北大 2019) (m20190503)

0.64 次の正方行列 A を

$$A = \begin{pmatrix} 4 & -1 & -2 \\ -1 & 4 & -2 \\ -2 & -2 & 5 \end{pmatrix}$$

で定める。以下の問に答えよ。

- (1) A の固有値をすべて求めよ。
- (2) A の固有値それぞれに対して、その固有空間の基底を求めよ。
- (3) 実 3 変数 x, y, z の関数 $f(x, y, z)$ を次で定義する。

$$f(x, y, z) = 4x^2 + 4y^2 + 5z^2 - 2xy - 4yz - 4zx$$

このとき $f(x, y, z)$ の、条件

$$x^2 + y^2 + z^2 - 1 = x + y + z = 0$$

のもとでの最大値と最小値を求めよ。

(東北大 2019) (m20190507)

0.65 (1) 次の行列 A の逆行列 A^{-1} を求めよ。

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 1 & 2 \\ 4 & 2 & 3 \\ 3 & 1 & 3 \end{pmatrix}$$

(2) 次の行列 B について、以下の問に答えよ。

$$B = \begin{pmatrix} 6 & 3 \\ 4 & 5 \end{pmatrix}$$

- (a) 行列 B の固有値および固有ベクトルをすべて求めよ。ただし、固有ベクトルの大きさを 1 とする。

(b) $\mathbf{u} = \begin{pmatrix} -3 \\ 4 \end{pmatrix}$ とする. n が 1 以上の整数であるとき, ベクトル $B^n \mathbf{u}$ を求めよ.

(3) 次の行列 C について, 以下の間に答えよ.

$$C = \begin{pmatrix} 3 & 2 & 2 \\ 1 & 2 & 1 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

(a) $P^{-1}CP$ が対角行列となるような正則行列 P を求めよ. ただし, P^{-1} は P の逆行列を表す.

(b) n が 1 以上の整数であるとき, 行列 C^n を求めよ.

(東北大 2020) (m20200503)

0.66 次の行列 C について, 以下の問いに答えよ.

$$C = \begin{pmatrix} 4 & 5 \\ 8 & -2 \end{pmatrix}$$

(a) すべての固有値と固有ベクトルを求めよ.

(b) $P^{-1}CP$ が対角行列となるような正則行列 P を求め, $P^{-1}CP$ を計算せよ. ただし, P^{-1} は P の逆行列を示す.

(c) n が 1 以上の整数であるとき, n を用いて C^n を表せ.

(東北大 2021) (m20210503)

0.67 $A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \\ 6 & -11 & 6 \end{pmatrix}$ を 3 次正方行列とする. 以下の問いに答えよ.

(1) A の固有値をすべて求めよ. さらに, 求めた固有値それぞれに対して固有ベクトルを求めよ.

(2) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような正則行列 P を一つ求めよ.

(3) n を 2 以上の整数とする. A^n を求めよ.

(4) 次の式で定義される数列 $\{a_n\}_{n=0}^{\infty}$ の一般項 a_n を求めよ.

$$a_0 = a_1 = 0, \quad a_2 = 1, \quad a_n = 6a_{n-1} - 11a_{n-2} + 6a_{n-3} \quad (n = 3, 4, 5, \dots)$$

(東北大 2021) (m20210508)

0.68 I を 3 次単位行列とし, A を 3 次実正方行列で固有値 $2, 1, -1$ を持つものとする. 以下の間に答えよ.

(1) A^4 を A^2, A, I の線形結合で表せ.

(2) A は正則であることを示し, A^{-1} を A^2, A, I の線形結合で表せ.

(3) A^{-1} の行列式を求めよ.

(東北大 2022) (m20220507)

0.69 n を 2 以上の整数とする. n 次元実列ベクトル $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ \vdots \\ a_n \end{pmatrix}$, $\mathbf{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ \vdots \\ b_n \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^n$ は,

それらの内積 $\langle \mathbf{a}, \mathbf{b} \rangle = {}^t \mathbf{a} \mathbf{b}$ について $\langle \mathbf{a}, \mathbf{b} \rangle \neq 0$ を満たすとする. n 次正方行列 A を $A = \mathbf{a} {}^t \mathbf{b}$ と定める. ここで, ${}^t \mathbf{a}$, ${}^t \mathbf{b}$ はそれぞれ \mathbf{a} , \mathbf{b} の転置を表す. 以下の間に答えよ.

(1) A の階数と行列式をそれぞれ求めよ. また, A の固有値をすべて求めよ.

(2) k を正の整数とする. ${}^t\mathbf{b}A^k\mathbf{a}$ を $\langle \mathbf{a}, \mathbf{b} \rangle$ と k を用いてできるだけ簡潔に表せ.

(東北大 2022) (m20220508)

0.70 3次対称行列 A を次で与える. $A = \begin{pmatrix} 1 & -1 & -1 \\ -1 & 1 & -1 \\ -1 & -1 & 1 \end{pmatrix}$

(1) A の固有値を求めよ.

(2) A の固有ベクトルから成る \mathbf{R}^3 の正規直交基底を求めよ.

(お茶の水女子大 1997) (m19970610)

0.71 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 2 \\ 2 & -2 & -1 \\ -2 & 4 & 3 \end{pmatrix}$ について以下の間に答えよ.

(1) A の固有値を求めよ.

(2) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような 3×3 行列 P を一つ求めよ.

(お茶の水女子大 1999) (m19990609)

0.72 (1) 次の対称行列の固有値と固有ベクトルを全て求めよ.

$$\begin{pmatrix} 1 & 2\sqrt{2} \\ 2\sqrt{2} & 3 \end{pmatrix}$$

(2) n 行 n 列の実対称行列 A の, n 個の固有ベクトル b_1, \dots, b_n が, 全て求めたとしよう. ベクトル b_1, \dots, b_n はそれぞれ列ベクトルとし, 互いに直交するように取った. 次に, 列ベクトル b_1, \dots, b_n を横に並べて作った, n 行 n 列の行列を B としよう. 即ち, $B = (b_1, \dots, b_n)$. このとき, 行列の積 $B^T A B$ は対角行列であることを証明せよ. 但し, B^T は B の転置行列を表すものとする.

(お茶の水女子大 2000) (m20000614)

0.73 行列 $\begin{pmatrix} 0 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを計算せよ.

(お茶の水女子大 2003) (m20030612)

0.74 (1) 実対称行列 $\begin{pmatrix} a & b \\ b & c \end{pmatrix}$ の固有値がすべて正である条件を書け.

(お茶の水女子大 2003) (m20030613)

0.75 行列 A の固有値 λ と固有ベクトル ψ は,

$$A\psi = \lambda\psi$$

という関係式を満足する. このとき以下の問いに答えよ.

(1) 次の行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} 0 & \sqrt{ab} \\ \sqrt{ab} & a-b \end{pmatrix}$$

ただし, a, b は正の実数とせよ.

(2) エルミート行列の固有値は, 実数であることを証明せよ. ただし, エルミート行列 H とは, 複素数の成分をもつ行列であり, 転置して複素共役を取った (これをエルミート共役を取るといふ) 行列が, もとの H と一致する行列である.

(お茶の水女子大 2003) (m20030614)

0.76 $\lambda \in \mathbb{C}$ に対して, 次のような複素 n 次正方行列 $N, J_\lambda(n)$ を考える.

$$N = \begin{pmatrix} 0 & 1 & & & \\ & 0 & 1 & & \\ & & \ddots & \ddots & \\ & & & 0 & 1 \\ & & & & 0 \end{pmatrix} \quad J_\lambda(n) = \begin{pmatrix} \lambda & 1 & & & \\ & \lambda & 1 & & \\ & & \ddots & \ddots & \\ & & & \lambda & 1 \\ & & & & \lambda \end{pmatrix}$$

- (1) 自然数 k に対して N の k 乗 N^k を求めよ.
- (2) 自然数 k に対して $J_\lambda(n)^k$ を求めよ.
- (3) 複素正方行列 A が対角化可能であることの定義を述べよ.
- (4) 複素正方行列 A がある自然数 k に対して $A^k = E$ を満たすならば A は対角化可能であることを示せ. ただし E は単位行列である. 必要ならば次の定理を用いてもよい.

定理 任意の複素 l 次正方行列 A に対して l 次正則行列 P , m 個の複素数 $\lambda_1, \dots, \lambda_m$ および m 個の自然数 n_1, \dots, n_m で $\sum_{i=1}^m n_i = l$ を満たすものが存在して

$$PAP^{-1} = \begin{pmatrix} J_{\lambda_1}(n_1) & & & \\ & J_{\lambda_2}(n_2) & & \\ & & \ddots & \\ & & & J_{\lambda_m}(n_m) \end{pmatrix} \text{ と書ける.}$$

(お茶の水女子大 2003) (m20030615)

0.77 次の行列 A について, 行列式, 逆行列, 固有値と固有ベクトル空間の基底を求めなさい.

$$A = \begin{pmatrix} 3 & -6 & -4 \\ 1 & -2 & -2 \\ -1 & 3 & 3 \end{pmatrix}$$

(お茶の水女子大 2007) (m20070604)

- 0.78 (1) 正方行列 A と B がともに上三角行列であるとき, 積 AB もまた上三角行列となることを示せ.
- (2) 次の行列 A について以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} -1 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 4 & 0 & 0 & -1 \end{pmatrix}$$

- (a) A の固有値を求め, それぞれの固有値に対する A の固有空間の基底を一組求めよ.
- (b) 適当な正則行列 P を求めて $P^{-1}AP$ が対角行列になるようにせよ.

(お茶の水女子大 2009) (m20090602)

0.79 次の行列 A の固有値と固有ベクトルを求め対角化しなさい.

$$A = \begin{pmatrix} 6 & 1 & -1 \\ 3 & 7 & 5 \\ 0 & 1 & 5 \end{pmatrix}$$

(お茶の水女子大 2009) (m20090606)

0.80 行列

$$\begin{pmatrix} 0 & -i & 0 \\ i & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

の固有値, および, 独立な固有ベクトルをすべて求めよ

(お茶の水女子大 2009) (m20090607)

- 0.81** (1) n を自然数とする. 複素数を成分とする n 次正方行列が n 個の相異なる固有値を持てば, 対角化可能であることを示せ.
- (2) a, b, c, d を複素数とする. 2 次正方行列

$$\begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}$$

が対角化できるための必要十分条件を a, b, c, d の関係を用いて表せ.

(お茶の水女子大 2010) (m20100605)

- 0.82** 次の実対称行列 B の固有値, 固有ベクトルを求め, 直交行列により対角化しなさい.

$$B = \begin{pmatrix} 2 & 1 & 0 \\ 1 & 3 & 1 \\ 0 & 1 & 2 \end{pmatrix}$$

(お茶の水女子大 2010) (m20100612)

- 0.83** 任意の実 2×2 行列を無限回作用させることにより, 平面上の点はどこに行き着くかについて考察せよ. 以下の (1) から (5) の手順に従ってもよいし, または別の手順で解答してもよい.

- (1) 上三角行列

$$T = \begin{pmatrix} \alpha & \gamma \\ 0 & \beta \end{pmatrix}$$

の固有値を求める.

- (2) 行列 T の n 乗を計算する.
- (3) 行列 T のすべての固有値の絶対値が 1 より小さい場合, 実平面上の点

$$\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix}$$

は行列 T を無限回作用するとどのような点に近づくか考える. ただし, $\alpha, \beta, \gamma, x_1, x_2$ はすべて実数であるとする.

- (4) 2×2 行列 M に対し

$$Me = \lambda e$$

を満たす単位固有ベクトルを

$$\mathbf{e} = \begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix}$$

とし. この成分 a, b を用いて正則行列

$$P = \begin{pmatrix} a & b \\ b & -a \end{pmatrix}$$

を定義する. 行列 $P^{-1}MP$ の (2,1) 成分 (左下の要素) がゼロになることを確かめ, 任意の 2×2 行列が上三角行列に変換されることを示す. さらに, $T_0 = P^{-1}MP$ とするとき n を自然数として

$$M^n = P(T_0)^n P^{-1}$$

が成立することを示す.

- (5) 行列 B の要素がすべて実数で、固有値の絶対値が 1 より小さいとする。このとき行列 B を無限回作用すると、実平面上の点はどのような点に近づくか考えてみる。

(お茶の水女子大 2011) (m20110604)

0.84 以下の各問いに答えよ。

- (1) t を実数とする。行列

$$A = \begin{pmatrix} t & -t-1 & -1 \\ t-1 & -t & -1 \\ 3-2t & 2t+3 & 4 \end{pmatrix}$$

の固有値を求め、各固有値に対する固有空間の次元が t の値によってどのように変わるかを答えよ。また、この行列が対角化可能となるような t の値を求め、そのとき $P^{-1}AP$ が対角行列となるような 3 次正方行列 P を一つ求めよ。

- (2) n を自然数、 A を n 次実正方行列とする。以下では i は自然数、 $r(X)$ は行列 X の階数を表すものとする。

- (a) $r(A^i) \geq r(A^{i+1})$ となることを示せ。
 (b) $r(A^i) = r(A^{i+1})$ のとき、 $r(A^{i+1}) = r(A^{i+2})$ となることを示せ。
 (c) $r(A^n) = r(A^{n+1})$ となることを示せ。

(お茶の水女子大 2012) (m20120602)

0.85 次の行列 A, B, C について、固有値と固有ベクトル空間の基底を求めなさい。

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 3 & 4 \end{pmatrix} \quad B = \begin{pmatrix} 2 & 1 & 0 & 0 \\ 3 & 4 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 2 & 1 \\ 0 & 0 & 3 & 4 \end{pmatrix} \quad C = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 2 & 1 \\ 0 & 0 & 3 & 4 \\ 2 & 1 & 0 & 0 \\ 3 & 4 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

(お茶の水女子大 2012) (m20120608)

0.86 行列に関する次の問いに答えよ。

- (1) 次の 2 行 2 列の実対称行列 A

$$A = \begin{pmatrix} 2 & -1 \\ -1 & 2 \end{pmatrix} \quad (*)$$

の固有値 λ_1, λ_2 と規格化された固有ベクトル v_1, v_2 を求めなさい。

- (2) 前問で求めた固有ベクトルを並べて作った行列と、その転置行列を用いて A を対角化しなさい。

一般に、 n 行 n 列の実対称行列 B は、ある直交行列 O およびその転置行列 O^T を用いて $O^T B O$ とすれば対角化されることが知られている。

- (3) 直交行列 O の定義を書きなさい。
 (4) 一般の 2 行 2 列の実対称行列 C の行列式がその 2 つの固有値 c_1, c_2 の積に等しいこと

$$\det C = c_1 c_2$$

を証明し、 C が (*) で与えられるとき (すなわち $C = A$) にそれが成り立っていることを示しなさい。

- (5) 一般の 2 行 2 列の実対称行列 C の対角和がその 2 つの固有値 c_1, c_2 の和に等しいこと

$$\text{Tr } C = c_1 + c_2$$

を証明し、 C が (*) で与えられるとき (すなわち $C = A$) にそれが成り立っていることを示しなさい。

0.87 5次正方行列 A を次で与える :

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 2 & 2 & 2 & 2 \\ 2 & 0 & 2 & 2 & 2 \\ 2 & 2 & 0 & 2 & 2 \\ 2 & 2 & 2 & 0 & 2 \\ 2 & 2 & 2 & 2 & 0 \end{pmatrix}$$

- (1) A の固有値は, -2 と 8 であることを示せ.
- (2) A の固有値 $-2, 8$ の固有空間をそれぞれ $V(-2), V(8)$ で表す. \mathbf{a} を $V(-2)$ の 0 でないベクトルとし, \mathbf{b} を $V(8)$ の 0 でないベクトルとする. このとき, \mathbf{a}, \mathbf{b} は 1 次独立 (線形独立) であることを示せ.
- (3) 各固有空間 $V(-2), V(8)$ の基底を求めよ.
- (4) 行列 A が対角化可能であることを示し, $P^{-1}AP$ が対角行列となる正則行列 P を求めよ.

(お茶の水女子大 2014) (m20140603)

0.88 ある対称行列 F が直交行列 P によって対角行列 $F' = P^T F P$ へと変換された. ここで T_r は行列の転置を表す. 以下の問に答えなさい.

- (1) F のトレース (対角成分の和) はこの変換により不変であることを, つまり $T_r F = T_r F'$ を証明しなさい.
- (2) 行列 F が以下のように与えられたとき, P と F' を求めなさい.

$$F = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 2 \end{pmatrix}$$

- (3) 行列 F と F' のトレースを求めなさい.

(お茶の水女子大 2016) (m20160604)

0.89 次の行列 A, B について, それぞれ固有値と固有ベクトルを求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & -3 \\ 3 & -5 \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} 1 & -1 & 1 \\ 2 & -2 & 1 \\ 2 & -1 & 0 \end{pmatrix}$$

(お茶の水女子大 2016) (m20160611)

0.90 以下の 2 次正方行列について, 固有値と対応する固有ベクトルを求めよ.

- (1) $\begin{pmatrix} 8 & -4 \\ 3 & 1 \end{pmatrix}$

- (2) $\begin{pmatrix} a & b \\ b & a \end{pmatrix}$

ただし, $a \neq 0, b \neq 0, a \neq b$ とし, a, b は実数とする.

(お茶の水女子大 2016) (m20160615)

0.91 実対称行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & -1 \\ 1 & -1 & 1 \end{pmatrix}$ を直交行列により対角化せよ. 変換に用いた直交行列も答えること.

(お茶の水女子大 2017) (m20170607)

0.92 以下の2次正方行列 A について答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 8 & 1 \\ -2 & 5 \end{pmatrix}$$

- (1) 固有値を求めよ.
- (2) それぞれの固有値に対応する固有ベクトルを求めよ.

(お茶の水女子大 2017) (m20170611)

0.93 (1) 上三角行列の積は上三角行列になることを示せ.

- (2) 次の行列式を計算せよ.

$$A = \begin{vmatrix} a_0 & a_1 & a_2 & \dots & a_n \\ 1 & x & 0 & \dots & 0 \\ 0 & 1 & x & \ddots & \vdots \\ \vdots & \ddots & \ddots & \ddots & 0 \\ 0 & \dots & 0 & 1 & x \end{vmatrix}$$

- (3) 次の行列を対角化せよ. また, 各固有値の固有空間の次元を求めよ.

$$\begin{pmatrix} a & 0 & c \\ 0 & b & 0 \\ c & 0 & a \end{pmatrix}$$

(お茶の水女子大 2018) (m20180602)

0.94 行列 $\begin{pmatrix} 6 & -1 \\ 2 & 9 \end{pmatrix}$ について.

- (1) 固有値を求めよ.
- (2) 固有値に対応する固有ベクトルを求めよ.

(お茶の水女子大 2018) (m20180605)

0.95 行列 $\begin{pmatrix} 2 & 5 \\ 6 & 3 \end{pmatrix}$ について,

- (1) 固有値を求めよ.
- (2) 固有値に対応する固有ベクトルを求めよ.

(お茶の水女子大 2019) (m20190602)

0.96 n 次正方行列 A, B, C について, A と B が正則ならば, ABC, BCA , および, CAB の固有多項式が一致することを示せ.

(お茶の水女子大 2019) (m20190607)

0.97 行列

$$\begin{pmatrix} 0 & -i & 0 \\ i & 0 & -i \\ 0 & i & 0 \end{pmatrix}$$

の固有値と固有ベクトルをすべて求めよ. i は虚数単位である.

(お茶の水女子大 2019) (m20190612)

0.98 $A = \begin{pmatrix} 1 & -1 \\ 1 & 3 \end{pmatrix}$ とする. A^n を求めよ. ただし, n は自然数とする.

(お茶の水女子大 2020) (m20200602)

0.99 次の式で定義される実対称行列 A を考える.

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

- (1) 行列 A の固有値と固有ベクトルを全て求めよ.
- (2) 任意の 3 次元ベクトルが行列 A の固有ベクトルの線形結合で表されることを示せ.
- (3) 行列 $\sin\left(\frac{1}{2}\pi A\right)$ とその固有値を求めよ.

(お茶の水女子大 2020) (m20200605)

0.100 $A = \begin{pmatrix} 0 & 6 \\ 2 & 4 \end{pmatrix}$, $B = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 6 & 2 & 3 \\ 0 & 4 & 3 \end{pmatrix}$, $C = \begin{pmatrix} 2 & 0 & 2 & 0 \\ 0 & 6 & 2 & 4 \\ 1 & 8 & 7 & 5 \\ -6 & 0 & 4 & -1 \end{pmatrix}$ の三つの行列に対し, 以下の問いに答えよ.

- (1) $\text{rank}(A)$, $\text{rank}(B)$, $\text{rank}(C)$ を求めよ.
- (2) A^{-1} , B^{-1} , C^{-1} が存在するならばそれを求め, 存在しないならばその理由を示せ.
- (3) B^n を求めよ.

(お茶の水女子大 2021) (m20210608)

0.101 任意の行列 A に対してそのエルミート共役を A^\dagger と表す.

- (1) 行列の積 $A^\dagger A$ が負の固有値を持たないことを示せ.
- (2) $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}$ のとき, 行列 $A^\dagger A$ の固有値と固有ベクトルを求めよ.
- (3) (2) の行列 A に対して行列 $(A^\dagger A)^n$ と $e^{A^\dagger A}$ を求めよ. ただし, n は正の整数である.

(お茶の水女子大 2022) (m20220608)

0.102 行列

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 3 & -9 \\ 2 & 0 & -6 \\ -1 & -1 & 1 \end{bmatrix}$$

に対して, 次の間に答えよ.

- (1) 行列 A を対称行列 S と交代 (逆対称, 反対称) 行列 K の和で表せ.
- (2) 行列 $KS + SK$ は対称行列, 交代行列, その他の行列の何れか.
又, 行列 $KSKS + SKSK$ は上記の三つの行列の何れか.
- (3) 行列 A の固有方程式を示せ.
- (4) 行列 A の固有値とそれに対応する固有ベクトルを求めよ.

(東京大 1997) (m19970702)

0.103 数列 $\{a_n\}$ ($n = 0, 1, 2, \dots$) がある. この数列の隣接した3項の間には次のような関係式が成り立つ.

$$a_{n+1} = a_n + a_{n-1}$$

(1) $a_0 = a_1 = 1$ として, 極限值

$$\tau = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{a_n}{a_{n-1}}$$

を求めよ.

(2) 上の漸化式をベクトルおよび行列の関係式を用いると

$$\begin{pmatrix} a_n \\ a_{n+1} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} a_{n-1} \\ a_n \end{pmatrix}$$

と書かれる. この行列を対角化し, またその時の固有ベクトルを求めることにより, $a_0 = a_1 = 1$ を初期値とした極限值

$$\tau = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{a_n}{a_{n-1}}$$

を求めよ. また a_n の一般項はどのように書けるか.

(東京大 1997) (m19970703)

0.104 x - y 平面上を, ある一つの点が移動している.

時刻 $t = i$ (i は整数) におけるこの点の位置を $\mathbf{p}_i = \begin{pmatrix} x_i \\ y_i \end{pmatrix}$ と表すとき,

$$\mathbf{p}_0 = \begin{pmatrix} 5 \\ 5 \end{pmatrix}, \mathbf{p}_1 = \begin{pmatrix} 16 \\ 13 \end{pmatrix}, \mathbf{p}_2 = \begin{pmatrix} 50 \\ 35 \end{pmatrix} \text{ であった.}$$

また, $\mathbf{p}_{i+1} = A\mathbf{p}_i$ (A は行列) に従っているものとする.

(1) 行列 A を求めよ.

(2) A^n を求め, 時刻 $t = n$ (n は整数) におけるこの点の位置 \mathbf{p}_n を求めよ.

(東京大 1998) (m19980702)

0.105 2次形式

$$F(x, y, z) = -x^2 - y^2 - z^2 + 4xy + 4yz + 4zx$$

を標準形に直せ. また

$$G(x, y, z) = x^2 + y^2 + z^2$$

として, $F(x, y, z)/G(x, y, z)$ の最大値, 最小値とその時の x, y, z の値を求めよ.

(東京大 1999) (m19990703)

0.106 A を2次の正方行列とする. A の行列式を $|A|$ で表し, また, その対角成分の和を $\text{tr}(A)$ で表す. さらに A の固有値を λ_1, λ_2 とする. 以下の問いに答えよ.

(1) 特性多項式は $\lambda^2 - \text{tr}(A)\lambda + |A|$ であることを示せ.

(2) $\text{tr}(A) = \lambda_1 + \lambda_2$, $|A| = \lambda_1\lambda_2$ であることを示せ.

(3) $A^2 - \text{tr}(A)A + |A|E = O$ を示せ. ただし, E は単位行列で, O は零行列である.

(4) (3) の結果を用いて, $\lambda_1 \neq \lambda_2$ のとき, $n \geq 2$ に対して, 次の関係が成り立つことを証明せよ.

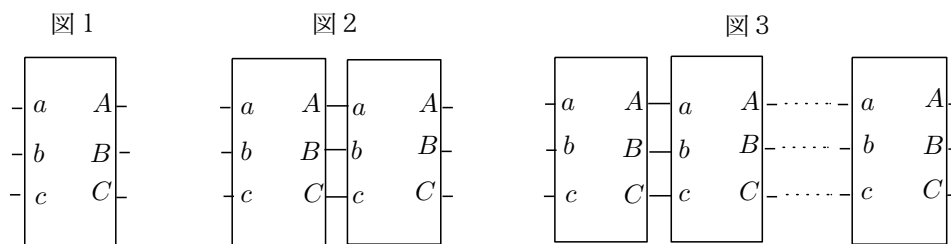
$$A^n = \frac{\lambda_2^n - \lambda_1^n}{\lambda_2 - \lambda_1} A + \frac{\lambda_1^n \lambda_2 - \lambda_1 \lambda_2^n}{\lambda_2 - \lambda_1} E$$

(東京大 2000) (m20000704)

- 0.107 (1) 座標平面上で、直線 $y = x$ に関する対称変換（線形変換）を表す行列 A を求めよ。
 (2) 行列 A の固有値とそれに対応する固有ベクトルを求めよ。
 (3) (2) で求めた固有値、固有ベクトルの幾何的意味を考え、そこから行列 A が直線 $y = x$ に関する対称変換を与えることを説明せよ。

(東京大 2002) (m20020701)

- 0.108 図1で示す線形演算装置を考える。この演算装置では、
 端子 a のみに大きさ x の入力をしたとき、端子 A, B, C の出力の大きさはそれぞれ $x, x, 0$ 、
 端子 b のみに大きさ y の入力をしたとき、端子 A, B, C の出力の大きさはそれぞれ $y, 0, y$ 、
 端子 c のみに大きさ z の入力をしたとき、端子 A, B, C の出力の大きさはそれぞれ $0, z, z$
 であり、入力と出力の関係は線形関係であるとする。
- (1) 演算装置の端子 a, b, c にそれぞれ大きさ $1, 2, 3$ の入力をしたとき、端子 A, B, C の出力の大きさをそれぞれ求めよ。
 (2) 図2のように、図1と同じ装置を2つつなぎ、左端の端子 a, b, c にそれぞれ大きさ $1, 2, 3$ の入力をしたとき、最終端子（右端） A, B, C の出力の大きさをそれぞれ求めよ。
 (3) 図3のように、図1と同じ装置を N 個つなぎ、左端の端子 a, b, c にそれぞれ $1, 2, 3$ の入力をしたとき、最終端子（右端） A の出力の大きさを求めよ。



(東京大 2003) (m20030703)

- 0.109 指数関数 e^x のテイラー展開

$$e^x = 1 + x + \frac{x^2}{2!} + \cdots + \frac{x^n}{n!} + \cdots$$

を拡張して、行列 A の指数関数 e^A を、

$$e^A = I + A + \frac{A^2}{2!} + \cdots + \frac{A^n}{n!} + \cdots$$

と定義する。ただし、 I は単位行列である。いま、行列 e^A が

$$e^A = \begin{bmatrix} 2 - e^{-1} & -1 + e^{-1} \\ 2 - 2e^{-1} & -1 + 2e^{-1} \end{bmatrix}$$

と与えられたとき、以下の問に答えよ。

- (1) 行列 e^A を対角化せよ。
 (2) 正則行列 P に対して、 $P^{-1}e^AP = e^{(P^{-1}AP)}$ が成り立つことを示せ。
 (3) 行列 A を求めよ。

(東京大 2004) (m20040704)

- 0.110 空間において、 xz 平面上の単位ベクトル $(u, 0, w)$ を考える。

- (1) y 軸まわりの回転を表す行列のうち、ベクトル $(0, 0, 1)$ をベクトル $(u, 0, w)$ に変換するものを求めよ。

- (2) (1) で求めた行列を利用して、ベクトル $(u, 0, w)$ を軸とする角度 θ の回転を表す行列を求めよ。
 (3) (2) で求めた行列の実数の固有値とその固有ベクトルを求めよ。

(東京大 2005) (m20050705)

0.111 p, q を任意の実数とするととき、以下の問いに答えよ。

- (1) 行列 $A = \begin{pmatrix} 1-p & q \\ p & 1-q \end{pmatrix}$ について、 $A\mathbf{x} = \lambda\mathbf{x}$ を満たす実数 λ と非零ベクトル \mathbf{x} の組をすべて求めよ。
 (2) 数列 $\{a_n\}$ と $\{b_n\}$ を、次の漸化式で与える。
$$\begin{cases} a_{n+1} = (1-p)a_n + qb_n \\ b_{n+1} = pa_n + (1-q)b_n \end{cases}$$
 ただし、 $0 < p < 1$, $0 < q < 1$ とし、 $\{a_n\}$ と $\{b_n\}$ の初項を、それぞれ、 a_0, b_0 とする。このとき、 $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n$ と $\lim_{n \rightarrow \infty} b_n$ を p, q, a_0, b_0 を用いて示せ。

(東京大 2006) (m20060702)

0.112 x_i, y_i の各値がある線形系を介して、 x_{i+1}, y_{i+1} をそれぞれ出力する際、入力値と出力値の関係は、

$$\begin{pmatrix} x_{i+1} \\ y_{i+1} \end{pmatrix} = A \begin{pmatrix} x_i \\ y_i \end{pmatrix}$$
 で表現できる。ただし、 i は自然数とし、 A は行列とする。

$$\begin{pmatrix} x_1 \\ y_1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} x_2 \\ y_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 4 \\ -3 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} x_3 \\ y_3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 18 \\ -31 \end{pmatrix}$$
 とするとき、以下の問いに答えよ。

- (1) 系を表す行列 A を求めよ。
 (2) 行列 A の固有値、固有ベクトルを求めよ。また、行列 A の表す一次変換の幾何学的意味を固有ベクトルを用いて述べよ。
 (3) (2) の結果を用いて、 A^n を求めよ。ただし、 n は自然数とする。
 (4) x_n, y_n を求めよ。ただし、 n は自然数とする。

(東京大 2007) (m20070702)

0.113 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 1 \end{pmatrix}$ について、以下の設問に答えよ。

- (1) A の固有値 λ_1, λ_2 とそれらに対応する固有ベクトル $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2$ をそれぞれ求めよ。ただし、絶対値が大きい方の固有値を λ_1 とする。
 (2) xy 平面上の 3 点 $P(p_1, p_2), Q(q_1, q_2), R(r_1, r_2)$ を頂点とする三角形 PQR の面積 S の導出過程を示し、各頂点の座標 $p_1, p_2, q_1, q_2, r_1, r_2$ により表せ。また、各頂点の位置ベクトルが A により一次変換された際、その三角形の面積は何倍になるかを求めよ。
 (3) ベクトル $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} \alpha \\ \beta \end{pmatrix}$ をとり、 \mathbf{a} に A を n 回かけたベクトルを $\mathbf{a}_n = \begin{pmatrix} \alpha_n \\ \beta_n \end{pmatrix}$ とする。その成分 α_n, β_n および A^n を求めよ。ただし、 n は自然数とする。
 (4) 極限值 $L = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\alpha_n}{\beta_n}$ が一定の値に収束することを示し、その値を求めよ。

(東京大 2009) (m20090704)

0.114 2 行 2 列の行列 $A = \begin{pmatrix} 3/2 & 1/2 \\ -1/2 & 1/2 \end{pmatrix}$ について、以下の問いに答えよ。

- (1) $A^2, A^{-1}, |A|$ を求めよ。
 (2) A の全ての固有値を求めよ。

(3) $(A - I)^2 = 0$ が成り立つことを示せ. ただし, $I = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$ とする.

(4) 任意の実数 t について, ある t の多項式 $g(t)$ と定数 a, b が存在して

$$t^{100} = g(t)(t - 1)^2 + at + b$$

が成り立つ. a と b を求めよ.

(5) A^{100} を A と I を用いて表せ.

(6) $\sum_{n=0}^{\infty} \frac{A^n}{n!}$ を自然対数の底 e を用いて表せ. ただし, $A^0 = I, 0! = 1$ である.

(東京大 2010) (m20100701)

0.115 行列 A を $A = \begin{pmatrix} 3 & 1 & 1 \\ 1 & 5 & 1 \\ 1 & 1 & 3 \end{pmatrix}$ とするとき, 下の (1)~(5) を答えよ.

ただし, 3つのベクトル $\mathbf{m}_1, \mathbf{m}_2, \mathbf{m}_3$ を $\mathbf{m}_1 = \begin{pmatrix} m_{11} \\ m_{21} \\ m_{31} \end{pmatrix}, \mathbf{m}_2 = \begin{pmatrix} m_{12} \\ m_{22} \\ m_{32} \end{pmatrix}, \mathbf{m}_3 = \begin{pmatrix} m_{13} \\ m_{23} \\ m_{33} \end{pmatrix}$ と

するとき, $M = [\mathbf{m}_1, \mathbf{m}_2, \mathbf{m}_3]$ と表される行列 M は $M = \begin{pmatrix} m_{11} & m_{12} & m_{13} \\ m_{21} & m_{22} & m_{23} \\ m_{31} & m_{32} & m_{33} \end{pmatrix}$ であるとする.

- (1) 行列の3つの固有値を a_1, a_2, a_3 および固有ベクトル $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \mathbf{u}_3$ を求めよ. ただし, $|\mathbf{u}_1| = |\mathbf{u}_2| = |\mathbf{u}_3| = 1$ とすること.
- (2) 固有ベクトル $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \mathbf{u}_3$ を用いて作られる行列 U を $U = [\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \mathbf{u}_3]$ とする. $UV = I$ のように行列 U に右からかけると単位行列 I となる行列 V を求めよ.
- (3) 固有ベクトル $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \mathbf{u}_3$ は互いにどのような関係にあるか説明せよ.
- (4) 固有ベクトル $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \mathbf{u}_3$ と行列 U について, 下式を満たすような3つの行列 P_1, P_2, P_3 を求めよ. ただし, P_1, P_2, P_3 はそれぞれ3行3列の行列であり, $\mathbf{0}$ は零ベクトルである.

$$\begin{cases} P_1 U = [\mathbf{u}_1 & \mathbf{0} & \mathbf{0}] \\ P_2 U = [\mathbf{0} & \mathbf{u}_2 & \mathbf{0}] \\ P_3 U = [\mathbf{0} & \mathbf{0} & \mathbf{u}_3] \end{cases}$$

(5) 行列 A の n 乗である A^n を求めよ. ただし, n は正の整数である.

(東京大 2011) (m20110705)

0.116 行列 A を $A = \begin{bmatrix} x & \frac{1}{4} & 1 \\ 1 & 1-x & 2 \\ y & 0 & 1 \end{bmatrix}$ とする. ただし, x と y は実数とする.

以下の問いに答えよ. なお, ${}^t X$ を X の転置行列とすると, $X = -{}^t X$ を満たす X を交代行列と呼ぶ. また, $X = {}^t X$ を満たす X を対称行列と呼ぶ.

- (1) A は交代行列と対称行列の和で表すことができる. 交代行列を T , 対称行列を S とするとき, T と S を求めよ.
- (2) T は正則か否かを示せ.
- (3) $x = y = 0$ のとき, T の固有値を求めよ.

(4) 行列 B を $B = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 1 & y \\ 0 & y & 1 & 1 \\ 0 & 0 & x - \frac{1}{2} & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}$ とする.

$y \neq 0$ のとき, A は正則でなく, B は正則であった. このとき, x を求めよ.

(東京大 2012) (m20120705)

0.117 3 次の正方行列 A の固有値を λ とし, λ は固有方程式 $\lambda^3 - (\alpha + \beta)\lambda^2 + \alpha\beta\lambda = 0$ を満たすとする. このとき, $A^3 - (\alpha + \beta)A^2 + \alpha\beta A = 0$ が成り立つ. ここで, α, β は互いに異なる 0 でない実数とし, 行列 A は対角化可能であるとする, また, O を零行列, E を単位行列とする. 以下の問いに答えよ.

(1) 行列 A^n ($n \geq 3$) は次のような行列 A の 2 次式で表せることを示せ.

$$A^n = a_n A^2 + b_n A + c_n E$$

ここで, a_n, b_n, c_n は実数である.

(2) 行列 A が対角行列 D に対角化される時, (1) の a_n, b_n, c_n を含む次の式

$$D^n = a_n D^2 + b_n D + c_n E \quad (n \geq 3)$$

が成り立つことを示せ.

(3) (1) の a_n, b_n, c_n を求めよ.

(4) α, β の絶対値が 1 より小さければ, 無限級数

$$\sum_{i=0}^{\infty} A^i = E + A + A^2 + \dots$$

は $a'A^2 + b'A + c'E$ と表されることを示し, 実数 a', b', c' を求めよ.

(5) (4) の a', b', c' に対し, $(E - A)(a'A^2 + b'A + c'E)$ を求めよ.

(東京大 2013) (m20130705)

0.118 3 次の正方行列 A の固有値が $-1, 1, 2$ であるとする. また, I を 3 次の単位行列とする.

(1) A の特性多項式 $\phi(x)$ を求めよ.

(2) A^3 および A^4 を, A^2 と A と I の線形和で表せ.

(3) $A^n = a_n A^2 + b_n A + c_n I$ と表せる. $a_{n+1}, b_{n+1}, c_{n+1}$ を a_n, b_n, c_n を用いて表せ. ただし, n は 1 以上の整数である.

(4) a_n, b_n, c_n を求めよ. 逆行列を求める以下の公式を用いてもよい.

公式:

$$P = \begin{pmatrix} p_{11} & p_{12} & p_{13} \\ p_{21} & p_{22} & p_{23} \\ p_{31} & p_{32} & p_{33} \end{pmatrix} \text{ について, } \det P \neq 0 \text{ のとき}$$

$$P^{-1} = \frac{1}{\det P} \begin{pmatrix} p_{22}p_{33} - p_{23}p_{32} & p_{13}p_{32} - p_{12}p_{33} & p_{12}p_{23} - p_{13}p_{22} \\ p_{23}p_{31} - p_{21}p_{33} & p_{11}p_{33} - p_{13}p_{31} & p_{13}p_{21} - p_{11}p_{23} \\ p_{21}p_{32} - p_{22}p_{31} & p_{12}p_{31} - p_{11}p_{32} & p_{11}p_{22} - p_{12}p_{21} \end{pmatrix}$$

(東京大 2016) (m20160705)

0.119 2つの正方行列 A, B を

$$A = \begin{bmatrix} 0 & 1 & 0 \\ -1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}, \quad B = \frac{1}{2} \begin{bmatrix} \frac{1}{\sqrt{2}} + 1 & \frac{1}{\sqrt{2}} - 1 & 1 \\ \frac{1}{\sqrt{2}} - 1 & \frac{1}{\sqrt{2}} + 1 & 1 \\ -1 & -1 & \sqrt{2} \end{bmatrix}$$

とし、行列 C を $C = BAB^{-1}$ とする。以下の問いに答えよ。なお、以下では任意のベクトル \vec{x} に対し \vec{x}^T はその転置を表すものとする。また、行列 I を単位行列とし、ある正方行列 X に対して $\exp(X)$ を

$$\exp(X) = \sum_{k=0}^{\infty} \frac{X^k}{k!} = I + X + \frac{X^2}{2!} + \frac{X^3}{3!} + \cdots$$

と定義する。

- (1) 行列 A の固有値を複素数の範囲で求めよ。
- (2) 行列 C の固有値を複素数の範囲で求めよ。
- (3) あるスカラー変数 t に対して $\exp(At)$ を求めよ。
- (4) 3次元ベクトル \vec{x} に対してスカラー関数 $f(\vec{x})$ を

$$f(\vec{x}) = \sum_{k=1}^n \left\{ \exp\left(C \frac{2\pi k}{n}\right) \vec{a} - \vec{x} \right\}^T \left\{ \exp\left(C \frac{2\pi k}{n}\right) \vec{a} - \vec{x} \right\}$$

とおく。ただし、 n は $n > 1$ を満たす整数、 \vec{a} は以下のような3次元ベクトルである。

$$\vec{a} = \begin{bmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{bmatrix}$$

関数 $f(\vec{x})$ を最小にする \vec{x} は、ある単位ベクトル \vec{b} を用いて以下のような形式で表せる。

$$\vec{x} = \boxed{(\mathcal{A})} \left(\sum_{k=1}^n \boxed{(\mathcal{I})} \right) \vec{b}$$

- (a) (\mathcal{A}) と (\mathcal{I}) に入る数式を書け。必要であれば a_1, a_2, a_3, n, k を用いてよい。なお、行列を含まない形式で解答すること。
 - (b) \vec{b} を求めよ。
- (5) (4) で求めた \vec{x} に対して、 $n \rightarrow \infty$ としたときの \vec{x} を a_1, a_2, a_3 を用いて表せ。

(東京大 2018) (m20180705)

0.120 数列 x_n, y_n, z_n ($n = 0, 1, 2, \dots$) を、次の漸化式で定義する。

$$\begin{pmatrix} x_{n+1} \\ y_{n+1} \\ z_{n+1} \end{pmatrix} = A \begin{pmatrix} x_n \\ y_n \\ z_n \end{pmatrix} \quad (n \geq 0)$$

ただし、

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 1 & 0 \\ 1 & 2 & 0 \\ 1 & 1 & 1 \end{pmatrix}$$

であり、初期値 x_0, y_0, z_0 は実数で与えられているものとする。以下の問いに答えよ。

- (1) 行列 A の全ての固有値と、それに対応する固有ベクトルを求めよ。
 (2) A^n を求めよ。
 (3) $x_0 > 0, y_0 > 0, z_0 > 0$ のとき, $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{y_n}{x_n}$ を求めよ。
 (4) $\lim_{n \rightarrow \infty} \sqrt{x_n^2 + y_n^2 + z_n^2} < C$ となる定数 $C (C > 0)$ が存在するための, 初期値 x_0, y_0, z_0 に関する必要十分条件を示せ.

(東京大 2020) (m20200704)

0.121 n 次正方行列 A の第 i 行, 第 j 列の成分 a_{ij} が以下のように与えられている.

$$a_{ij} = \begin{cases} a & (i = j) \\ 1 & (i \neq j) \end{cases}$$

- (1) 以下の場合について, A の行列式の値を求めよ.
 (a) $n = 3$ (b) $n \geq 1$
 (2) 以下の場合について, A の固有値, 固有ベクトルを求めよ.
 (a) $n = 2$ (b) $n = 3$

対角成分より下の成分が 0 となる正方行列を上三角行列と呼ぶ. n 次上三角行列 B の成分 b_{ij} が以下のように与えられている. ただし, $b > 1$ である.

$$b_{ij} = \begin{cases} b & (i = j) \\ 1 & (i < j) \\ 0 & (i > j) \end{cases}$$

- (3) $n \geq 1$ の時, B に関して, 以下の問いに答えよ.
 (a) 正則であることを示せ. (b) 逆行列を求めよ.

(東京大 2022) (m20220704)

0.122 3×3 行列 A が

$$A \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad A \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 \\ -2 \\ 2 \end{pmatrix}, \quad A \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix}$$

を満たすとき, 次の問に答えよ.

- (1) A を求めよ.
 (2) A^n を求めよ.

(東京工業大 1997) (m19970803)

0.123 $A = \begin{pmatrix} \sqrt{3} & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & -\sqrt{3} \end{pmatrix}$, $B = \begin{pmatrix} 0 & 0 & \sqrt{3} \\ 0 & 0 & 0 \\ \sqrt{3} & 0 & 0 \end{pmatrix}$ とするとき, 次の問に答えよ.

- (1) $S_\theta = \cos \theta A + \sin \theta B$ の固有値と固有ベクトルを求めよ.
 (2) $v = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$ とする. θ を固定するとき, 2次形式 ${}^t v S_\theta v = c$ (c は 0 でない定数, ${}^t v$ は v の転置) の表わす図形は何か?

(東京工業大 1997) (m19970804)

0.124 $A = \begin{pmatrix} -13 & 12 & 6 \\ -12 & 11 & 6 \\ -6 & 6 & 2 \end{pmatrix}$ とおく.

- (1) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような正則行列 P をみつけよ.
- (2) 実直交行列 P で上の性質をもつものは存在するか? YES ならば 例をみつけよ. NO ならばその理由を記せ.

(東京工業大 1998) (m19980803)

0.125 $\mathbf{0}$ でない どんな実ベクトル (x, y, z) に対しても

$$(x, y, z) \begin{pmatrix} 1 & a & -a \\ a & 1 & a \\ -a & a & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} > 0$$

となるのは, a が どんな実数のときか.

(東京工業大 1998) (m19980804)

0.126 $A = \begin{pmatrix} -13 & 12 & 6 \\ -12 & 11 & 6 \\ -6 & 6 & 2 \end{pmatrix}$ に対し $P^{-1}AP$ が対角行列になるような正則行列 P を求めよ.

(東京工業大 2000) (m20000804)

0.127 行列 $A = \begin{pmatrix} 0 & -1 & 1 \\ 0 & 1 & 0 \\ -2 & -2 & 3 \end{pmatrix}$ に対して

- (1) A の固有値をすべて求めよ.
- (2) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような正則行列 P を求めよ.

(東京工業大 2001) (m20010805)

0.128 行列 $A = \begin{bmatrix} -8 & -2 & -1 \\ 6 & -3 & -2 \\ -6 & 4 & 3 \end{bmatrix}$ について,

- (1) 固有値を求めよ.
- (2) 固有値に対する基底ベクトルを求めよ.

(東京工業大 2001) (m20010806)

0.129 A, B を 2 次正方行列とする. 次の命題が正しければ証明し, 正しくなければ反例をあげよ.

- (1) λ が A の固有値で, μ が B の固有値のとき, $\lambda\mu$ は AB の固有値である.
- (2) A は正則行列とし, λ が A の固有値とすると, $\lambda \neq 0$ であり λ^{-1} は A^{-1} の固有値である.

(東京工業大 2002) (m20020806)

0.130 2 次曲面

$$2x^2 + y^2 + z^2 - xy + yz - zx + 10x - 9 = 0$$

の標準形を求めよ.

(東京工業大 2002) (m20020807)

0.131 A は 3 次複素正方行列で, $A^2 \neq O$, $A^3 = O$ を満たすとする. このとき次の問いに答えよ.

(1) 3次元の複素列ベクトル \vec{x} を $A^2\vec{x} \neq O$ ととる. このとき, $\{\vec{x}, A\vec{x}, A^2\vec{x}\}$ は 1次独立であることを示せ.

(2) 上で与えられた \vec{x} に対して, 3次正方行列 P を $P = (A^2\vec{x} \ A\vec{x} \ \vec{x})$ とおく. このとき,

$$P^{-1}AP = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} \quad \text{であることを示せ.}$$

(東京工業大 2003) (m20030804)

0.132 $C = \begin{pmatrix} -1 & 2 & -4 \\ -5 & 4 & -8 \\ -1 & 0 & 0 \end{pmatrix}$ に対し $P^{-1}CP$ が対角行列となるような正則行列 P をみつけよ.

(東京工業大 2004) (m20040804)

0.133 行列

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 0 & 3 & 0 \\ -3 & 1 & 3 \end{pmatrix}$$

を対角化せよ. A を対角化する正則行列 P も求めよ.

(東京工業大 2005) (m20050803)

0.134 行列 A を $A = \begin{pmatrix} 3 & -7 & -8 \\ 2 & 0 & -4 \\ 0 & -3 & -1 \end{pmatrix}$ と定める. $P^{-1}AP$ が対角行列となるような正則行列 P を求めよ.

(東京工業大 2006) (m20060803)

0.135 $A = \begin{pmatrix} 0 & 2 & 2 \\ 2 & 3 & 4 \\ 2 & 4 & 3 \end{pmatrix}$ とおく.

(1) A の固有値を求めよ. また, 各固有値に対する固有空間を求めよ.

(2) 次の条件をみたす実直交行列 T を用いて A を対角化せよ. T も具体的に求めよ.

条件: T の (i, j) 成分を t_{ij} とすると, $t_{12} = 2t_{22} > 0$ かつ t_{11}, t_{13} はともに正の数である.

(東京工業大 2008) (m20080803)

0.136 実対称行列 A について, 次の問いに答えよ.

(1) A の固有値がどれも零でないことと A が正則であることは同値であることを示せ.

(2) $A = \begin{pmatrix} a & 0 & c \\ 0 & b & 0 \\ c & 0 & a \end{pmatrix}$ に対し, 適当な直交行列 P によって $P^{-1}AP$ が対角行列になるようにせよ.

(東京工業大 2009) (m20090801)

0.137 $A = \begin{pmatrix} -1 & -5 & -1 \\ 2 & 4 & 0 \\ -4 & -8 & 0 \end{pmatrix}$ とおく.

(1) A の固有値と固有ベクトルを求め, A を対角化せよ.

(2) A^n を求めよ.

(東京工業大 2010) (m20100804)

0.138 $A = \begin{pmatrix} -1 & 1 & 1 \\ 1 & -1 & 1 \\ 1 & 1 & -1 \end{pmatrix}$ とおく.

- (1) A の固有値を求めよ.
- (2) $P^{-1}AP$ が対角行列になるような直交行列 P を求めよ.

(東京工業大 2012) (m20120803)

0.139 行列 $A = \begin{pmatrix} a & b & c \\ a & b & c \\ a & b & c \end{pmatrix}$ が対角化可能であるための必要十分条件を求めよ. ただし, a, b, c は複素数とする.

(東京工業大 2013) (m20130801)

0.140 3 次の正方行列 M を次で定義する:

$$M = \begin{pmatrix} 3 & 0 & 0 \\ -a^2 + 2a + 3 & 2 & a^2 - 6a + 7 \\ a^2 - 3a & 0 & a \end{pmatrix}$$

このとき以下の問に答えよ.

- (1) $a = 1$ のとき $P^{-1}MP$ が対角行列となるような正則行列 P を一つ求めよ.
- (2) $a = 2$ のとき $Q^{-1}MQ$ が対角行列となるような正則行列 Q が存在するか否かを理由をつけて述べよ. またそのような Q が存在する場合は $Q^{-1}MQ$ を求めよ.
- (3) $a = 3$ のとき $R^{-1}MR$ が対角行列となるような正則行列 R が存在するか否かを理由をつけて述べよ. またそのような R が存在する場合は $R^{-1}MR$ を求めよ.

(東京工業大 2014) (m20140803)

0.141 実数 a, b に対して

$$A = \begin{pmatrix} a^2 & ab & a \\ ab & b^2 & b \\ a & b & 1 \end{pmatrix}$$

とおく.

- (1) A の固有値をすべて求めよ.
- (2) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような正則行列 P をみつけよ.

(東京工業大 2015) (m20150803)

0.142

$$A = \begin{pmatrix} 3 & 1 & 1 \\ 2 & 3 & 2 \\ -2 & -1 & 0 \end{pmatrix}$$

とおく.

- (1) $P^{-1}AP$ が対角行列になるような正則行列 P を一つ求めよ.
- (2) 正の整数 n に対して A^n を求めよ.

(東京工業大 2017) (m20170802)

0.143 次の条件 (i), (ii) をみたす 3 次正方行列 A を求めよ.

(i) A の固有値はすべて正の実数である.

$$(ii) A^2 = \begin{pmatrix} 27 & -26 & -10 \\ 13 & -12 & -5 \\ 10 & -10 & -1 \end{pmatrix}$$

(東京工業大 2018) (m20180802)

0.144 行列

$$A = \begin{pmatrix} 7 & 2 & 1 & -7 \\ 2 & 3 & 1 & -3 \\ -4 & 0 & 1 & 4 \\ 10 & 2 & 1 & -10 \end{pmatrix}$$

に対して, $P^{-1}AP$ が対角行列となるような正則行列 P を求めよ.

(東京工業大 2019) (m20190802)

0.145 $A = \begin{pmatrix} 5 & 6 & 0 \\ -1 & 0 & 0 \\ 1 & 2 & 2 \end{pmatrix}$, $B = \begin{pmatrix} 9 & 16 & -2 \\ -3 & -5 & 1 \\ -3 & -8 & 4 \end{pmatrix}$ について, 以下の問いに答えよ.

(1) 3 次正則行列 P で, $P^{-1}AP$ が対角行列になるものを求めよ.

(2) 3 次正則行列 Q で, $Q^{-1}AQ$ と $Q^{-1}BQ$ が対角行列になるものを求めよ.

(東京工業大 2020) (m20200802)

0.146 n を自然数とし, 実数を成分とする n 次正方行列 A が

$$A^2 = E, \quad A \neq \pm E$$

を満たすとする. ただし, E は n 次の単位行列である. また, \mathbb{R}^n で実数を成分とする n 次の縦ベクトル全体を表す. 以下の問いに答えよ.

(1) A の固有値をすべて求めよ.

(2) $V = \{(A+E)x \mid x \in \mathbb{R}^n\}$, $W = \{(A-E)x \mid x \in \mathbb{R}^n\}$ とするとき, \mathbb{R}^n は V と W の直和に分解されることを示せ.

(3) A は対角化可能であることを示せ.

(東京工業大 2022) (m20220804)

0.147 c を定数とする. 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 & 2 \\ 2 & 2 & 1 \\ 5 & 2 & c \end{pmatrix}$ が 1 を固有値としてもつとき, 次の問いに答えなさい.

(1) c の値を求めなさい.

(2) A の固有値 1 に属する固有ベクトルで $\begin{pmatrix} x \\ y \\ 1 \end{pmatrix}$ の形のものを求めなさい.

(東京農工大 2015) (m20150903)

0.148 r は実数とする. 行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & 2 & 3 \\ 1 & 0 & -3 \\ -1 & r & 1 \end{pmatrix}$ に対して, 次の問いに答えなさい.

(1) $A \begin{pmatrix} -2 \\ 3 \\ -1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -3 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$ が成り立つとき, r の値を求めなさい.

(2) r は (1) で求めた値とする. そのときの A の固有値を $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ とする. ただし $\lambda_1 > \lambda_2 > \lambda_3$ とする. A の固有値 λ_1 に属する固有ベクトルで $\begin{pmatrix} x \\ y \\ 1 \end{pmatrix}$ の形のを求めなさい.

(東京農工大 2017) (m20170903)

0.149 x を定数とする. 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & -1 & 3 \\ 0 & x+1 & -3x+1 \\ 4 & -2 & 6 \end{pmatrix}$ とベクトル $\boldsymbol{v} = \begin{pmatrix} 1 \\ 8-x \\ 2 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えなさい.

(1) $A\boldsymbol{v} = x\boldsymbol{v}$ が成り立つような x の値を求めなさい.

(2) $x = -5$ のとき, ベクトル $\boldsymbol{w} = \begin{pmatrix} 1 \\ a \\ b \end{pmatrix}$ と実数 c に対して, $A\boldsymbol{w} = c\boldsymbol{w}$ が成り立つような 3 つの実数の組 (a, b, c) をすべて求めなさい.

(東京農工大 2018) (m20180903)

0.150 行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & 2 & -2 \\ -5 & -4 & 2 \\ -3 & -3 & 4 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えなさい.

(1) A の固有値をすべて求めなさい.

(2) A の最小の固有値に属する固有ベクトルで $\begin{pmatrix} 1 \\ x \\ y \end{pmatrix}$ の形のを求めなさい.

(東京農工大 2019) (m20190903)

0.151 t は実数とする. 3次正方行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & 1 & 1 \\ 0 & 2 & 1 \\ -1 & t & 0 \end{pmatrix}$ について $A \begin{pmatrix} 2 \\ -5 \\ 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 \\ -9 \\ 3 \end{pmatrix}$ が成り立つとき, 以下の問いに答えなさい.

(1) t の値を求めなさい.

(2) A の逆行列を求めなさい.

(3) A の固有値のうち最小のものを p とする. p に属する固有ベクトルで $\begin{pmatrix} x \\ y \\ 1 \end{pmatrix}$ の形のを求めなさい.

(東京農工大 2022) (m20220904)

0.152 3次の正方行列 A について次の条件が成り立つとする. $\begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix}$ は固有値 1 の固有ベクトルである.

$\begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix}$ は固有値 -1 の固有ベクトルである. $\begin{pmatrix} 2 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$ は固有値 0 の固有ベクトルである. このとき以下の問いに答えよ.

- (1) A を求めよ.
 (2) A を対角化する行列 P と対角行列 $P^{-1}AP$ を求めよ.

(電気通信大 2000) (m20001004)

- 0.153** A を下に定める 2×2 行列とし, M は A などを用いて下のように定義される 4×4 行列とする (I は単位行列, O は零行列). 以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} -2 & -6 \\ 2 & 5 \end{bmatrix}, \quad M = \begin{bmatrix} -I & 2A^{-1} \\ A & O \end{bmatrix}$$

- (1) A の固有値をすべて求めよ.
 (2) M の行列式 $\det M$, および M の逆行列 M^{-1} を求めよ.
 (3) $\mathbf{x} \in \mathbf{R}^4$ について $M\mathbf{x} = \mathbf{x}$ の解を求めよ.

(電気通信大 2010) (m20101001)

- 0.154** $A = \begin{bmatrix} 0 & 1 & -1 \\ 3 & 0 & -4 \\ -1 & 1 & 0 \end{bmatrix}$ とし, I を 3 次の単位行列とする. 以下の問いに答えよ.

- (1) A の逆行列があれば求めよ.
 (2) 行列式 $\det(\lambda I - A)$ を λ に関する多項式の形に整理せよ.
 (3) $A\mathbf{x} = \lambda_0\mathbf{x}$ となる $\mathbf{0} \neq \mathbf{x} \in \mathbf{R}^3$ をもつような, 実数 λ_0 を求めよ. また, そのときの $\mathbf{x} \neq \mathbf{0}$ をひとつ答えよ.
 (4) A^{2010} を求めよ.

(電気通信大 2011) (m20111001)

- 0.155** 3 次正方行列 $A = \begin{bmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \\ -6 & 7 & 0 \end{bmatrix}$ に対して, 以下の問いに答えよ.

- (1) A の固有値をすべて求めよ.
 (2) A の各固有値に対する固有ベクトルを求めよ.
 (3) $B = P^{-1}AP$ が対角行列となるような 3 次正則行列 P と対角行列 B を 1 組求めよ.

(電気通信大 2012) (m20121001)

- 0.156** 次の 3 次正方行列 A に対して, 以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} 10 & -6 & 3 \\ 6 & -5 & 2 \\ -24 & 12 & -7 \end{bmatrix}$$

- (1) A の固有値をすべて求めよ.
 (2) A の各固有値に対する固有ベクトルを求めよ.
 (3) A の階数 $\text{rank } A$ を求めよ.

(電気通信大 2017) (m20171001)

- 0.157** 次の 3 次正方行列 A とベクトル \mathbf{a} に対して, 以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} 10 & 12 & 3 \\ -6 & -7 & -2 \\ 3 & 4 & 2 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{a} = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix}$$

- (1) A の固有値をすべて求めよ.
- (2) A の最大の固有値に対応する固有ベクトルをひとつ求めよ.
- (3) $\mathbf{a}_n = A^n \mathbf{a}$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) と定義するとき, \mathbf{a}_n を求めよ.

(電気通信大 2019) (m20191001)

0.158 3次正方行列 A と \mathbb{R}^3 のベクトル \mathbf{v} を次の通りとする. 以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} 2 & -2 & 2 \\ 0 & -2 & 4 \\ 1 & -3 & 4 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{v} = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 2 \end{bmatrix}$$

- (1) 行列 A の実数の固有値と, それに対応する固有ベクトルを求めよ.
- (2) $\mathbf{v}, A\mathbf{v}, A^2\mathbf{v}$ が 1 次独立でないことを示せ.
- (3) $A^3\mathbf{v}, A^4\mathbf{v}$ をそれぞれ \mathbf{v} と $A\mathbf{v}$ の 1 次結合で表せ

(電気通信大 2020) (m20201002)

0.159 行列 $A = \begin{bmatrix} 1 & -2 & 2 \\ 2 & 6 & -4 \\ 1 & 2 & 0 \end{bmatrix}$ に関する以下の問いに答えよ.

- (1) I を 3 次単位行列とすると, 行列 $(A - 2I)(A - 3I)$ を求めよ.
- (2) A の固有値をすべて求めよ.
- (3) A の m 乗 A^m (m は非負整数) を

$$A^m = \lambda_1^m P_1 + \lambda_2^m P_2$$

という形に表せ. ここで, P_1, P_2 は 3 次正方行列であり, P_1, P_2 の各成分, および λ_1, λ_2 は, m に依存しない定数である.

(電気通信大 2021) (m20211002)

0.160 (1) 対称行列

$$A = \begin{pmatrix} 3 & 1 & 1 \\ 1 & 3 & 1 \\ 1 & 1 & 3 \end{pmatrix}$$

の固有値と固有ベクトルを求めよ.

- (2) 球面 $x^2 + y^2 + z^2 = 1$ 上における関数

$$f(x, y, z) = 3x^2 + 3y^2 + 3z^2 + 2xy + 2yz + 2zx$$

の最大値と最小値を求めよ.

(横浜国立大 1995) (m19951102)

0.161 対称行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えよ.

- (1) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(2) $\mathbf{b} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2t \\ -t \end{pmatrix}$ とするとき,

$$A\mathbf{x} = \mathbf{b}$$

を満たすベクトル \mathbf{x} が存在するような実数 t を求めよ.

(3) 3変数関数

$$f(x, y, z) = 2x^2 + y^2 + z^2 + 2xy + 2xz$$

の球面 $x^2 + y^2 + z^2 = 1$ 上における最大値と最小値を求めよ.

(横浜国立大 1996) (m19961102)

0.162 (1) 対称行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 & 2 \\ 1 & 3 & 1 \\ 2 & 1 & 2 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めよ. ただし, 固有ベクトルは長さ 1 となるように表せ

(2) 数ベクトル $\begin{pmatrix} a \\ b \\ c \end{pmatrix}$ を, 問(1)で求めた固有ベクトルの一次結合で表せ.

(横浜国立大 1997) (m19971102)

0.163 (1) 次の行列 A の固有値を求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} 4 & 0 & 1 \\ -2 & 1 & 4 \\ -2 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

(2) 上の行列 A の各固有値に対する固有空間の正規直交基底を求めよ.

(横浜国立大 1998) (m19981102)

0.164 以下の行列 A の固有値と, その固有値に対する固有空間を求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} 3 & 1 & 1 \\ 1 & 3 & 1 \\ 1 & 1 & 3 \end{pmatrix}$$

(横浜国立大 2000) (m20001102)

0.165 次の行列 A の固有値と, その固有値に対する固有ベクトルをすべて求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 2 \\ 2 & 1 & 2 \\ 2 & 2 & 1 \end{pmatrix}$$

(横浜国立大 2001) (m20011102)

0.166 次の行列 A の固有値と, その固有値に対する固有空間を求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} 5 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \\ -7 & 1 & 0 \end{pmatrix}$$

(横浜国立大 2003) (m20031102)

0.167 以下の行列 A の固有値をすべて求めよ.

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 7 & 0 & 7 \\ 7 & 1 & 7 & 0 \\ 0 & 7 & 1 & 7 \\ 7 & 0 & 7 & 1 \end{bmatrix}$$

(横浜国立大 2005) (m20051101)

0.168 行列 $A = \begin{bmatrix} 2 & 4 \\ 0 & 3 \end{bmatrix}$ に関して以下の問いに答えよ.

- (1) 逆行列を求めよ. (2) 固有値と固有ベクトルを求めよ.
 (3) (2) で求めた固有ベクトルが線形独立である事を示せ.

(横浜国立大 2007) (m20071101)

0.169 以下の行列 A について、次の問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 0 & -1 & 0 \\ 0 & 2 & 0 & -1 \\ -1 & 0 & 2 & 0 \\ 0 & -1 & 0 & 2 \end{pmatrix}$$

- (1) A の固有値をすべて求めよ.
 (2) 次の条件を満たす 4 次正則行列 P を 1 つもとめよ:
 「 P の列ベクトルはそれぞれ A の固有ベクトルである。」

(横浜国立大 2008) (m20081101)

0.170 以下の行列 A に対して、次の問いに答えよ.

$$A = \frac{1}{3} \begin{bmatrix} -2 & 1 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & -2 & 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & -2 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & -2 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & -2 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 & 1 & -2 \end{bmatrix}$$

- (1) A の固有値を求めよ.
 (2) A^2 を求めよ.
 (3) A の逆行列を求めよ.

(横浜国立大 2009) (m20091102)

0.171 以下の行列 A について、次の問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

- (1) A の固有値と固有ベクトルを求めよ. ただし, 固有ベクトルは, 互いに直交するように定めよ.
 (2) A の行列式を求めよ.
 (3) n を 1 以上の整数とする. A^n を求めよ.
 (4) A の逆行列を求めよ.

(横浜国立大 2010) (m20101101)

0.172 以下の行列 A について、次の問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} -3 & 4 & 0 & 0 \\ -2 & 3 & 0 & 0 \\ 6 & 1 & 6 & 8 \\ -2 & -3 & -4 & -6 \end{pmatrix}$$

(1) A の固有値を求めよ.

(2) A の固有ベクトルを求めよ.

(3) $A^n \begin{pmatrix} 3 \\ 2 \\ -3 \\ 0 \end{pmatrix}$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) を求めよ.

(横浜国立大 2012) (m20121101)

0.173 以下の行列 A について, 次の問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} -1 & 1 & 2 \\ 1 & -1 & 2 \\ 2 & 2 & 2 \end{pmatrix}$$

(1) A の固有値を求めよ.

(2) A の固有ベクトルを求めよ.

(3) 互いに直交する 3 本の A の固有ベクトルを 1 組求めよ.

(横浜国立大 2013) (m20131101)

0.174 $0 < x < 1$ とし, $A = \begin{pmatrix} 1-x & x \\ x & 1-x \end{pmatrix}$ とおく. 次の問いに答えよ.

(1) A の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(2) $P^{-1}AP$ が対角行列となる正則行列 P を 1 つ求めよ.

(3) n を 1 以上の整数とする, A^n を求めよ.

(4) A^n の各成分は, $n \rightarrow \infty$ のとき極限をもつことを示せ.

(横浜国立大 2014) (m20141101)

0.175 以下の行列 A に対して, 次の問いに答えよ. 但し, $i = \sqrt{-1}$ とする.

$$A = \begin{bmatrix} i & 1 & 0 \\ 1 & i & 0 \\ 0 & 0 & \sqrt{2}i \end{bmatrix}$$

(1) A の固有値を求めよ.

(2) A の逆行列を求めよ.

(横浜国立大 2015) (m20151101)

0.176 次の行列 A に対して, 多項式 $f(x)$ を $f(x) = \det(xE - A)$ で定義する. ただし, E は 3×3 の単位行列とする.

$$A = \begin{bmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \\ 1/8 & 0 & 0 \end{bmatrix}$$

(1) A の固有値を求めよ. (2) $f(A)$ を求めよ. (3) $\sum_{n=0}^{\infty} A^n$ を求めよ.

(横浜国立大 2016) (m20161101)

0.177 行列 $A = \begin{bmatrix} \cos \theta & \sin \theta \\ -\sin \theta & \cos \theta \end{bmatrix}$ および, $B = \begin{bmatrix} \cos \theta & \sin \theta & 0 \\ -\sin \theta & \cos \theta & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}$ に関して以下の問いに答えよ.

- (1) A の固有値とその固有ベクトルを求めよ.
- (2) A^n を $\sin(n\theta)$, $\cos(n\theta)$ で表わせ. また, その求め方を説明せよ.
- (3) B^n を $\sin(n\theta)$, $\cos(n\theta)$ で表わせ. また, その求め方を説明せよ.

(横浜国立大 2017) (m20171103)

0.178 以下の行列 A が与えられている.

$$A = \begin{bmatrix} 2 & 1 & 0 \\ -1 & -3 & a \\ 0 & 2 & 2 \end{bmatrix}$$

ただし, A は異なる 2 つの実数を固有値として持つ. また, 定数 a は正の実数である.
このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) a の値を求めよ.
- (2) A の固有値と固有ベクトルを求めよ.
- (3) A^{-1} を求めよ.

(横浜国立大 2018) (m20181101)

0.179 次の行列 A が, 1 と 4 を固有値としてもつとき, 以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} 7 & a \\ 3 & -2 \end{bmatrix}$$

ただし, a は実数の定数である.

- (1) a を求めよ.
- (2) 行列 A の固有ベクトルを求めよ.
- (3) 行列 A を対角化せよ.
- (4) A^n を計算せよ.

(横浜国立大 2019) (m20191101)

0.180 行列 A が以下で与えられている.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & -1 \\ 1 & -1 & -1 \end{pmatrix}$$

- (1) 行列 A の固有値とその固有ベクトルを求めよ.
- (2) 行列 A を対角化せよ.
- (3) A^n を計算せよ. ただし, n は正の整数とする.

(横浜国立大 2020) (m20201101)

0.181 次の行列 A および B に関して以下の問いに答えよ.

$$A = \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ 1 & a \end{bmatrix} \quad B = \frac{1}{\sqrt{4}} \begin{bmatrix} 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & a & 1 & a \\ 1 & 1 & -1 & -1 \\ 1 & a & -1 & -a \end{bmatrix}$$

ただし、 a は実数の定数であり、 $A^{-1} = A^T$ が成り立つものとする。なお、任意の実数行列 X の逆行列を X^{-1} と表し、転置行列を X^T と表す。

- (1) a を求めよ。
- (2) A の固有値と固有ベクトルを求めよ。
- (3) BB^T を求めよ。
- (4) B の逆行列 B^{-1} を求めよ。

(横浜国立大 2021) (m20211101)

0.182 次の行列 A について以下の問いに答えよ。

$$A = \begin{pmatrix} 1 & \frac{1}{2} & 0 \\ -\frac{3}{2} & -1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

- (1) A の固有値を求めよ。
- (2) $P^{-1}AP$ が対角行列となる正則行列 P を一つ求めよ。
- (3) n を 1 以上の整数とする。 $\lim_{n \rightarrow \infty} A^n$ を求めよ。

(横浜国立大 2022) (m20221101)

0.183 2次形式 $4x_1^2 - 12x_1x_2 + 5x_2^2$ を式 $y_1^2 - y_2^2$ に変換する一次変換を求めよ。

(千葉大 1994) (m19941204)

0.184 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & -1 \\ -1 & 2 \end{pmatrix}$ の固有値 λ_1, λ_2 を求め、 λ_1, λ_2 に対して、長さが 1 となるように正規化した固有ベクトル ν_1, ν_2 を求めよ。さらに、 ν_1, ν_2 を相隣る 2 辺とする平行四辺形の面積を求めよ。

(千葉大 1997) (m19971203)

0.185 (1) 下記に与えられた行列 A に対して、行および列に関する基本変形を何回か施すことによって、次の標準形 I に変形されることを示せ。

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & -1 & 3 \\ 2 & 4 & -4 & 7 \\ -1 & -2 & -1 & -2 \end{pmatrix}, \quad I = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

(2) (1) と関連して、次の関係式 $PAQ = I$ が成り立つような正則 3 次正方行列 P と正則 4 次正方行列 Q を求めよ。

(注) 行に関する基本変形とは (I) 一つの行を k 倍する ($k \neq 0$) ; (II) 一つの行に他の一つの行の k 倍を加える ($k \neq 0$) ; (III) 一つの行と他の行とを交換する、という変形の総称。列についても同様。

(千葉大 1998) (m19981204)

0.186 以下の設問に答えなさい。

(1) 次の対称行列 A の固有値と固有ベクトルを求めなさい。

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 0 \\ 2 & 2 & 2 \\ 0 & 2 & 3 \end{pmatrix}$$

(2) (1) で求めた固有値と固有ベクトルを用いて A^n を求めなさい。

ここで、 A^n は $A^n = A \cdot A \cdot A \cdots A$ のように A を n 回掛け合わせることを意味する。

例えば、 $A^2 = A \cdot A$, $A^3 = A^2 \cdot A = A \cdot A \cdot A$ である。

(千葉大 2000) (m20001204)

0.187 次の2次形式について、以下の問いに答えなさい。

$$f(x, y) = 2x^2 - 2xy + 2y^2$$

(1) $f(x, y)$ は2次の実対称行列 A とベクトル $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ を用いて、次のように書き直すことができる。

$$f(x, y) = F(\mathbf{x}) = \mathbf{x}^T A \mathbf{x}$$

A を求めなさい。ここで、 \mathbf{x}^T は \mathbf{x} の転置を表わす。

(2) A の固有値と固有ベクトルを求めなさい。次に、2次曲線 $f(x, y) = 1$ を、固有ベクトルの方向を新しい座標軸とする座標系 $O - X, Y$ で表わし、その概形を示しなさい。

(千葉大 2002) (m20021204)

0.188 次の行列 A について答えなさい。 $A = \begin{bmatrix} 1 & -2 & 0 \\ -2 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 4 \end{bmatrix}$

(1) A の固有値と固有ベクトルを求めなさい。

(2) 固有ベクトルを用いて A を対角化しなさい。

(千葉大 2004) (m20041204)

0.189 \mathbb{R}^3 で行列 $A = \begin{pmatrix} 0 & -1 & 1 \\ 3 & 0 & -3 \\ -1 & 3 & 2 \end{pmatrix}$ が与えられている。次の問いに答えなさい。

(1) A の対称部分 $T_1 = \frac{1}{2}(A + A^T)$ と、 A の歪み対称部分 $T_2 = \frac{1}{2}(A - A^T)$ の各行列を求めなさい。ここで、 A^T は A の転置行列を表す。

(2) 対称部分の行列 T_1 の固有値と固有ベクトルを求めなさい。

(3) 歪み対称部分の行列 T_2 で定められる線形写像のゼロ空間 $\{\mathbf{x} \in \mathbb{R}^3 \mid T_2 \mathbf{x} = \mathbf{0}\}$ を求めなさい。

(千葉大 2007) (m20071207)

0.190 次の行列 A の固有値と固有ベクトルを求めなさい。 $A = \begin{pmatrix} -8 & -2 & -1 \\ 6 & -3 & -2 \\ -6 & 4 & 3 \end{pmatrix}$

(千葉大 2008) (m20081202)

0.191 (1) A, T が正則行列のとき、任意の整数 $m \geq 0$ において、

$$(T^{-1}AT)^m = T^{-1}A^mT$$

が成立することを示しなさい。(T^{-1} は T の逆行列)

(2) 行列 $A = \begin{pmatrix} -4 & 1 \\ 2 & -3 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めなさい。

(3) A^5 を求めなさい。

(千葉大 2009) (m20091202)

0.192 対称行列 $A = \begin{pmatrix} -1 & 2 \\ 2 & 2 \end{pmatrix}$ について、以下の問いに答えなさい。

- (1) 行列 A の固有値を全て求めなさい。
- (2) (1) で求めた固有値に対応する大きさ (長さ)1 の固有ベクトル $\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2$ をそれぞれ求めなさい。
- (3) $P = (\mathbf{p}_1 \ \mathbf{p}_2)$ としたとき、 $PP^{-1} = P^{-1}P = I$ を計算することによって、 P が直交行列であることを確認しなさい。ただし、 I は単位行列とする。
- (4) $P^{-1}AP$ を計算して、行列 A を対角化しなさい。

(千葉大 2012) (m20121202)

0.193 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$ について、以下の問いに答えなさい。

- (1) A の固有値と固有ベクトルを求めなさい。
- (2) $x_{n+2} = x_{n+1} + x_n$ ($n \geq 1$) を満たす数列 $\{x_n\}$ は、始めの二項 x_1, x_2 が与えられれば定まる。そこで、 $(x_1, x_2) = (0, 1)$ で定まる数列を \mathbf{e}_1 、 $(x_1, x_2) = (1, 0)$ で定まる数列を \mathbf{e}_2 とする、 $\{x_n\}$ の一般項を求めるため、数列の番号を一つずらす線形変換 T を考えれば、基底 $(\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2)$ に関する T の表現行列が A になることを示しなさい。
- (3) A^n の固有値を用いて数列 $\{x_n\}$ の一般項を表し、 $(x_1, x_2) = (1, 1)$ で定まる数列 $\{x_n\}$ の一般項を求めなさい。ただし、 A^n は $A \times A \times \dots \times A$ を表す。

(千葉大 2013) (m20131202)

0.194 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 2 \end{pmatrix}$ について、以下の問に答えなさい。

- (1) 行列 A の固有値 λ_1, λ_2 とそれぞれに対応する固有ベクトル $\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2$ を求めなさい。
- (2) 固有ベクトルを縦ベクトルとして、横に並べた行列 $P = [\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2]$ の逆行列 P^{-1} を求めなさい。
- (3) $P^{-1}AP$ を求めなさい。
- (4) $(P^{-1})^T = [\mathbf{q}_1, \mathbf{q}_2]$ で定義されるベクトル $\mathbf{q}_1, \mathbf{q}_2$ が A^T の固有ベクトルであることを示しなさい。ここで A^T は A の転置行列を表す。

(千葉大 2014) (m20141202)

0.195 (4×4) の正方行列 A の第 i 行第 j 列の要素 $\{a_{ij}\}$ が $a_{ij} = (-1)^{i+j}$ で与えられるとき、行列 A の固有値を求めなさい。

(千葉大 2016) (m20161207)

0.196 実対称行列 $A = \begin{bmatrix} 0 & 1 & -1 \\ 1 & 0 & 1 \\ -1 & 1 & 0 \end{bmatrix}$ について、以下の問に答えなさい。

- (1) 行列 A は、異なる二つの実数の固有値 λ_1, λ_2 を持つ (ただし、 $\lambda_1 < \lambda_2$)。 λ_1, λ_2 を求めなさい。
- (2) 行列 A は、ある直交行列 Q によって $Q^{-1}AQ = \begin{bmatrix} \lambda_1 & 0 & 0 \\ 0 & \lambda_2 & 0 \\ 0 & 0 & \lambda_2 \end{bmatrix}$ と対角化できる。この直交行列 Q を求めなさい。(なお、実正方行列 Q が ${}^tQQ = I$ (I は単位行列) を満たすとき、 Q を直交行列という)

(千葉大 2017) (m20171202)

0.197 (1) 行列 $C = \begin{pmatrix} 1 & -1 & 1 \\ -7 & 2 & 1 \\ 2 & 1 & 2 \end{pmatrix}$ の固有値を求めなさい。

(2) 設問 (1) で求めた固有値に対する大きさ 1 の固有ベクトルを求めなさい。

(千葉大 2017) (m20171206)

0.198 正方行列 A に関して、以下の問いに答えよ。

(1) $A \neq O$ であるとき、 A が $A^2 = O$ を満足するなら (つまり、 A がべき零行列なら)、 $I + A$ は正則である (逆行列を持つ) ことを示せ。ただし、行列 O, I はそれぞれ零行列、単位行列である。

(2) A として次のような 2 行 2 列の行列を考える。

$$A = \begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix}$$

この行列の固有値を求めよ。ただし、 a, b, c, d は一般には複素数である。

(3) (2) において、 A の固有値が重根となるための条件を示し、これに対する規格化された固有関数をすべて求めよ。

(4) (2) における行列 A が、べき零行列であるための条件を求めよ。この条件と (3) の結果に基づいて、 A の固有値は重根 0 となることを示し、これに対する規格化された固有関数をすべて求めよ。

(筑波大 2000) (m20001308)

0.199 2 次曲線 $-x_1^2 + 4x_1x_2 + 2x_2^2 = 1$ を行列で表すと

$$\begin{bmatrix} x_1 & x_2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} -1 & 2 \\ 2 & 2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix} = 1 \cdots (*)$$

となる。以下の問いに答えよ。

(1) 行列 $A = \begin{bmatrix} -1 & 2 \\ 2 & 2 \end{bmatrix}$ の固有値 λ_1, λ_2 ($\lambda_1 < \lambda_2$) を求めよ。

(2) 固有値 λ_1, λ_2 について、それぞれの正規化された固有ベクトル $\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2$ を求めよ。

(3) 行列 $P = [\mathbf{p}_1 \ \mathbf{p}_2]$ を用いた変換

$$\mathbf{x} = P\mathbf{y}, \quad \mathbf{x} = \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{y} = \begin{bmatrix} y_1 \\ y_2 \end{bmatrix}$$

によって、式 (*) を $y_1, y_2, \lambda_1, \lambda_2$ のみで表せ。

ヒント: P が直交行列 (${}^tP = P^{-1}$, 上付き添字の t は行列の転置) であることを利用する。

(4) 式 (1) で表される図形の種類は何か。

(筑波大 2000) (m20001309)

0.200 行列 $A = \begin{bmatrix} a & 1-b \\ 1-a & b \end{bmatrix}$ に関して、以下の問いに答えよ。ただし、 $0 < a < 1$ かつ $0 < b < 1$ とする。

(1) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ。ただし、固有ベクトルは正規化する必要はない。

(2) 上で求めた固有ベクトルのもとで行列 A を対角化したときの対角行列 B を求めよ。

(3) 行列 A の対角化を用いて, A^n を求めよ (n は自然数).

(筑波大 2001) (m20011310)

0.201 行列 $A = \begin{pmatrix} 1-p & p \\ q & 1-q \end{pmatrix}$ を考えよう. ここで, パラメータ p, q の変動範囲は $0 < p < 1, 0 < q < 1$ であるとする. このとき次の (1),(2),(3) の各問いに答えよ.

(1) A の固有値と固有ベクトルを求めよ. ただし, 固有ベクトルはノルムが 1 となるように規格化して示せ.

(2) 行列 A の n 乗, A^n を求めよ.

(3) 行列 A の n 乗の n が大きい場合の極限值 $\lim_{n \rightarrow \infty} A^n$ を求めよ.

(筑波大 2003) (m20031316)

0.202 正方行列の固有値, 固有ベクトルに関する以下の 2 つの問いに答えよ.

(1) 次の正方行列 A の固有値および固有ベクトルを求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 2 \\ 1 & 2 & -1 \\ 3 & -3 & 0 \end{pmatrix}$$

(2) n 次の正方行列 B の固有値とその転置行列 tB の固有値とは同じであることを証明せよ.

(筑波大 2003) (m20031317)

0.203 次の行列の逆行列と固有値を求めよ.

$$\begin{pmatrix} 3 & 2 & 1 \\ 2 & 2 & -1 \\ -4 & 0 & 4 \end{pmatrix}$$

(筑波大 2003) (m20031318)

0.204 次の微分方程式を解くために, 以下の設問に答えよ.

$$\begin{cases} \frac{d}{dt}x_1 = 2x_1 - 2x_2 \\ \frac{d}{dt}x_2 = -x_1 + 3x_2 \end{cases}$$

(1) 行列 A を $A = \begin{pmatrix} 2 & -2 \\ -1 & 3 \end{pmatrix}$ とおく. この行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(2) $P^{-1}AP$ が対角行列となるように行列 P を定め, 行列 A を対角化せよ.

(3) ベクトル $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix}$ とおく. \mathbf{x} と A を用いて, 上の微分方程式を表せ.

(4) ベクトル $\mathbf{y} = \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \end{pmatrix}$ とおく. $P\mathbf{y} = \mathbf{x}$ として, これを設問 (3) で求めた表現に代入せよ. また, この y_1, y_2 に関する微分方程式の一般解を求めよ.

(5) x_1, x_2 の一般解を求めよ.

(6) $t = 0$ における初期値 $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \end{pmatrix}$ に対応する解 x_1, x_2 の, $t \rightarrow \infty$ における振る舞いを調べよ.

(筑波大 2004) (m20041321)

0.205 行列 $A = \begin{bmatrix} 0 & -4 & 0 \\ 1 & 4 & 0 \\ 0 & 0 & 2 \end{bmatrix}$ とする.

(1) A の固有値と対応する固有ベクトルをすべて求めよ.

(2) ある正則行列 P を用いて, $P^{-1}AP = \begin{bmatrix} \lambda_1 & & \\ & \lambda_2 & \\ & & \lambda_3 \end{bmatrix}$ と対角化することは可能か. 可能であれば, P の成分と $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ の値を求めよ. 対角化不可能であれば, その理由を説明せよ.

(筑波大 2004) (m20041322)

0.206 $A = \begin{bmatrix} 0 & 1 & 1 \\ -1 & 3 & 1 \\ 0 & a & b \end{bmatrix}$ とする. このとき, 次の問に答えよ.

(1) 行列 A が正則であるための a, b の条件を述べよ.

(2) $a = -1, b = 1$ のとき, 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(筑波大 2005) (m20051303)

0.207 空間 (3次元のユークリッド空間) の中で, 3つのベクトル $\begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$ をそれぞれ

$\begin{pmatrix} 4 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \\ 2 \end{pmatrix}$ に写す, つまり,

$$\begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} \mapsto \begin{pmatrix} 4 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} \mapsto \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} \mapsto \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \\ 2 \end{pmatrix}$$

とするような線形写像 (行列) A を考える.

(1) A を具体的な数行列の形で表せ.

(2) A の固有値, 固有ベクトルをすべて求めよ. 固有ベクトルは正規化 (規格化) せよ.

(筑波大 2006) (m20061318)

0.208 平面 (2次元のユークリッド空間) の中に, 直交 (デカルト) 座標 x, y をとり, この座標を使って $\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ の形でベクトルを表現することにする.

この平面の中で, 直線 $\ell: y = ax$ に関して折り返すという線形写像を P としたとき, P の固有値, 固有ベクトルをすべて求めよ. 固有ベクトルは正規化 (規格化) せよ.

(筑波大 2006) (m20061319)

0.209 4次の正方行列 A を $A = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 & 1 \\ 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \end{pmatrix}$ と定める.

(1) A の固有値を全て求めよ.

(2) (1) で求めた各々の固有値に対する固有ベクトルを一つずつ求めよ.

(筑波大 2007) (m20071305)

0.210 0でない n 個の複素数 $\theta_1, \theta_2, \dots, \theta_n$ をとり, Θ をその (i, j) 成分が $(\theta_i)^{j-1}$ で与えられる n 次正方行列とする. さらに $p_k = (\theta_1)^k + (\theta_2)^k + \dots + (\theta_n)^k$ ($k \geq 0$) とおく. 以下の問に答えよ.

- (1) 行列 ${}^t\Theta\Theta$ は次の行列に等しいことを示せ. ただし, ${}^t\Theta$ は行列 Θ の転置行列である.

$$A = \begin{pmatrix} p_0 & p_1 & p_2 & \cdots & p_{n-1} \\ p_1 & p_2 & p_3 & \cdots & p_n \\ p_2 & p_3 & p_4 & \cdots & p_{n+1} \\ \vdots & \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ p_{n-1} & p_n & p_{n+1} & \cdots & p_{2n-2} \end{pmatrix}$$

- (2) Vandermonde の行列式 $\det \Theta = (-1)^{n(n-1)/2} \prod_{1 \leq i < j \leq n} (\theta_i - \theta_j)$

を用いて次の等式を示せ. $\det ({}^t\Theta\Theta) = \prod_{1 \leq i < j \leq n} (\theta_i - \theta_j)^2$

- (3) $\theta_1, \dots, \theta_n$ が n 次正方行列 A の固有値であるとき $\text{tr}(A^k) = p_k$ ($k \geq 0$) となることを示せ. ただし, tr は行列のトレースである.

(筑波大 2007) (m20071307)

- 0.211** (1) 原点を中心をもつ楕円 $x^2 - xy + y^2 = 1$ の, 長軸および短軸の長さをそれぞれ求めよ. また, この楕円の概形を, 主軸の方向がわかるように描け.

- (2) 楕円 $x^2 - xy + y^2 = 1$ の長軸を x 軸に一致させる回転 (ただし, 回転角は $-\frac{\pi}{2}$ より大きく $\frac{\pi}{2}$ より小さいとする) による変換 g と, y 軸方向の拡大による変換 f を合成した変換 $f \circ g$ により, 元の楕円は円に変換される. 行列 A を用いて $f \circ g : \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \rightarrow A \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ と表すとき, A 及びその逆行列 A^{-1} を求めよ.

- (3) 次の積分を求めよ. $\iint_D e^{-(x^2 - xy + y^2)} dx dy \quad \{(x, y) \mid -\infty < x < \infty, -\infty < y < \infty\}$

(筑波大 2007) (m20071312)

- 0.212** 2 次の実対称行列 A で作った 2 次形式が次のように与えられたとする. ${}^t\mathbf{x}A\mathbf{x} = 2x^2 - 4xy + 5y^2$

ここで $A = \begin{bmatrix} 2 & -2 \\ -2 & 5 \end{bmatrix}$, $\mathbf{x} = \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$, ${}^t\mathbf{x} = [x \ y]$ である.

- (1) A の固有値と固有ベクトル (正規化したもの) をすべて求めよ.
 (2) (1) で求めた固有ベクトルを並べて作った 2 次の正方行列 P とその転置行列 tP を使って tPAP を計算せよ.
 (3) ベクトル \mathbf{x} に適当な一次変換を行い上記の 2 次形式を標準形に変換せよ.

(筑波大 2007) (m20071320)

- 0.213** $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 2 & 3 \end{pmatrix}$ とする.

- (1) A の固有値と単位固有ベクトルを求めよ. (2) A^n を求めよ (n は正の整数).

(筑波大 2007) (m20071336)

- 0.214** 方程式 $x^3 - 1 = 0$ の 3 つの根を $1, \alpha, \beta$ とし, $A = \begin{bmatrix} \frac{\alpha + \beta}{2} & \frac{\alpha - \beta}{2} \\ \frac{\alpha - \beta}{2} & \frac{\alpha + \beta}{2} \end{bmatrix}$ とする.

- (1) A^3 を α, β を用いずに表せ. (2) A^2 の逆行列を, A を用いて表せ.
 (3) A^7 を α, β を用いて表せ. (4) A の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(5) A を対角化せよ.

(筑波大 2008) (m20081312)

0.215 次の行列 A について問いに答えよ. $A = \begin{pmatrix} 4 & 3 & 1 \\ -5 & -4 & -1 \\ 2 & 2 & 1 \end{pmatrix}$

- (1) A の固有値と固有ベクトルを求めよ.
- (2) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような 3 次正則行列 P は存在するか, 理由をつけて答えよ.

(筑波大 2008) (m20081313)

0.216 行列 A について以下の設問に答えよ.

$$A \equiv (\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3) \equiv \begin{pmatrix} 1 & -\sqrt{2} & 0 \\ -\sqrt{2} & 1 & -\sqrt{2} \\ 0 & -\sqrt{2} & 1 \end{pmatrix}$$

- (1) A を構成する 3 個の列ベクトル $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3$ は, 1 次独立か 1 次従属か, 理由を示して答えよ.
- (2) A が正則かどうかを調べ, 正則な場合は逆行列を求めよ.
- (3) A の固有値と固有ベクトル (大きさを 1 に正規化したもの) をすべて求めよ.
- (4) A を対角化する行列を与え, それを用いて対角化されることを示せ.

(筑波大 2008) (m20081323)

0.217 2 次曲面 $x^2 + 3y^2 + 3z^2 - 2yz + 2y + 2z = 0$ の標準形を求めよ. また, 曲面の名称を答えよ.

(筑波大 2009) (m20091307)

0.218 独立変数が 1 個 (t), 従属変数が 2 個 ($x = x(t), y = y(t)$) の連立微分方程式:

$$\begin{cases} \frac{dx}{dt} = 2x + \sqrt{2}y \\ \frac{dy}{dt} = \sqrt{2}x + y \end{cases}$$

を考える. 初期条件を $x(0) = x_0, y(0) = y_0$ としたときの解を次の設問に従って求めよ.

- (1) $\mathbf{x} = \mathbf{x}(t) = \begin{pmatrix} x(t) \\ y(t) \end{pmatrix}$ とおいて, 与えられた微分方程式を行列 A を使って, $\frac{d}{dt}\mathbf{x} = A\mathbf{x}$ の形に書き換える. A を具体的な行列の形で表せ.
- (2) A の固有値, 固有ベクトルをすべて求めよ. 固有ベクトルは正規化 (規格化) し, それを $\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2$ とする.
- (3) $\mathbf{x}(t) = c_1(t)\mathbf{p}_1 + c_2(t)\mathbf{p}_2$ とおくことにする. $c_1(0), c_2(0)$ は x_0, y_0 を使ってどう書けるか.
- (4) $c_1(t), c_2(t)$ が満たす (t に関する) 微分方程式を求めよ.
- (5) 前問 (4) で求めた微分方程式を解いて, $c_1(t), c_2(t)$ を求めよ. 初期条件 $c_1(0), c_2(0)$ は, 設問 (3) で得ていることに注意せよ.
- (6) $x(t), y(t)$ を x_0, y_0 を使って表せ.

(筑波大 2009) (m20091310)

0.219 (1) 4次正方行列

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

に対して、 A^2 , A^3 , A^4 を計算せよ.

- (2) B が n 次正方行列とする. ある自然数 m に対して $B^m = O$ ならば B の固有値はすべて 0 であることを示せ.
- (3) C が n 次正方行列とする. ある自然数 m に対して $C^m \neq O$, $C^{m+1} = O$ ならば $n \geq m + 1$ であることを示せ.

(筑波大 2010) (m20101301)

0.220 (1) A を正則行列とするととき、 ${}^t(A^{-1}) = ({}^tA)^{-1}$ を示せ. ただし、 ${}^t(A^{-1})$ は A^{-1} の転置行列、 tA は A の転置行列とする.

- (2) Q を直交行列とするととき、 $\det(Q) = \pm 1$ であることを示せ. ただし、 $\det(Q)$ は Q の行列式とする.
- (3) S を実交代行列とするととき、 S の固有値は 0 または純虚数であることを示せ.

(筑波大 2010) (m20101302)

0.221 行列 A について以下の設問に答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 0 & -1 & 0 \\ -1 & 0 & -1 \\ 0 & -1 & 0 \end{pmatrix}$$

- (1) A の固有値 $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ を求めよ. ただし、 $\lambda_1 \leq \lambda_2 \leq \lambda_3$ とする.
- (2) 前問で得た固有値 $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ に対応する固有ベクトルをそれぞれ l_1, l_2, l_3 とする. l_1, l_2, l_3 を求めよ. ただし、固有ベクトルの長さが 1 となるように選ぶものとする.
- (3) A を対角化する行列 L とその逆行列 L^{-1} を求めよ.

(筑波大 2010) (m20101309)

0.222 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & -1 \\ -1 & 2 \end{pmatrix}$ について以下の問いに答えよ.

- (1) 行列 A の固有値、固有空間を求めよ. (2) A^n を求めよ. ただし、 n は正の整数とする.

(筑波大 2011) (m20111317)

0.223 4次正方行列 $A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 0 \end{pmatrix}$ について. 以下の問いに答えよ.

- (1) A の行列式を計算せよ. (2) A の固有値と固有ベクトルを求めよ.
- (3) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような 4 次正則行列 P を求めよ.

(筑波大 2011) (m20111320)

0.224 2次曲線 $13x^2 - 6\sqrt{3}xy + 7y^2 - 4x - 4\sqrt{3}y - 12 = 0$ を ${}^t\mathbf{x}A\mathbf{x} + 2{}^t\mathbf{b}\mathbf{x} - 12 = 0$ と表すことにする.

ここで、 $A = \begin{pmatrix} 13 & -3\sqrt{3} \\ -3\sqrt{3} & 7 \end{pmatrix}$, ${}^t\mathbf{b} = (-2 \quad -2\sqrt{3})$, $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$, ${}^t\mathbf{x} = (x \quad y)$

である. この 2 次曲線について以下の問いに答えよ.

- (1) A の固有値 a_1, a_2 ($a_1 < a_2$) とその各々に対応した正規化された固有ベクトル $\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2$ を求めよ.
- (2) \mathbf{p}_1 と \mathbf{p}_2 を並べて作った 2 次の正方行列を $P = (\mathbf{p}_1 \ \mathbf{p}_2)$ とする.
 ${}^t P P = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$ を示せ.
- (3) 前問で作った P を使って座標変換 $\mathbf{x} = P\mathbf{x}'$, $\mathbf{x}' = \begin{pmatrix} x' \\ y' \end{pmatrix}$ を行くと, この 2 次曲線は
 ${}^t \mathbf{x}' {}^t P A P \mathbf{x}' + 2 {}^t \mathbf{b} P \mathbf{x}' - 12 = 0$ と書ける. この式を x', y' を使って表せ.
- (4) さらに, 座標の平行移動 $\mathbf{x}' = \mathbf{X} + \mathbf{c}$ を行って, この 2 次曲線を標準形で表せ.
 ここで, $\mathbf{X} = \begin{pmatrix} X \\ Y \end{pmatrix}$, $\mathbf{c} = \begin{pmatrix} c_1 \\ c_2 \end{pmatrix}$ である. c_1, c_2 の値も答えよ.
- (5) XY 平面上にこの 2 次曲線の概形を描け. さらに, その図中に $x'y'$ 座標軸および xy 座標軸も描き加えよ.

(筑波大 2012) (m20121312)

0.225 A を正方行列, $\lambda_1, \lambda_2, \dots, \lambda_n$ ($n \geq 2$) を A の固有値, $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2, \dots, \mathbf{x}_n$ を各固有値に対する固有ベクトルとすると, 以下の問いに答えよ.

- (1) 一般に, k 個のベクトル $\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_k$ が線形独立で, $k+1$ 個のベクトル $\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_k, \mathbf{a}_{k+1}$ が線形従属ならば, \mathbf{a}_{k+1} は $\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_k$ の線形結合であることを示せ.
- (2) $\lambda_1 \neq \lambda_2$ ならば, $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2$ は線形独立であることを示せ.
- (3) $\lambda_1, \lambda_2, \dots, \lambda_n$ がすべて異なるとき, $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2, \dots, \mathbf{x}_n$ は線形独立であることを, 数学的帰納法によって証明せよ.

(筑波大 2013) (m20131307)

0.226 数列 $\{x_n\}, \{y_n\}, \{z_n\}$ は次の漸化式を満たす.

$$\begin{cases} x_{n+1} = 2x_n + 3y_n \\ y_{n+1} = 2x_n - 3y_n - 2z_n \\ z_{n+1} = 3x_n + 3y_n - z_n \end{cases} \quad (n = 0, 1, 2, 3, \dots)$$

以下の問いに答えよ.

- (1) 行列 A を用いて漸化式を $\begin{pmatrix} x_{n+1} \\ y_{n+1} \\ z_{n+1} \end{pmatrix} = A \begin{pmatrix} x_n \\ y_n \\ z_n \end{pmatrix}$ と表したとき, A の固有値と固有ベクトルを求めよ.
- (2) $x_0 = -5, y_0 = 10, z_0 = 5$ のとき, x_n, y_n, z_n を求めよ.

(筑波大 2013) (m20131311)

0.227 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & -1 & 0 \\ -1 & 2 & -1 \\ 0 & -1 & 1 \end{pmatrix}$ について以下の問いに答えよ.

- (1) A の固有値 $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ を求めよ. ただし, $\lambda_1 \leq \lambda_2 \leq \lambda_3$ とする.
- (2) A の固有値 $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ に属する固有ベクトルをそれぞれ $\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2, \mathbf{p}_3$ とするとき, $\{\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2, \mathbf{p}_3\}$ は \mathbf{R}^3 の正規直交基底となるように選ぶことができる. そのように選んだ $\{\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2, \mathbf{p}_3\}$ を 1 組求めよ.

- (3) (2) で求めた $\{\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2, \mathbf{p}_3\}$ を使って行列 P を $P = (\mathbf{p}_1 \ \mathbf{p}_2 \ \mathbf{p}_3)$ とおくと、その逆行列 P^{-1} は P の転置行列 tP で与えられる。これは P がどのような行列であることによる性質か。また、 P^{-1} および $P^{-1}AP$ はどうなるかを書け。

- (4) 連立線形微分方程式 $\frac{d^2}{dt^2}\mathbf{r}(t) = -A\mathbf{r}(t)$ を考える。ここで、 $\mathbf{r}(t) = \begin{pmatrix} x(t) \\ y(t) \\ z(t) \end{pmatrix}$ である。

$$\begin{pmatrix} q_1(t) \\ q_2(t) \\ q_3(t) \end{pmatrix} = P^{-1} \begin{pmatrix} x(t) \\ y(t) \\ z(t) \end{pmatrix} \text{とおくとき, } q_1(t), q_2(t), q_3(t) \text{ が満たす微分方程式をそれぞれ求}$$

めよ。さらに、その一般解を求めよ。

- (5) 初期条件が $\begin{pmatrix} x(0) \\ y(0) \\ z(0) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 3 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix}$, $\begin{pmatrix} \dot{x}(0) \\ \dot{y}(0) \\ \dot{z}(0) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ と与えられたとき、 $x(t), y(t), z(t)$

を求めよ。ここで、 $\dot{x}(t) = \frac{dx(t)}{dt}$, $\dot{y}(t) = \frac{dy(t)}{dt}$, $\dot{z}(t) = \frac{dz(t)}{dt}$ である。

(筑波大 2014) (m20141311)

0.228 $A = aE_m + bl_m {}^t l_m$ とおく。ただし、 $a, b > 0$, E_m は m 次単位行列、

$$l_m = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ \vdots \\ 1 \end{pmatrix} \quad (m \text{ 次列ベクトル})$$

とし、 ${}^t l_m$ は l_m の転置とする。

- (1) A^2 の固有値をすべて求めよ。
 (2) A^2 の逆行列を求めよ。

(筑波大 2015) (m20151301)

0.229 正方行列 A に対して \mathbf{x} をその固有ベクトル、 λ を対応する固有値とする。次の命題を証明しなさい。

- (1) 各 $k = 1, 2, \dots$ について、 $A^k \mathbf{x} \neq 0$ のとき $A^k \mathbf{x}$ は A の固有ベクトルである。
 (2) 行列 A が正則なら $\frac{1}{\lambda}$ は A の逆行列の固有値である。

(筑波大 2015) (m20151313)

0.230 $A = \begin{bmatrix} 4 & 1 & -1 \\ 2 & 5 & -2 \\ 1 & 1 & 2 \end{bmatrix}$ とする。このとき、以下の問に答えよ。

- (1) A の固有値をすべて求めよ。
 (2) A の独立な固有ベクトルをすべて求めよ。
 (3) A は対角化可能かどうかを示せ。もし A が対角化可能ならば、 $P^{-1}AP$ が対角行列になるような P を求めよ。

(筑波大 2016) (m20161310)

0.231 行列 $A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 0 \end{pmatrix}$ について、以下の問いに答えよ。

- (1) A の固有値 $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ を求めよ. ただし, $\lambda_1 \leq \lambda_2 \leq \lambda_3$ とする.
- (2) A の正規化した固有ベクトル $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \mathbf{u}_3$ を求めよ. ただし, $A\mathbf{u}_j = \lambda_j\mathbf{u}_j$ ($j = 1, 2, 3$) とする.
- (3) A を $P^{-1}AP = D$ (ただし, P は直交行列, D は対角行列) として対角化したとき, P, P^{-1} および D を求めよ.
- (4) (3) で求めた P に対して, $P^{-1}(A + aE)^n P$ を求めよ. ただし, E は 3 次の単位行列, a は実定数, n は正の整数とする.

以下では $AB = BA$ となる 3 次の正方行列 B について考える.

- (5) (2) で求めた \mathbf{u}_j ($j = 1, 2, 3$) は B の固有ベクトルになることを示せ.
- (6) (3) で求めた P に対して, $P^{-1}BP$ が対角行列になることを示せ.

(筑波大 2016) (m20161316)

0.232 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 & 0 \\ 1 & 1 & -1 \\ 0 & -1 & 2 \end{pmatrix}$ について, 以下の問いに答えよ.

- (1) A の固有値 $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ を求めよ. ただし, $\lambda_1 \leq \lambda_2 \leq \lambda_3$ とする.
- (2) A の固有値 $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ に属する固有ベクトルをそれぞれ $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3$ とするとき, $\{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3\}$ は \mathbf{R}^3 の正規直交基底となるように選ぶことができる. そのように選んだ $\{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3\}$ を 1 組求めよ.

(3) A を $R^{-1}AR = \begin{pmatrix} \lambda_1 & 0 & 0 \\ 0 & \lambda_2 & 0 \\ 0 & 0 & \lambda_3 \end{pmatrix}$ の形に対角化する直交行列 R , および, その逆行列 R^{-1} を答えよ.

(4) x, y, z をそれぞれ任意の実数とし, ベクトル \mathbf{u} を $\mathbf{u} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$ で定義する.

また, $\mathbf{u}^T = (x \ y \ z)$ とする. このとき, x, y, z を変数とする関数 $f(x, y, z) = \mathbf{u}^T A \mathbf{u}$ について考える.

(a) (3) で求めた R を用いて新たな変数 X, Y, Z を $\begin{pmatrix} X \\ Y \\ Z \end{pmatrix} = R^{-1}\mathbf{u}$ で定義し,

$f(x, y, z)$ を X, Y, Z の関数 $f(x, y, z) = F(X, Y, Z)$ と表す. このとき, 関数 $F(X, Y, Z)$ を X, Y, Z の式で表せ.

(b) 任意の x, y, z に対して, $f(x, y, z) \geq 0$ であることを示せ. また, $f(x, y, z) = 0$ を満たす x, y, z を求めよ.

(筑波大 2017) (m20171303)

0.233 3次元実数ベクトル空間 V_α に $x_1x_2x_3$ 直交座標軸を固定し. 2次曲面

$$x_1^2 + x_2^2 + x_3^2 - 2x_1x_2 + 2x_1x_3 - 2x_2x_3 + 4x_1 + 2x_2 - 2x_3 = 0 \quad \dots\dots ①$$

を考える. 以下の設問に答えよ.

(1) 式 ① を以下の 2 次曲面の標準形の式

$${}^t\mathbf{x}A\mathbf{x} + 2{}^t\mathbf{b}\mathbf{x} + c = 0 \quad \dots\dots ②$$

で表すとき, A, \mathbf{b}, c を求めよ. ただし, A は実対称行列, ${}^t\mathbf{x}$ は \mathbf{x} の転置ベクトル, tA は A の転置行列を示し, $\mathbf{x} = (x_1, x_2, x_3)$ とする.

- (2) 上記 (1) の A は適当な直交行列 P を用いて対角行列 $T = {}^tPAP$ にすることができる. T と P を求めよ, 導出過程も示せ. ただし, 対角行列 T の対角成分 t_{ii} ($t = 1, 2, 3$) は $t_{11} \geq t_{22} \geq t_{33}$ とし, 直交行列 P の第 2 列は ${}^t(1, 2, 1)$ に平行にとること.
- (3) 3 次元実数ベクトル空間 V_β において $y_1 y_2 y_3$ 直交座標軸を固定する. いま, V_α の元 \mathbf{x} と V_β の元 $\mathbf{y} = {}^t(y_1, y_2, y_3)$ との間で

$$\mathbf{x} = P\mathbf{y} \quad \dots\dots ③$$

が成立するものとする. ここで P は (2) で得られた直交行列である. 式 ② の 2 次曲面を, T, b, \mathbf{y} を用いた式で表せ.

- (4) 上記 (3) で得られた式を, y_1, y_2, y_3 を用いて書き直せ.
- (5) 上記 (4) で表される 2 次曲面を y_1 軸周りに回転させたところ. 平面 $y_3 = 0$ について対称となった. 回転後の 2 次曲面を表す式を求めよ. 導出過程も示すこと. また, この 2 次曲面の概形を $y_1 y_2 y_3$ 座標系で描け.

(筑波大 2017) (m20171305)

0.234 $\mathbf{x} = {}^t(x_1, x_2, \dots, x_m)$ を正の成分をもつ実ベクトルとし,

$$A_x = D_x - \frac{\mathbf{x} {}^t\mathbf{x}}{\sum_{i=1}^m x_i}$$

とおく. ただし, D_x は $D_x = \text{diag}(x_1, \dots, x_m)$ なる対角行列, ${}^t\mathbf{x}$ は \mathbf{x} の転置とする.

- (1) 0 が A_x の固有値になることを示し, 対応する固有ベクトルを求めよ.
- (2) 任意の実ベクトル $\mathbf{y} = {}^t(y_1, y_2, \dots, y_m)$ に対して, ${}^t\mathbf{y} A_x \mathbf{y} \geq 0$ を示せ.

(筑波大 2017) (m20171315)

0.235 次の漸化式について考える.

$$\begin{cases} a_{n+1} = 7a_n - 6b_n \\ b_{n+1} = 3a_n - 2b_n \end{cases} \quad a_1 = 1, b_1 = 0$$

以下の問いに答えよ.

- (1) $\begin{pmatrix} a_{n+1} \\ b_{n+1} \end{pmatrix} = A \begin{pmatrix} a_n \\ b_n \end{pmatrix}$ を満たす行列 A を求めよ.
- (2) A の固有値と固有ベクトルを求めよ.
- (3) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような行列 P , およびその逆行列 P^{-1} を求めよ.
- (4) a_n, b_n の一般項を求めよ.

(筑波大 2018) (m20181302)

0.236 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & -1 & -1 \\ 1 & 1 & -1 \\ -1 & -1 & 1 \end{pmatrix}$ の多項式 $f(A) = A^5 - A^4 + A^3 - A^2 + A - E$ について, 以下の問いに答えなさい. ただし, E は単位行列である.

- (1) A の固有値 $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ および固有ベクトルを求めよ. ただし, $\lambda_1 \leq \lambda_2 \leq \lambda_3$ となるようにとること.
- (2) A を $A = P \begin{pmatrix} \lambda_1 & 0 & 0 \\ 0 & \lambda_2 & 0 \\ 0 & 0 & \lambda_3 \end{pmatrix} P^{-1}$ と対角化する行列 P , およびその逆行列 P^{-1} を求めよ.

- (3) $f(A)$ を求めよ.
 (4) $|f(A)|$ を求めよ.

(筑波大 2018) (m20181303)

0.237 $S = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \end{bmatrix}$ とする. このとき, 以下の問に答えよ.

- (1) S の固有値をすべて求めよ.
 (2) S の固有値に対応する固有ベクトルをすべて求めよ.
 (3) S の固有値に対応する固有ベクトルを並べて得られる直交行列 P を一つ示せ.
 (4) (3) の直交行列 P に対して, $P^T S P$ を求めよ. ただし, P^T は P の転置行列である.

(筑波大 2018) (m20181309)

0.238 二つのメーカー X および Y からなる市場において, 各メーカーのユーザー数を調査したい. 毎年メーカー X のユーザーのうち $\frac{1}{10}$ がメーカー Y のユーザーとなり, 一方で, メーカー Y のユーザーのうち $\frac{1}{5}$ がメーカー X のユーザーとなる, それ以外は同じメーカーのユーザーのままであるものとし, ユーザーの総数は変化しない. このとき以下の問いに答えなさい.

- (1) ある年におけるメーカー X, Y のユーザー数をそれぞれ x_n, y_n で表す. このとき翌年におけるそれぞれのメーカーのユーザー数 x_{n+1}, y_{n+1} を二次正方行列 A を使って以下の形で表す. 行列 A を具体的に示しなさい.

$$\begin{pmatrix} x_{n+1} \\ y_{n+1} \end{pmatrix} = A \begin{pmatrix} x_n \\ y_n \end{pmatrix}$$

- (2) A の固有値および固有ベクトルを求めなさい.
 (3) $P^{-1} A P$ が対角行列となるような行列 P を一つ求めるとともに, P の逆行列 P^{-1} を求めなさい.
 (4) 行列 A^n を求めなさい.
 (5) (4) の結果を使って, $n \rightarrow \infty$ としたときのメーカー X および Y のユーザー数の比率を求めなさい.

(筑波大 2018) (m20181316)

0.239 0 と異なる実数 a, b, c に対して, $\mathbf{u} = (a, b, c)$ とし, $A = {}^t \mathbf{u} \mathbf{u}$ とおく. ただし, ${}^t \mathbf{u}$ は \mathbf{u} の転置とする.

- (1) A の階数を求めよ.
 (2) A の固有値と対応する固有ベクトルを求めよ.
 (3) A が対角化可能であるかどうかを判定し, 対角化可能であれば $P^{-1} A P$ が対角行列になるような正則行列 P を求めよ.

(筑波大 2018) (m20181317)

0.240 行列

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

について, 以下の問いに答えよ.

- (1) A のすべての固有値と、それぞれの固有値に対応する固有ベクトルを求めよ。なお、固有ベクトルはその第1成分を1とせよ。
- (2) $P^{-1}AP = D$ が対角行列になるように、3次正則行列 P とその逆行列 P^{-1} の組を求めよ。なお、 D の対角要素は大きい順に並べ、 P の第1行の要素はすべて1とせよ。
- (3) 自然数 n に対して、ベクトル

$$\begin{pmatrix} a_n \\ b_n \\ c_n \end{pmatrix} = (A + 2E)^n \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$$

の各成分を n の関数として求めよ。ここで E は単位行列である。

- (4) 3次元空間の位置ベクトルを $\mathbf{r} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$, その転置ベクトルを ${}^t\mathbf{r} = (x, y, z)$ とするとき、 ${}^t\mathbf{r}(A + E)\mathbf{r} = 1$ で表される曲面 M は、直交変換 $(x, y, z) \rightarrow (X, Y, Z)$ によって標準形

$$\alpha X^2 + \beta Y^2 + \gamma Z^2 = 1$$

にすることができる。 $\alpha > \beta > \gamma$ となるように定数 α, β, γ を定めよ。

- (5) (4) における曲面 M に対して

$$\mathbf{r} \rightarrow R\mathbf{r}$$

で表される回転を施したら、 xy 平面、 yz 平面、 zx 平面いずれに関しても対称な図形となった。このような回転を表す行列 R をひとつ求めよ。

(筑波大 2019) (m20191307)

0.241 次の行列 A について、以下の問に答えよ。

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 4 & 4 \\ 4 & 1 & 4 \\ 4 & 4 & 1 \end{bmatrix}$$

- (1) A の固有値を全て求めよ。
- (2) (1) で求めた全ての固有値に対して固有ベクトルを求めよ。
- (3) A は対角化可能か述べよ。また、対角化可能ならば、 $P^{-1}AP$ が対角行列となるような行列 P を求めよ。

(筑波大 2019) (m20191309)

0.242 行列 $A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 1 & -1 & 1 \\ 0 & 1 & 0 \end{pmatrix}$ について、以下の問いに答えよ。

- (1) 行列 A の固有値 $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ を求めよ。ただし、 $\lambda_1 \geq \lambda_2 \geq \lambda_3$ とする。
- (2) 行列 A の正規化した固有ベクトル $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \mathbf{u}_3$ を求めよ。ただし、 $A\mathbf{u}_j = \lambda_j\mathbf{u}_j$ ($j = 1, 2, 3$) とする。
- (3) 行列 A を $P^{-1}AP = D$ として、対角成分が $D_{11} \geq D_{22} \geq D_{33}$ となるように対角化したとき、 P, P^{-1} および D を求めよ。ただし、 P は直交行列、 D は対角行列、 D_{ij} は D の第 i 行 j 列の成分とする。

- (4) ベクトル $\mathbf{x}(t)$ が、 $\frac{d}{dt}\mathbf{x}(t) = A\mathbf{x}(t)$, $\mathbf{x}(0) = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ を満たすとき、 $\mathbf{x}(t)$ を求めよ。

- (5) ベクトル $\mathbf{y}(t)$ が, $\frac{d^2}{dt^2}\mathbf{y}(t) = -e^A\mathbf{y}(t)$, $\mathbf{y}(0) = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$, $\dot{\mathbf{y}}(0) = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ を満たすとき, $\mathbf{y}(t)$ を求めよ. ただし, $\dot{\mathbf{y}}(t) = \frac{d}{dt}\mathbf{y}(t)$ とする.

(筑波大 2020) (m20201302)

- 0.243** ある企業で従業員の喫煙状況を調査したところ, 毎年, 非喫煙者(喫煙経験がない者)の $\frac{1}{9}$ が喫煙を始め, 喫煙者のうち $\frac{1}{3}$ が禁煙する. また, 禁煙者(かつて喫煙していて, かつ喫煙を止めた者)のうち $\frac{1}{6}$ は, 再び喫煙を始めることが分かった. ただし, ある年の非喫煙者, 喫煙者, 禁煙者の人数をそれぞれ x_0, y_0, z_0 , その n 年後の非喫煙者, 喫煙者, 禁煙者の人数をそれぞれ x_n, y_n, z_n とし, 対象期間中に従業員は変わらないものとする.

- (1) 1年後の非喫煙者, 喫煙者, 禁煙者の人数 x_1, y_1, z_1 を x_0, y_0, z_0 で表せ.
 (2) ある年の非喫煙者, 喫煙者, 禁煙者の人数とその n 年後の非喫煙者, 喫煙者, 禁煙者の人数をそれぞれ

$$\mathbf{x}_0 = \begin{bmatrix} x_0 \\ y_0 \\ z_0 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{x}_n = \begin{bmatrix} x_n \\ y_n \\ z_n \end{bmatrix}$$

と書く. 1年後の非喫煙者, 喫煙者, 禁煙者の人数を表す式を

$$\mathbf{x}_1 = A\mathbf{x}_0$$

としたとき, 行列 A を求めよ.

- (3) 行列 A の固有値と対応する固有ベクトルを全て求めよ.
 (4) \mathbf{x}_n を A と \mathbf{x}_{n-1} で表せ.
 (5) n 年後非喫煙者, 喫煙者, 禁煙者の人数を表す式を

$$\mathbf{x}_n = B\mathbf{x}_0$$

とする. このとき, 行列 B を A を用いて表せ. さらに, 行列 B を求めよ.

- (6) ある年の非喫煙者, 喫煙者, 禁煙者の人数はそれぞれ 1458 人, 456 人, 408 人だった. その 3 年後の禁煙者の人数を求めよ.

(筑波大 2020) (m20201303)

- 0.244** 行列 $B = \begin{pmatrix} 3 & 0 & d \\ 0 & 1 & 0 \\ 1 & 2 & 1 \end{pmatrix}$ について, 以下の問いに答えなさい.

- (1) B の固有多項式を求めなさい.
 (2) B が多角化可能となるような d の値を全て求めなさい.

(筑波大 2020) (m20201312)

- 0.245** 4次正方行列 A を

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 1 & 1 & 0 \\ 1 & 2 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 2 & 1 \\ 0 & 0 & 1 & 2 \end{pmatrix}$$

で定める. 以下の問いに答えよ.

- (1) A の固有値を求めよ.
 (2) A が対角化可能であるかどうかを判定し、その理由を述べよ.

(筑波大 2020) (m20201313)

0.246 未知数 a, b を含む次の行列 A に関して設問 (1)-(3) に答えなさい.

$$A = \begin{pmatrix} a & 1 \\ 1 & b \end{pmatrix}$$

- (1) 行列 A による一次変換で直線 $2x + 3y = 1$ が直線 $x + 4y = 3$ に写るとき、 a, b の値を求めなさい.
 (2) (1) の条件を満たす行列 A のすべての固有値と、各固有値に対応する長さが 1 の固有ベクトルを 1 つ求めなさい.
 (3) (1) の条件を満たす行列 A による一次変換で円 $x^2 + y^2 = 1$ を写した図形の方程式を求めなさい.

(筑波大 2021) (m20211308)

0.247 3 次行列

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 0 & 4 & 5 \\ 0 & 0 & 6 \end{pmatrix}$$

を考える. なお、以下で I は 3 次の単位行列とする.

- (1) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ. なお、各固有ベクトルは、その成分が簡単な整数となるようにすること.
 (2) $P^{-1}AP$ が対角行列になるように、正則行列 P とその逆行列 P^{-1} を定めよ. なお、 P はその要素が簡単な整数となるようにすること.
 (3) 行列 A^3 を

$$A^3 = xA^2 + yA + zI$$

のように A^2, A, I の線形結合で表したときの線形結合係数 x, y, z を定めよ.

(設問 (2) で求めた行列 P, P^{-1} を用いると $P^{-1}A^3P$ や $P^{-1}A^2P$ も対角行列となること、および、 A の固有値はどれも A の固有方程式を満たすことを利用するとよい.)

- (4) 係数 α, β, γ を任意に選んで

$$C = \alpha A^2 + \beta A + \gamma I$$

で与えられる 3 次行列 C を考えるとき、 $C' = AC$ で定義される行列 C' も、ある係数 α', β', γ' を用いて

$$C' = \alpha' A^2 + \beta' A + \gamma' I$$

と表され、それらの係数の間には必ず

$$\begin{pmatrix} \alpha' \\ \beta' \\ \gamma' \end{pmatrix} = M \begin{pmatrix} \alpha \\ \beta \\ \gamma \end{pmatrix}$$

の関係がある. 3 次行列 M を定め、その固有値を求めよ.

(筑波大 2021) (m20211318)

0.248 xy 平面上における 2 次曲線 C

$$4x^2 - 2\sqrt{3}xy + 6y^2 = 21,$$

について考える. 以下の問いに答えよ.

- (1) $4x^2 - 2\sqrt{3}xy + 6y^2 = \begin{pmatrix} x & y \end{pmatrix} A \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ を満たす対称行列 A を求めよ.
- (2) A の固有値 λ_1, λ_2 を求めよ. ただし, $\lambda_1 \leq \lambda_2$ とする.
- (3) (2) で求めた各固有値について, 正規化された固有ベクトルを求めよ.
- (4) A を $P^{-1}AP = \begin{pmatrix} \lambda_1 & 0 \\ 0 & \lambda_2 \end{pmatrix}$ の形に対角化する直交行列 P , およびその逆行列 P^{-1} を求めよ.
- (5) 座標変換 $\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = P \begin{pmatrix} x' \\ y' \end{pmatrix}$ 行うとき, 2次曲線 C を, x', y' を用いて表せ.
- (6) x' 軸および y' 軸を, それぞれ x, y を用いた直線の式で表せ.
- (7) 2次曲線 C の概形を xy 平面上に描け. ただし, 図中には x' 軸と y' 軸を明記すること.

(筑波大 2022) (m20221304)

0.249 次の3次正方行列を考える.

$$A = \begin{bmatrix} 3 & 1 & 1 \\ 1 & 3 & 1 \\ 1 & 1 & 3 \end{bmatrix}$$

- (1) 行列 A の固有値をすべて求めよ.
- (2) 行列 A のそれぞれの固有値に対応する, 固有空間を張る (固有) ベクトルを求めよ.
- (3) (2) で求めた固有ベクトルを用いて, 3次元実数空間の正規直交基底を求めよ.
- (4) (3) で求めた正規直交基底を並べた行列 P を用いて, 行列 A を対角化せよ.

(筑波大 2022) (m20221305)

0.250 (1) n 次正方行列 A について, A の固有値, 固有ベクトルの定義を述べよ.

(2) B は3行3列の行列で, 次の (a)(b)(c) を満たしている.

(a) B の固有値は1と2である.

(b) B の1に対する固有ベクトルとして $\begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ -2 \end{pmatrix}$ がとれる.

(c) B の2に対する固有ベクトルとして $\begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix}$, $\begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ -3 \end{pmatrix}$ がとれる.

上の条件 (a)(b)(c) を満たす行列 B を求めよ.

(埼玉大 1998) (m19981402)

0.251 行列 $A = \begin{pmatrix} -1 & -1 & -1 \\ 4 & -3 & -4 \\ -4 & 1 & 2 \end{pmatrix}$ について, 以下の問いに答えよ.

- (1) 行列 A の逆行列を求めなさい.
- (2) 次の連立1次方程式の解 x, y, z を (1) の結果を用いて求めなさい.

$$\begin{cases} -x - y - z = 3 \\ 4x - 3y - 4z = 2 \\ -4x + y + 2z = 2 \end{cases}$$

- (3) 行列 A の固有値, 固有ベクトルを求めなさい.

(埼玉大 2003) (m20031409)

0.252 行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & -2 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$ について、次の問いに答えよ。

- (1) A の固有値 λ_1, λ_2 を求めよ。
- (2) (1) で求めた固有値に対する固有ベクトルを求めよ。
- (3) $P = \begin{pmatrix} a & b \\ 1 & 1 \end{pmatrix}$, $B = \begin{pmatrix} \lambda_1 & 0 \\ 0 & \lambda_2 \end{pmatrix}$ としたとき、 $AP = PB$ となる a, b を定めよ。
- (4) (3) の関係を用いて A^n を求めよ。ただし、 n は自然数とする。

(埼玉大 2004) (m20041408)

0.253 (1) 次の行列 A の固有値および固有ベクトルを求めよ。

$$A = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ -\sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}$$

- (2) 行列 A を $P^{-1}AP$ により対角化せよ。解答では、まず、行列 P を求めてから A を対角化せよ。

(埼玉大 2005) (m20051402)

0.254 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & -1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 2 & 2 & 3 \end{pmatrix}$ について、次の問いに答えよ。

- (1) 行列 A の固有値と階数を求めよ。
- (2) 行列 A を対角化して得られる行列を書け (結果だけでよい)。
- (3) 行列 A^3 のトレースを求めよ。

(埼玉大 2005) (m20051405)

0.255 関数 $f = x_1^2 + x_2^2 + 2x_1x_3 + 2x_2x_3$ に関連した以下の問いに答えよ。ただし、 M^T は、行列 M の転置を表すものとする。

- (1) f は、列行列 $\mathbf{x} = (x_1, x_2, x_3)^T$ 及び、対称行列 A を用いて、 $f = \mathbf{x}^T A \mathbf{x}$ と表す事が出来る。対称行列 A を求めよ。
- (2) 対称行列 A の固有値、および固有ベクトル $\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2, \mathbf{p}_3$ を求めよ。ただし、固有ベクトル (列ベクトル) は、大きさが 1 となるように規格化せよ。
- (3) $(x_1, x_2, x_3)^T = y_1\mathbf{p}_1 + y_2\mathbf{p}_2 + y_3\mathbf{p}_3 = (\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2, \mathbf{p}_3)(y_1, y_2, y_3)^T$ の関係を用いて、関数 f を変数 y_1, y_2, y_3 で表せ。ただし、 $(\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2, \mathbf{p}_3)$ は 3×3 の正方行列の各列が、 $\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2$ および \mathbf{p}_3 で表される行列であることを表す。

(埼玉大 2006) (m20061404)

0.256 $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ とする。

- (1) A の固有値と固有ベクトルを求め、 A を対角化せよ。
- (2) 自然数 n に対して、 A^n を求めよ。

(埼玉大 2006) (m20061407)

0.257 $A = \begin{pmatrix} 2 & -1 & 4 \\ 0 & 1 & 4 \\ -3 & 3 & -1 \end{pmatrix}$ とする。

- (1) A の固有値と固有ベクトルを求めよ。
 (2) $P^{-1}AP$ が対角行列になるような正則行列 P を 1 つ求めよ。

(埼玉大 2007) (m20071409)

0.258 ベクトルの列 $\begin{pmatrix} x_1 \\ y_1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} x_2 \\ y_2 \end{pmatrix}, \dots, \begin{pmatrix} x_n \\ y_n \end{pmatrix}, \dots$ を次のように定める。

(1) $\begin{pmatrix} x_1 \\ y_1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}$

(2) n が奇数のとき $\begin{pmatrix} x_{n+1} \\ y_{n+1} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} y_n \\ x_n \end{pmatrix}$

(3) n が偶数のとき $\begin{pmatrix} x_{n+1} \\ y_{n+1} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -x_n + y_n \\ x_n + y_n \end{pmatrix}$

自然数 k に対して, $\begin{pmatrix} x_{2k+1} \\ y_{2k+1} \end{pmatrix}$ を求めよ。

(埼玉大 2008) (m20081405)

0.259 (1) \mathbf{R}^2 における一次変換 f は, 点 $(1, 2)$ を点 $(0, 3)$ に, 点 $(2, 0)$ を点 $(4, 2)$ に移す。このとき, 以下の問いに答えなさい。

- (a) 一次変換 f を表す行列を求めなさい。
 (b) 一次変換 f によって, $y = x - 1$ は, どのような図形に移されるか。
 (2) 次の 2 つのベクトルについて考える。

$$\mathbf{a} = \begin{pmatrix} -2 \\ 2 \\ -1 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{b} = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 5 \end{pmatrix}$$

- (a) \mathbf{a} と \mathbf{b} は, 一次従属か一次独立か調べなさい。
 (b) \mathbf{a} と \mathbf{b} のなす角 θ とするとき, $\cos \theta$ を求めなさい。
 (3) 次の行列 \mathbf{A} について考える。

$$\mathbf{A} = \begin{pmatrix} -2 & 3 & 2 \\ -6 & 7 & 2 \\ 3 & -3 & 3 \end{pmatrix}$$

- (a) 固有値をすべて求めなさい。
 (b) 固有ベクトルをすべて求めなさい。

(埼玉大 2009) (m20091402)

0.260 (1) $A = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}$ とする。ただし, θ は $0 < \theta < 2\pi$, $\theta \neq \pi$ を満たす実数とする。

次の条件 (a),(b),(c) をすべて満たすような $\alpha_1, \alpha_2, \mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2$ の組を 1 つ求めよ。

- (a) α_1, α_2 は相異なる複素数である。
 (b) $\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2$ は複素数を成分とする 2 次元ベクトルで, どちらも零ベクトルではなく, さらに $\frac{1}{2}(\mathbf{p}_1 + \mathbf{p}_2)$ と $\frac{i}{2}(\mathbf{p}_1 - \mathbf{p}_2)$ はともに実数を成分とするベクトルになる。
 (c) $A\mathbf{p}_1 = \alpha_1\mathbf{p}_1$ かつ $A\mathbf{p}_2 = \alpha_2\mathbf{p}_2$ を満たす。
 (2) B を 2 次の実正方行列とし, B のどの固有値も実数でないと仮定する。

- (i) 次の (d),(e),(f) をすべて満たすような $\beta_1, \beta_2, \mathbf{q}_1, \mathbf{q}_2$ の組が存在することを示せ.
- (d) 正の実数 r と, $0 < \theta < 2\pi, \theta \neq \pi$ を満たす実数 θ を用いて, $\beta_1 = r(\cos \theta + i \sin \theta), \beta_2 = r(\cos \theta - i \sin \theta)$ と表される.
- (e) $\mathbf{q}_1, \mathbf{q}_2$ は複素数を成分とする 2次元ベクトルで, どちらも零ベクトルでなく, さらに $\frac{1}{2}(\mathbf{q}_1 + \mathbf{q}_2)$ と $\frac{i}{2}(\mathbf{q}_1 - \mathbf{q}_2)$ はともに実数を成分とするベクトルになる.
- (f) $B\mathbf{q}_1 = \beta_1\mathbf{q}_1$ かつ $B\mathbf{q}_2 = \beta_2\mathbf{q}_2$ を満たす.
- (ii) 2次の実正則行列 M が存在して,

$$M^{-1}BM = \begin{pmatrix} r \cos \theta & -r \sin \theta \\ r \sin \theta & r \cos \theta \end{pmatrix}$$

となることを示せ.

(埼玉大 2009) (m20091405)

0.261 3次正方行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 1 \\ 6 & -11 & 7 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えよ.

- (1) A の固有値を求めよ.
 (2) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような正則行列 P を求めよ.

(埼玉大 2010) (m20101401)

0.262 (1) つぎの行列式を計算せよ.

$$\begin{vmatrix} 1 & x & x & 0 \\ y & 1 & 0 & y \\ z & 0 & 1 & z \\ 0 & w & w & 1 \end{vmatrix}$$

- (2) つぎの行列の逆行列を求めよ.

$$\begin{pmatrix} 1 & 1 & -2 \\ 2 & 1 & 0 \\ 2 & 1 & -1 \end{pmatrix}$$

- (3) つぎの行列の固有値, 固有ベクトルの組をすべて求めよ.

$$\begin{pmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 2 & 2 & 6 \end{pmatrix}$$

(埼玉大 2010) (m20101407)

0.263 $A = \begin{pmatrix} 0 & -1 & 0 \\ 0 & -1 & 1 \\ 1 & -1 & 0 \end{pmatrix}$ とおく.

- (1) 行列 A の固有値を求めよ.
 (2) 自然数 n に対して, 行列 A^n を計算せよ.

(埼玉大 2011) (m20111407)

0.264 行列 $A = \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ 4 & 1 \end{bmatrix}$ とするとき, 以下の問いに答えよ.

- (1) 固有値 λ_1, λ_2 と, それに対応する固有ベクトル $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2$ を一組求めよ.

(2) 固有ベクトル $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2$ を並べて作った行列を $P = [\mathbf{a}_1 \ \mathbf{a}_2]$ としたとき, $P^{-1}AP$ を求めよ.

(3) A^n を求めよ.

(埼玉大 2012) (m20121404)

0.265 行列 A について以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} a & b & -2 \\ b & a & 2 \\ -1 & -1 & -1 \end{bmatrix}$$

(1) 行列 A の固有値が $-1, 1, 3$ となる a と b の値を求めよ. ただし, $a > b > 0$ とする.

(2) 固有値が $-1, 1, 3$ に対応する固有ベクトル $\mathbf{V}_1, \mathbf{V}_2, \mathbf{V}_3$ を求めよ. ただし, $\mathbf{V}_1, \mathbf{V}_2, \mathbf{V}_3$ は単位ベクトルとする.

(3) 固有ベクトルからなる行列 $P = [\mathbf{V}_1 \ \mathbf{V}_2 \ \mathbf{V}_3]$ の逆行列を求めよ.

(4) 行列 P を用いて行列 A を対角化せよ.

(埼玉大 2013) (m20131405)

0.266 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 2 \\ 0 & 1 & 2 \\ 2 & 2 & -1 \end{pmatrix}$ に対し, 次の問いに答えよ.

(1) A の固有値を求めよ.

(2) $P^{-1}AP$ が対角行列となる直交行列 P を 1 つ求めよ.

(3) A^n ($n = 1, 2, 3, \dots$) を求めよ.

(埼玉大 2013) (m20131408)

0.267 (1) 3次正方行列

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 3 & -5 \\ 1 & 3 & -4 \\ 1 & 2 & -3 \end{pmatrix}$$

の固有値をすべて求め, さらに, それぞれの固有値に対する固有ベクトルをすべて求めよ.

(2) 次の主張は正しいか, それとも誤りか, 正しいければ証明し, 誤りならば反例を挙げよ.

(主張) 「2次実正方行列 B が相異なる実数の固有値 α, β を持つならば, ある実正則行列 P が存在し, $P^{-1}BP = \begin{pmatrix} \alpha & 0 \\ 0 & \beta \end{pmatrix}$ となる. 」

(埼玉大 2014) (m20141406)

0.268 行列 A が次式であたえられるものとして以下の間に答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 2 \\ 1 & 1 & 2 \\ 1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

(1) 行列 A の逆行列を求めよ.

(2) 行列 A の固有値を求めよ.

(3) 各固有値に対する固有ベクトル $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3$ を求めよ.

(埼玉大 2015) (m20151405)

0.269 行列 A が次式で与えられるものとして以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} 0.7 & 0.3 & 0 \\ 0 & 0.4 & 0.6 \\ 0.3 & 0.3 & 0.4 \end{bmatrix}$$

- (1) 行列 A の固有値を求めよ.
- (2) 行列 A の固有ベクトルを求めよ.
- (3) 行列 A は対角化可能かどうか判定せよ. 可能であれば, 対角化せよ.

(埼玉大 2017) (m20171405)

0.270 行列 A が次式で与えられるものとして以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} 2 & 0 & 2 \\ 1 & 1 & 2 \\ 1 & -1 & 3 \end{bmatrix}$$

- (1) 行列 A の固有値を求めよ.
- (2) 各固有値に対応する固有ベクトル $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3$ を求めよ.
- (3) (2) で求めた固有ベクトルを列ベクトルとする行列 $V = [\mathbf{v}_1 \ \mathbf{v}_2 \ \mathbf{v}_3]$ の逆行列 V^{-1} を求めよ.
- (4) $\hat{A} = V^{-1}AV$ を求めよ.
- (5) \hat{A}^n を求めよ. ただし, n は任意の自然数 $(1, 2, \dots)$ とする.
- (6) (5) の結果を利用して A^n を求めよ.

(埼玉大 2018) (m20181405)

0.271 2つの数列 x_n, y_n の間に

$$x_n = x_{n-1} + 4y_{n-1}$$

$$y_n = 2x_{n-1} + 3y_{n-1}$$

なる関係がある. ただし, n は自然数とし, $x_0 = -2, y_0 = 2$ とする.

- (1) x_1, y_1 を求めよ.
- (2) $A = \begin{pmatrix} 1 & 4 \\ 2 & 3 \end{pmatrix}$ とするとき, $\begin{pmatrix} x_2 \\ y_2 \end{pmatrix} = A^2 \begin{pmatrix} x_0 \\ y_0 \end{pmatrix}$ となることを示せ.
- (3) x_n, y_n を n を使って表せ.

(埼玉大 2019) (m20191406)

0.272 以下の値を求めよ.

$$(1) \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ 1 & -1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 3 & 5 & 7 \\ 3 & 2 & 1 \end{pmatrix}$$

$$(2) \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 3 & 1 & 0 \\ 0 & -1 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 3 \end{pmatrix} \text{の固有値と, 最小固有値に対する固有ベクトル.}$$

(図書館情報大 2000) (m20001611)

0.273 $A = \begin{pmatrix} 10 & -6 \\ -6 & 10 \end{pmatrix}$ とする.

- (1) A の固有値と, 対応する固有ベクトルを求めよ.
 (2) 実対称行列 X で, 次の2つの条件 (ア), (イ) の両方を満たすものを求めよ.
 (ア) $X^2 = A$ (イ) 固有値がすべて正

(図書館情報大 2002) (m20021610)

0.274 次に与える行列の固有値, および行列式の値を求めよ.

$$\begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 & 0 \\ -1 & -1 & -1 & 0 & -1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

(茨城大 1998) (m19981703)

0.275 $A = \begin{pmatrix} 0 & 0 & i \\ 0 & 0 & 1 \\ -i & 1 & 0 \end{pmatrix}$ とする. 次の各問に答えよ.

- (1) A の固有値を求めよ.
 (2) A を対角化するユニタリ行列を求めよ.
 (3) A^6 を求めよ.

(茨城大 2001) (m20011706)

0.276 行列 $A = \begin{pmatrix} -8 & 6 \\ -9 & 7 \end{pmatrix}$ について

- (1) A の固有値および固有ベクトルを求めよ.
 (2) ベクトル $\begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}$ を A の固有ベクトルの1次結合で表せ.
 (3) 自然数 n に対して, $A^n \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}$ を求めよ.

(茨城大 2002) (m20021706)

0.277 $A = \begin{pmatrix} -1 & 2 & -2 \\ 1 & 0 & -1 \\ 1 & -1 & 0 \end{pmatrix}$, $T = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \end{pmatrix}$ とするとき,

- (1) A の固有値を求めよ.
 (2) T の逆行列 T^{-1} を求めよ.
 (3) $T^{-1}AT$ を求めよ.

(茨城大 2004) (m20041703)

0.278 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & -2 & 0 & 0 \\ 2 & -4 & 0 & 0 \\ 3 & -7 & 3 & -2 \\ 4 & -11 & 9 & -6 \end{pmatrix}$ の固有値をすべて求めよ.

(茨城大 2005) (m20051701)

0.279 3次正方行列 $A = \begin{bmatrix} 1 & 1/2 & 1/2 \\ 1/2 & 2 & 1/2 \\ 1/2 & 1/2 & 1 \end{bmatrix}$ について, 以下の各問に答えよ.

- (1) A の固有値 $\lambda_1 < \lambda_2 < \lambda_3$ および対応する固有ベクトル $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3$ を一組求めよ.
- (2) ベクトル列 \mathbf{u}_n を $\mathbf{u}_n = A^n \begin{bmatrix} \varepsilon \\ -1 + 2\varepsilon \\ 2 + \varepsilon \end{bmatrix}$, ($n = 0, 1, 2, \dots$) で定める. ただし, $\varepsilon = 2^{-100}$ とし, A^0 は単位行列を表す. このとき, \mathbf{u}_n を (1) で求めた $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3$ の一次結合で表せ.
- (3) ベクトル \mathbf{x} に対し, ユークリッドノルムを $\|\mathbf{x}\| = \sqrt{\mathbf{x} \cdot \mathbf{x}}$ とする. (2) で与えた \mathbf{u}_n について, 以下を調べよ.
- (a) $\lim_{n \rightarrow \infty} \|\mathbf{u}_n\|$ (b) $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\|\mathbf{u}_{n+1}\|}{\|\mathbf{u}_n\|}$ (c) $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\mathbf{u}_n}{\|\mathbf{u}_n\|}$
- (d) $\left\| \mathbf{u}_n - \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \\ 1 \end{bmatrix} \right\| \leq 2^{-10}$ なる n の存在の有無.

(茨城大 2007) (m20071707)

0.280 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 2 \\ -2 & -1 & 0 & -2 \\ 2 & 0 & -1 & 2 \\ -1 & 0 & 0 & -2 \end{pmatrix}$ について, 次の各問に答えよ.

- (1) 行列 A の固有値を求めよ.
- (2) 各固有値に対し, 固有空間の 1 組の基底を求めよ.

ここで, 固有値 λ の固有空間とは, λ の固有ベクトル全体と零ベクトルからなるベクトル空間のことである.

(茨城大 2008) (m20081705)

0.281 実数 α, β に対して, 2 次実正方行列 A で

$$A^2 - (\alpha + \beta)A + \alpha\beta I = O$$

(I は 2 次単位行列, O は 2 次零行列) を満たすものを考える. 但し, A は I の定数倍ではないとする. 以下に各問に答えよ.

- (1) $A - \alpha I$ と $A - \beta I$ は, どちらも正則でないことを示せ.
- (2) 実数を成分とする 2 次元列ベクトル $\mathbf{x} \in \mathbb{R}^2$ に対して, $\mathbf{y} = (A - \beta I)\mathbf{x}$ とおく. このとき任意の \mathbf{x} に対して,

$$(A - \alpha I)\mathbf{y} = \mathbf{0}$$

となることを示せ. また, α は A の固有値であることも示せ. さらに, \mathbf{p}_1 を α に対する固有ベクトルとすると,

$$(A - \beta I)\mathbf{p}_2 = \mathbf{p}_1$$

を満たす列ベクトル \mathbf{p}_2 で, $\{\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2\}$ が一次独立となるものが存在することを示せ.

- (3) (2) の $\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2$ を用いて, 2 次正方行列 P を

$$P \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} = \mathbf{p}_1, \quad P \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix} = \mathbf{p}_2$$

であるように定める. $P^{-1}AP$ および $P^{-1}A^n P$ ($n = 2, 3, 4, \dots$) を求めよ.

(茨城大 2010) (m20101706)

0.282 $A = \begin{pmatrix} -2 & 1 & 1 \\ 1 & -2 & 1 \\ 1 & 1 & -2 \end{pmatrix}$, $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix}$ とする. 以下の各問に答えよ.

- (1) 行列 A の固有値 λ をすべて求めよ.
- (2) A を直交行列によって対角化せよ.
- (3) ベクトル \mathbf{x} の長さを 1 とする. ${}^t\mathbf{x}A\mathbf{x}$ の値が最大となる \mathbf{x} を求めよ. ${}^t\mathbf{x}$ は \mathbf{x} の転置を表す.
- (4) n を自然数とするととき, A^n を求めよ.

(茨城大 2012) (m20121701)

0.283 $\mathbf{x}_1 = (1, 1, -1)$, $\mathbf{x}_2 = (2, -1, -1)$, $\mathbf{x}_3 = (-1, 1, 0)$, $\mathbf{y}_1 = (-4, 2, 2)$, $\mathbf{y}_2 = (0, -1, 1)$, $\mathbf{y}_3 = (-1, 1, 0)$ とする. また T を $T(\mathbf{x}_i) = \mathbf{y}_i$ ($i = 1, 2, 3$) を満たす 3 次元実ベクトル空間 \mathbf{R}^3 の線形写像とする. 以下の各問に答えよ.

- (1) $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2, \mathbf{x}_3$ は \mathbf{R}^3 の基底であることを示せ.
- (2) $T(\mathbf{y}_1 + \mathbf{y}_2)$ を求めよ.
- (3) $T(\mathbf{x})$ が零ベクトルとなる $\mathbf{x} \in \mathbf{R}^3$ をすべて求めよ.
- (4) T の固有値及び, 各固有値に対応する固有空間の基底を一組求めよ.

(茨城大 2015) (m20151705)

0.284 実数を成分とする 3 次正方行列 A のうち, $A^3 = O$ かつ $A^2 \neq O$ を満たすものの全体の集合を X とする. ただし O は 3 次零行列とする. 以下の各問に答えよ.

- (1) X の元を 1 つあげよ.
- (2) X の任意の元 A の行列式は 0 であることを示せ.
- (3) X の任意の元 A の固有値はすべて 0 であることを示せ.
- (4) A を X の元とする. \mathbf{a} を $A^2\mathbf{a}$ が零ベクトルでない 3 次実ベクトルとするととき, $\mathbf{a}, A\mathbf{a}, A^2\mathbf{a}$ は一次独立であることを示せ.

(茨城大 2017) (m20171701)

0.285 A は $A^2 = A$ をみたす n 次実正方行列で, 零行列でも単位行列でもないとする. 0 と 1 は A の固有値であり, A の固有値は 0 と 1 に限ることを示せ.

(茨城大 2019) (m20191702)

0.286 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 0 & -3 \\ -1 & 1 & 3 \\ 4 & 4 & -1 \end{pmatrix}$ について, 以下の各問に答えよ.

- (1) 行列 A の固有値を求めよ.
- (2) 行列 A の各固有値の固有空間を求めよ. ここで, 固有値 λ の固有空間とは, λ の固有ベクトル全体と零ベクトルからなるベクトル空間のことである.

(茨城大 2020) (m20201705)

0.287 実対称行列

$$A = \begin{bmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & 2 \end{bmatrix}$$

について, 以下の各問に答えよ.

- (1) A の固有値を求めよ.
 (2) A を直交行列を用いて対角化せよ.

(茨城大 2020) (m20201708)

0.288 $A = \begin{pmatrix} -1 & -1 \\ 6 & 4 \end{pmatrix}$ のとき, A の固有値および固有ベクトルを求めよ.

(山梨大 2004) (m20041805)

0.289 2次の実行列 $A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}$ とその転置行列 (A の行と列を入れ替えた行列) tA について次の問いに答えよ.

- (1) $A = {}^tA$ となる条件を, a, b, c, d を用いて表せ.
 (2) $A = {}^tA$ となるとき, A の固有値は実数であることを示せ.

(山梨大 2005) (m20051803)

0.290 行列 $A = \begin{pmatrix} a & 1 \\ b & c \end{pmatrix}$ と行列 $B = \begin{pmatrix} d & e \\ 1 & f \end{pmatrix}$ が $AB = \begin{pmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}$ を満たしているとき, 次の問に答えなさい.

- (1) $b = c = 0$ のとき, $CA = \begin{pmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}$ となる零行列でない2次の正方行列 C を一つ求めなさい.
 (2) ある零行列でない2次の正方行列 D で $DA = \begin{pmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}$ となることを示しなさい.
 (3) 行列 A の行列式の値を求めなさい.
 (4) A の固有値を求めなさい.

(山梨大 2006) (m20061802)

0.291 行列 $\begin{pmatrix} 1 & -1 \\ 1 & k \end{pmatrix}$ が異なる固有値をもたないような k の値をすべて求めなさい.

(山梨大 2007) (m20071803)

0.292 次の行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & -1 & 4 \\ 3 & 2 & -1 \\ 2 & 1 & -1 \end{pmatrix}$ を考える.

- (1) A の固有値を求めなさい. (2) A の固有ベクトルを求めなさい.

(山梨大 2007) (m20071808)

0.293 3次の正方行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ について, 次の各問(1)(2)に答えなさい.

- (1) A^2, A^3 を求め, さらに A^{10} を求めなさい.
 (2) 行列 A の固有値をすべて求めなさい.

(山梨大 2008) (m20081802)

0.294 2次の正方行列 $A = \begin{pmatrix} \cos \theta & \sin \theta \\ \sin \theta & -\cos \theta \end{pmatrix}$ とベクトル $V = \begin{pmatrix} -\sin \frac{\theta}{2} \\ \cos \frac{\theta}{2} \end{pmatrix}$ とを考える.

ただし, θ は任意の実数とする.

- (1) A の固有値をすべて求めなさい。
 (2) \mathbf{V} は A の一つの固有ベクトルであることを示し、固有ベクトル \mathbf{V} に対する A の固有値を求めなさい。

(山梨大 2009) (m20091802)

0.295 次の行列 $A = \begin{pmatrix} 8 & 10 & 14 \\ 4 & 8 & 8 \\ -5 & -8 & -9 \end{pmatrix}$ を考える。

- (1) A の固有値を求めよ。
 (2) A の固有ベクトルを求めよ。

(山梨大 2009) (m20091805)

0.296 (1) 次の行列 A の固有値と固有ベクトルを求めなさい。固有ベクトルを求める際、適当な定数を用いてもかまいません。

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 2 & -2 \end{pmatrix}$$

- (2) 前問で求めた固有ベクトルを列として並べた行列を P とします。逆行列 P^{-1} を求めなさい。
 (3) 前問で求めた P^{-1} を用いて、 $P^{-1}AP$ を計算しなさい。
 (4) 前問で求めた $P^{-1}AP$ を計算することにより、 A^N を求めたい。どのようにしたら求められるか方針を示し、そのあと具体的に計算しなさい。

(山梨大 2010) (m20101806)

0.297 行列 $A = \begin{pmatrix} x & y & z \\ z & x & y \\ y & z & x \end{pmatrix}$ 、ベクトル $\mathbf{v} = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$ として、次の間に答えなさい。

- (1) \mathbf{v} は A の固有ベクトルであることを示しなさい。また、その固有値を求めなさい。
 (2) A の行列式 $|A|$ を計算し、この式を因数分解した式で表しなさい。
 (3) x, y, z を実数とすると、 $x + y + z \geq 0$ なら $|A| \geq 0$ を示しなさい。

(山梨大 2011) (m20111801)

0.298 次の行列 A の固有値と固有ベクトルを求めなさい。

$$A = \begin{bmatrix} -1 & 0 & 1 \\ 0 & -2 & 0 \\ 1 & 1 & 1 \end{bmatrix}$$

(山梨大 2011) (m20111803)

0.299 次の間に答えなさい。

- (1) 次の行列 A の固有値とその固有ベクトル空間を求めなさい。

$$A = \begin{pmatrix} 9 & -2 & 1 \\ 3 & 2 & 3 \\ 1 & -2 & 9 \end{pmatrix}$$

- (2) 上の行列 A は対角化可能か否かを判定し、対角化可能ならば A を対角化しなさい。

(山梨大 2012) (m20121804)

0.300 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 0 \\ -1 & 0 & 3 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めなさい。また、 A が対角化できるかどうか判定して、対角化できる場合は対角化しなさい。

(山梨大 2013) (m20131801)

0.301 $A = \begin{bmatrix} 2 & \sqrt{3} \\ \sqrt{3} & 0 \end{bmatrix}$ を対角化し、 A^n を n で表せ。

(山梨大 2015) (m20151801)

0.302 行列 $A = \begin{bmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & 2 \end{bmatrix}$ の固有値、固有ベクトルを求めよ。ただし、固有ベクトルは互いに直交し、かつ大きさを 1 とする。

(山梨大 2016) (m20161802)

0.303 N 行 N 列の単位行列を E と表し、 N 行 N 列の行列 A を

$$A = \begin{bmatrix} 0 & 1 & 0 & \cdots & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & \cdots & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & \ddots & \vdots & \vdots \\ \vdots & \vdots & \vdots & \ddots & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & \cdots & 0 & 1 \\ 1 & 0 & 0 & \cdots & 0 & 0 \end{bmatrix} \quad (*)$$

と定義する。 N は 1 以外の自然数であるとして、次の設問に答えよ。

- (1) 行列 A^2 および AA^\dagger の成分を、(*) にならって示せ。ここで、 \dagger は転置行列を表す。
- (2) $A^n = A$ を満たす 1 以外の最小の自然数 n を求めよ。
- (3) e_n をその第 n 成分が 1、それ以外の成分は 0 である N 次元空間の基本ベクトルとする ($n = 1, 2, \dots, N$)。このとき、 Ae_n および $A^\dagger e_n$ を基本ベクトルを用いて表せ。
- (4) 行列 A の固有値と固有ベクトルを全て求めよ。

(山梨大 2016) (m20161806)

0.304 θ と ϕ を実数とし、行列 $A = \begin{pmatrix} \cosh \theta & \sinh \theta \\ \sinh \theta & \cosh \theta \end{pmatrix}$, $B = \begin{pmatrix} \cosh \phi & \sinh \phi \\ \sinh \phi & \cosh \phi \end{pmatrix}$ を考える。以下の小問に答えよ。

- (1) 行列の積 AB を計算し、その結果を行列 A, B と同じ形に変形せよ。
- (2) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ。なお、固有ベクトルは規格化しなくてもよい。
- (3) 行列 A により xy 平面上の 4 点 $\begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix}$, $\begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}$, $\begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}$, $\begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}$ が変換される点を求め、 θ を正として図示せよ。また変換後の点が囲む面積を求めよ。

(山梨大 2018) (m20181802)

0.305 $a > 0$ をパラメータとした行列 $A = \begin{bmatrix} 1 & a \\ a & 1 \end{bmatrix}$ の固有値、固有ベクトルを求めよ。ただし、固有ベクトルは大きさを 1 とする。さらに $A^n \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}$ を求めよ。ここで n は任意の自然数である。

(山梨大 2018) (m20181807)

0.306 行列 $A = \begin{bmatrix} 0 & 3 & 0 \\ 1 & 5 & -1 \\ -4 & 1 & 4 \end{bmatrix}$ について次の問いに答えよ.

- (1) 行列 A が逆行列を持たないことを示せ.
- (2) 行列 A の固有値, 固有ベクトルを求めよ.

(山梨大 2019) (m20191807)

0.307 次の行列 A を考えます.

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 2 \\ -4 & 1 & 4 \\ -5 & 1 & 7 \end{pmatrix}$$

- (1) 行列 A の行列式を求めなさい.
- (2) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めなさい. ただし, 導出過程も示すこと.

(山梨大 2020) (m20201801)

0.308 行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & -2 & -1 \\ 0 & 1 & -1 \\ 2 & 1 & 5 \end{pmatrix}$ について, (a)~(c) に答えよ.

- (a) 行列 A の行列式 $\det(A)$ を求めよ.
- (b) 行列 A の固有値とその固有ベクトルを求めよ. ただし, 導出過程も示すこと.
- (c) 行列 A を対角化する行列 P とその逆行列 P^{-1} を求めよ. ただし, 導出過程も示すこと.

(山梨大 2021) (m20211803)

0.309 以下の式を考える.

$$\mathbf{Y} = \mathbf{A}\mathbf{X} + \mathbf{B}\mathbf{U}$$

$$\text{ここで, } \mathbf{A} = \begin{bmatrix} 1 & 5 & 5 \\ 2 & 2 & 1 \\ 0 & 2 & 3 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{B} = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 1 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{X} = \begin{bmatrix} x_1 & x_2 & x_3 \end{bmatrix}^T,$$

$$\mathbf{Y} = \begin{bmatrix} 3 & 0 & 2 \end{bmatrix}^T, \quad \mathbf{U} = \begin{bmatrix} 2 & -1 & 1 \end{bmatrix}^T \text{ とする.}$$

- (1) 行列 \mathbf{A} の固有値と固有ベクトルを求めよ.
- (2) 行列 \mathbf{A} の逆行列 \mathbf{A}^{-1} を求めよ.
- (3) 上式を満たす \mathbf{X} を求めよ.

(山梨大 2023) (m20231801)

0.310 行列 $A = \begin{pmatrix} 4 & -3 & -3 \\ 3 & -2 & -3 \\ -1 & 1 & 2 \end{pmatrix}$ に対し, 適当な正則行列 P を求めて $P^{-1}AP$ が対角行列になるようにせよ.

(信州大 1998) (m19981906)

0.311 次の行列の固有値と固有空間を求めよ.

$$\begin{pmatrix} 3 & 1 & 1 \\ -2 & 0 & -1 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

(信州大 1999) (m19991905)

0.312 次の行列が対角化可能かどうかを調べ, 可能ならば対角化せよ.

$$\begin{pmatrix} -1 & 6 & 3 \\ -2 & 6 & 2 \\ 0 & 0 & 2 \end{pmatrix}$$

(信州大 2004) (m20041904)

0.313 次の行列の固有値と固有ベクトルを求め, 対角化せよ.

$$A = \begin{pmatrix} 4 & 1 & -1 \\ 2 & 3 & 2 \\ -6 & -2 & 1 \end{pmatrix}$$

(信州大 2005) (m20051902)

0.314 次の行列の固有値と固有ベクトルを求め, 対角化せよ.

$$\begin{pmatrix} 2 & -1 & 4 \\ 0 & 1 & 4 \\ -3 & 3 & -1 \end{pmatrix}$$

(信州大 2006) (m20061901)

0.315 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & -1 \\ 0 & 1 & 0 \\ -4 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ について次の問いに答えよ.

- (1) A の行列式を求めよ. (2) A の逆行列を求めよ.
 (3) A の固有値とその固有ベクトルを求めよ.

(信州大 2007) (m20071901)

0.316 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & -1 & -2 \\ 0 & 1 & -2 \\ -1 & 1 & -1 \end{pmatrix}$ について次の問いに答えよ.

- (1) A の固有値を求めよ. (2) A の固有ベクトルを求めよ. (3) A を対角化せよ.

(信州大 2008) (m20081902)

0.317 行列

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 1 \\ -2 & 3 & 2 \\ 4 & -2 & -2 \end{pmatrix} \quad B = \begin{pmatrix} 2 & -2 & -1 \\ -1 & 3 & 1 \\ 2 & -4 & -1 \end{pmatrix} \quad C = \begin{pmatrix} 2 & 0 & 0 \\ -3 & 5 & 3 \\ 6 & -6 & -4 \end{pmatrix}$$

とおくとき, 以下の問いに答えよ.

- (1) A と B が可換であることを示せ.
 (2) A の固有値 λ に属する固有ベクトル \boldsymbol{v} に対し, $B\boldsymbol{v}$ も A の固有値 λ に属する固有ベクトルであることを示せ.
 (3) A, B, C それぞれの固有値と固有ベクトルを求めよ.

(信州大 2012) (m20121902)

0.318 次の問いに答えよ.

(1) 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 4 & 0 \\ 2 & 1 & 2 \\ 0 & 4 & 1 \end{pmatrix}$ の固有値を求めよ.

(2) (1) で求めた固有値の中で、最小の固有値に属する固有ベクトルを 1 つ求めよ.

(信州大 2013) (m20131904)

0.319 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & a & a+b \\ a & 1 & b \\ a+b & b & 1 \end{pmatrix}$ について、次の問いに答えよ. ただし, a, b は実数とする.

- (1) A が 1 を固有値にもつための a, b の条件を求めよ.
- (2) A が 1 を固有値にもち, その重複度が 2 以上であるための a, b の条件を求めよ.
- (3) A が 1 と 2 を固有値にもつとき, a, b の値を求めよ.

(信州大 2014) (m20141904)

0.320 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & -1 & 0 \\ -a & a & 1 \\ 0 & -1 & 1 \end{pmatrix}$ について、次の問いに答えよ. ただし, a は実数とする.

- (1) A が固有値 1 と, それとは異なる実数の固有値をもつための a の条件を求めよ.
- (2) 固有値 1 に属する固有ベクトルを 1 つ求めよ.

(信州大 2015) (m20151905)

0.321 行列 $A = \begin{pmatrix} \sqrt{2} & 0 & 1 \\ 0 & \sqrt{2} & 1 \\ 1 & -1 & \sqrt{2} \end{pmatrix}$, $B = \begin{pmatrix} 3 & 1 & 0 \\ 1 & 3 & 0 \\ 0 & 0 & 2 \end{pmatrix}$ について、次の問いに答えよ.

- (1) A の固有値と B の固有値を求めよ.
- (2) A, B について, それらが対角化できるか調べ, 対角化できれば対角化せよ.

(信州大 2016) (m20161904)

0.322 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & -2a & -2 \\ 2 & 2 & 4 \\ -2 & a & -2 \end{pmatrix}$ について、次の各問いに答えよ. ただし, a は実数とする.

- (1) A の固有値を求めよ.
- (2) A の最大の固有値に属する固有ベクトルを求めよ.

(信州大 2017) (m20171904)

0.323 行列 $A = \begin{pmatrix} a & b & 0 \\ b & a & b \\ 0 & b & a \end{pmatrix}$ について、次の問いに答えよ. ただし, a, b は実定数で, $b > 0$ とする.

- (1) A の固有値がすべて正になる条件を a, b を用いて表せ.
- (2) A の固有ベクトルでその成分がすべて正となるものを 1 つ求めよ.

(信州大 2018) (m20181904)

0.324 以下の正方行列 A_i ($i = 1, 2, 3$) それぞれについて, PA_iP^{-1} を対角行列にする正方行列 P が存在するかどうかを答え, 存在する場合はそのような P および PA_iP^{-1} を答えよ.

$$A_1 = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 0 \end{pmatrix}, \quad A_2 = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \end{pmatrix}, \quad A_3 = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

(信州大 2018) (m20181909)

0.325 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 0 & p+2 & p \\ 0 & p & p+2 \end{pmatrix}$ について、以下の問いに答えよ。ただし、 p は実数とする。

- (1) A の固有値を求めよ。
- (2) A が対角化できないような p の値を求めよ。

(信州大 2019) (m20191905)

0.326 行列 $A = \begin{pmatrix} 4 & -1 & 2 \\ 1 & 2 & 2 \\ -2 & 2 & 1 \end{pmatrix}$, $B = \begin{pmatrix} -3 & 2 & 2 \\ -4 & 3 & 2 \\ -8 & 4 & 5 \end{pmatrix}$ について、以下の問いに答えよ。

- (1) 行列 A が対角化可能か判定せよ。
- (2) 行列 B が対角化可能か判定せよ。

(信州大 2020) (m20201904)

0.327 行列

$$\begin{pmatrix} 0 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 0 \end{pmatrix}$$

の固有値を求めよ。

(信州大 2020) (m20201908)

0.328 次の行列 A に対して、以下の問いに答えよ。

$$A = \begin{pmatrix} -1 & 1 & 2 \\ 1 & -1 & 1 \\ 2 & 1 & -1 \end{pmatrix}$$

- (1) A の行列式を求めよ。
- (2) A の逆行列を求めよ。
- (3) A の固有値を求めよ。
- (4) $A^2 - 3I$ の階数を答えよ。ただし、ここで I は単位行列とする。

(信州大 2021) (m20211904)

0.329 a は定数とする。このとき、行列 $A = \begin{pmatrix} 5 & 6 & 0 \\ -1 & 0 & 0 \\ 1 & 2 & a \end{pmatrix}$ が対角化可能か判定せよ。

(信州大 2022) (m20221905)

0.330 a, b は実数とする。行列 $A = \begin{pmatrix} 2ab-2 & 0 & 0 \\ 0 & 2ab-3 & a \\ 0 & -b & 3ab-2 \end{pmatrix}$ が対角化可能なとき、 a と b が満たす条件を求めよ。

(信州大 2023) (m20231905)

0.331 実数 a に対して、 $A = \begin{pmatrix} 1 & -1 & -1 \\ 0 & a & 1 \\ 2 & 2 & 4 \end{pmatrix}$ とおく。このとき、次の問いに答えよ。

- (1) 方程式 $f(x) = x^3 - (a+5)x^2 + (5a+4)x - 6a + 4 = 0$ は、 a の値によらない解をもつことを示し、その解を求めよ。
- (2) A の固有値を求めよ。

(3) ある a に対して、 $P^{-1}AP = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 2 & 0 \\ 0 & 0 & 4 \end{pmatrix}$ を満たす行列 P を 1 つ求めよ。

(新潟大 1999) (m19992005)

0.332 $A = \begin{pmatrix} 1 & \sqrt{3} \\ \sqrt{3} & -1 \end{pmatrix}$, $P = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}$ (θ は実数) とする。このとき、次の問いに答えよ。

- (1) 行列 P の逆行列 P^{-1} 及び、行列 A の固有値を求めよ。
- (2) $P^{-1}AP$ が対角行列になるように θ ($0 \leq \theta < \pi/2$) の値を定めよ。
- (3) 曲線 $x^2 + 2\sqrt{3}xy - y^2 = 2$ の概形を描け。

(新潟大 2000) (m20002004)

0.333 以下の行列の固有値と固有ベクトルを求めよ。ここで $i^2 = -1$ である。

$$M = \begin{pmatrix} 0 & -i \\ i & 0 \end{pmatrix}$$

(新潟大 2001) (m20012007)

0.334 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 1 \end{pmatrix}$ の固有値を λ_1, λ_2 ($|\lambda_1| > |\lambda_2|$) とし、対応する固有ベクトルをそれぞれ $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2$ とする。

- (1) $\lambda_1, \lambda_2, \mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2$ を求めよ。
- (2) 正の実数 a, b をとり、

$$\begin{pmatrix} a_n \\ b_n \end{pmatrix} = A^n \begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix}$$

と定める。このとき a, b の選び方によらずに極限值 $L = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{a_n}{b_n}$ が定まることを示し、その値 L を求めよ。

(新潟大 2002) (m20022005)

0.335 行列 $A = \begin{pmatrix} 5 & -2 \\ -2 & 8 \end{pmatrix}$ について、次の問いに答えよ。

- (1) A の固有値とそれに対応する固有ベクトルを求めよ。
- (2) $P^{-1}AP$ が対角行列となる直交行列 P を求めよ。
- (3) 数列 $\{x_n\}, \{y_n\}$ を $x_0 = 1, y_0 = 0$ とし、 $n \geq 1$ に対して、

$$\begin{cases} x_n = 5x_{n-1} - 2y_{n-1} \\ y_n = -2x_{n-1} + 8y_{n-1} \end{cases}$$

と定義する。このとき、一般項 x_n と y_n を求めよ。

(新潟大 2003) (m20032004)

0.336 行列 $A = \begin{pmatrix} 5 & 1 \\ 1 & 5 \end{pmatrix}$, $P = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}$ (θ は実数) について、次の問いに答えよ。

- (1) A の固有値とそれに対応する固有ベクトルを求めよ。
- (2) $P^{-1}AP$ が対角行列となるように θ ($0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$) の値を求めよ。

(3) 曲線 $5x^2 + 2xy + 5y^2 - 12 = 0$ の概形を描け.

(新潟大 2004) (m20042005)

0.337 実数 a に対して, 行列

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 1 \\ -1 & a & 1 \\ 2 & -4 & 0 \end{pmatrix}$$

は固有値 1 をもつとする. このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) a の値を求めよ.
- (2) A のすべての固有値を求めよ.
- (3) 正則行列 P で, $P^{-1}AP$ が対角行列となるものがあれば, そのような P を 1 つ求めよ.

(新潟大 2005) (m20052002)

0.338 (1) 整数 a に対して, $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 3 \\ 2 & a & -1 \\ -2 & 1 & 0 \end{pmatrix}$ とする. また, A の逆行列の成分がすべて整数であるとする. このとき, a の値と A の逆行列 A^{-1} を求めよ.

- (2) 実数 b, c に対して, 行列 $B = \begin{pmatrix} 5 & b \\ c & 4 \end{pmatrix}$ は, 異なる固有値をもつとする. さらに, それぞれの固有値に属する固有ベクトルを $\begin{pmatrix} -1 \\ 1 \end{pmatrix}$, $\begin{pmatrix} 2 \\ 3 \end{pmatrix}$ とする. このとき, b と c の値および B の固有値を求めよ.

(新潟大 2006) (m20062004)

0.339 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 1 \\ -1 & 4 & 1 \\ 2 & -4 & 0 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(新潟大 2010) (m20102008)

0.340 a を実数とする. このとき, 3 次正方行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & a \\ 0 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 0 \end{pmatrix}$ について, 以下の問いに答えよ.

- (1) A を対称行列と交代行列の和で表せ.
- (2) A が正則であるための a の値に関する条件を求めよ. また, A が正則であるとき, A の逆行列 A^{-1} を求めよ.
- (3) $a \geq 0$ のとき, A は対角化可能であることを証明せよ.

(新潟大 2011) (m20112006)

0.341 行列 $A = \begin{pmatrix} 4 & 0 & 1 \\ -2 & 1 & 0 \\ -2 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ について以下の設問に答えよ.

- (1) 行列 A の固有方程式を求めよ.
- (2) 行列 A の固有値を全て求めよ.
- (3) それぞれの固有値に対応する固有ベクトルを求めよ.

(新潟大 2012) (m20122002)

0.342 実行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ a+1 & a \end{pmatrix}$ が固有値をただ1つ持つための条件を求めよ。また、そのときの固有値および固有ベクトルを求めよ。

(新潟大 2012) (m20122007)

0.343 a を実数とする。このとき、3次正方行列 $A = \begin{pmatrix} a & 1 & 1 \\ 1 & a & 1 \\ 1 & 1 & a \end{pmatrix}$ について、以下の問に答えよ。

- (1) A の階数 (rank) を求めよ。
- (2) A が対角化可能であるかどうか理由をつけて答えよ。また、 A が対角化可能であるとき、 A を対角化せよ。
- (3) $a = \sqrt{2}$ のとき、 $A^{-1} = bE_3 + cA + dA^2$ となる実数 b, c, d を求めよ。ただし、 A^{-1} を A の逆行列、 E_3 を3次単位行列とする。

(新潟大 2012) (m20122010)

0.344 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & -1 \\ 2 & -2 & 2 \\ -1 & 2 & 1 \end{pmatrix}$ について、次の問いに答えよ。

- (1) A の固有値を求めよ。
- (2) 各固有値に対する固有空間の基底を求めよ。
- (3) 行列 A を対角化する直交行列を求めよ。

(新潟大 2013) (m20132004)

0.345 行列 $A = \begin{bmatrix} a_1 & a_2 \\ a_3 & a_4 \end{bmatrix}$ の固有値を α_1, α_2 とし、それぞれの固有値に対する固有ベクトルを ν_1, ν_2 とする。また、行列 $T = [\nu_1 \ \nu_2]$ とするとき、以下の問いに答えよ。

- (1) $T^{-1}AT = \begin{bmatrix} \alpha_1 & 0 \\ 0 & \alpha_2 \end{bmatrix}$ となることを示せ。ただし、ベクトル T^{-1} はベクトル T の逆行列である。
- (2) ベクトル $\mathbf{b} = \begin{bmatrix} b_1 \\ b_2 \end{bmatrix}$ について、 $\mathbf{c} = A\mathbf{b}$, $\mathbf{b} = T\mathbf{p}$, $\mathbf{c} = T\mathbf{q}$ とするとき、 $\mathbf{q} = \begin{bmatrix} \alpha_1 & 0 \\ 0 & \alpha_2 \end{bmatrix} \mathbf{p}$ となることを示せ。
- (3) $A = \begin{bmatrix} 5 & 2 \\ 1 & 4 \end{bmatrix}$ のとき、 $\alpha_1 < \alpha_2$ の値を求めよ。また、 $\nu_1 = \begin{bmatrix} -1 \\ 1 \end{bmatrix}$, $\nu_2 = \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \end{bmatrix}$ となることを示せ。
- (4) $\mathbf{b} = \begin{bmatrix} 3 \\ 0 \end{bmatrix}$ のとき、ベクトル \mathbf{p}, \mathbf{q} の値を求め、 $\mathbf{q} = \begin{bmatrix} \alpha_1 & 0 \\ 0 & \alpha_2 \end{bmatrix} \mathbf{p}$ となっていることを確かめよ。

(新潟大 2014) (m20142005)

0.346 行列 $A = \begin{bmatrix} 4 & -5 \\ 2 & -3 \end{bmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めよ。つぎに、固有ベクトルを使って A を対角化せよ。

(新潟大 2015) (m20152003)

0.347 行列

$$A = \begin{pmatrix} 3 & 0 & 2 & -2 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 3 & -1 \\ 1 & 0 & 2 & 0 \end{pmatrix}$$

について、次の各問いに答えよ.

- (1) A の行列式の値を求めよ.
- (2) A の固有値をすべて求めよ.
- (3) A の各固有値に対する固有空間の基底を求めよ.
- (4) $P^{-1}AP$ が対角行列となる正則行列 P を求め、 A を対角化せよ.

(新潟大 2015) (m20152019)

- 0.348 条件 $\begin{pmatrix} x_1 & x_2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 5 & 3 \\ -3 & 5 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix} = 4$ を満たすベクトル $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix}$ に対して、 2×2 行列 T による線形変換 $\mathbf{y} = \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \end{pmatrix} = T\mathbf{x}$ を考える. $\begin{pmatrix} y_1 & y_2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \end{pmatrix} = 1$ を満たすための行列 T を求めよ.

(新潟大 2016) (m20162004)

- 0.349 行列 $\begin{pmatrix} 11 & 4 \\ 4 & 5 \end{pmatrix}$ の固有値を求め、各固有値に対応する 2 つの固有ベクトルの交角 θ ($0 \leq \theta \leq \pi$) を示せ

(新潟大 2016) (m20162007)

- 0.350 以下のように行列 A, B, C を定義する.

$$A = \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 0 \end{pmatrix} \quad B = \frac{1}{i\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 \\ -1 & 0 & 1 \\ 0 & -1 & 0 \end{pmatrix} \quad C = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & -1 \end{pmatrix}$$

また、 I を 3×3 の単位行列とする. ここで、 i は虚数単位で $i = \sqrt{-1}$ である.

- (1) $A^2 + B^2 + C^2 = kI$ となることを示し、定数 k を求めよ.
- (2) A の固有値を求めよ.
- (3) 一般に、正方行列 M の指数関数 e^M は、無限級数 $e^M \equiv \sum_{n=0}^{\infty} \frac{1}{n!} M^n$ で定義される. α を実定数としたとき、

$$e^{i\alpha C} = \begin{pmatrix} e^{i\alpha} & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & e^{-i\alpha} \end{pmatrix} \quad \left(\begin{array}{l} \text{問題ではこうなっていま} \\ \text{したが、(2,2) 成分は 1 に} \\ \text{なるものと思われます} \end{array} \right)$$

となることを示せ.

- (4) ベクトル $\vec{v}(\phi)$ を $\vec{v}(\phi) = \frac{\sin \phi}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} -1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} + \frac{i \cos \phi}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$ と定義する.

このとき、 $e^{i\alpha C} \vec{v}(\phi) = \vec{v}(\phi')$ と書けることを示し、 ϕ' を求めよ. ただし、 ϕ と ϕ' は実定数である.

(新潟大 2017) (m20172017)

0.351 4×4 行列

$$A = \begin{pmatrix} 3 & 1 & 1 & -2 \\ 0 & 2 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 2 & 0 \\ 1 & 1 & 1 & 0 \end{pmatrix}$$

について、次の各問いに答えよ。

- (1) A の行列式の値を求めよ。
- (2) A の固有値をすべて求めよ。
- (3) A の各固有値に対する固有空間の基底を求めよ。
- (4) $P^{-1}AP$ が対角行列となる正則行列 P を求め、 A を対角化せよ。

(新潟大 2017) (m20172020)

0.352 次のような行列 C について考える。ここで $i^2 = -1$ である。

$$C = \begin{pmatrix} 1 & i \\ -i & 1 \end{pmatrix}$$

- (1) 行列 C の固有値をすべて求めよ。
- (2) 行列 C の固有ベクトルをすべて求めよ。ただし、固有ベクトルは大きさ 1 に規格化すること。
- (3) 行列 C を対角化した行列を D とする。行列 D を求めよ。
- (4) D^n を計算し、 C^n を求めよ。

(新潟大 2018) (m20182007)

0.353 4×4 行列

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 0 & -1 & 1 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ -1 & 0 & 0 & 1 \\ -3 & 0 & -3 & 4 \end{pmatrix}$$

について、次の各問いに答えよ。

- (1) A の行列式の値を求めよ。
- (2) A の固有値をすべて求めよ。
- (3) A の各固有値に対する固有空間の基底を求めよ。
- (4) $P^{-1}AP$ が対角行列となる正則行列 P と P^{-1} を求め、 A を対角化せよ。

(新潟大 2018) (m20182010)

0.354 次の各問いに答えよ。

- (1) 実対称行列の固有値はすべて実数であることを示せ。
- (2) 実変数 x, y, z に対して、関数 $f(x, y, z)$ を

$$f(x, y, z) = 3x^2 + 2y^2 + 4z^2 + 4xy + 4zx$$

により定める。このとき、条件 $x^2 + y^2 + z^2 = 1$ のもとで、 $f(x, y, z)$ の最大値と最小値を求めよ。

(新潟大 2018) (m20182012)

0.355 行列 A について、以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 2 \\ 0 & 1 & 2 \\ 2 & 2 & -1 \end{pmatrix}$$

- (1) 行列 A の固有値を全て求めよ.
- (2) (1) で求めた各固有値に対応する、長さが 1 の固有ベクトルを求めよ.
- (3) 行列 A を対角化せよ.

(新潟大 2019) (m20192004)

0.356 4×4 行列

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 0 & 0 & -2 \\ -3 & 1 & 0 & 3 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 4 & 0 & 0 & -4 \end{pmatrix}$$

について、次の各問いに答えよ.

- (1) A の行列式の値を求めよ.
- (2) A の固有値をすべて求めよ.
- (3) A の各固有値に対する固有空間の基底を求めよ.
- (4) $P^{-1}AP$ が対角行列となる正則行列 P と P^{-1} を求め、 A を対角化せよ.

(新潟大 2019) (m20192015)

0.357 (1) $\begin{pmatrix} a & 1 \\ 0 & a \end{pmatrix}^n$ を求めよ. ただし、 $a \neq 0$ とし、 n は正の整数とする.

(2) $A = \begin{pmatrix} 8 & 4 \\ -9 & -4 \end{pmatrix}$ のとき、 $P^{-1}AP = \begin{pmatrix} a & 1 \\ 0 & a \end{pmatrix}$ となる $P = \begin{pmatrix} x & y \\ 3 & 1 \end{pmatrix}$ の x, y 及び a の値を求めよ.

(3) (1), (2) を用いて A^n を求めよ.

(新潟大 2020) (m20202004)

0.358 4×4 行列

$$A = \begin{pmatrix} -5 & 0 & 3 & 4 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ -4 & 0 & 2 & 4 \\ -3 & 0 & 3 & 2 \end{pmatrix}$$

について、次の各問いに答えよ.

- (1) A の行列式の値を求めよ.
- (2) A の固有値をすべて求めよ.
- (3) A の各固有値に対する固有空間の基底を求めよ.
- (4) $P^{-1}AP$ が対角行列となる正則行列 P を求め、 A を対角化せよ.
- (5) 自然数 n に対して、 A^n を求めよ.

(新潟大 2022) (m20222003)

0.359 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & \sqrt{3} \\ \sqrt{3} & 3 \end{pmatrix}$ について、以下の問いに答えよ。

- (1) A の固有値 λ_1, λ_2 を求めよ。
- (2) A を対角化する行列 P のうち、 $P = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}$ となるものを求めよ。
ただし、 $0 \leq \theta \leq \pi/2$ とする。また、 θ を求めよ。さらに、 P を用いて A を対角化せよ。
- (3) 前問 (2) の条件において、 P^6 を求めよ。

(新潟大 2022) (m20222009)

0.360 $A = \begin{pmatrix} x & y \\ -1 & 2 \end{pmatrix}$ について、 $A^2 = A$ が成り立っているとき、以下の問いに答えなさい。

- (1) x, y を求めなさい。
- (2) A の固有値と固有ベクトルを求めなさい。

(長岡技科大 2011) (m20112102)

0.361 $A = \begin{pmatrix} 3 & -2 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$ とおくと、下の問いに答えなさい。

- (1) A の固有値と固有ベクトルを求めなさい。
- (2) $P^{-1}AP$ が対角行列になるような 2 次正方形行列 P を 1 つあげなさい。また、 $P^{-1}AP$ と P^{-1} を求めなさい。
- (3) 自然数 n について、 A^n を求めなさい。

(長岡技科大 2017) (m20172101)

0.362 a を 1 でない実数とし、 $A = \begin{pmatrix} a & 1-a \\ 1-a & a \end{pmatrix}$ とする。下の問いに答えなさい。

- (1) A の固有値と固有ベクトルを求めなさい。
- (2) $P^{-1}AP$ が対角行列になるような 2 次直交行列 P を 1 つあげなさい。また、 $P^{-1}AP$ を求めなさい。

(長岡技科大 2018) (m20182101)

0.363 $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 3 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ とおくと、下の問いに答えなさい。

- (1) A の固有多項式 $|tE - A|$ を求めなさい。ただし、 E を 3 次単位行列とする。
- (2) A の固有値と固有ベクトルを求めなさい。

(長岡技科大 2020) (m20202101)

0.364 実数 t の実数値関数 $x_1 = x_1(t), x_2 = x_2(t)$ についての連立微分方程式

$$(*) \begin{cases} \frac{dx_1}{dt} = 6x_1 + 6x_2 \\ \frac{dx_2}{dt} = -2x_1 - x_2 \end{cases}$$

を考える。また、 $A = \begin{pmatrix} 6 & 6 \\ -2 & -1 \end{pmatrix}$ とおく。下の問いに答えなさい。

- (1) A の固有値, 固有ベクトルを求めなさい.
- (2) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような 2 次正方行列 P を一つあげなさい. また, $P^{-1}AP$ を求めなさい.
- (3) P を前問 (2) におけるものとし, 実数 t の実数値関数 $y_1 = y_1(t)$, $y_2 = y_2(t)$ を

$$\begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \end{pmatrix} = P^{-1} \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix}$$

により定める. このとき, (*) を y_1, y_2 についての連立微分方程式に書き換えなさい. また, y_1, y_2 を求めなさい.

- (4) x_1, x_2 を求めなさい.

(長岡技科大 2021) (m20212102)

0.365 平面上の直線 $y = 2x$ を l とする. 任意の点 P に対して, P を通る傾き 1 の直線と l との交点を P' とする. 下の問いに答えなさい.

- (1) $P(3, 2)$ に対する P' の座標を求めなさい.
- (2) $P(X, Y)$ に対する P' の座標を X と Y を用いて表しなさい.
- (3) P を P' に移す一次変換を表す行列 A を求めなさい.
- (4) 前問 (3) の行列 A の固有値と固有ベクトルを求めなさい.

(長岡技科大 2022) (m20222101)

0.366 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 2 & 2 & 2 \\ 3 & 3 & 3 \end{pmatrix}$, $I = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ に対して, 次の間に答えよ.

- (1) 行列式 $|\lambda I - A|$ が 0 となる λ の値を求めよ.

- (2) (1) における λ の値に対して, $A\mathbf{x} = \lambda\mathbf{x}$ を満たすベクトル $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$ をすべて求めよ.

(金沢大 1999) (m19992208)

0.367 対称行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 3 \\ 1 & 5 & 1 \\ 3 & 1 & 1 \end{pmatrix}$ に対して, 次の問いに答えよ.

- (1) A の固有値を求めよ.
- (2) (1) で求めた各固有値に対応する固有ベクトルを求めよ.
- (3) $P^{-1}AP = \begin{pmatrix} \alpha & 0 & 0 \\ 0 & \beta & 0 \\ 0 & 0 & \gamma \end{pmatrix}$, $\alpha \leq \beta \leq \gamma$ となる直交行列 P と α, β, γ を求めよ.

(金沢大 2000) (m20002203)

0.368 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 1 & 2 & 0 \\ 0 & 0 & 3 \end{pmatrix}$ に対して, 次の問いに答えよ.

- (1) $P^{-1}AP = \begin{pmatrix} \alpha & 0 & 0 \\ 0 & \beta & 0 \\ 0 & 0 & \gamma \end{pmatrix}$ が成立するような行列 P と α, β, γ ($\alpha < \beta < \gamma$) を求めよ.

- (2) (1) で求めた行列 P とある対角行列 B に対し $X = PBP^{-1}$ とおく. $X^2 = A$ が成立するよ
うに行列 B を定めよ.

(金沢大 2001) (m20012203)

0.369 行列 $\begin{pmatrix} -3 & 4 & 2 \\ 0 & 1 & 0 \\ -4 & 4 & 3 \end{pmatrix}$ に対して, 次の問いに答えよ.

(1) A の固有値を求めよ.

(2) $P^{-1}AP = \begin{pmatrix} \alpha & 0 & 0 \\ 0 & \beta & 0 \\ 0 & 0 & \gamma \end{pmatrix}$, $\alpha \leq \beta \leq \gamma$ となる正則行列 P を 1 つ求めよ. さらに α, β, γ の値を
求めよ.

(金沢大 2003) (m20032203)

0.370 $A = \begin{pmatrix} 16 & 7 & -29 \\ -12 & -4 & 22 \\ 6 & 3 & -11 \end{pmatrix}$, $u_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}$, $u_2 = \begin{pmatrix} 2 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix}$, $u_3 = \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ 0 \end{pmatrix}$, $v = \begin{pmatrix} 10 \\ 7 \\ 8 \end{pmatrix}$ とする.

次の問いに答えよ.

(1) $v = au_1 + bu_2 + cu_3$ をみたす定数 a, b, c を求めよ.

(2) u_1, u_2, u_3 は A の固有ベクトルであることを示し, 対応する固有値を求めよ.

(3) 自然数 n に対して $A^n v$ を求めよ.

(金沢大 2004) (m20042203)

0.371 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & a & 3 & 2 \\ -a & 1 & -2 & -1 \\ -3 & 2 & 1 & 1 \\ -2 & 1 & -1 & 1 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えよ.

(1) 行列 A が固有値 1 をもつときの a 値を求めよ.

(2) (1) で求めた a について, 行列 A の固有値 1 に対する固有ベクトルを求めよ.

(金沢大 2005) (m20052201)

0.372 行列 L を

$$L = \begin{pmatrix} 0 & 0 & i \\ 0 & 0 & 0 \\ -i & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

と定義します. 行列 L の固有値と固有ベクトルを求めなさい.

(金沢大 2005) (m20052209)

0.373 行列 $A = \begin{pmatrix} k & \frac{1}{3} \\ 1-k & \frac{2}{3} \end{pmatrix}$ (k は定数, $0 < k < 1$) について, 次の問いに答えよ.

(1) A の固有値を求めよ.

(2) A を対角化せよ.

(3) $A^n = \begin{pmatrix} a_n & b_n \\ c_n & d_n \end{pmatrix}$ ($n = 1, 2, \dots$) とするとき, 極限值 $\lim_{n \rightarrow \infty} (a_n + d_n)$ を求めよ.

(金沢大 2006) (m20062201)

0.374 A を任意ベクトル $\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$ に対して, $A \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} y \\ z \\ x \end{pmatrix}$ を満たす 3×3 行列とする.

- (1) A を求めよ. (2) A^3 を求めよ.
 (3) A の 3 つの固有値及び各固有値に対する固有ベクトルを求めよ.

(金沢大 2007) (m20072201)

0.375 $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ -2 & 4 \end{pmatrix}$ とする. 次に答えよ.

- (1) A の固有値と固有ベクトルを求めよ.
 (2) $n \rightarrow \infty$ のとき, $3^{-n}A^n$ はどのような行列に近づくか.

(金沢大 2007) (m20072204)

0.376 $A = \begin{pmatrix} -5 & -4 & 4 \\ 16 & 15 & -16 \\ 10 & 10 & -11 \end{pmatrix}$ とする. 次の問いに答えよ.

- (1) A の固有値を求めよ. (2) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような正則行列 P を求めよ.

(金沢大 2007) (m20072215)

0.377 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 3 & -1 \\ 0 & -2 & 1 \\ 0 & -4 & 3 \end{pmatrix}$ の固有値を $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3 (\lambda_1 \leq \lambda_2 \leq \lambda_3)$ とする. $i = 1, 2, 3$ に対して, λ_i に対応する固有ベクトルで, その第 1 成分を 1 としたものを \mathbf{u}_i とする. このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) $i = 1, 2, 3$ に対して, λ_i および \mathbf{u}_i を求めよ.
 (2) $\begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 2 \end{pmatrix} = a\mathbf{u}_1 + b\mathbf{u}_2 + c\mathbf{u}_3$ を満たす定数 a, b, c を求めよ.

- (3) 自然数 n に対して, $A^n \mathbf{u}_1$ および $A^n \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 2 \end{pmatrix}$ を求めよ.

(金沢大 2008) (m20082201)

0.378 行列 $A = \begin{pmatrix} 6 & -11 & 6 \\ 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \end{pmatrix}$ を考える. 次の問いに答えよ.

- (1) A のすべての固有値を求め, それぞれの固有値に対する固有ベクトルを与えよ.
 (2) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような正則行列 P をひとつ求めよ.

(金沢大 2009) (m20092204)

0.379 任意の x, y, z について, $A \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x+z \\ y \\ x+z \end{pmatrix}$ となる 3×3 行列 A を考える. 次の問いに答えよ.

- (1) A を求めよ.

- (2) A の固有値 $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ ($\lambda_1 < \lambda_2 < \lambda_3$) と, それぞれに対応する長さ 1 の固有ベクトル $\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2, \mathbf{p}_3$ を求めよ.

(3) ${}^tPAP = \begin{pmatrix} \lambda_1 & 0 & 0 \\ 0 & \lambda_2 & 0 \\ 0 & 0 & \lambda_3 \end{pmatrix}$ となる直交行列 P を求めよ. ただし, tP は P の転置行列である.

(金沢大 2010) (m20102201)

0.380 行列

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 2 & -1 \\ -1 & 0 & 3 \end{pmatrix}$$

について, 次の問いに答えよ.

- (1) 固有多項式 $\Phi_A(t) = \det(tE - A)$ を求めよ. ただし, E は 3 次の単位行列である.
 (2) $(A - 2E)^2, (A - 2E)^3$ を求めよ.
 (3) 自然数 n に対して A^n を求めよ.

(金沢大 2010) (m20102205)

0.381 次の行列 A の固有値と固有ベクトルを求めなさい.

$$A = \begin{pmatrix} 3 & 1 \\ 1 & 3 \end{pmatrix}$$

(金沢大 2010) (m20102213)

- 0.382** 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & -2 \\ 0 & 1 & 2 \\ -2 & 2 & 3 \end{pmatrix}$ の固有値を $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ ($\lambda_1 \leq \lambda_2 \leq \lambda_3$) とする. $i = 1, 2, 3$ に対して, λ_i に対応する固有ベクトルでその第 1 成分が 1 のものを \mathbf{u}_i とする. このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) $i = 1, 2, 3$ に対して, λ_i および \mathbf{u}_i を求めよ.

(2) ${}^tPAP = \begin{pmatrix} \lambda_1 & 0 & 9 \\ 0 & \lambda_2 & 0 \\ 0 & 0 & \lambda_3 \end{pmatrix}$ をみたす直交行列 P を 1 つ求めよ. ただし, tP は P の転置行列である.

(3) ${}^tP \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$ を求めよ. また自然数 n に対して, $A^n \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$ を求めよ.

(金沢大 2011) (m20112201)

0.383 行列

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 0 \end{pmatrix}$$

について, 次の問いに答えよ.

- (1) A の固有値をすべて求めよ.
 (2) A の各固有値に対する固有空間を求めよ.
 (3) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような正則行列 P を一つ求めよ.

0.384 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ に対して,

$$A\vec{p}_i = \lambda_i\vec{p}_i, |\vec{p}_i| = 1 \quad (i = 1, 2, 3), \quad \lambda_1 < \lambda_2 < \lambda_3$$

とする。ここで、 $|\vec{p}|$ はベクトル \vec{p} の長さとする。次の問いに答えよ。

- (1) $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ を求めよ。
- (2) $\vec{p}_1, \vec{p}_2, \vec{p}_3$ を求めよ。
- (3) $\vec{x} = x_1\vec{p}_1 + x_2\vec{p}_2 + x_3\vec{p}_3$ とする。 $\lim_{n \rightarrow \infty} |A^n \vec{x}| = \infty$ となるための x_1, x_2, x_3 の条件を述べよ。

(金沢大 2012) (m20122201)

0.385 行列

$$A = \begin{pmatrix} 1-2r & r & r \\ r & 1-2r & r \\ r & r & 1-2r \end{pmatrix}$$

について、次の問いに答えよ。ただし $r > 0$ とする。

- (1) 行列式

$$\begin{vmatrix} a & b & b \\ b & a & b \\ b & b & a \end{vmatrix}$$

を因数分解した形で求めよ。

- (2) A の固有値、および対応する固有空間を求めよ。
- (3) \mathbf{R}^3 の点列 $\{\mathbf{x}_n\}$ を

$$\mathbf{x}_1 = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{x}_{n+1} = A\mathbf{x}_n \quad (n \geq 1)$$

により定める。 $\{\mathbf{x}_n\}$ が収束するための r の条件、およびそのときの $\{\mathbf{x}_n\}$ の極限を求めよ。

(金沢大 2012) (m20122205)

0.386 行列 $A = \begin{pmatrix} 4 & 1 & -3 \\ -2 & 1 & 2 \\ 1 & 1 & 0 \end{pmatrix}$ について、次の問い (1)~(3) に答えよ。

- (1) A が固有値 3 と 1 をもつことを確かめ、固有値 3 に対する固有ベクトル \mathbf{x} と固有値 1 に対する固有ベクトル \mathbf{y} を 1 つずつ求めよ。
- (2) (1) で求めた \mathbf{y} に対して、 $\mathbf{z} - A\mathbf{z} = \mathbf{y}$ を満たすベクトル \mathbf{z} を 1 つ求めよ。
- (3) (1), (2) の $\mathbf{x}, \mathbf{y}, \mathbf{z}$ を用いて行列 $P = (\mathbf{x}, \mathbf{y}, \mathbf{z})$ をつくる時、 $P^{-1}AP$ を求めよ。

(金沢大 2013) (m20132201)

0.387 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & a & b \\ -1 & 1 & -1 \\ -1 & -1 & 1 \end{pmatrix}$ について、次の問いに答えよ。

- (1) A の行列式 $\det A$ を求めよ。

(2) $\det A = 0$ とする.

(a) A の固有値 $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ ($\lambda_1 < \lambda_2 < \lambda_3$) を求めよ.

(b) $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ に対する固有ベクトルをそれぞれ $\vec{p}_1, \vec{p}_2, \vec{p}_3$ とする. $\vec{p}_1, \vec{p}_2, \vec{p}_3$ を求めよ.

(金沢大 2013) (m20132206)

0.388 行列 $A = \begin{pmatrix} -2 & 3 & 2 \\ -4 & 5 & 2 \\ 6 & -6 & -1 \end{pmatrix}$ の固有値を $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ ($\lambda_1 < \lambda_2 < \lambda_3$) とする. $i = 1, 2, 3$ に対して, λ_i に対応する固有ベクトルでその第 1 成分が 1 のものを \mathbf{u}_i とする. このとき, 次の問に答えよ.

(1) $i = 1, 2, 3$ に対して, λ_i および \mathbf{u}_i を求めよ.

(2) $\mathbf{v} = \mathbf{u}_1 + 2\mathbf{u}_2 + 3\mathbf{u}_3$ とし, $\begin{pmatrix} x_n \\ y_n \\ z_n \end{pmatrix} = A^n \mathbf{v}$ とおく. $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{x_n}{z_n}$ を求めよ.

(金沢大 2014) (m20142201)

0.389 行列 $A = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 1 & 0 \\ \frac{1}{3} & 0 & 0 & -1 \\ \frac{1}{4} & 0 & 0 & 0 \\ \frac{1}{5} & -1 & 0 & 0 \end{pmatrix}$ について, 次の問に答えよ.

(1) A の固有値をすべて求めよ.

(2) A の各固有値に対する固有空間を求めよ.

(3) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような正則行列 P を一つ求めよ.

(金沢大 2014) (m20142205)

0.390 任意の x, y, z について

$$A \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -4x + y + 4z \\ -4x + 3y + 2z \\ -x + y + z \end{pmatrix}$$

となる 3×3 行列 A を考える. 次の問に答えよ.

(1) A を求めよ.

(2) A の固有値 $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ ($\lambda_1 < \lambda_2 < \lambda_3$) と, それぞれに対応する長さ 1 の固有ベクトル p_1, p_2, p_3 を求めよ.

(3) B を A の逆行列, n を自然数とすると, B^n の固有値を $\mu_1^{(n)}, \mu_2^{(n)}, \mu_3^{(n)}$ ($\mu_1^{(n)} < \mu_2^{(n)} < \mu_3^{(n)}$)

とおく. 数列 $a_n = \frac{\mu_1^{(n)} \mu_3^{(n)}}{\mu_2^{(n)}} (n = 1, 2, \dots)$ に対して, 無限級数 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n$ の収束発散を調べよ.

収束する場合はその値を求めよ.

(金沢大 2015) (m20152201)

0.391 行列 $A = \begin{pmatrix} -1 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \end{pmatrix}$ について, 次の問に答えよ.

(1) A の固有値をすべて求めよ.

- (2) A の各固有値に対する固有空間を求めよ.
- (3) $P^{-1}AP$ が対角行列になるような正則行列 P を一つ求めよ.
- (4) $B = (\alpha E - A)(\beta E - A)^{-1}$ とおく. ただし E は 3 次の単位行列, α と β は A の固有値とは異なる実数とする. B を対角化せよ.

(金沢大 2015) (m20152205)

0.392 行列 A を次のように定義する.

$$A = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}$$

- (1) A の固有値と規格化された固有ベクトルを求めなさい.
- (2) ある行列 P を用いて, 行列 $A' = P^{-1}AP$ を対角行列にすることができる. P と A' を求めなさい.

(金沢大 2015) (m20152211)

0.393 A, B を n 次正方行列とする, 次のことを示せ.

- (1) $\det AB = 0$ のとき, 0 はそれぞれ AB, BA の固有値である.
- (2) $\det AB \neq 0$ のとき, 0 は AB の固有値である.
- (3) λ が AB の固有値ならば, λ が BA の固有値でもある.

(金沢大 2016) (m20162202)

0.394 行列 A は

$$A \begin{pmatrix} -2 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} = (-1) \begin{pmatrix} -2 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad A \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} = 2 \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad A \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} = 4 \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

を満たす. 次の問いに答えよ.

- (1) $P = \begin{pmatrix} -2 & 1 & 3 \\ 1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 1 \end{pmatrix}$ に対して, 行列式 $\det P$ および逆行列 P^{-1} を求めよ.
- (2) 行列 A を求めよ.
- (3) 行列 $X = \begin{pmatrix} x_{11} & x_{12} & x_{13} \\ x_{21} & x_{22} & x_{23} \\ x_{31} & x_{32} & x_{33} \end{pmatrix}$ に対して, $x_{11} + x_{22} + x_{33}$ を $\text{tr}(X)$ で表す. 自然数 n に対して $\text{tr}(A^n)$ を求めよ.

(金沢大 2016) (m20162206)

0.395 $A = \begin{pmatrix} -5 & -4 & 4 \\ 16 & 15 & -16 \\ 10 & 10 & -11 \end{pmatrix}$ とする. 次の問いに答えよ.

- (1) A の固有値を求めよ.
- (2) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような正則行列 P を求めよ.

(金沢大 2016) (m20162227)

0.396 $A = \begin{pmatrix} 1 & 6 & 0 \\ 1 & 2 & -2 \\ 1 & 3 & -1 \end{pmatrix}$ について、次の問いに答えよ。

- (1) A の逆行列 A^{-1} を求めよ。
- (2) A の固有値とその固有値に属する固有空間を求めよ。

(金沢大 2016) (m20162230)

0.397 $7x^2 + 2\sqrt{3}xy + 5y^2 = 1 \cdots (*)$ を次の手順で、 (x, y) 平面に図示せよ。

- (1) $(*)$ の左辺は 2×2 の対称行列 A を用いて、 $(x \ y)A \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ と表すことができる。 A を求めよ。
- (2) A の固有値 ($\lambda_1 < \lambda_2$)、および、長さ 1 の固有ベクトル $v_1 = \begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix}$ (λ_1 に対応)、
 $v_2 = \begin{pmatrix} c \\ d \end{pmatrix}$ (λ_2 に対応) を求めよ。ただし、 $a > 0, c > 0$ と選ぶ。
- (3) 行列 $P = \begin{pmatrix} a & c \\ b & d \end{pmatrix}$ とおく。 $P^{-1}AP$ を計算せよ。
- (4) 変数変換 $\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = P \begin{pmatrix} X \\ Y \end{pmatrix}$ としたとき、 (x, y) 平面上の図形は、反時計回りに q ラジアン
 回転すると (X, Y) 平面上の図形に移る。 q を求めよ。また、上記の図形を (X, Y) 平面上で図示
 せよ。
- (5) $(*)$ を (x, y) 平面上で図示せよ。

(金沢大 2016) (m20162234)

0.398 行列 $P = \begin{pmatrix} \frac{1}{2} & 0 & 0 \\ \frac{1}{2} & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 0 \end{pmatrix}$ とベクトル $\boldsymbol{v} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ を考える。次の各小問に答えよ。

- (1) P の固有値をすべて求めよ。またそれぞれの固有値に属する固有ベクトルを一つずつ求めよ。
 ただし固有ベクトルの成分は整数値に選べ。
- (2) \boldsymbol{v} を (1) で求めた固有ベクトルの線形結合として表せ。
- (3) $P^n \boldsymbol{v}$ を求めよ。さらに極限 $\lim_{n \rightarrow \infty} P^{2n+1} \boldsymbol{v}$ と $\lim_{n \rightarrow \infty} P^{2n} \boldsymbol{v}$ を求めよ。

(金沢大 2016) (m20162237)

0.399 行列

$$A = \begin{pmatrix} 2 & -1 & -1 \\ -1 & 2 & -1 \\ -1 & -1 & 2 \end{pmatrix}$$

について、次の問いに答えよ。

- (1) A を対角化せよ。
- (2) $\boldsymbol{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^3$ に対して、関数 $f(\boldsymbol{x})$ を $f(\boldsymbol{x}) = {}^t \boldsymbol{x} A \boldsymbol{x}$ と定めると、 $f(\boldsymbol{x}) \geq 0$ であることを
 示せ。さらに $f(\boldsymbol{x}) = 0$ となる $\boldsymbol{x} \in \mathbf{R}^3$ を求めよ。ただし ${}^t \boldsymbol{x}$ は \boldsymbol{x} の転置を表す。

(3) $A = B^2$ となる行列 B を求めよ.

(金沢大 2017) (m20172202)

0.400 行列 $A = \begin{pmatrix} -1 & 8 & 8 \\ 4 & -3 & -4 \\ -4 & 6 & 7 \end{pmatrix}$ について、次の問いに答えよ.

- (1) I を 3 次の単位行列とすると、 A の特性多項式 $\det(\lambda I - A)$ を求めよ.
- (2) A の固有値 $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ ($\lambda_1 < \lambda_2 < \lambda_3$) と、それぞれに対応する長さ 1 の固有ベクトル $\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2, \mathbf{p}_3$ を求めよ.
- (3) 行列 $A^4 - 10A^2$ を求めよ.

(金沢大 2017) (m20172206)

0.401 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & -1 \\ -1 & 2 \end{pmatrix}$ について、以下の各問いに答えなさい.

- (1) A の固有値と規格化された固有ベクトルをすべて求めなさい.
- (2) ある行列 V を用いて、行列 $A' = V^{-1}AV$ を対角行列にすることができる. V と A' を求めなさい.

(金沢大 2017) (m20172212)

0.402 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 2 \\ 1 & 2 & 1 \\ 2 & 1 & 1 \end{pmatrix}$ について 次の問いに答えよ.

- (1) tPAP が対角行列となるような 3 次の直交行列 P を一つ求めよ. ただし tP は P の転置行列を表す.
- (2) $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^3$ に対して、 $f(\mathbf{x}) = {}^t\mathbf{x}A\mathbf{x}$ とおく (${}^t\mathbf{x}$ は \mathbf{x} の転置を表す).
集合 $S = \{\mathbf{x} = {}^t(x, y, z) \in \mathbf{R}^3 \mid x^2 + y^2 + z^2 = 1\}$ における、 $f(\mathbf{x})$ の最大値と最小値、およびそれらを与える $\mathbf{x} \in S$ をすべて求めよ.
- (3) $A^5 - 5A^4 + 2A^3 + 9A^2$ を求めよ.

(金沢大 2018) (m20182202)

0.403 行列 $A = \begin{pmatrix} 0 & -2 & -1 \\ 1 & -3 & -1 \\ 2 & 3 & 2 \end{pmatrix}$ について、次の問いに答えよ. 以下において、 I は 3 次の単位行列、 O は 3 次の零行列である.

- (1) A の特性多項式 $\det(\lambda I - A)$ を求めよ.
- (2) A の実数の固有値をすべて求め、各固有値に対応する長さ 1 の固有ベクトルを求めよ.
- (3) $A^3 + aA^2 + bA + cI = O$ を満たす実数 a, b, c を求めよ.
- (4) 行列 A^{2018} を計算せよ.

(金沢大 2018) (m20182206)

0.404 行列 A は

$$A \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad A \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} = - \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad A \begin{pmatrix} 0 \\ -1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} = - \begin{pmatrix} 0 \\ -1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad A \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix} = 2 \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix}$$

を満たしている。次の問いに答えよ。

(1) 行列 $P = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 & 1 \\ 1 & 2 & -1 & 1 \\ -1 & 1 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 0 & -1 \end{pmatrix}$ に対して、行列式 $\det P$ および逆行列 P^{-1} を求めよ。

(2) 行列 A を求めよ。

(3) E を 4 次の単位行列とすると、

$$(A^2 - E)^2(A^2 - 4E) + A^2 + A = aA^2 + bA + cE$$

を満たす実数の組 (a, b, c) を 1 つ求めよ。

(金沢大 2019) (m20192201)

0.405 行列

$$A = \begin{pmatrix} -2 & -13 & 4 \\ 1 & 5 & -1 \\ 0 & -1 & 2 \end{pmatrix}$$

について、次の問いに答えよ。

(1) A のすべての固有値、および各固有値に対する固有空間を求めよ。

(2) 3 次の正則行列 P で、 $P^{-1}AP$ が対角行列となるものは存在しないことを示せ。

(金沢大 2019) (m20192204)

0.406 p と q を実数とする。行列

$$A = \begin{pmatrix} p & q \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$$

が異なる実数の固有値 α と β をもつとき、次の問いに答えよ。

(1) p と q が満たす条件を求めよ。

(2) 次を満たす正則行列 P の一つを、 α と β を用いて与えよ。

$$P^{-1}AP = \begin{pmatrix} \alpha & 0 \\ 0 & \beta \end{pmatrix}$$

(3) 漸化式

$$a_{n+2} = pa_{n+1} + qa_n \quad (n = 1, 2, \dots)$$

を満たす数列 $\{a_n\}$ の一般項を、 a_1, a_2, α, β を用いて表せ。

(金沢大 2020) (m20202201)

0.407 (1) n を自然数とする。 $\begin{pmatrix} 2 & -1 \\ -3 & 4 \end{pmatrix}^n$ を求めよ。

(2) 次の行列の固有値を求め、それぞれの固有値に対応する固有空間の基底を 1 組求めよ.

$$\begin{pmatrix} 0 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 0 \end{pmatrix}$$

(金沢大 2020) (m20202208)

0.408 次の行列が対角化可能であるか調べ、対角化可能ならば、与えられた行列 A に対し、 $P^{-1}AP$ が対角行列となるような行列 P とそのときの対角行列を 1 組求めよ.

(1)
$$\begin{pmatrix} 1 & -1 & 1 \\ 2 & 1 & -2 \\ 4 & -1 & -2 \end{pmatrix}$$

(2)
$$\begin{pmatrix} -3 & 0 & -2 \\ 8 & -1 & 8 \\ 4 & 0 & 3 \end{pmatrix}$$

(金沢大 2021) (m20212205)

0.409 行列

$$A = \begin{pmatrix} -1 & 7 & 1 \\ 2 & 0 & -1 \\ -2 & 10 & 2 \end{pmatrix}$$

について、次の問いに答えよ.

- (1) A のすべての固有値、および各固有値に対する固有空間を求めよ.
- (2) A が対角化可能であるかどうかを調べよ. さらに、 A が対角化可能ならば、 $P^{-1}AP$ が対角行列となる P を求めよ.
- (3) 3 次実正方行列 B が $AB = BA$ を満たすとき、 B は対角化可能であることを示せ.

(金沢大 2021) (m20212206)

0.410 (a) 行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & -2 \\ -2 & 3 \end{pmatrix}$ の固有値と規格化された固有ベクトルをすべて求めなさい.

(b) 関数 $f(x, y) = 3x^2 - 4xy + 3y^2$ は任意の実数 x, y に対して $f(x, y) \geq 0$ を満たすことを示しなさい.

(金沢大 2021) (m20212214)

0.411 対称行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 2 \\ 1 & 0 & -1 \\ 2 & -1 & 1 \end{pmatrix}$ について、次の問いに答えよ.

- (1) 固有値を全て求めよ.
- (2) A を直交行列によって対角化せよ.

(金沢大 2022) (m20222204)

0.412 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 1 & 2 & -3 \\ 1 & 1 & -2 \end{pmatrix}$ について、次の問いに答えよ.

- (1) A のすべての固有値を求めよ.

- (2) A の各固有値に対する固有空間を求めよ.
- (3) A が対角化可能の場合は $P^{-1}AP$ が対角行列になるような P を 1 つ求めよ. 対角化可能ではない場合はその理由を述べよ.

(金沢大 2022) (m20222205)

0.413 行列 $A = \begin{pmatrix} 5 & 2 & 1 \\ 2 & 8 & 2 \\ 1 & 2 & 5 \end{pmatrix}$ について, 以下の各問いに答えなさい.

- (1) A の固有値を求めなさい.
- (2) ある直交行列 P を用いて, $P^{-1}AP$ を対角行列にすることができる. P を求めなさい.

(金沢大 2022) (m20222214)

0.414 (1) 行列 $M = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 3 \\ 2 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & 1 \end{pmatrix}$ に対して, $M = A + B$ となるような対称行列 A , 交代行列 B を求めよ.

註: A が対称行列であるとは ${}^tA = A$ であること (tA は A の転置行列を表す), B が交代行列であるとは ${}^tB = -B$ であることを意味する.

- (2) (1) で求めた対称行列 A を, 適当な直交行列 P によって対角化せよ. (直交行列 P を求める計算の過程も明示すること)

(富山大 1994) (m19942302)

0.415 行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & -\sqrt{2} \\ -\sqrt{2} & 2 \end{pmatrix}$ について次の問いに答えよ.

- (1) A の固有値 λ_1, λ_2 を求めよ. ただし, $\lambda_1 > \lambda_2$ とする.
- (2) λ_1, λ_2 に対する固有ベクトル $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2$ のうちで, 長さが 1, 第 1 成分が正のものを求めよ.
- (3) $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2$ は直交することを証明せよ.
- (4) $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} 3 \\ 4 \end{pmatrix}$ とするとき, $\mathbf{x} = k_1\mathbf{v}_1 + k_2\mathbf{v}_2$ をみたす実数 k_1, k_2 を求めよ.

(富山大 2001) (m20012306)

0.416 2×2 行列 σ_1 が $\sigma_1 = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$ で与えられるとき, 次の問いに答えよ.

- (1) σ_1 の固有値と大きさが 1 の直交固有ベクトルを求めよ.
- (2) σ_1 を対角化する変換行列 P を求め, σ_1 を対角化せよ.
- (3) 対角化した行列を σ_3 とするとき, $\sigma_1\sigma_2 - \sigma_2\sigma_1 = 2i\sigma_3$ および $\sigma_2\sigma_2 = I$ を満たす行列 σ_2 を求めよ. ここで, i は虚数単位, I は 2×2 の単位行列である.

(富山大 2003) (m20032306)

0.417 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & \frac{1}{4} \\ 3 & \frac{1}{5} \\ \frac{1}{4} & \frac{1}{5} \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えよ.

- (1) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ.
- (2) 行列 A は対角化可能か.

(3) 行列 A^3 は直交行列を用いて対角化可能か.

(富山大 2003) (m20032307)

0.418 行列 $C = \begin{pmatrix} 5 & 3 \\ 5 & 7 \end{pmatrix}$ および 2 次の正方行列 P について, P が逆行列 P^{-1} をもち, $P^{-1}CP = \begin{pmatrix} \alpha & 0 \\ 0 & \beta \end{pmatrix}$ が成り立つとき, α, β は行列 C の固有値であることを証明せよ. また, 自然数 n に対して C^n を求めよ.

(富山大 2004) (m20042308)

0.419 行列

$$A = \begin{pmatrix} 1 & -1 & 0 & 1 \\ -1 & 2 & -1 & 0 \\ 0 & -1 & 1 & -1 \\ 1 & 0 & -1 & 2 \end{pmatrix}$$

について, 次の問いに答えよ.

(1) 行列 A の行列式を求めよ.

(2) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(富山大 2004) (m20042311)

0.420 行列

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(富山大 2005) (m20052308)

0.421 行列 $S = \begin{pmatrix} 0 & -i \\ i & 0 \end{pmatrix}$ の固有値と, S を対角化する行列を求めよ.

(富山大 2005) (m20052313)

0.422 2×2 行列 $Z = aI + bJ$ を考える.

ただし, $I = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$ および $J = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ -1 & 0 \end{pmatrix}$ である. また, a と b は実数であり, a と b が同時に 0 になることはないとする.

(1) Z^T を計算し, a, b, I, J で表せ. ここで添字 T は行列の転置を表す.

(2) $Z + Z^T$ と $Z - Z^T$ をそれぞれ a, b, I, J で表せ.

(3) ZZ^T を a, b, I, J で表せ.

(4) Z の逆行列を求め, a, b, I, J で表せ.

(5) J と Z の固有値をそれぞれ求めよ.

(富山大 2006) (m20062305)

0.423 2×2 行列 $L = \begin{pmatrix} 1/\sqrt{1-\beta^2} & -\beta/\sqrt{1-\beta^2} \\ -\beta/\sqrt{1-\beta^2} & 1/\sqrt{1-\beta^2} \end{pmatrix}$ とするとき (ただし, $0 < \beta < 1$ とする), 以下の問いに答えよ.

- (1) L による 1 次変換 $\begin{pmatrix} x' \\ y' \end{pmatrix} = L \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ を行ったとき, $x'^2 - y'^2 = x^2 - y^2$ が成り立つことを示せ.
- (2) L が行列の方程式 $L^2 - 2L/\sqrt{1-\beta^2} + I = O$ を満足することを示せ. ただし, I は 2×2 の単位行列で, O は 2×2 の零行列である.
- (3) L の固有値を求めよ.
- (4) L と別の 2×2 行列 $M = \begin{pmatrix} 1/\sqrt{1-\gamma^2} & -\gamma/\sqrt{1-\gamma^2} \\ -\gamma/\sqrt{1-\gamma^2} & 1/\sqrt{1-\gamma^2} \end{pmatrix}$ を用いた 1 次変換 $\begin{pmatrix} x'' \\ y'' \end{pmatrix} = ML \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ を行ったとき, $x''^2 - y''^2 = x^2 - y^2$ が成り立つことを示せ. ただし, $0 < \gamma < 1$ とする.
- (5) L の逆行列を求めよ.

(富山大 2007) (m20072303)

0.424 θ を任意の実数, I を単位行列, $\sigma_1 = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$, $\sigma_2 = \begin{pmatrix} 0 & -i \\ i & 0 \end{pmatrix}$ として, 行列 A が $A = (\cos \theta)I + (i \sin \theta)\sigma_1$ で与えられるとき, 以下の問いに答えよ. ここで i は虚数単位とする.

- (1) σ_1^2 を計算せよ.
- (2) A の逆行列 A^{-1} を求めよ.
- (3) σ_2 の固有値 λ と固有ベクトル ν を求めよ.
- (4) $A\sigma_2A^{-1}$ を計算して σ_2 を対角化するように θ を決定せよ. ただし, θ の範囲を $0 < \theta < \pi/2$ とする. また, このときの θ の値を用いた行列 A により, σ_2 の固有ベクトル ν を変換したベクトル $u = A\nu$ を求めよ.

(富山大 2008) (m20082303)

0.425 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & -1 \\ 2 & 4 \end{pmatrix}$ について, 以下の問いに答えよ.

- (1) A^2 を求めよ.
- (2) A の行列式を求めよ.
- (3) 逆行列 A^{-1} を求めよ.
- (4) 固有値と固有ベクトルを求めよ.

(富山大 2009) (m20092303)

- 0.426** (1) 正方行列 A, P, D の間に $P^{-1}AP = D$ の関係があるとき, A^n (n は自然数) を P, P^{-1}, D, n を用いて表せ. ただし, 帰納法などによる証明は不要とする.
- (2) $B = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 2 \end{pmatrix}$ の固有ベクトルのうち, 大きさが 1 の二つを $\begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix}$ および $\begin{pmatrix} c \\ d \end{pmatrix}$ とする. ただし, $\begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix} \neq k \begin{pmatrix} c \\ d \end{pmatrix}$ で, $\begin{pmatrix} a \\ b \end{pmatrix}$ が固有値の小さいほうに対応した固有ベクトルとする. このとき, $Q = \begin{pmatrix} a & c \\ b & d \end{pmatrix}$ とした場合の $Q^{-1}BQ$ を求めよ.
- (3) (1), (2) の結果をもとに, B^{10} を求めよ. ただし, 帰納法などによる証明は不要とする. なお, 必要ならば $2^{10} = 1024$, $3^{10} = 59049$, $5^{10} = 9765625$ の値を用いよ.

(富山大 2010) (m20102304)

0.427 行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & 2 \\ 2 & 3 \end{pmatrix}$ とする. このとき

- (1) A の行列式を求めよ.
- (2) A のゼロではない固有値及びゼロではない固有ベクトルを求めよ.
- (3) (2) で求めた 2 つの固有ベクトルを列ベクトルとして並べた行列 P の逆行列 P^{-1} , 及び $P^{-1}AP$ を計算せよ.

(富山大 2012) (m20122304)

0.428 行列 $H = \begin{pmatrix} \alpha & \beta & 0 & \beta \\ \beta & \alpha & \beta & 0 \\ 0 & \beta & \alpha & \beta \\ \beta & 0 & \beta & \alpha \end{pmatrix}$ (α, β は実定数, $\beta \neq 0$) について, 以下の間に答えよ.

- (1) H の固有値を α, β を用いて表せ.
- (2) (1) で求めたそれぞれの固有値に対応する固有空間の正規直交基底を求めよ.
- (3) H を直交行列を用いて対角化せよ.

(富山大 2013) (m20132304)

0.429 x, y を実数とする. 座標平面上の点 (x, y) に対して, 行列

$$A = \begin{pmatrix} x & y & 2 \\ y & 1 & y \\ 2 & y & x \end{pmatrix}$$

を考える. このとき, 次の問いに答えよ.

(1) 直交行列 $P = \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & \sqrt{2} \\ -1 & 1 & 0 \end{pmatrix}$ に対して, tPAP を求めよ.

(2) A の相異なる固有値の個数が 2 であるような点 (x, y) の集合を図示せよ.

(富山大 2015) (m20152303)

0.430 3 次実対称行列 A は固有値 2 と 3 をもち, 固有値 2 に対する固有空間 W_2 はある実数 x, y を用いて

$$W_2 = \left\{ c \begin{pmatrix} x \\ y \\ 1 \end{pmatrix} \mid c \in \mathbb{R} \right\}$$
 と表され, 固有値 3 に対する固有空間 W_3 は

$$W_3 = \left\{ c_1 \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 2 \end{pmatrix} + c_2 \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 3 \end{pmatrix} \mid c_1, c_2 \in \mathbb{R} \right\}$$
 と表されている. このとき, 次の問いに答えよ.

(1) x, y を求めよ.

(2) $\begin{pmatrix} 5 \\ 7 \\ 3 \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^3$ を W_2 と W_3 のベクトルの和で表せ.

(3) 自然数 n に対して $A^n \begin{pmatrix} 5 \\ 7 \\ 3 \end{pmatrix}$ を求めよ.

0.431 次の問いに答えよ。ただし、 A, B, C, D は 2 行 2 列の実数行列、 X は 2 行 1 列の実数行列とする。また、 tX は行列 X の転置行列を意味する。

- (1) $|A| < 0$ のとき、 A の固有値が異符号の実数であることを示せ。
- (2) B の成分がいずれも正であるとする。このとき、 B の固有値が実数であるとしても正とは限らないことを例を挙げて示せ。
- (3) C が対角行列で対角成分がいずれも正であるとき、任意の X に対して ${}^tXCX > 0$ が成立することを示せ。
- (4) D が 2 つの異なる正の固有値をもち、それらの固有値に対応する固有ベクトルが直交しているとき、任意の X に対して ${}^tXDX > 0$ が成立することを示せ。必要ならば、直交行列の逆行列と転置行列が等しくなる性質を利用せよ。なお、直交行列とは、互いに直交する大きさが 1 の列ベクトルからなる正方行列である。

- 0.432** (1) 正方行列 A, P, D の間に $AP = PD$ の関係があるとき、 A^n を P, P^{-1}, D および n を用いて表せ。ただし n は自然数である。また、 P は正則行列であるとする。
- (2) 次の行列 B は相異なる 3 つの実数の固有値を持つ。これらの固有値および対応する固有ベクトルを求めよ。

$$B = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 3 & 1 \\ 0 & 1 & 3 \end{pmatrix}$$

- (3) (2) の行列 B において、固有値 $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ の各々に対応する任意の固有ベクトルを

$$\vec{x}_1 = \begin{pmatrix} q_{1,1} \\ q_{2,1} \\ q_{3,1} \end{pmatrix}, \vec{x}_2 = \begin{pmatrix} q_{1,2} \\ q_{2,2} \\ q_{3,2} \end{pmatrix}, \vec{x}_3 = \begin{pmatrix} q_{1,3} \\ q_{2,3} \\ q_{3,3} \end{pmatrix}$$

とし、行列 Q を

$$Q = \begin{pmatrix} q_{1,1} & q_{1,2} & q_{1,3} \\ q_{2,1} & q_{2,2} & q_{2,3} \\ q_{3,1} & q_{3,2} & q_{3,3} \end{pmatrix}$$

としたとき

$$Q^{-1}BQ = \begin{pmatrix} \lambda_1 & 0 & 0 \\ 0 & \lambda_2 & 0 \\ 0 & 0 & \lambda_3 \end{pmatrix}$$

となる。この性質を利用し、(1)、(2) の結果をもとに B^n を求めよ。

0.433 行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & 2 & 1 \\ 2 & 0 & 0 \\ 4 & 2 & 1 \end{pmatrix}$ の行列式の値および固有値を求めよ。

また、この行列の対角化は可能かどうか調べよ。

0.434 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 \end{pmatrix}$ がある。

(1) 行列 A の固有値を λ とすると, λ は $\begin{vmatrix} 1-\lambda & 1 & 1 \\ 1 & 1-\lambda & 1 \\ 1 & 1 & 1-\lambda \end{vmatrix} = 0$ を満たさなければならないことを示しなさい.

(2) 前問の行列 A の固有値を求めなさい.

(3) その行列 A の固有ベクトルを求めなさい.

(福井大 2000) (m20002416)

0.435 行列 $\begin{pmatrix} 1 & -1 & 4 \\ 3 & 2 & -1 \\ 2 & 1 & -1 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めなさい.

(福井大 2001) (m20012419)

0.436 次の行列について以下のことを答えなさい.

$$A = \begin{bmatrix} 5 & 4 \\ 1 & 2 \end{bmatrix}$$

(1) ベクトル $v = (1, 2)$ としたときの, Av を求めなさい.

(2) A の行列式 $|A|$ を計算しなさい.

(3) A の逆行列 A^{-1} を求めなさい.

(4) A の固有値と固有ベクトルを求めなさい.

(福井大 2001) (m20012420)

0.437 次の2つの列ベクトル \mathbf{a}_1 と \mathbf{a}_2 からなる行列 A がある.

$$\mathbf{a}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ -\frac{1}{2} \end{pmatrix}, \mathbf{a}_2 = \begin{pmatrix} -\frac{1}{2} \\ 1 \end{pmatrix}, A = \begin{pmatrix} 1 & -\frac{1}{2} \\ -\frac{1}{2} & 1 \end{pmatrix}$$

(1) 行列 A のランク (階数) はいくらか.

(2) 次のベクトルと行列の積を計算しなさい.

$$\begin{pmatrix} x & y \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & -\frac{1}{2} \\ -\frac{1}{2} & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$$

(3) 行列 A から得られる2つの固有ベクトルを求めなさい.

(4) 正規化された固有ベクトルを書きなさい.

(5) 正規化された2つの固有ベクトル (列ベクトル) からなる2行2列の正方行列 \mathbf{P} を求めなさい.

(6) 列ベクトルを $\mathbf{b} = \begin{pmatrix} X \\ Y \end{pmatrix}$ とする. ${}^t(\mathbf{Pb})\mathbf{A}(\mathbf{Pb})$ を計算しなさい. ただし, ${}^t(\mathbf{Pb})$ は \mathbf{Pb} の転置を意味している.

(7) ${}^t(\mathbf{Pb})\mathbf{A}(\mathbf{Pb}) = \frac{3}{2}$ が表す図形を図 B に描きなさい. そして, その図形がどのような形状か詳しく説明しなさい.

(福井大 2004) (m20042419)

0.438 次の行列に対応する固有値と固有ベクトルを求めよ.

$$\mathbf{A} = \begin{pmatrix} -3 & 1 & 1 \\ 1 & -3 & 1 \\ 1 & 1 & -3 \end{pmatrix}$$

(福井大 2005) (m20052408)

0.439 次の行列 A について、以下の問いに答えよ。 $A = \begin{pmatrix} 4 & -2 \\ 1 & 1 \end{pmatrix}$

- (1) A の固有値を求めよ。 (2) A を対角化する正則行列 P を求めて、 A を対角化せよ。

(福井大 2006) (m20062410)

0.440 行列 A の固有値 λ と固有ベクトル \boldsymbol{x} に関する設問である。

- (1) $A, \lambda, \boldsymbol{x}$ の間に成り立つ関係を示せ。 (2) $A = \begin{pmatrix} 3 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 0 \\ 1 & 0 & 2 \end{pmatrix}$ の固有値を求めよ。

- (3) (2) の解に対応する固有ベクトルを一つ示せ。

(福井大 2006) (m20062422)

0.441 次の行列 B がある。以下の問いに答えよ。

$$B = \begin{pmatrix} 3 & 1 \\ 2 & 2 \end{pmatrix}$$

- (1) B の固有値と固有ベクトル \boldsymbol{x} を求めよ。
(2) B^3 を計算せよ。
(3) \boldsymbol{x} を B の絶対値の小さい方の固有値に対応する固有ベクトルとする時、 $B^{10}\boldsymbol{x}$ を求めよ。

(福井大 2008) (m20082405)

0.442 行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 0 \\ 1 & 0 & 2 \end{pmatrix}$ の固有値を λ 、固有ベクトルを \boldsymbol{x} とする時、以下の問いに答えよ。

- (1) $A, \lambda, \boldsymbol{x}$ の間に成立する関係を示せ。
(2) 固有値を求めよ。
(3) 各固有値に対応する固有ベクトルを求めよ。

(福井大 2008) (m20082420)

0.443 次の行列 C の固有値を求めよ。また、固有値の中で負の値をもつ固有値に対する固有ベクトルも求めよ。

$$C = \begin{pmatrix} 6 & 0 & -4 \\ 0 & -3 & 0 \\ 6 & 6 & 4 \end{pmatrix}$$

(福井大 2009) (m20092413)

0.444 次の行列 A について以下の問いに答えよ。

$$A = \begin{pmatrix} 6 & 0 & -4 \\ 0 & -3 & 0 \\ 6 & 6 & -4 \end{pmatrix}$$

- (1) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ。
(2) 行列 A は対角化可能か。可能ならば対角化せよ。

(福井大 2009) (m20092415)

0.445 $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ \frac{1}{2} & 0 \end{pmatrix}$ がある.

(1) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(2) $\lim_{n \rightarrow \infty} A^n \mathbf{x} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \end{bmatrix}$ を満たすベクトル \mathbf{x} を求めよ. n は整数とし, $\mathbf{x} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \end{bmatrix}$ 以外の \mathbf{x} を求めること.

(福井大 2010) (m20102409)

0.446 $B = \begin{pmatrix} 6 & 0 & -4 \\ 0 & -3 & 0 \\ 6 & 6 & -4 \end{pmatrix}$ の固有値を求めよ.

次に, 得られた固有値の中で負の固有値に対する固有ベクトルを求めよ.

(福井大 2010) (m20102414)

0.447 座標変換によって, 曲線 $x^2 + xy + y^2 = 1$ を $\alpha X^2 + \beta Y^2 = 1$ の形 (標準系) に書き換えたい. ここでは, この変換を次の手順によって行う. 以下の問いに答えよ, 途中経過がわかるように記述しないと減点する.

(1) 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & \frac{1}{2} \\ \frac{1}{2} & 1 \end{pmatrix}$ の固有値と対応する固有ベクトルを求めよ.

(2) 2つの固有ベクトルを正規化した列ベクトル (単位長さとした列ベクトル) を \mathbf{p} と \mathbf{q} とする. \mathbf{p} と \mathbf{q} を書け. (どちらが \mathbf{p} でもよい)

(3) これらの列ベクトル \mathbf{p} と \mathbf{q} を使って, 行列 $\mathbf{P} = (\mathbf{p} \ \mathbf{q})$ を表せ.

(例: 列ベクトル $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \end{pmatrix}$, $\mathbf{b} = \begin{pmatrix} 3 \\ 4 \end{pmatrix}$ のとき $(\mathbf{a} \ \mathbf{b}) = \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 2 & 4 \end{pmatrix}$ という行列を表せる.)

(4) 行列 \mathbf{A} を $\mathbf{P}^{-1} \mathbf{A} \mathbf{P}$ によって対角化せよ. ここで, \mathbf{P}^{-1} は行列 \mathbf{P} の逆行列である.

(5) \mathbf{x} を $\mathbf{x} = \mathbf{P} \mathbf{X}$ で座標変換する. ここで, $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$, $\mathbf{X} = \begin{pmatrix} X \\ Y \end{pmatrix}$ である. さて, このとき, $\mathbf{x}^T \mathbf{A} \mathbf{x} = \mathbf{X}^T (\mathbf{P}^T \mathbf{A} \mathbf{P}) \mathbf{X}$ となることを示せ. ここで, \mathbf{x}^T は列ベクトル \mathbf{x} の転置で, \mathbf{P}^T は \mathbf{P} の転置行列である.

(6) 問題 (4) と (5) の答を使って, $\mathbf{x}^T \mathbf{A} \mathbf{x} = x^2 + xy + y^2 = 1$ を $\alpha X^2 + \beta Y^2 = 1$ の形に変換せよ. ここで, α と β は上記の座標変換の結果から決まる数値 (スカラー) である.

(福井大 2011) (m20112407)

0.448 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 2 \\ 1 & 2 & -1 \\ 0 & -1 & 1 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えよ.

(1) 行列 A の固有値を求めよ.

(2) (1) で求めた固有値の中で, 中間の値を持つ固有値に対する固有ベクトルを求めよ.

(福井大 2011) (m20112420)

0.449 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 0 & -3 & -2 \\ 0 & 0 & 4 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えよ.

(1) 行列 A の固有値を求めよ.

(2) (1) で求めた固有値の中で、最大の値を持つ固有値に対する固有ベクトルを求めよ。

(福井大 2012) (m20122421)

0.450 $A = \begin{pmatrix} 2 & 4 \\ 1 & 3 \end{pmatrix}$ について以下の問に答えよ。

- (1) 行列 A の固有多項式 $\Phi_A(x)$ を求めよ。
- (2) $\Phi_A(A) = 0$ (ケーリー・ハミルトンの定理) が成り立つことを示せ。
- (3) 上の結果を利用して、 A の逆行列を求めよ。

(福井大 2012) (m20122422)

0.451 次の行列の固有値を求め、最大の固有値に対する固有ベクトルを求めなさい。

$$\begin{pmatrix} 1 & 1 & -2 \\ 0 & -3 & 0 \\ -1 & -4 & 2 \end{pmatrix}$$

(福井大 2013) (m20132424)

0.452 次の3つの列ベクトルがある。

$$\mathbf{x}_1 = \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \\ -1 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{x}_2 = \begin{bmatrix} 2 \\ -1 \\ 2 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{x}_3 = \begin{bmatrix} 3 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix}$$

ある行列 A は3次正方行列である。この行列 A と前述のベクトルは、次の関係を満たすものとする。

$$A\mathbf{x}_1 = 2\mathbf{x}_1 + \mathbf{x}_2$$

$$A\mathbf{x}_2 = 2\mathbf{x}_2 + 2\mathbf{x}_3$$

$$A\mathbf{x}_3 = \mathbf{x}_2 + 3\mathbf{x}_3$$

ベクトル \mathbf{y} が実数 s と t によって次のように $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2, \mathbf{x}_3$ の一次結合で表される。

$$\mathbf{y} = \mathbf{x}_1 + s\mathbf{x}_2 + t\mathbf{x}_3$$

また、行列 B は $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2, \mathbf{x}_3$ からなり $B = \begin{bmatrix} 2 & 2 & 3 \\ 1 & -1 & 0 \\ -1 & 2 & 1 \end{bmatrix}$ である

以下の問に答えよ。最終の答えだけでなく途中経過も記述せよ。

- (1) 行列 B の行列式の値を求めよ。
- (2) そのベクトル \mathbf{y} が行列 A の固有ベクトルとなる時、実数 s と t を求めよ。
- (3) 行列 A とその固有ベクトル \mathbf{y} に対応する固有値を求めよ。
- (4) 行列 AB を求めよ。

(福井大 2014) (m20142410)

0.453 以下の問いに答えよ。

- (1) 下記に示す行列の固有値および固有ベクトルをすべて求めよ。ただし、固有ベクトルは正規化すること。

$$\begin{bmatrix} 4 & -2 & -2 \\ -3 & 5 & 6 \\ 4 & -4 & -5 \end{bmatrix}$$

- (2) (1) で求めた固有ベクトルが一次独立であることを示せ。

(3) (1) で与えられた行列を対角化せよ。(導出過程を示すこと)

(福井大 2014) (m20142414)

0.454 行列 $A = \begin{pmatrix} 8 & 1 \\ 4 & 5 \end{pmatrix}$ の固有値および固有ベクトルを求めよ.

(福井大 2014) (m20142418)

0.455 以下の与える行列 A ,

$$A = \begin{pmatrix} 1 & \frac{1}{2} \\ \frac{1}{2} & 1 \end{pmatrix}$$

について、次の問いに答えよ.

- (1) 行列 A の固有値及び固有ベクトルを求めよ.
- (2) 行列 A の対角行列を $\Sigma = U^{-1}AU$ とする. 行列 A を対角化する行列 U を求めよ.
- (3) 行列 U を用いて対角化した行列 A の対角行列 Σ を求めよ.

(福井大 2014) (m20142427)

0.456 次の式を行列の一次変換によって簡単な式に変換したい. 以下の問いに答えよ.

$$2x^2 + 6xy + 2y^2 = 1 \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

行列 $A = \begin{bmatrix} a_{11} & 3 \\ s & a_{22} \end{bmatrix}$ を用いると、式 $\textcircled{1}$ を次式のように表現できる.

ここで、 a_{11} , a_{22} , S は定数である.

$$1 = 2x^2 + 6xy + 2y^2 = \begin{bmatrix} x & y \end{bmatrix} A \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$$

- (1) 行列 A を求めよ.
- (2) 行列 A の固有値 λ_1 と λ_2 及びそれらに対応する単位長さの固有ベクトル \mathbf{p}_1 と \mathbf{p}_2 (いずれも列ベクトル) を求めよ. ただし、 $\lambda_1 > \lambda_2$ とする.
- (3) 列ベクトル \mathbf{p}_1 と \mathbf{p}_2 からなる行列 $P = [\mathbf{p}_1 \ \mathbf{p}_2]$ とおく. $\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} = P \begin{bmatrix} X \\ Y \end{bmatrix}$ によって式 $\textcircled{1}$ を X と Y の方程式に変換せよ.

(福井大 2015) (m20152409)

0.457 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & -1 & 1 \\ -1 & 2 & 1 \\ 0 & 0 & 3 \end{pmatrix}$ について、次の問いに答えよ.

- (1) 行列 A の固有値を求めよ.
- (2) (1) で求めた最小の固有値に対する固有ベクトルを求めよ.

(福井大 2015) (m20152422)

0.458 次の行列について、以下の問いに答えよ.

$$[A] = \begin{bmatrix} 3 & -1 \\ -1 & 3 \end{bmatrix}$$

- (1) 固有値を求めよ
- (2) 大きさが 1 となるように正規化した固有ベクトルを求めよ.

(3) (2) で求めた固有ベクトルを用いて対角化せよ.

(福井大 2016) (m20162406)

0.459 行列 $A = \begin{bmatrix} 4 & 3 \\ -2 & -1 \end{bmatrix}$ について, 次の問いに答えよ.

- (1) 行列 A の固有値を求めよ.
- (2) (1) で求めた全ての固有値に対する固有ベクトルを求めよ.

(福井大 2016) (m20162417)

0.460 次式に与えられる行列 A について, 以下の問いに答えよ. (4) 以外については計算の課程も示すこと.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 3 & 0 \\ 3 & 1 & 4 \\ 0 & 4 & 1 \end{pmatrix}$$

- (1) A の固有値を λ とし, 固有方程式を “ $(1 - \lambda)$ の多項式 $= 0$ ” の形に表せ.
- (2) A の固有値を全て求めよ. 固有方程式 “ $(1 - \lambda)$ の多項式 $= 0$ ” の左辺をどのように因数分解したのかがわかるように解答すること.
- (3) A の固有値を $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$, ($\lambda_1 < \lambda_2 < \lambda_3$) とする. 固有値 λ_n に対応する正規化 (規格化) された固有ベクトル \mathbf{u}_n を以下の形で求めよ.

$$\mathbf{u}_1 = \frac{1}{5\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 3 \\ \square \\ \square \end{pmatrix}, \quad \mathbf{u}_2 = \frac{1}{5} \begin{pmatrix} 4 \\ \square \\ \square \end{pmatrix}, \quad \mathbf{u}_3 = \frac{1}{5\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 3 \\ \square \\ \square \end{pmatrix}$$

- (4) 以下の空欄を生めよ. ただし, (あ) と (い) には数値, (う) と (お) には語句, (え) には行列が入る. なお, $\mathbf{u}_n \cdot \mathbf{u}_m$ は \mathbf{u}_n と \mathbf{u}_m の内積, tP は P の転置行列を表す. 3つの固有ベクトル \mathbf{u}_n の長さは全て \square (あ) であり, さらに $\mathbf{u}_1 \cdot \mathbf{u}_2 = \mathbf{u}_2 \cdot \mathbf{u}_3 = \mathbf{u}_3 \cdot \mathbf{u}_1 = \square$ (い) である. 従って, 行列 $P = (\mathbf{u}_1 \mathbf{u}_2 \mathbf{u}_3)$ は \square (う) 行列である. よって, tP と \square (え) の積は単位行列となる. なお, P が \square (う) 行列であるのは A が \square (お) 行列であることの必然的な結果である.
- (5) P^{-1} を求めよ.
- (6) $P^{-1}A^2P$ を求めよ.

(福井大 2016) (m20162419)

0.461 以下の行列 A に関して, 次の問いに答えなさい.

$$A = \begin{pmatrix} -1 & -1 \\ 1 & 2 \end{pmatrix}$$

- (1) 行列式を計算しなさい.
- (2) 逆行列を求めなさい.
- (3) 固有値と固有ベクトルを求めなさい.

(福井大 2016) (m20162420)

0.462 2次正方行列 $A = \begin{pmatrix} 4 & 2 \\ 2 & 4 \end{pmatrix}$ 及びベクトル $\mathbf{q}_0 = \begin{pmatrix} \sqrt{2} \\ 0 \end{pmatrix}$ を用いて以下のような漸化式を定義する.

このとき, 以下の設問に答えよ.

$$\mathbf{q}_{n+1} = A\mathbf{q}_n \quad (n \text{ は整数})$$

- (1) \mathbf{q}_n を求めよ.
- (2) $\varepsilon_n = \frac{{}^T\mathbf{q}_n A \mathbf{q}_n}{{}^T\mathbf{q}_n \mathbf{q}_n}$ 及び $\mathbf{p}_n = \frac{\mathbf{q}_n}{|\mathbf{q}_n|}$ とするとき, ε_n 及び \mathbf{p}_n を求めよ. ここで, ${}^T\mathbf{q}_n$ は \mathbf{q}_n を転置したベクトルである.
- (3) $\lim_{n \rightarrow \infty} \varepsilon_n$ 及び $\lim_{n \rightarrow \infty} \mathbf{p}_n$ を求めよ.

(福井大 2018) (m20182406)

0.463 (1) 行列

$$A = \begin{pmatrix} 3 & 2 & 1 \\ 2 & 3 & 1 \\ 1 & 1 & 4 \end{pmatrix}$$

は 3 個の固有値 $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ を持つ. ただし, $\lambda_1 \geq \lambda_2 \geq \lambda_3$ とする. $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ を求めよ.

- (2) (1) で求めた固有値 $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ に対応する固有ベクトル $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3$ を求めよ.
- (3) (2) で求めた固有ベクトル $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3$ をそれぞれ 1 列目, 2 列目, 3 列目に持つ行列を P とする. P の逆行列 P^{-1} を求めよ.

(福井大 2018) (m20182422)

0.464 次の行列の固有値と固有ベクトルを求めよ.

$$\begin{pmatrix} -2 & -1 \\ 4 & 3 \end{pmatrix}$$

(福井大 2018) (m20182432)

0.465 行列 A , ベクトル \mathbf{b} に関して以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} -1 & 2 & 0 \\ 2 & 1 & 2 \\ 0 & 2 & -1 \end{pmatrix} \quad \mathbf{b} = \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

- (1) A の固有値 $\alpha_1, \alpha_2, \alpha_3$ 及び対応する固有ベクトル $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3$ を求めよ. 固有値は $\alpha_1 < \alpha_2 < \alpha_3$ とし, 固有ベクトルは大きさを 1 にせよ.
- (2) \mathbf{b} を A の固有ベクトルの線形結合で表せ.
- (3) $A^n \mathbf{b}$ ($n = 1, 2, \dots$) を求めよ.

(福井大 2020) (m20202408)

0.466 以下の行列 B を考える. B の固有値の 1 つは 3 である. この固有値に対する固有ベクトルを 1 つ求めよ. ただし, 固有ベクトルを規格化する必要はない. 考え方と計算過程を明記すること.

$$B = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 1 & 2 & 0 \\ 3 & 1 & 1 \end{pmatrix}$$

(福井大 2020) (m20202420)

0.467 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 0 & -3 & -2 \\ 0 & 0 & 4 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えよ.

- (1) 行列 A の固有値を求めよ.
- (2) (1) で求めた固有値の中で, 最小の値を持つ固有値に対する固有ベクトルを求めよ.

0.468 $A = \begin{pmatrix} 2 & \alpha \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$ について以下の間に答えよ.

- (1) 行列 A の固有多項式 $\Phi_A(x)$ を求めよ.
- (2) $\Phi_A(A) = 0$ (ケーリー・ハミルトンの定理) が成り立つことを示せ.
- (3) 上の結果を利用して, A^n を求めよ.

(福井大 2020) (m20202430)

0.469 以下に示す行列の行列式及び固有値を求めよ.

$$(1) \begin{pmatrix} 4 & 5 & 0 \\ 5 & 4 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \quad (2) \begin{pmatrix} 0 & 3 & -1 \\ -1 & 2 & 1 \\ -3 & 3 & 2 \end{pmatrix}$$

(福井大 2021) (m20212406)

0.470 以下の行列を対角化せよ.

$$\begin{pmatrix} -2 & -1 & 1 \\ -1 & 4 & 0 \\ -3 & 3 & 1 \end{pmatrix}$$

(福井大 2021) (m20212407)

0.471 正方行列 A がある. ベクトル φ が行列 A の固有値 λ に属する固有ベクトルである ($A\varphi = \lambda\varphi$) とき, 以下の問いに答えよ. ただし, I は A と同じ次数の単位行列とする.

- (1) ベクトル $-\varphi$ も行列 A の固有値 λ に属する固有ベクトルであることを示せ.
- (2) ベクトル φ は行列 $A + I$ の固有値 $\lambda + 1$ に属する固有ベクトルであることを示せ.
- (3) ベクトル φ は行列 A^2 の固有値 λ^2 に属する固有ベクトルであることを示せ.

(福井大 2021) (m20212413)

0.472 以下の行列 A , およびベクトル \mathbf{u} , \mathbf{v} を考える. a を実数とし, 以下に答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} a & 1 & 1 \\ 1 & -2 & 1 \\ 1 & 1 & -2 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{u} = \begin{pmatrix} 0 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{v} = \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

- (1) $A\mathbf{u}$ を計算することにより, \mathbf{u} は a の値によらず A の固有ベクトルであることを示せ. また 固有ベクトル \mathbf{u} に対する固有値を求めよ.
(注) 固有方程式を使う必要はない.
- (2) ベクトル \mathbf{v} が A の固有ベクトルとなるように, a の値を定めよ. また, そのときの固有値 (固有ベクトル \mathbf{v} に対する固有値) を求めよ.
(注) 固有方程式を使う必要はない.
- (3) $a = 0$ のとき, A の固有値を全て求めよ.

(福井大 2021) (m20212416)

0.473 $A = \begin{bmatrix} 1 & 2 & 2 \\ 0 & 2 & 1 \\ -1 & 2 & 2 \end{bmatrix}$ について, 次の間に答えよ.

- (1) 行列 A の固有値を求めよ。
 (2) (1) で求めた固有値の中で、最小の値を持つ固有値に対する固有ベクトルを求めよ。

(福井大 2021) (m20212425)

0.474 $A = \begin{bmatrix} -1 & 2 & -1 \\ 2 & 3 & -3 \\ 2 & 1 & -1 \end{bmatrix}$ について、以下の問に答えよ。

- (1) 行列 A の固有多項式 $\Phi_A(x)$ を求めよ。
 (2) $\Phi_A(A) = 0$ (ケーリー・ハミルトンの定理) が成り立つことを示せ。

(福井大 2021) (m20212426)

0.475 行列 $A = \begin{bmatrix} 1 & 0 & -1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 2 & 2 & 3 \end{bmatrix}$ について、次の問に答えよ。

- (1) 行列 A の固有値を求めよ。
 (2) (1) で求めた固有値の中で、最小の値を持つ固有値に対する固有ベクトルを求めよ。

(福井大 2022) (m20222408)

0.476 $A = \begin{bmatrix} 2 & 1 & -1 \\ 6 & 1 & 2 \\ -2 & 1 & 2 \end{bmatrix}$ について 以下の問に答えよ。

- (1) 行列 A の固有多項式 $\Phi_A(x)$ を求めよ。
 (2) $\Phi_A(A) = 0$ (ケーリー・ハミルトンの定理) が成り立つことを示せ。

(福井大 2022) (m20222409)

0.477 3次元ベクトル \mathbf{x}_n ($n = 0, 1, 2, \dots$) に関する数列を以下のように定義する。

$$\mathbf{x}_{n+1} = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \end{pmatrix} \mathbf{x}_n, \quad \mathbf{x}_0 = \begin{pmatrix} 2 \\ 2 \\ -1 \end{pmatrix}$$

- (1) 行列 $\mathbf{A} = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \end{pmatrix}$ の固有値をすべて求めよ。
 (2) $\mathbf{x}_n = \mathbf{A}^n \mathbf{x}_0$ を用いて、 \mathbf{x}_n を求めよ。

(福井大 2022) (m20222417)

0.478 以下の行列 \mathbf{S} に関する問いに答えよ。ただし、 θ は実数である。

$$\mathbf{S} = \begin{pmatrix} 0 & \theta \\ \theta & 0 \end{pmatrix}$$

- (1) 行列 \mathbf{S} を対角化せよ。
 (2) n を自然数とし、 \mathbf{S}^n を求めよ。
 (3) 行列 \mathbf{S} 及び実数 x を用いた指数関数はそれぞれ以下の式で定義される。
 $\exp(\mathbf{S})$ を計算せよ。

$$\exp(\mathbf{S}) = \sum_{n=0}^{\infty} \frac{\mathbf{S}^n}{n!} \quad e^x = \sum_{n=0}^{\infty} \frac{x^n}{n!}$$

0.479 以下の問いに答えよ. ただし, $\mathbf{0}$ は n 次元ゼロベクトルを表し, \mathbf{v}^\top はベクトル \mathbf{v} の転置を表す.

(1) 次の行列 A_1, A_2 の行列式をそれぞれ求めよ.

$$A_1 = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 0 & 2 & -2 \\ 1 & 0 & 2 \end{bmatrix} \quad A_2 = \begin{bmatrix} 0 & 1 & 1 & 0 \\ 0 & 2 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 2 & 3 \\ 0 & 1 & 3 & 0 \end{bmatrix}$$

(2) 問(1)の A_1 を係数行列とする以下の連立一次方程式の解 $\begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{bmatrix}$ を求めよ. ただし, x_1, x_2, x_3 は実数とする.

$$\begin{bmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 0 & 2 & -2 \\ 1 & 0 & 2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 8 \\ 0 \\ 8 \end{bmatrix}$$

(3) $\mathbf{u} \neq \mathbf{0}$ を満たす n 次元実ベクトル \mathbf{u} , および n 次の実対称行列 A_3 を用いて

$$f(\mathbf{u}) = \frac{\mathbf{u}^\top A_3 \mathbf{u}}{\mathbf{u}^\top \mathbf{u}}$$

とおく. このとき, $f(\mathbf{u})$ の最大値は A_3 の最大固有値に一致し, そのときの \mathbf{u} は A_3 の最大固有値に対応する固有ベクトルであることが知られている. A_3 が次の行列であるとき, この事実を使って $f(\mathbf{u})$ の最大値, および対応する \mathbf{u} をひとつ求めよ.

$$A_3 = \begin{bmatrix} 3 & 1 & 0 \\ 1 & 3 & 0 \\ 0 & 0 & 9 \end{bmatrix}$$

(4) $\mathbf{c} \neq \mathbf{0}$ を満たす n 次元実ベクトル \mathbf{c} に対し, 行列 A_4 を次のように定める.

$$A_4 = \mathbf{c}\mathbf{c}^\top$$

このとき, \mathbf{c} は A_4 の固有ベクトルであることを示せ. また, \mathbf{c} に対応する固有値を求めよ.

(福井大 2022) (m20222425)

0.480 (1) 点 $P(x, y)$ を点 $A(a, b)$ を中心として反時計回りに角 θ だけ回転したとき, 移動後の点 $Q(x', y')$ を行列で表せ. また, 点 P が $(2, 1)$, 点 A が $(3, 2)$ であったときに 30° 回転したときの点 Q を求めよ.

(2) 3次元直交座標系(原点を O)において, 任意の点 (x, y, z) を x 軸周りに角 θ だけ回転させる行列 \mathbf{R} を表せ. また, 固有値を求めよ.

(福井大 2022) (m20222426)

0.481 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \end{pmatrix}$ の固有値および対応する固有ベクトルを求めよ. また, 直交行列を用いて A を対角化せよ.

(静岡大 2004) (m20042506)

0.482 (1) ベクトルの組 a_1, a_2, \dots, a_n が 1 次独立であることの定義を述べよ.

(2) 次のベクトルの中から 1 次独立なベクトルの組を選び, 残りをそれらの 1 次結合で表せ.

$$a_1 = \begin{pmatrix} 2 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix}, a_2 = \begin{pmatrix} -4 \\ 2 \\ -2 \end{pmatrix}, a_3 = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ -2 \end{pmatrix}, a_4 = \begin{pmatrix} 4 \\ -5 \\ 7 \end{pmatrix}$$

(3) 行列 $\begin{pmatrix} 0 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \end{pmatrix}$ の固有値と対応する固有ベクトルを求めよ.

(静岡大 2005) (m20052503)

0.483 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & 2 \end{pmatrix}$ とする. 次の問に答えなさい.

(1) 行列 A の逆行列 A^{-1} を求めなさい.

(2) 行列 A の固有値を求めなさい.

(静岡大 2006) (m20062512)

0.484 次の行列は対角化できるか調べよ. $\begin{pmatrix} 3 & 2 & 4 \\ 1 & 1 & 3 \\ 1 & 3 & 1 \end{pmatrix}$

(静岡大 2008) (m20082510)

0.485 行列 $A = \begin{pmatrix} 7 & 1 & -2 \\ 1 & 7 & -2 \\ -2 & -2 & 10 \end{pmatrix}$ の固有値とその固有値に対する固有空間を求めよ.

(静岡大 2009) (m20092502)

0.486 行列 $A = \begin{pmatrix} -1 & 2 \\ 2 & 2 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えよ.

(1) A の固有値および固有ベクトルを求めよ.

(2) A を直交行列で対角化せよ.

(3) n を自然数とすると, A^n を求めよ.

(静岡大 2010) (m20102504)

0.487 次の行列 A を対角化せよ. なお, A を対角化する正則行列 P も明記すること.

$$A = \begin{pmatrix} 3 & 2 & -2 \\ -2 & -1 & 2 \\ 2 & 2 & -1 \end{pmatrix}$$

(静岡大 2011) (m20112504)

0.488 行列 $A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 0 \end{pmatrix}$ の固有値および対応する固有空間を求めよ. さらに, 直交行列を用いて A を対角化できるならば直交行列を求め対角化せよ. できないならばその理由を述べよ.

(静岡大 2012) (m20122506)

0.489 (1) 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & -2 & 0 \\ -2 & 2 & -2 \\ 0 & -2 & 3 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(2) (1) の行列 A を直交行列を用いて対角化せよ. このとき, 用いた直交行列も明記せよ.

(3) 2次曲面の方程式 $x^2 + 2y^2 + 3z^2 - 4xy - 4yz = 1$ を標準形に変えよ.

(静岡大 2013) (m20132502)

0.490 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 \end{pmatrix}$ に対して、以下の問いに答えなさい。

- (1) ランク (階数) を求めなさい。
- (2) 固有値をすべて求めなさい。また、そのうち 0 でない固有値に対応する固有ベクトルを求めなさい。

(静岡大 2013) (m20132510)

0.491 $A = \begin{pmatrix} 4 & 1 & 0 \\ 6 & 0 & 2 \\ 0 & 3 & 4 \end{pmatrix}$ とするとき、 A の固有値と固有ベクトルを求めよ。

(静岡大 2015) (m20152504)

0.492 行列 $A = \begin{bmatrix} 5 & 4 \\ 1 & 2 \end{bmatrix}$ の行列式の値、固有値および固有ベクトルを求めよ。

(岐阜大 2001) (m20012611)

0.493 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 1 \end{pmatrix}$ に対して $P^{-1}AP = D$ が成立するような正則行列 P および対角行列 D を求めよ。

(岐阜大 2003) (m20032607)

0.494 方程式 $x_1^2 + 2x_1x_2 + 3x_2^2 = 1$ によって表される R^2 内の図形を次のやり方にしたがって求めよ。

- (1) 方程式 $x_1^2 + 2x_1x_2 + 3x_2^2 = (x_1, x_2)A \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix}$ となる対称行列 A を求めよ。
- (2) A のすべての固有値と対応する固有ベクトルを求めよ。
- (3) 2 次の直交行列 P を使って、 PAP^T が対角行列 (Λ とする) となるようにしたい。ただし、 T は、転置行列を表す。直交行列 P とこの対角行列 Λ を求めよ。
- (4) $\begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \end{pmatrix} = P \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix}$ によって座標変換を行ない、 (y_1, y_2) 座標で先の方方程式で表される図形の概形を描きなさい。
- (5) (4) の図形の中に、 (x_1, x_2) 座標の座標軸を書き入れなさい。

(岐阜大 2005) (m20052613)

0.495 行列 A を対角化せよ。

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 2 \end{pmatrix}$$

(岐阜大 2005) (m20052615)

0.496 次の 3 つの行列について、以下の問いに答えよ。

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 3 \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ -2 & 1 & -2 \\ -3 & 2 & 1 \end{pmatrix}, \quad C = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 1 & 2 \\ 2 & 1 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & -1 & -1 \\ -1 & -1 & 1 & 1 \end{pmatrix}$$

- (1) 行列式 $\det A$, $\det B$, $\det C$ を求めよ。
- (2) 行列 A のすべての固有値、および、各固有値に対応する固有ベクトルを求めよ。

(3) 行列 C の階数 (rank C) を求めよ.

(岐阜大 2006) (m20062613)

0.497 行列 $\begin{bmatrix} 3 & -2 & 1 \\ -2 & 3 & -1 \\ 1 & -1 & 4 \end{bmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めよ.

ただし, 固有ベクトルは単位ベクトルとして表記せよ.

(岐阜大 2007) (m20072610)

0.498 次の行列 A に対して以下の問いに答えよ. $A = \begin{pmatrix} 2 & 0 \\ 3 & 1 \end{pmatrix}$

(1) A の二つの固有値とそれぞれに対応する固有ベクトルを求めよ.

(2) A を対角化する行列 P , つまり, $P^{-1}AP$ が対角行列になるような P を求めよ.

(3) 次の連立微分方程式を解け. $\frac{d}{dt} \begin{pmatrix} x_1(t) \\ x_2(t) \end{pmatrix} = A \begin{pmatrix} x_1(t) \\ x_2(t) \end{pmatrix}, \quad x_1(0) = 1, x_2(0) = 2$

(岐阜大 2007) (m20072612)

0.499 次の行列の固有値および固有ベクトルを求めよ. $\begin{pmatrix} 1 & -1 & 0 \\ -1 & 2 & -1 \\ 0 & -1 & 1 \end{pmatrix}$

(岐阜大 2007) (m20072622)

0.500 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 2 & 3 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(岐阜大 2007) (m20072625)

0.501 次の 2 行 2 列の行列 $A = \begin{pmatrix} 4 & 1 \\ -2 & 1 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えよ.

(1) この行列 A の固有値 λ を求めよ.

(2) 上記 (1) の固有値 λ に対応する固有ベクトル \mathbf{X} を求めよ.

(岐阜大 2008) (m20082601)

0.502 行列 $A = \begin{pmatrix} -1 & 1 \\ -3 & 2 \end{pmatrix}$ がある. 以下の問いに答えよ.

(1) この行列の 2 つの固有値 λ_1 と λ_2 を求めよ.

(2) A^{100} を求めよ.

(岐阜大 2008) (m20082604)

0.503 次の 3 次行列 A について (1)~(3) に答えなさい.

$$A = \begin{pmatrix} 2 & -1 & 1 \\ -1 & 1 & -1 \\ 2 & 1 & -1 \end{pmatrix}$$

(1) A の固有値を求めなさい.

(2) A の各固有値に対応する固有ベクトルを求めなさい.

(3) A を対角化する正則行列 P と $P^{-1}AP$ を求めなさい.

0.504 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & -2 & 1 \\ -2 & 1 & -1 \\ 0 & -1 & 3 \end{pmatrix}$ がある.

- (1) $|A|$ の値を求めよ. (2) A の逆行列を求めよ.
 (3) A の固有値を求めよ. (4) A の固有ベクトルを求めよ.

(岐阜大 2008) (m20082610)

0.505 次の行列の固有値と固有ベクトルを求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 1 & 0 & -1 & -2 \\ 0 & 0 & 5 & 0 \\ 0 & 0 & 9 & 5 \end{pmatrix}$$

(岐阜大 2008) (m20082617)

0.506 2行2列の行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 0 \\ 5 & 3 \end{pmatrix}$ に対し, $P^{-1}AP = \begin{pmatrix} a & 0 \\ 0 & b \end{pmatrix}$ となるような2行2列の正則行列 P と a, b の組を1つ求めよ.

(岐阜大 2009) (m20092602)

0.507 3次正方行列 A の固有値が $1, 2, 3$ であるとき, 次の行列の固有値を求めよ. ただし, E は3次単位行列とする.

- (1) $3A$ (1) $E - A$ (1) A^{-1}

(岐阜大 2009) (m20092605)

0.508 (1) 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 & 0 \\ 1 & 1 & -1 \\ 1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めよ.

- (2) 行列 $B = A^2 - 4A - 4E$ とするとき, 行列の積 BA が零行列になることを示せ. ただし, E は3次の単位行列とする.
 (3) xyz 空間の点 $P = (x, y, z)$ から, XYZ 空間の点 $Q = (X, Y, Z)$ への一次変換 T を行列 A を用いて次のように定める.

$$T : \begin{pmatrix} X \\ Y \\ Z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 & 1 & 0 \\ 1 & 1 & -1 \\ 1 & 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$$

xyz 空間上の任意の点 P は, 変換 T によって XYZ 空間内の同一の平面 H 上の点 Q にうつる. その平面 H の方程式を求めよ.

(岐阜大 2010) (m20102603)

0.509 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 3 & -2 \\ 1 & 2 & -1 \\ 1 & 3 & -2 \end{pmatrix}$ およびベクトル $\mathbf{b} = \begin{pmatrix} 3 \\ 3 \\ 7 \end{pmatrix}$ に対し, 以下の間に答えよ.

- (1) A の固有値, 固有ベクトルを求めよ.
 (2) \mathbf{b} を A の固有ベクトルの線形結合で表せ.
 (3) $A^5\mathbf{b}$ を求めよ.

(岐阜大 2011) (m20112604)

0.510 次の行列 A の固有値, 固有ベクトルを求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} 3 & -1 & 0 \\ -1 & 3 & 0 \\ 5 & -1 & 2 \end{pmatrix}$$

(岐阜大 2012) (m20122604)

0.511 (1) 次の行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 4 & -4 \\ 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \end{pmatrix}$$

(2) $P^{-1}AP$ が対角行列になるような行列 P を 1 つ求めよ.

(3) 数列 $\{a_n\}$ を $a_1 = 1, a_2 = 5, a_3 = 1,$

$$a_{n+3} = a_{n+2} + 4a_{n+1} - 4a_n \quad (n \geq 1)$$

で定義する. このとき

$$\begin{pmatrix} a_{n+3} \\ a_{n+2} \\ a_{n+1} \end{pmatrix} = B \begin{pmatrix} a_{n+2} \\ a_{n+1} \\ a_n \end{pmatrix}$$

を満たす 3 次正方行列 B を求めよ.

(4) 一般項 a_n を求めよ.

(岐阜大 2014) (m20142602)

0.512 α を実数とする. 正方行列

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & \alpha & 0 \\ 1 & 3 & 1 & 0 \\ 1 & 4 & 4 & \alpha \\ 1 & 2 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

に対して以下の間に答えよ.

(1) A の行列式 $|A|$ の値を求めよ.

(2) 行列 A が固有値 1 をもつような α の値を求めよ.

(3) A が正則にならないような α の値を求めよ. また, そのときの A の階数 (ランク) を求めよ.

(岐阜大 2015) (m20152602)

0.513 A を対角化可能な n 次行列, $\alpha \neq 0$ を実数とする. このとき $(n+1)$ 次行列

$$B = \begin{pmatrix} \alpha & 0 \\ 0 & A \end{pmatrix}$$

も対角化可能であることを示せ. なお, 上式の右辺において右上の 0 と左下の 0 はそれぞれ行零ベクトル, 列零ベクトルを表す.

(岐阜大 2020) (m20202604)

0.514 成分が 0, 1, -1 のどれかからなる 2 次行列を考える. 以下の間に答えよ.

(1) $N = \begin{pmatrix} 1 & -1 \\ 1 & -1 \end{pmatrix}$ とする.

[ア] N の行列式を求めよ.

[イ] N の固有値を求めよ.

[ウ] ある自然数 k に対して, $A^k = O$ となるような行列 A を冪零 (べきれい) 行列という.
 N が冪零行列であることを示せ.

(2) 成分が $0, 1, -1$ のどれかからなる 2 次行列で, 以下の [い]~[り] であるものを, それぞれ一つずつ挙げよ. ただし, 同じものを二度挙げてはならない.

[い] 零行列 [ろ] 単位行列 [は] 直交行列 [に] 対称行列 [ほ] 対角行列 [へ] 上三角行列
 [と] 下三角行列 [ち] 固有値がただ一つの行列 [り] 固有値が純虚数である行列

(3) $M = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}$ とする. M が対角化できないことを示せ.

(4) $L = \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$ とする. 任意のベクトル $\vec{x} \neq \vec{0}$ に対して,

$${}^t \vec{x} A \vec{x} = (\vec{x}, A \vec{x}) > 0$$

を満たすような行列 A を正定値行列という. L が正定値行列であることを示せ.

(岐阜大 2020) (m20202605)

0.515

$$A = \begin{pmatrix} 1-a & a & 0 \\ -a+b & 1+a-b & b \\ b & -b & 1+b \end{pmatrix}$$

とする. ただし, a, b は実数とする.

(1) $\det A$ を求めよ.

(2) ベクトル $\mathbf{v} = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$ は, A の固有ベクトルであることを示せ.

(3) A の固有値と固有ベクトルをすべて求めよ.

(4) A が対角化可能となる a, b の値をすべて求めよ.

(岐阜大 2022) (m20222601)

0.516 式 (イ), (ロ), (ハ) に関して各問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 3 & \sqrt{3} \\ \sqrt{3} & 5 \end{pmatrix} \quad (\text{イ})$$

$$\begin{pmatrix} 3 & \sqrt{3} \\ \sqrt{3} & 5 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = \lambda \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \quad (\text{ロ})$$

$$z = 3x^2 + 2\sqrt{3}xy + 5y^2 - 4\sqrt{3}x + 4y \quad (\text{ハ})$$

(1) 式 (イ) の A の行列式を求めよ.

(2) 式 (ロ) の固有値 λ を求めよ.

(3) 式 (ロ) の固有ベクトル $\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ を求めよ.

- (4) x, y, z で表される 2 次曲面 (ハ) を x, y, z に関して座標変換し, 標準形で表せ. 標準形とは, 楕円面, 一葉双曲面, 二葉双曲面, 楕円放物面, 二次すい面を指す.

(豊橋技科大 1999) (m19992708)

- 0.517 次の対称行列 A の固有値, 固有ベクトルを求めよ. また, A を直交変換によって対角行列になおす直交行列を求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 1 \end{pmatrix}$$

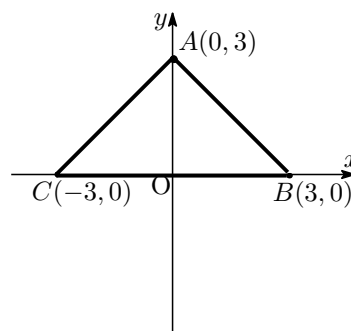
(豊橋技科大 2000) (m20002708)

- 0.518 行列 F によって点 (x, y) を点 (x', y') に移す次の 1 次変換

$$\begin{pmatrix} x' \\ y' \end{pmatrix} = F \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$$

がある. この 1 次変換が, 点 $(2, -1)$ を点 $(4, 4)$ に, 点 $(-1, 3)$ を点 $(-2, -7)$ にそれぞれ移すとき, 以下の各問いに答えよ.

- (1) 行列 F を求めよ.
- (2) 行列 F の固有値および固有ベクトルを求めよ.
- (3) 下図の点 A, B, C に対して, 行列 F による 1 次変換を n 回行って移る点をそれぞれ A_n, B_n, C_n とする.
 $n = 1$ および $n = 2$ のとき, 三角形 $A_1B_1C_1$ と三角形 $A_2B_2C_2$ を各頂点の座標を入れて図示せよ.



- (4) 三角形 $A_nB_nC_n$ の面積を S_n とするとき, S_n を n を用いて表せ.

(豊橋技科大 2004) (m20042707)

- 0.519 次の行列について, 以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & -2 \\ 3 & a & a \\ 0 & a & a \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 3 & 2 \\ 0 & 2 & 6 \end{pmatrix}$$

- (1) 行列式 $|A| = 6$ のとき, a の値を求めよ.
- (2) $a = 1$ のとき, A の転置行列 tA と B の積 ${}^tA \cdot B$ を求めよ.
- (3) B の逆行列 B^{-1} を求めよ.
- (4) B の固有値をすべて求めよ.
- (5) (4) で求めた固有値のうち最大のものに対する固有ベクトルを求めよ. ただし, 固有ベクトルは単位ベクトルとする.

(豊橋技科大 2007) (m20072701)

- 0.520 行列 $A = \begin{pmatrix} 8 & 3 \\ -18 & -7 \end{pmatrix}$ について, 以下の問いに答えよ.

- (1) 行列 A の固有値 λ_1, λ_2 を求めよ, ただし, $\lambda_1 > \lambda_2$ とせよ.
- (2) 各固有値 λ_1, λ_2 に対する固有ベクトルをそれぞれ $\mathbf{x}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ a \end{pmatrix}$, $\mathbf{x}_2 = \begin{pmatrix} 1 \\ b \end{pmatrix}$ とするとき, a と b を求めよ.

(3) (2) で求めた固有ベクトル $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2$ を用いて, 行列 $\mathbf{P} = \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ a & b \end{pmatrix}$ を定義する. このとき,

$$\mathbf{PQ} = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \text{ となる行列 } \mathbf{Q} \text{ を求めよ.}$$

(4) 行列 \mathbf{QAP} を求めよ.

(5) 自然数 n に対して, $\mathbf{QA}^n\mathbf{P}$ を求めよ.

(豊橋技科大 2008) (m20082702)

0.521 n 行 n 列の行列 B の第 i, j 成分 b_{ij} が $b_{ij} = \frac{w_i}{w_j}$ ($i, j = 1, 2, \dots, n$) のように与えられるとき, この行列 B は唯一の固有値を持つ. それでは, $n = 3$, $(w_1, w_2, w_3) = (3, 2, 1)$ のときの B の固有値を求めよ.

(豊橋技科大 2011) (m20112704)

0.522 行列要素がすべて実数である正方行列 A に, 0 ではない実数である一つの固有値 μ があるとする. 一つの固有値には少なくとも一つの固有ベクトルがある. そこで, ベクトル \mathbf{y} を固有値 μ に対応する固有ベクトルとする. 任意のベクトル \mathbf{x} において, ベクトルの各成分をそれに共役な複素数に置き換えて得られるベクトルを \mathbf{x}^* と表すことにする. ベクトル \mathbf{y}^* は固有値 μ に対応する固有ベクトルであることを示せ. さらに, 固有値 μ に対応する固有ベクトルで, ベクトルの成分がすべて実数であるベクトルが少なくとも一つはあることを示せ.

(豊橋技科大 2012) (m20122703)

0.523 $A = \begin{pmatrix} \cos \theta & \sin \theta \\ \sin \theta & -\cos \theta \end{pmatrix}$, $\mathbf{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix}$, $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix}$ とする. 以下の問いに答えよ.

(1) 逆行列 A^{-1} を求めよ.

(2) $A\mathbf{x} = \mathbf{b}$ を満足するベクトル \mathbf{x} の大きさ (長さ) $|\mathbf{x}|$ を求めよ.

(3) A の固有値 λ_1 と λ_2 を求めよ. ただし, $\lambda_1 \leq \lambda_2$ とする.

(4) n を正の整数 ($n = 1, 2, 3, \dots$) とするとき, A^n を求めよ.

(豊橋技科大 2013) (m20132705)

0.524 次の行列 A, B に関して, 以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 2 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}, \quad B = \begin{bmatrix} 1 & -1 & 0 \\ -1 & 2 & -1 \\ 0 & -1 & 1 \end{bmatrix}$$

(1) 行列 A の逆行列を求めよ.

(2) 行列 B の最小固有値およびそれに対応する長さ 1 の固有ベクトルを求めよ.

(3) 行列 B^2 の固有値をすべて求めよ.

(4) 行列 B^5 の固有値をすべて求めよ.

(豊橋技科大 2015) (m20152702)

0.525 次の行列 A, B に関して, 次の問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 0 & 3 \\ 1 & 0 & 1 \\ -1 & 1 & -1 \end{pmatrix} \quad B = \begin{pmatrix} 1 & a & -1 \\ 2 & -2 & 2 \\ b & 2 & 1 \end{pmatrix}$$

- (1) 逆行列 A^{-1} を求めよ.
- (2) 行列 B が対称行列であるとき, 定数 a, b を求めよ.
- (3) (2) のとき, 行列 B の固有値をすべて求めよ.

(豊橋技科大 2017) (m20172702)

0.526 (1) 行列 $\begin{pmatrix} 4 & -6 & 2 & 3 \\ 0 & 2 & 0 & 4 \\ -4 & 7 & 0 & 4 \\ 0 & 5 & 0 & 6 \end{pmatrix}$ の行列式を求めよ.

(2) 行列 $\begin{pmatrix} 2 & 3 & 1 \\ 3 & 2 & 1 \\ 2 & 2 & 1 \end{pmatrix}$ の逆行列を求めよ.

(3) 行列 $\begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 2 & 2 \\ 2 & 2 & 2 \end{pmatrix}$ の固有値を全て求めよ. また, 最も小さい固有値に対応する大きさ 1 の固有ベクトルを求めよ.

(豊橋技科大 2018) (m20182703)

0.527 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & -1 \\ 2 & -2 & 2 \\ -1 & 2 & 1 \end{pmatrix}$, $\mathbf{v} = \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ 1 \end{pmatrix}$ とする. 以下の問いに答えよ.

- (1) ベクトル \mathbf{v} は行列 A の固有ベクトルであることを示せ. また, \mathbf{v} に対応する A の固有値を求めよ.
- (2) 3次元空間内のある平面 α を考え, その上の任意の点 P を (x, y, z) とする. この α がベクトル \mathbf{v} に垂直で, かつ 3次元空間の原点を通るとき, この平面 α を表す式を, x, y, z を用いて求めよ.
- (3) ベクトル $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$ に対して, 線形変換 f を $f(\mathbf{x}) = A\mathbf{x}$ で与える. このとき, (2) で求めた平面 α 上の任意の点 Q を f によって移動した点 Q' も平面 α 上の点となることを示せ.

(豊橋技科大 2022) (m20222701)

0.528 $A = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ -2 & 3 \end{pmatrix}$, $E = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$ とする. 以下の問いに答えよ.

- (1) 行列 A の固有値 λ_1, λ_2 ($\lambda_1 < \lambda_2$) を求めよ.
- (2) 任意の自然数 n に対して, $A^{n+1} = 3A^n - 2A^{n-1}$ が成り立つことを示せ. ただし, $A^0 = E$ とする.
- (3) 実数列 $\{a_n\}, \{b_n\}, \{c_n\}, \{d_n\}$ を

$$A^{n+1} - \lambda_1 A^n = a_n A + b_n E, \quad A^{n+1} - \lambda_2 A^n = c_n A + d_n E \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

により定める. ただし, λ_1, λ_2 を (1) で求めた A の固有値とする. このとき, $\{a_n\}, \{b_n\}, \{c_n\}, \{d_n\}$ の一般項をそれぞれ求めよ.

- (4) A^n を求めよ. ただし, n は自然数とする.

(豊橋技科大 2023) (m20232701)

0.529 未知関数 $x(t)$, $y(t)$ に関する次の連立微分方程式 (E) を考える.

$$(E) \quad \begin{pmatrix} dx/dt \\ dy/dt \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$$

- (1) 行列 $\begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 1 \end{pmatrix}$ の固有値, 固有ベクトルを求めよ.
- (2) 連立微分方程式 (E) を解け.

(名古屋大 1999) (m19992803)

0.530 行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & 1 \\ 2 & 4 \end{pmatrix}$ について次の問いに答えよ.

- (1) A を適当な正則行列 P によって対角化せよ.
- (2) A^n を求めよ (ただし, n は正整数とする).
- (3) A によって1次変換 $f: \begin{cases} x' = 3x + y \\ y' = 2x + 4y \end{cases}$ を定める.
 f は任意の直線を直線に, 平行な直線を平行な直線に移すことを証明せよ.
- (4) 頂点が $\begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}$ である正方形の写像 f による像を Z とする. Z の面積を求めよ.

(名古屋大 2003) (m20032802)

0.531 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 0 & 2 & 3 \\ 0 & 0 & 3 \end{pmatrix}$ について次の問いに答えよ.

- (1) A の逆行列を求めよ.
- (2) A の固有値と対応する固有ベクトルを求めよ. ただし, 固有ベクトルは正規化したもの (大きさが1のもの) を示せ.
- (3) A を対称行列と交代行列の和で表せ. なお, 行列 X の転置行列を X^t としたとき, $X^t = X$ を満たすものを対称行列, $X^t = -X$ を満たすものを交代行列という.

(名古屋大 2004) (m20042803)

0.532 行列 $A = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 2 \\ 1 & 0 & -1 \\ 1 & -1 & 0 \end{bmatrix}$ とベクトル $\mathbf{b} = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{bmatrix}$, $\mathbf{x} = \begin{bmatrix} x \\ y \\ z \end{bmatrix}$ について, 以下の問いに答えよ.

- (1) $A\mathbf{x} = \mathbf{b}$ を解いて, \mathbf{x} を求めよ.
- (2) 行列 A の3つの固有値 $\lambda_1 > \lambda_2 > \lambda_3$ と, 対応する固有ベクトル $\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2, \mathbf{p}_3$ を求めよ. ただし, 固有ベクトルは, 第3成分が1となるようにして示せ.
- (3) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような正則行列 P を求めよ. そして, $P^{-1}A^nP$ を求めよ.

(名古屋大 2005) (m20052801)

0.533 $A = \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ 1 & 0 \end{bmatrix}$ とする.

- (1) A の2つの固有値 α, β ($\alpha > \beta$) を求めよ.
 また, 対応する固有ベクトルを $\begin{bmatrix} z \\ 1 \end{bmatrix}$ の形で求めよ (z の値のみで良い).

(2) $P^{-1}AP$ が対角行列となる行列 P を求めよ. また, $P^{-1}AP$ も求めよ.

(3) $\gamma_n = \alpha^n - \beta^n$ とする. A^n を $\gamma_{n-1}, \gamma_n, \gamma_{n+1}$ で表せ.

(名古屋大 2006) (m20062801)

0.534 赤, 黄, 青のランプがあり, 各時刻において, いずれか一つのランプが点灯する. 時刻 t に, 赤のランプが点灯しているとき, 時刻 $t+1$ には, 赤が 0.75, 黄が 0.25 の確率で点灯する. 時刻 t に, 黄のランプが点灯しているとき, 時刻 $t+1$ には, 黄が 0.5, 赤が 0.25, 青が 0.25 の確率で点灯する. 時刻 t に, 青のランプが点灯しているとき, 時刻 $t+1$ には, 青が 0.75, 黄が 0.25 の確率で点灯する. 時刻 t に赤, 黄, 青のランプが点灯している確率を, それぞれ $X_1(t), X_2(t), X_3(t)$ で表し, 時刻 $t+1$ に赤, 黄, 青のランプが点灯している確率を, それぞれ $X_1(t+1), X_2(t+1), X_3(t+1)$ で表す. 以下の問いに答えよ.

(1)
$$\begin{pmatrix} x_1(t+1) \\ x_2(t+1) \\ x_3(t+1) \end{pmatrix} = A \begin{pmatrix} x_1(t) \\ x_2(t) \\ x_3(t) \end{pmatrix}$$
 と表したときの行列 A を示せ.

(2) 行列 A の行列式を求めよ.

(3) 行列 A の逆行列を求めよ.

(4) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ. ただし, 固有ベクトルは第 3 成分が 1 となるようにして示せ.

(名古屋大 2007) (m20072801)

0.535 水 1ℓ を 2 つの瓶 A, B に適当に分け, 瓶 A , 瓶 B に入っている水の量をそれぞれ x_0, y_0 とする.

「瓶 A 中の水の 1 割と, 瓶 B 中の水の 2 割を, それぞれ小瓶 C, D へ抜き取り, 小瓶 C の水を瓶 B に, 小瓶 D の水を瓶 A へ入れる」という手続きを n 回繰り返した後, 瓶 A , 瓶 B に入っている水の量をそれぞれ x_n, y_n とするとき, 以下の問いに答えよ.

(1) x_n, y_n を次のように行列を用いた漸化式で表すとき, 行列 T を求めよ.

$$\begin{pmatrix} x_n \\ y_n \end{pmatrix} = T \begin{pmatrix} x_{n-1} \\ y_{n-1} \end{pmatrix}$$

(2) 行列 T の固有値および固有ベクトルを求めよ.

(3) x_n, y_n を, x_0, y_0 および n を用いて表せ.

(4) $n \rightarrow \infty$ としたときの, x_n/y_n の値を求めよ.

(名古屋大 2008) (m20082801)

0.536 以下の問いに答えよ.

(1) 次の行列 A の固有値と固有ベクトルをすべて求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} 3 & 2 & 2 \\ 0 & -2 & 0 \\ -1 & 3 & 0 \end{pmatrix}$$

(2) A^5 を求めよ.

(名古屋大 2011) (m20112802)

0.537 次の行列の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(1)
$$\begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 4 & 3 \end{bmatrix}$$

$$(2) \begin{bmatrix} 3 & -6 & -2 \\ 1 & -2 & -1 \\ -1 & 3 & 2 \end{bmatrix}$$

(名古屋大 2014) (m20142802)

0.538 行列 $A = \begin{bmatrix} 3 & 1 & 2 \\ 1 & 3 & 2 \\ 1 & 1 & 4 \end{bmatrix}$ に関して、以下の設問に答えよ。

- (1) A の固有値 λ と固有ベクトルを求めよ。
- (2) A^m (m は自然数) を求めよ。

(名古屋大 2015) (m20152801)

0.539 行列 $A = \begin{pmatrix} a & 1 & 0 \\ 1 & a & 0 \\ 1 & 1 & 1 \end{pmatrix}$ に関して、以下の設問に答えよ。

- (1) 行列 A が 2 個の固有値を持つような a を全て求めよ。またそのときの固有値を求めよ。
- (2) 行列 A が 3 個の固有値を持つような a の場合について、
 - (a) 全ての固有値と固有ベクトルを a を用いて記せ。
 - (b) 行列 A は、ある正則行列 P によって $D = P^{-1}AP$ と対角化可能である。 P を一つ示し、その P に対応する、 P^{-1} 、 D をそれぞれ求めよ。

(名古屋大 2016) (m20162801)

0.540 定数 a を含む行列 A と未知変数 x, y, z に関する次の方程式を考える。

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 2 \\ 1 & a & 1 \\ 3 & 2 & 1 \end{bmatrix}, \quad A \begin{bmatrix} x \\ y \\ z \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 4 \\ 8 \\ 4 \end{bmatrix}$$

以下の設問に計算手順を示し解答せよ。

- (1) 方程式がただひとつの解をもつための、定数 a が満たすべき条件を示せ。
- (2) $a = 0$ とする。方程式の解を求めよ。
- (3) $a = 4$ とする。このとき、 A の固有値のひとつは 2 である。
 - (a) 固有値 2 に属する A の固有ベクトルをひとつ求めよ。なお固有ベクトルの大きさ (ノルム) は 1 とする。
 - (b) 残りの A の固有値をすべて求めよ。

(名古屋大 2017) (m20172801)

0.541 次の行列 A を考える。

$$A = \frac{1}{4} \begin{bmatrix} 3 & -1 \\ -1 & 3 \end{bmatrix}$$

- (1) A の全ての固有値とそれに対応する固有ベクトルを求めよ。なお固有ベクトルの大きさは 1 とする。
- (2) 定数 a, b, c, d に対して、 $aA^4 + bA^3 + cA^2 + dA$ は単位行列となった。 a, b, c, d を一組求めよ。
- (3) 大きさが 1 のベクトル $\mathbf{v} = \begin{bmatrix} v_1 \\ v_2 \end{bmatrix}$ に A^k を乗じた $A^k \mathbf{v}$ を考える。ここで k は正の整数である。

(i) $A^k \mathbf{v}$ を v_1, v_2 を用いて表せ.

(ii) $k \rightarrow \infty$ としたとき, $A^k \mathbf{v}$ の大きさの最大値を示し, それを与える \mathbf{v} をすべて求めよ.

(名古屋大 2018) (m20182805)

0.542 行列 $A = \begin{bmatrix} 1 & 7 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \\ 1 & -1 & -1 \end{bmatrix}$ に関して, 以下の問いに答えよ.

(1) A の固有値のうち, 実数となる固有値およびその固有ベクトルを求めよ.

(2) $A^3 - 8E$ を求めよ. ただし, E は 3 次の単位行列である.

(3) A の逆行列 A^{-1} を求めよ.

(名古屋大 2022) (m20222801)

0.543 (1) 次の行列 A の固有多項式 $|xE - A|$ を計算して, A の固有値を求めよ. 但し, E は単位行列を表す.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & -1 \\ 2 & 2 & 2 \\ 2 & 1 & 2 \end{pmatrix}$$

(2) 上で得られた固有値の固有ベクトルを求めよ.

(名古屋工業大 1997) (m19972903)

0.544 次の 2×2 の行列 A について以下の問いに答えよ. 本問題において, ベクトルは 2 次元の縦ベクトル $\begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix}$ を意味する.

$$A = \begin{pmatrix} \frac{1}{2} & \frac{1}{9} \\ \frac{1}{4} & \frac{1}{2} \end{pmatrix}$$

(1) A の固有値とそれぞれの固有値に対する一つの固有ベクトルを求めよ.

(2) (1) で求めた固有値と固有ベクトルを用いて行列 E と B を適当に定め, 行列 A を

$$A = EBE^{-1}$$

の形で表せ. ここで, E^{-1} は E の逆行列で B は $\begin{pmatrix} \alpha & 0 \\ 0 & \beta \end{pmatrix}$ のような形である.

(3) (2) で定めた E と B を用いて, A^n はどのように表すことができるか. ここで, A^n は n 個の A を掛け合わせたものである.

(ヒント) まず, $A = EBE^{-1}$ の表現を用いて A^2 がどのようになるかを調べよ.

(4) ベクトル全体の集合を V と書く. V の任意の二つの要素 $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix}$, $\mathbf{y} = \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \end{pmatrix}$, に対して,

$$d(\mathbf{x}, \mathbf{y}) = \sqrt{(x_1 - y_1)^2 + (x_2 - y_2)^2}$$

とする. ベクトルの列 $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2, \mathbf{x}_3, \dots$ が一つのベクトル \mathbf{x} に対して,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} d(\mathbf{x}_n, \mathbf{x}) = 0$$

を満たすとき, この列は \mathbf{x} に収束すると言う.

$\mathbf{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix}$ を一つのベクトルとし, 行列 A を用いて,

$\mathbf{a}, A\mathbf{a}, A^2\mathbf{a}, A^3\mathbf{a}, \dots$ なる列をつくったとき, この列が $\begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ に収束ことを示せ. (3) で求めた A^n の表現を用いよ.

(名古屋工業大 1997) (m19972904)

0.545 行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & a \\ 1 & 3 \end{pmatrix}$ に対して, 以下の各問に答えよ. ただし, $a \geq 0$ である.

- (1) A の二つの固有値 λ_1, λ_2 を求めよ.
- (2) λ_1, λ_2 にそれぞれ対応する固有ベクトル \mathbf{x}, \mathbf{y} のどちらにも直交するベクトルは 0 ベクトルのみであることを示せ.
- (3) 上の問 (2) における固有ベクトル \mathbf{x}, \mathbf{y} が互いに直交するときの a の値を求めよ.

(名古屋工業大 1998) (m19982907)

0.546 (1) 行列 $A = \begin{pmatrix} 5 & 8 \\ 1 & 3 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めなさい.

- (2) 行列 $P^{-1}AP$ が対角行列となるような正則行列 P を求めよ.
- (3) 二つの関数 $x(t), y(t)$ が次の微分方程式を満たすとする.

$$\begin{pmatrix} x'(t) \\ y'(t) \end{pmatrix} = A \begin{pmatrix} x(t) \\ y(t) \end{pmatrix}, \quad \begin{pmatrix} x(0) \\ y(0) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

この時, $P^{-1} \begin{pmatrix} x(t) \\ y(t) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} X(t) \\ Y(t) \end{pmatrix}$ とおくと $\begin{pmatrix} X(t) \\ Y(t) \end{pmatrix}$ はどんな微分方程式を満たすか.

- (4) (3) の $X(t), Y(t)$ の微分方程式を解き $\begin{pmatrix} x(t) \\ y(t) \end{pmatrix}$ を求めよ.

(名古屋工業大 1998) (m19982908)

0.547 行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & 1 & 1 \\ 1 & 3 & 1 \\ 1 & 1 & 3 \end{pmatrix}$ に対して次を求めよ.

- (1) $|A|$ および A^{-1}
- (2) A の固有値
- (3) 上の (2) で求めた各固有値に対する固有ベクトル

(名古屋工業大 1999) (m19992906)

0.548 次の行列

$$A = \begin{pmatrix} 1 & \frac{1}{2} \\ \frac{9}{8} & 1 \end{pmatrix}$$

について以下の問に答えよ.

- (1) A の二つの固有値 λ_1, λ_2 と, それぞれの固有値に対応する大きさ 1 の固有ベクトル $\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2$ を求めよ.
- (2) 一つのベクトル \mathbf{x} は, $\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2$ を用いて

$$\mathbf{x} = \alpha\mathbf{p}_1 + \beta\mathbf{p}_2$$

と書ける. このことを用いると, $A^n\mathbf{x}$ は, $\lambda_1, \lambda_2, \mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2$ を用いてどのように表すことができるか. α, β は, 実数である.

(3) 一つのベクトル \mathbf{x} に対して,

$$A\mathbf{x}, A^2\mathbf{x}, \dots, A^n\mathbf{x}, \dots$$

なるベクトルの列は, 二次元平面上の点列を表すが, この点列の挙動は, \mathbf{x} の取り方によって異なるものになる. このことを, (1) と (2) で求めたことを用いて論じよ.

(名古屋工業大 1999) (m19992907)

0.549 対称行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 & -1 \\ 1 & 1 & 0 \\ -1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めよ. 更に, 行列 tTAT が対角行列になるような直交行列 T を求めよ.

(名古屋工業大 2000) (m20002905)

0.550 行列 $A = \begin{pmatrix} \frac{4}{5} & \frac{1}{5} \\ \frac{2}{3} & \frac{1}{3} \end{pmatrix}$ について, 次の間に答えよ.

(1) A の固有値, 固有ベクトルを求めよ.

(2) $A = PBP^{-1}$ となるように行列 P, B を定めよ. ここで, 行列 B はある実数 a, b について $\begin{pmatrix} a & 0 \\ 0 & b \end{pmatrix}$ の形となるように定めよ.

(3) A^n を求めよ.

(名古屋工業大 2000) (m20002906)

0.551 次の行列 A が対角化可能である必要十分条件は $a \neq b$ であることを示し, 対角化可能な場合に $P^{-1}AP$ が対角行列となる正則行列 P を求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} a & 0 & 0 \\ 0 & a & 1 \\ 0 & 0 & b \end{pmatrix}$$

(名古屋工業大 2001) (m20012906)

0.552 次の行列 A について, 以下の問いに答えよ. ただし, a は実数とする.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & a & a \\ a & 1 & a \\ a & a & 1 \end{pmatrix}$$

(1) A の階数 (rank) を求めよ.

(2) \vec{x} を列ベクトルとすると, $A\vec{x} = \vec{0}$ となる \vec{x} ($\vec{x} \neq \vec{0}$) を求めよ.

(名古屋工業大 2001) (m20012907)

0.553 次の行列 A は対角化可能かどうか判定し, 対角化可能なら $P^{-1}AP$ が対角行列となる正則行列 P を求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 3 \\ 1 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

(名古屋工業大 2007) (m20072904)

0.554 3 次の正方行列 A を $\begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \end{pmatrix}$ とする.

(1) $P^{-1}AP$ が対角行列となる正則行列 $P = (\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2, \mathbf{p}_3)$ で各列ベクトル \mathbf{p}_i の長さが 1 となる行列 P をひとつ求めよ.

- (2) (1) で求めた P の転置行列を tP とする. この時 ${}^tPP = E_3$ (E_3 は単位行列) を示し, さらに $P^{-1} = {}^tP$ となる事を示せ.
- (3) 任意のベクトル \mathbf{a}, \mathbf{b} に対して $({}^tP\mathbf{a}, \mathbf{b}) = (\mathbf{a}, P\mathbf{b})$ が成り立つ性質を用いて, $\mathbf{y} = {}^tP\mathbf{x}$ とした時に, 次の等式を示せ.

$$(\mathbf{A}\mathbf{x}, \mathbf{x}) = (({}^tPAP)\mathbf{y}, \mathbf{y})$$

- (4) \mathbf{x} の成分を $x_i (i = 1, 2, 3)$ とした時, x_1, x_2, x_3 の 3 つの一次式 $f_i(x) = f_i(x_1, x_2, x_3) (i = 1, 2, 3)$ があり, $(\mathbf{A}\mathbf{x}, \mathbf{x}) = f_1(x)^2 - f_2(x)^2 + 2f_3(x)^2$ となる事を示せ.

(名古屋工業大 2008) (m20082902)

- 0.555** (1) 次の行列 A は対角化できないことを示せ. $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 & -1 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$

- (2) 行列 B を $B = \begin{pmatrix} 1 & -1 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ とおく. $B^{-1}AB$ を求めよ.

- (3) 自然数 n に対して A^n を求めよ.

(名古屋工業大 2009) (m20092902)

- 0.556** 3次正方行列 $\begin{pmatrix} 3 & 2 & 0 \\ 2 & 3 & 1 \\ 0 & 1 & 3 \end{pmatrix}$ を A とする. ベクトル $\mathbf{u} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^3$ に対して, 内積を使って関数を $Q(\mathbf{u}) = (\mathbf{A}\mathbf{u}, \mathbf{u})$ と定義する.

- (1) A の固有値を求めよ.

- (2) 条件 $(\mathbf{u}, \mathbf{u}) = 1$ の下での関数 $Q(\mathbf{u})$ の最大値と最小値を求めよ.

(名古屋工業大 2011) (m20112902)

- 0.557** 次の行列 A と P について, 問 (1) と (2) に答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} \frac{1}{2} & -\frac{1}{2} & 0 \\ -\frac{1}{2} & \frac{1}{2} & 0 \\ 0 & 0 & 2 \end{pmatrix}, \quad P = \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} a & b & c \\ 1 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & \sqrt{2} \end{pmatrix}$$

- (1) 行列 A の固有値を求めよ.

- (2) (1) で求めた固有値を $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ ($\lambda_1 \leq \lambda_2 \leq \lambda_3$) とする. このとき行列 P が直交行列で, かつ次を満たすように a, b, c を求めよ.

$${}^tPAP = \begin{pmatrix} \lambda_1 & 0 & 0 \\ 0 & \lambda_2 & 0 \\ 0 & 0 & \lambda_3 \end{pmatrix}$$

(名古屋工業大 2012) (m20122902)

- 0.558** 行列

$$A = \begin{pmatrix} -3 & 13 & -7 \\ -2 & 9 & -4 \\ -2 & 7 & -2 \end{pmatrix}$$

を対角化せよ. (すなわち, 正則行列 P で $P^{-1}AP$ が対角行列となるものと, そのときの対角行列 $P^{-1}AP$ を求めよ.)

(名古屋工業大 2013) (m20132906)

0.559 3次行列 X が方程式 $A^*X = A^{-1} + 2X$ を満たす。ただし、

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 1 & -1 \\ -1 & 1 & 1 \\ 1 & -1 & 1 \end{bmatrix}, \quad A^* = \text{adj}A \text{ は行列 } A \text{ の余因子行列である。このとき、次の問いに答えよ。}$$

- (1) 方程式 $(|A|I - 2A)X = I$ が成立することを証明せよ。ここで、 $|A|$ は行列 A の行列式であり、 I は3次単位行列である。
- (2) 行列 X を求めよ、
- (3) X の固有値を求めよ、

(名古屋工業大 2013) (m20132908)

0.560 行列

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 5 & -1 \\ -1 & -4 & 5 \\ 1 & 1 & 4 \end{pmatrix}$$

の固有値を $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ ($|\lambda_1| \leq |\lambda_2| \leq |\lambda_3|$) とするとき、次をみたす正則行列 P をひとつ求めよ。

$$P^{-1}AP = \begin{pmatrix} \lambda_1 & 0 & 0 \\ 0 & \lambda_2 & 0 \\ 0 & 0 & \lambda_3 \end{pmatrix}$$

(名古屋工業大 2014) (m20142904)

0.561 行列 $\begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & -1 \\ 0 & 0 & 2 \end{pmatrix}$ は対角化可能か否か判定せよ。

(名古屋工業大 2015) (m20152907)

0.562 行列

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 0 & 0 & -1 \\ 0 & -1 & 2 & 0 \\ 0 & 2 & -1 & 0 \\ -1 & 0 & 0 & 2 \end{pmatrix}$$

の固有値を求めよ。また、 A の最大固有値に対する固有ベクトルを求めよ。

(名古屋工業大 2016) (m20162904)

0.563 行列 $A = \begin{pmatrix} 5 & 3 & -1 \\ 3 & 3 & -3 \\ -1 & -3 & 5 \end{pmatrix}$ について、以下の問いに答えよ。

- (1) A を直交行列によって対角化せよ。
- (2) $A = B^2$ を満たす対称行列 B を一つ求めよ。

(名古屋工業大 2017) (m20172903)

0.564 対称行列 $A = \begin{pmatrix} -1 & 2 & 2 \\ 2 & -1 & 2 \\ 2 & 2 & -1 \end{pmatrix}$ について次の問いに答えよ。

- (1) A の固有値、固有ベクトルをすべて求めよ。

- (2) グラム・シュミットの正規直交化法で, (1) で求めた固有ベクトルから正規直交系 $\{\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \mathbf{u}_3\}$ を求めよ.

(名古屋工業大 2018) (m20182906)

0.565 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 4 \\ 0 & 1 & -2 \\ 0 & 0 & 3 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えよ.

- (1) A を対角化せよ.
 (2) 自然数 n に対して, A^n を求めよ.

(名古屋工業大 2019) (m20192905)

- 0.566** 次の実対称行列 A に対し, 実直交行列 P で $P^{-1}AP$ が対角行列となるものと, そのときの対角行列 $P^{-1}AP$ を求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 2 & -1 \\ 2 & 3 & -2 \\ -1 & -2 & 0 \end{pmatrix}$$

(名古屋工業大 2020) (m20202906)

- 0.567** k は定数とする. 行列

$$A = \begin{pmatrix} 3 & 1 & -2k \\ -1 & 1 & 2k \\ 1 & 1 & 3 \end{pmatrix}$$

について, 次の問いに答えよ.

- (1) A の固有値と固有ベクトルをすべて求めよ.
 (2) A が対角化可能であるような k の値をすべて求めよ.

(名古屋工業大 2021) (m20212905)

0.568 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & -3 \\ 0 & 2 & 0 \\ -1 & 0 & 3 \end{pmatrix}$ を対角化せよ.

(名古屋工業大 2022) (m20222906)

- 0.569** 行列

$$P = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 2 \\ 4 & 3 & 4 \\ 2 & 3 & 3 \end{pmatrix}$$

について, 以下の問いに答えよ.

- (1) P の逆行列を求めよ.
 (2) P の列ベクトルを左から順に $\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2, \mathbf{p}_3$ とおいたとき,

$$A\mathbf{p}_1 = \mathbf{p}_1, \quad A\mathbf{p}_2 = 2\mathbf{p}_2, \quad A\mathbf{p}_3 = 2\mathbf{p}_3$$

をみたす 3 次正方行列 A およびその固有値を求めよ.

(名古屋工業大 2023) (m20232906)

0.570 ベクトル $(1, 2)$ に行列を掛けると

$$\begin{pmatrix} 1 & -2 \\ -3 & 0 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -3 \\ -3 \end{pmatrix}$$

のように（一般には）向きと大きさが異なるベクトル $(-3, -3)$ が得られるが、他方

$\begin{pmatrix} 1 & -2 \\ -3 & 0 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = a \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ のようにその方向を変えない特殊なベクトル (x, y) が存在することもある。後者のようなベクトルは、この行列の固有ベクトルと呼ばれ、その長さが何倍となったか（ a の値）は固有値と呼ばれる。このような方向をもったベクトル (x, y) を求めよ。また、ベクトルの長さは何倍になっているか。

(三重大 2002) (m20023117)

0.571 行列 $A = \begin{pmatrix} 4 & 0 & 1 \\ -2 & 8 & -1 \\ 0 & 3 & 2 \end{pmatrix}$ について、以下の問に答えよ。

- (1) 行列式 $|A|$ の値を求めなさい。
- (2) 行列 A のすべての固有値を求めなさい。

(三重大 2003) (m20033113)

0.572 ある 3×3 の行列 A とベクトル $\mathbf{a}_1 = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$, $\mathbf{a}_2 = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ -1 \end{pmatrix}$, $\mathbf{a}_3 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix}$ がある。これらの間に、 $A\mathbf{a}_1 = 2\mathbf{a}_1$, $A\mathbf{a}_2 = \mathbf{a}_2$, $A\mathbf{a}_3 = 3\mathbf{a}_3$ の関係が成り立つとして、以下の問に答えよ。

- (1) $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3$ は互いに直交するベクトルであることを証明せよ。
- (2) ベクトル $\mathbf{r} = \begin{pmatrix} 7 \\ 10 \\ 6 \end{pmatrix}$ を、 $\mathbf{r} = \alpha_1\mathbf{a}_1 + \alpha_2\mathbf{a}_2 + \alpha_3\mathbf{a}_3$ で分解した。定数 $\alpha_1, \alpha_2, \alpha_3$ を求めよ。
- (3) $A\mathbf{r}$ および $A^2\mathbf{r}$ を求めよ。
- (4) $A^n\mathbf{r}$ の一般形を求めよ。

(三重大 2003) (m20033114)

0.573 次の2つの行列 A, P について、 P が逆行列をもち、 $B = P^{-1}AP$ が対角行列 B となるように、実数 x, y, α, β の値を求めなさい。ただし、 $\alpha > \beta$ とする。

$$A = \begin{pmatrix} 3 & 1 \\ 2 & 4 \end{pmatrix}, P = \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ x & y \end{pmatrix}, B = \begin{pmatrix} \alpha & 0 \\ 0 & \beta \end{pmatrix}$$

(三重大 2004) (m20043113)

0.574 行列 $A = \begin{pmatrix} 4 & 1 \\ 2 & 3 \end{pmatrix}$ について、以下の問に答えなさい。

- (1) 行列式 $|A|$ の値を求めなさい。
- (2) 行列 A のすべての固有値と、各固有値に対する固有ベクトルを求めなさい。
- (3) 正則行列 P によって行列 A を対角化したい。このような正則行列 P と、その逆行列 P^{-1} , および対角化された行列 $P^{-1}AP$ を求めなさい。
- (4) 行列 $P^{-1}A^nP$ を求めなさい。ただし、 n は自然数とする。

(三重大 2005) (m20053107)

- 0.575 (1) 複素行列 $\begin{pmatrix} a & b+ci \\ b-ci & d \end{pmatrix}$ の固有値 λ_1, λ_2 を求めよ.
 ここで, a, b, c, d は実数であり (ただし, $c \neq 0$), $i^2 = -1$ である.
- (2) λ_1, λ_2 に対する固有ベクトル $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2$ を求め, エルミート内積 $(\mathbf{x}_1 \mathbf{x}_2) = \sum_{j=1}^2 x_{1j}^* x_{2j}$ を計算せよ. ただし, x_{ij} は \mathbf{x}_i の j 成分であり ($i, j = 1, 2$), α^* は α の複素共役を表す.
- (三重大 2005) (m20053110)

- 0.576 次の固有方程式の固有値を求めよ. $\begin{vmatrix} 1-\lambda & 2 \\ 2 & 3-\lambda \end{vmatrix} = 0$
- (三重大 2006) (m20063104)

- 0.577 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めなさい. $A = \begin{pmatrix} 3 & -1 \\ 2 & 0 \end{pmatrix}$
- (三重大 2006) (m20063113)

- 0.578 (1) 複素行列 $\begin{pmatrix} a & b+ci \\ b-ci & d \end{pmatrix}$ の固有値 λ_1, λ_2 を求めよ. ここで, a, b, c, d は実数であり (ただし, $c \neq 0$), $i^2 = -1$ である.
- (2) λ_1, λ_2 に対する固有ベクトル $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2$ を求め, エルミート内積 $(\mathbf{x}_1 \mathbf{x}_2) = \sum_{j=1}^2 x_{1j}^* x_{2j}$ を計算せよ. ただし, x_{ij} は \mathbf{x}_i の j 成分であり ($i, j = 1, 2$), α^* は α の複素共役を表す.
- (三重大 2006) (m20063118)

- 0.579 対称行列 $A = \begin{pmatrix} a & c \\ c & b \end{pmatrix}$ (a, b, c は実数) は適当な直交行列 T (直交行列とは ${}^t T T = T {}^t T = I$ [単位行列] を満たす行列, ${}^t T$ は T の転置行列) を使って, ${}^t T A T = \begin{pmatrix} \alpha & 0 \\ 0 & \beta \end{pmatrix}$ のような対角形に変形できる.
- (1) 自然数 n に対して $A^n = T \begin{pmatrix} \alpha^n & 0 \\ 0 & \beta^n \end{pmatrix} {}^t T$ となることを示せ.
- (2) $a + b = \alpha + \beta, ab - c^2 = \alpha\beta$ の関係があることを示せ.
- (3) $a = b = 2, c = -1$ のとき, α, β の値を求めよ. また, 直交行列 T も求めよ.
- (三重大 2007) (m20073117)

- 0.580 次の行列 A に対して

$$A = \begin{pmatrix} 3 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 2 \\ 1 & 2 & 0 \end{pmatrix}$$

- (1) 固有値方程式をたて, 固有値をすべて求めよ. ただし, 固有値はすべて整数値とする.
- (2) 固有ベクトルをすべて求め, それを用いてこの行列を対角化 ($P {}^t A P = E : E$ は単位行列) する行列 P を求めよ. ただし, P は直交行列である.
- (三重大 2008) (m20083101)

- 0.581 行列 $A = \begin{pmatrix} -1 & 1 \\ 2 & 0 \end{pmatrix}$ が, $A \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = k \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ かつ $\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \neq \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ を満たす時, (1)~(3) の設問に答えなさい. ただし, k, x, y は実数である.

(1) k の値をすべて求めよ.

(2) (1) で求めた k の値に対して $A \begin{pmatrix} x \\ 1 \end{pmatrix} = k \begin{pmatrix} x \\ 1 \end{pmatrix}$ を満たす x をすべて求めよ.

(3) (2) で求めた結果を用いて A^n を求めよ. ただし, n は自然数とする.

(三重大 2009) (m20093103)

0.582 (1) 行列式 $\begin{vmatrix} 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 2 & 2 \\ 1 & 2 & 3 & 3 \\ 1 & 2 & 3 & 4 \end{vmatrix}$ の値を求めなさい.

(2) A, B が同じ次数の正方行列であるとき, 行列式 $\begin{vmatrix} A & B & B \\ B & A & B \\ B & B & A \end{vmatrix}$ の値を, $|A+2B|$ と $|A-B|$ の式で表しなさい.

この導出には, n 次正方行列 P , m 次正方行列 S , $m \times n$ の行列 R , $n \times m$ の零行列 O に対し

て, $\begin{vmatrix} P & O \\ R & S \end{vmatrix} = |P||S|$ が成り立つことを使ってよい.

(3) 問 (2) の結果を利用して, 行列 $D = \begin{pmatrix} 2 & -1 & -1 & 1 & -1 & 1 \\ 1 & 1 & 0 & 1 & 0 & 1 \\ -1 & 1 & 2 & -1 & -1 & 1 \\ 0 & 1 & 1 & 1 & 0 & 1 \\ -1 & 1 & -1 & 1 & 2 & -1 \\ 0 & 1 & 0 & 1 & 1 & 1 \end{pmatrix}$ のすべての固有値を求めなさい.

(三重大 2009) (m20093106)

0.583 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 2 \\ 3 & 1 \end{pmatrix}$ に関する以下の問いについて答えよ.

(1) A の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(2) A を対角化せよ.

(3) A^{23} を求めよ.

(三重大 2009) (m20093107)

0.584 (1) 次の対称行列 A の固有値, 固有ベクトルをすべて求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} 3 & 0 & 3 \\ 0 & 1 & 0 \\ 3 & 0 & 3 \end{pmatrix}$$

(2) 一般の実対称行列 B について, その固有値はすべて実数で, 異なる固有値に属する固有ベクトルは互いに直交することを示せ.

(三重大 2009) (m20093110)

0.585 行列 $A = \begin{pmatrix} 5 & 2 \\ 2 & 2 \end{pmatrix}$ に関する以下の問いについて答えよ.

(1) A の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(2) A を対角化することにより, A^{17} を求めよ.

(3) 正則行列の持つ性質について列挙せよ.

(三重大 2011) (m20113109)

0.586 以下の問に答えなさい.

(1) 次の行列 A の固有値 λ_1, λ_2 とそれぞれの固有値に対する固有ベクトル $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2$ をひとつ求めなさい.

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 3 & 4 \end{pmatrix}$$

(2) 問(1)で求めた固有ベクトルからなる行列 $P = (\mathbf{x}_1 \ \mathbf{x}_2)$ を用いて, $P^{-1}AP$ を求めなさい.

(3) n が正の整数のとき, 問(2)の結果を利用して, A^n を求めなさい.

(三重大 2011) (m20113115)

0.587 行列 $A = \begin{pmatrix} 4 & 1 \\ 3 & 2 \end{pmatrix}$ に関する以下の問について答えよ.

(1) A の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(2) A を対角化せよ.

(3) A^n を求めよ.

(三重大 2012) (m20123101)

0.588 (1) 次の交代行列 A (i 行 j 列成分 a_{ij} と j 行 i 列成分 a_{ji} が $a_{ij} = -a_{ji}$ を満たす行列) の行列式, 固有値および固有ベクトルを求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} 0 & a \\ -a & 0 \end{pmatrix}$$

(2) 以下の交代行列 B の行列式は $|B| = p^2$ とかける. p を求めよ.

$$B = \begin{pmatrix} 0 & a & b & c \\ -a & 0 & d & e \\ -b & -d & 0 & f \\ -c & -e & -f & 0 \end{pmatrix}$$

(3) n 行 n 列の正方行列 C が交代行列であり n が奇数のとき, 行列式 $|C|$ は 0 となることを示せ.

(三重大 2012) (m20123108)

0.589 行列 $\begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 2 & 2 \end{pmatrix}$ の固有値および, 固有値に対する固有ベクトルを求めよ.

(三重大 2012) (m20123120)

0.590 2×2 行列 A が次の 2 つの条件 (a), (b) を満たしている.

$$(a) A^2 - 3A + 2E = O \quad (b) A \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 3 \\ 5 \end{pmatrix}$$

ただし, E は単位行列, O は零行列を表す, 以下の問いに答えよ.

(1) $A \begin{pmatrix} 3 \\ 5 \end{pmatrix}$ を求めよ.

(2) $A \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}$ を求めよ.

- (3) A を求めよ.
 (4) A の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(三重大 2013) (m20133105)

0.591 二つの実数列 $\{a_n\}$ と $\{b_n\}$ ($n = 0, 1, 2, 3, \dots$) が, $a_{n+1} = a_n + 2b_n$ $b_{n+1} = -a_n + 4b_n$ を満たす. ただし, $a_0 = 1, b_0 = -1$ である. 以下の問いに答えなさい.

- (1) $\begin{pmatrix} a_{n+1} \\ b_{n+1} \end{pmatrix} = A \begin{pmatrix} a_n \\ b_n \end{pmatrix}$ を満たす行列 A を求めなさい.
 (2) 行列 A の固有値 λ_1, λ_2 とそれぞれの固有値に対する固有ベクトル $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2$ を求めなさい.
 (3) 問 (2) で求めた固有ベクトルから行列 $P = (\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2)$ を用いて, $P^{-1}AP$ を求めなさい.
 (4) 問 (3) の結果を利用して, A^n を求めなさい.
 (5) 実数列 $\{a_n\}$ と $\{b_n\}$ の一般項を求めなさい.

(三重大 2013) (m20133109)

0.592 行列に関する以下の問いに答えよ.

- (1) $A = \begin{bmatrix} 2 & 2 \\ 3 & 3 \end{bmatrix}$, $B = \begin{bmatrix} 2 & -1 \\ -2 & 1 \end{bmatrix}$ のとき, 積 AB および BA を求めよ.
 (2) $\begin{bmatrix} 4 & 2 \\ 3 & -1 \end{bmatrix} \begin{Bmatrix} x \\ y \end{Bmatrix} = \lambda \begin{Bmatrix} x \\ y \end{Bmatrix}$ を満たす実数 λ とベクトル $\begin{Bmatrix} x \\ y \end{Bmatrix}$ を求めよ. ただし, $x^2 + y^2 = 1$ とする.

(三重大 2013) (m20133112)

0.593 (1) A を N 行 N 列の実対称行列, すなわち, ${}^tA = A$ (tA は A の転置行列) を満たし成分が実数の行列とすると, A の固有値 a_i ($i = 1, 2, 3, \dots, N$) と各 a_i に対する固有ベクトル \vec{v}_i について以下のことを示せ.

- (a) 固有値はすべて実数である.
 (b) $a_i \neq a_j$ ならば, \vec{v}_i と \vec{v}_j は直交する. すなわち, 内積 $(\vec{v}_i, \vec{v}_j) = 0$. [ただし, \vec{v}_i はすべて実ベクトルに選んでおく.]

(2) 2 行 2 列の行列 B を

$$B = \begin{pmatrix} 3 & -i \\ i & 3 \end{pmatrix}$$

とする.

- (a) 固有値の和と積を求めよ.
 (b) B を対角化する行列, すなわち, UBU^{-1} が対角行列になるような行列 U を求めよ.

(三重大 2013) (m20133117)

0.594 2 次の正方行列 A を用いると, 点 $(2, 1), (-1, 5)$ をそれぞれ点 $(4, 14), (-13, 37)$ に移す 1 次変換を行うことができる. このとき, 以下の問いに答えなさい.

- (1) この 1 次変換のための行列 A を求めなさい.
 (2) この行列 A の逆行列 A^{-1} を求めなさい.
 (3) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めなさい.

(三重大 2014) (m20143104)

0.595 次の行列 A の固有値, 固有ベクトルおよび固有ベクトル間の角度を求めなさい.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 1 \end{pmatrix}$$

(三重大 2015) (m20153103)

0.596 点 $(1, -1)$, $(-3, 7)$ をそれぞれ $(5, -5)$, $(-11, 23)$ に移す 1 次変換を行うことができる 2 次の正方行列 $A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}$ について, 以下の問いに答えなさい.

- (1) 行列 A を求めなさい.
- (2) 行列 A は $A^2 - (a+d)A + (ad-bc)E = 0$ を満たす, このとき A^4 を求めなさい. ただし, E は単位行列である.
- (3) A の固有値と固有ベクトルを求めなさい.

(三重大 2016) (m20163101)

0.597 以下の 3 次正方行列 A について, 以下の問いに答えなさい.

$$A = \begin{bmatrix} 1 & -2 & 2 \\ 1 & 1 & a+2 \\ 3a & 3 & a \end{bmatrix}$$

- (1) $\text{rank} A$ を求めなさい.
- (2) $\det A$ を求めなさい.
- (3) $a = -1$ のとき, A^{-1} を求めなさい.
- (4) 行列 A が 0 を固有値として持つとき, a の値と 0 以外の固有値を求めなさい.

(三重大 2016) (m20163108)

0.598 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & 2 \end{pmatrix}$ について以下に答えよ.

- (1) A^5 の行列式 $|A^5|$ の値を求めよ.
- (2) A の固有値および 互いに直交する長さ 1 の固有ベクトル をすべて求めよ.
- (3) A を変換 $P^T A P$ によって対角化する直交行列 P を構成し, 対角化を実行せよ. ただし, P^T は P の転置行列である.

(三重大 2016) (m20163117)

0.599 ある 2 次の正方行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 3 & 4 \end{pmatrix}$ について以下の問いに答えなさい.

- (1) この行列 A の固有値を求めなさい.
- (2) この行列 A の固有ベクトルを求めなさい.
- (3) A^n の値を求めなさい

(三重大 2017) (m20173101)

0.600 x, y に関する実数値関数 $f(x, y) = 2x^2 + 3y^2 + 2\sqrt{2}xy$ について, 以下の間に答えなさい.

- (1) $f(x, y) = \begin{pmatrix} x & y \end{pmatrix} A \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ を満たす対称行列 A を求めなさい.
- (2) A の全ての固有値と, それぞれの固有値に対応する大きさ 1 の固有ベクトルを求めなさい.
- (3) $T^{-1}AT$ が対角行列となるような正規直交行列 T を求めなさい. さらに, $T^{-1}AT$ を求めなさい.
- (4) $\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = T \begin{pmatrix} u \\ v \end{pmatrix}$ により変数変換をすることで, $f(x, y)$ を変換した結果得られる $g(u, v)$ を求めなさい. また, $g(u, v) = 4$ の概形を u - v 平面上に描きなさい.

(三重大 2017) (m20173108)

- 0.601** (1) 次の行列 A とベクトル \vec{v} の積 $A\vec{v}$ を求めよ. またベクトル \vec{v} と $A\vec{v}$ の内積 $\vec{v} \cdot A\vec{v}$ を求めよ. ただし, a, b, c, x, y は実数とする.

$$A = \begin{pmatrix} a & b \\ b & c \end{pmatrix}, \quad \vec{v} = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$$

- (2) (1) の行列 A の行列式 $|A|$ と, 2 つの固有値および固有ベクトルを求めよ.
- (3) (1) の \vec{v} が $\vec{v} \cdot A\vec{v} > 0$ を満たし, (2) の行列式が $|A| \neq 0$ を満たすとき, (1) の内積が $\vec{v} \cdot A\vec{v} > 0$ となる十分条件は, $a > 0, c > 0$ かつ $|A| > 0$ であることを証明せよ.

(三重大 2017) (m20173115)

- 0.602** 3次元空間の3つのベクトル $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 0 \end{pmatrix}$, $\mathbf{b} = \begin{pmatrix} 2 \\ 2 \\ -2 \end{pmatrix}$, $\mathbf{c} = \begin{pmatrix} 0 \\ -2 \\ 3 \end{pmatrix}$ について, 以下の問いに答えよ.

- (1) ベクトル \mathbf{a} , \mathbf{b} の作る平行四辺形の面積 S を求めよ.
- (2) ベクトル \mathbf{a} , \mathbf{b} の両方に垂直で, 大きさが 1 となるベクトルを全て求めよ.
- (3) ベクトル \mathbf{a} , \mathbf{b} , \mathbf{c} の作る平行六面体の体積 V を求めよ.
- (4) ベクトル \mathbf{a} , \mathbf{b} , \mathbf{c} からなる行列 $A = \begin{pmatrix} \mathbf{a} & \mathbf{b} & \mathbf{c} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 0 \\ 2 & 2 & -2 \\ 0 & -2 & 3 \end{pmatrix}$ の固有値を求めよ.

(三重大 2018) (m20183101)

- 0.603** $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ 4 & -2 \end{pmatrix}$ とする. 以下の問いに答えなさい.

- (1) A の逆行列を求めなさい.
また, それを利用して x, y に関する連立方程式 $A \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \end{pmatrix}$ を解きなさい.
- (2) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような正方行列 P を求めなさい.
また, それを利用して $\begin{pmatrix} x_1 \\ y_1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}$, $\begin{pmatrix} x_{n+1} \\ y_{n+1} \end{pmatrix} = A \begin{pmatrix} x_n \\ y_n \end{pmatrix}$ により定義される数列 $\{x_n\}$, $\{y_n\}$ の一般項を求めなさい. ここで, n は自然数とする.

(三重大 2018) (m20183105)

- 0.604** (1) 次の行列 A の行列式 $|A|$ を求めよ. また行列 A と次のベクトル \vec{v} の積 $A\vec{v}$ を計算し, $A\vec{v} = \vec{v}$ となることを示せ. ただし θ, ϕ は実数, i は虚数単位とする.

$$A = \begin{pmatrix} \cos(\theta) & \sin(\theta)e^{-i\phi} \\ \sin(\theta)e^{i\phi} & -\cos(\theta) \end{pmatrix}, \quad \vec{v} = \begin{pmatrix} \cos(\theta/2) \\ \sin(\theta/2)e^{i\phi} \end{pmatrix}$$

- (2) (1) の行列 A について、 $\phi = 0$ としたときの 2 つの固有値および固有ベクトルを求めよ。ただし、固有ベクトルの大きさは 1 とせよ。
- (3) 次の行列 B の 2 つの固有値を求めよ。ただし k は実数とする。また $|k| \leq 1$ として、大きさ 1 とした 2 つの固有ベクトルを求めよ。また 2 つの固有値を k の関数として、 $|k| \leq 1$ の範囲でグラフに描け。

$$B = \begin{pmatrix} 0 & 1+k \\ 1-k & 0 \end{pmatrix}$$

(三重大 2018) (m20183112)

0.605 3 次の正方行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 0 \\ 2 & -1 & -2 \\ 0 & -2 & 1 \end{pmatrix}$ について以下の問いに答えなさい。

- (1) 行列 A の行列式を求めなさい。
- (2) 行列 A の固有値を求めなさい。
- (3) 行列 A について、1 次独立な固有ベクトルをすべて求めなさい。ただし、固有ベクトルの大きさを 1 としなさい。
- (4) (3) で求めた固有ベクトルが互いになす角度をすべて求めなさい。

(三重大 2020) (m20203107)

0.606 3 次の実対称行列

$$P = \begin{bmatrix} 5 & 1 & -2 \\ 1 & 6 & -1 \\ -2 & -1 & 5 \end{bmatrix}$$

について、以下の問いに答えよ。

- (1) 行列 P の固有値 λ_i ($i = 1, 2, 3$) と対応する単位固有ベクトル v_i ($i = 1, 2, 3$) を求めなさい。ただし、 $\lambda_1 \leq \lambda_2 \leq \lambda_3$ を満たすものとする。
- (2) VV^T を求めなさい。ただし、

$$V = \begin{bmatrix} v_1 & v_2 & v_3 \end{bmatrix}$$

である。

- (3) 行列 P は固有値・固有ベクトルに対して、 $PV = VA$ が成り立つ。ここで、

$$A = \begin{bmatrix} \lambda_1 & 0 & 0 \\ 0 & \lambda_2 & 0 \\ 0 & 0 & \lambda_3 \end{bmatrix}$$

である。このとき、 $P = \lambda_1 P_1 + \lambda_2 P_2 + \lambda_3 P_3$ を満たす行列 P_1, P_2, P_3 が存在することが知られている。行列 P_1, P_2, P_3 を求めなさい。

- (4) 0 以上の整数 n に対して P^n を求めなさい。

(三重大 2020) (m20203111)

0.607 2 次曲線 $C: 5x^2 - 6xy + 5y^2 = 4$ について、以下の問いに答えなさい。

- (1) ベクトル $\mathbf{x} = \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$ とすると、与えられた 2 次曲線 C は 2 次の対称行列 A を用いて

${}^t \mathbf{x} A \mathbf{x} = 4$ と表現可能である。行列 A を求めなさい。ただし、 ${}^t \mathbf{x}$ はベクトル \mathbf{x} の転置を表すこととする。

- (2) 行列 \mathbf{A} は 2 つの固有値を持つ. この固有値 λ_1, λ_2 とそれぞれの固有値に対応する大きさ 1 の固有ベクトル $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2$ を求めなさい. ただし, $\lambda_1 < \lambda_2$, \mathbf{u}_1 の第 1 成分は正, \mathbf{u}_2 の第 1 成分は負であるとする.
- (3) 行列 $\mathbf{U} = [\mathbf{u}_1 \ \mathbf{u}_2]$ およびベクトル $\mathbf{X} = \begin{bmatrix} X \\ Y \end{bmatrix}$ であるとき, $\mathbf{x} = \mathbf{U}\mathbf{X}$ で与えられる変換を考える. このとき, xy 平面上の 2 次曲線 C は, XY 平面上で 2 次曲線 C' に変換される. 2 次曲線 C' の式を X, Y を用いて表しなさい.

(三重大 2022) (m20223103)

- 0.608** n 行 n 列の正方行列 A の転置をとり, さらに全ての成分の複素共役をとった行列を行列 A のエルミート共役といい, A^\dagger と書く. つまり,

$$(A^\dagger)_{ij} = A_{ji}^* \quad (1 \leq i, j \leq n)$$

また, $A^\dagger = A$ であるとき, 行列 A をエルミート行列と言う. エルミート行列に関して以下の問いに答えよ.

- (1) エルミート行列の固有値は実数であることを証明せよ.
- (2) エルミート行列の異なる固有値に対する固有ベクトルは直交することを示せ.
- (3) 下に示す行列 A はエルミート行列である. 行列 A の固有値と固有ベクトルを求め, 上記 (1), (2) が成り立つことを確かめよ.

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 2 \end{pmatrix}$$

(奈良女子大 2001) (m20013212)

- 0.609** 次の行列について以下の問いに答えよ.

$$\begin{pmatrix} -1 & 0 & 2 \\ 0 & -1 & 1 \\ 2 & 1 & 3 \end{pmatrix}$$

- (1) 固有値を求めよ.
- (2) 得られた各々の固有値に対する固有ベクトルを求めよ.

(奈良女子大 2002) (m20023209)

- 0.610** 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & \varepsilon \\ \varepsilon & 1 \end{pmatrix}$ について以下の問いに答えよ. ただし, ε は実数で, $\varepsilon \neq \pm 1, \varepsilon \neq 0$ であるとする.

- (1) 逆行列 A^{-1} を求めよ.
- (2) 行列 A の固有値を求めよ.
- (3) 各固有値に対する固有ベクトルを求めよ.

(奈良女子大 2003) (m20033209)

- 0.611** 次の 2 行 2 列の行列 $F(\theta)$ について以下の問いに答えよ.

$$F(\theta) = \begin{pmatrix} \cos \theta & \sin \theta \\ -\sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}$$

- (1) $F(\theta)$ について次の関係が成立することを示せ.

$$F(\theta_1)F(\theta_2) = F(\theta_1 + \theta_2)$$

(2) 行列 A を次の 2 行 2 列の行列であるとする.

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$$

このとき, $F(-\theta)AF(\theta)$ が対角行列 $\begin{pmatrix} \lambda_1 & 0 \\ 0 & \lambda_2 \end{pmatrix}$ の形になる θ の値と, そのときの対角要素 λ_1, λ_2 を求めよ.

(奈良女子大 2005) (m20053204)

0.612 次の行列の全ての固有値とそれに属する規格化された固有ベクトルを求めよ.

$$\begin{pmatrix} a & b \\ b & a \end{pmatrix}$$

(奈良女子大 2007) (m20073205)

0.613 次の行列の固有値と規格化された固有ベクトルを求めよ.

$$\begin{pmatrix} -2 & 6 \\ -1 & 3 \end{pmatrix}$$

(奈良女子大 2008) (m20083205)

0.614 次の実対称行列 A について以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 2 & \sqrt{2} \\ \sqrt{2} & 3 \end{pmatrix}$$

- (1) 行列式 $|A|$ を求めよ.
- (2) 行列 A の固有値を求めよ.
- (3) 行列 A の固有ベクトルをすべて求めよ. なお, 固有ベクトルは規格化すること.
- (4) 行列 A は, 直交行列 V とその転置行列 V^T を以下のように左右からかけることにより, 対角行列 B に変換することができる.

$$B = V^T A V$$

行列 V と B を求めよ.

(奈良女子大 2012) (m20123205)

0.615 次の行列 $A(\theta)$ について以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} \cos \theta & \sin \theta \\ -\sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}$$

- (1) 行列式 $|A|$ を求めよ.
- (2) $A(\theta_1 + \theta_2) = A(\theta_1)A(\theta_2)$ であることを示せ.
- (3) $A(\theta)A(-\theta) = I$ を示せ. ここで I は単位行列である.
- (4) 行列 $A\left(\frac{\pi}{2}\right)$ の固有値をすべて求めよ.

(奈良女子大 2013) (m20133208)

0.616 次の行列 A に関する以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} a & b \\ b & a \end{pmatrix}$$

ただし, a および b は実数であり, $b \neq 0$ とする.

- (1) 行列式 $|A|$ を求めよ.

- (2) 行列 A の固有値を求めよ,
 (3) 前問で得られた固有値に対する固有ベクトルを求めよ. なお, 固有ベクトルは規格化すること.
 (4) 適切な直交行列を使って, 行列 A を対角化せよ.

(奈良女子大 2015) (m20153205)

0.617 次の 3 次正方行列

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & -1 \\ 2 & -2 & 2 \\ -1 & 2 & 1 \end{pmatrix}$$

の固有値を $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ ($\lambda_1 \leq \lambda_2 \leq \lambda_3$) とする. このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ の値を求めよ.
 (2) 次の等式が成り立つような正則行列 P を求めよ.

$$P^{-1}AP = \begin{pmatrix} \lambda_1 & 0 & 0 \\ 0 & \lambda_2 & 0 \\ 0 & 0 & \lambda_3 \end{pmatrix}$$

(奈良女子大 2016) (m20163201)

0.618 xy 座標で多項式 $5x^2 - 6xy + 5y^2 = 8$ で表される曲線を考える.

- (1) この式は実数の定数 a, b, c を成分に持つ 2×2 対称行列

$$A = \begin{pmatrix} a & b \\ b & c \end{pmatrix}$$

を使って,

$$\begin{pmatrix} x & y \end{pmatrix} A \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = 1$$

と書き換えることができる. 行列 A を求めよ.

- (2) 行列 A は異なる 2 つの実数の固有値 λ_1, λ_2 をもつ ($\lambda_1 < \lambda_2$ とする). λ_1, λ_2 を求めよ.
 (3) 前問で得られた固有値 λ_1, λ_2 の固有ベクトルをそれぞれ e_1, e_2 とする. e_1, e_2 が直交していることを示せ.
 (4) e_1, e_2 をそれぞれ長さ 1 になるように決めて,

$$\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = Xe_1 + Ye_2$$

によって新しく XY 座標を定義する. 問題で与えた多項式を XY 座標で表し, もとの xy 座標で曲線のグラフをかけ.

(奈良女子大 2016) (m20163208)

0.619 行列 $A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \end{pmatrix}$ について, 以下の問いに答えよ.

- (1) 行列式を求めよ.
 (2) 固有値を全て求めよ.

- (3) 前問で求めた固有値のそれぞれに対応する固有ベクトルを示せ. ここで固有ベクトルの長さは任意でよく, また必ずしも互いに直交せずともかまわない.

(奈良女子大 2018) (m20183207)

0.620 a, b, c を定数とし, 3 次正方行列 A を次で定める.

$$A = \begin{pmatrix} a & 0 & b \\ 0 & c & 0 \\ b & 0 & a \end{pmatrix}$$

以下の問いに答えよ.

- (1) A の固有値をすべて求めよ. さらに A の固有値の異なる値の個数が 2 個になるための a, b, c の条件を求めよ.
- (2) A の一次独立な 3 つの固有ベクトルを求めよ.

(奈良女子大 2019) (m20193201)

0.621 行列 $\begin{pmatrix} 1 & 1 & 3 \\ 1 & 1 & -3 \\ 3 & -3 & -3 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(奈良女子大 2019) (m20193210)

0.622 p を $0 < p < 1$ をみたす実数とする. 行列 A および数列 $\{a_n\}_{n=1}^{\infty}, \{b_n\}_{n=1}^{\infty}$ を

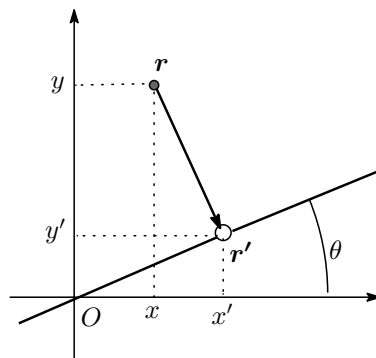
$$A = \begin{pmatrix} p & 1-p \\ 1-p & p \end{pmatrix}, \quad a_1 = 1, \quad b_1 = 0, \quad \begin{pmatrix} a_n \\ b_n \end{pmatrix} = A \begin{pmatrix} a_{n-1} \\ b_{n-1} \end{pmatrix} \quad (n \geq 2)$$

と定める. 以下の問いに答えよ.

- (1) A の固有値をすべて求めよ.
- (2) $k \geq 1$ に対し, A^k を求めよ.
- (3) $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = \lim_{n \rightarrow \infty} b_n = \frac{1}{2}$ であることを示せ.

(奈良女子大 2022) (m20223202)

0.623 下図のように xy 平面上の任意の点 $\mathbf{r} = (x, y)$ を, x 軸から角度 θ 傾いた直線に垂直に射影した点 $\mathbf{r}' = (x', y')$ を求める変換を考える. 以下の問いに答えよ.



- (1) ベクトル \mathbf{r} と単位ベクトル $\mathbf{e} = (\cos \theta, \sin \theta)$ を使って, ベクトル \mathbf{r}' を表せ.
- (2) (x, y) と (x', y') の関係は 2×2 行列 A を使って一次変換

$$\begin{pmatrix} x' \\ y' \end{pmatrix} = A \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$$

として表すことができる. 行列 A を求めよ.

(3) 行列 A の 2 つの固有値を計算し、それぞれの固有値に属する固有ベクトルの方向を求めよ.

(奈良女子大 2022) (m20223209)

0.624 $A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 0 \end{pmatrix}$ とする.

- (1) A の固有値と固有ベクトルを求めよ.
 (2) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような適当な P を選べ.

(京都大 1995) (m19953304)

0.625 $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ $T^T \cdot A \cdot T = D$

とするとき、直交行列 T と対角行列 D を一組求めよ. また、 $A = B^2$ となる正方行列 B を一組求めよ.

(京都大 1996) (m19963304)

0.626 行列 A が次のように定義されている. 以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

- (1) A の固有値, 固有ベクトルを求めよ.
 (2) A を対角化する正則行列 P を求めよ.

(京都大 1998) (m19983304)

- 0.627 (1) 行列 A , 固有値 λ , それに対応する固有ベクトル x の間の関係式を書け.
 (2) 行列 A , 固有値 λ が満たすべき方程式を固有方程式という. 固有方程式を書け.

(3) $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & 2 \end{pmatrix}$ のとき, A の固有値を求めよ.

- (4) (3) の固有値に対する固有ベクトルの中で, 互いに直交な単位ベクトルを求めよ.

(京都大 2000) (m20003302)

0.628 n 行 n 列の行列 A が対角化可能とは, ある正則行列 P とその逆行列 P^{-1} , および, ある対角行列 Λ を用いて

$$P^{-1}AP = \Lambda$$

と表現できることである.

- (1) 対角化可能な行列 A があるとき, これを対角化する手順について説明せよ.
 (2) 次で与えられる 3 行 3 列の行列 A を実際に対角化し, 行列 P と対角行列 Λ を与えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 0 & 2 & 2 \\ 0 & 0 & 3 \end{pmatrix}$$

(京都大 2002) (m20023303)

0.629 次の行列 A に対して, (1)~(3) に答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 \\ -1 & 1 & 1 \\ -1 & 1 & 2 \end{pmatrix}$$

ただし, I は 3 次の単位行列, $\mathbf{0}$ は 3 次元の零ベクトルを表す.

(1) 行列 A の固有値とその固有ベクトルの組 (λ, \mathbf{p}) の中で

$$(A - \lambda I)\mathbf{q} = \mathbf{p} \quad \text{かつ} \quad \mathbf{q} \neq \mathbf{0}$$

が成立するベクトル \mathbf{q} が存在するような組を 1 つ求めよ.

(2) (1) の結果を用いて, $AP = PB$ が成立するような上三角行列 B と正則行列 P を求めよ.

(3) (2) の結果を用いて, A^n の各成分を n の式で表せ.

(京都大 2008) (m20083304)

0.630 スマートフォン業界のシェア争いを考える, A 社, B 社の 2 社が熾烈なシェア争いをしている. ある年 k 年 (k は非負整数) の各社のシェアがそれぞれ $a_k\%$, $b_k\%$ ($a_k + b_k = 100$) とする. 翌年 ($k+1$ 年) の各社のシェアは,

$$\mathbf{S} = \begin{bmatrix} s_{11} & s_{12} \\ s_{21} & s_{22} \end{bmatrix}, \quad \mathbf{x}_k = \begin{bmatrix} a_k \\ b_k \end{bmatrix} \quad \text{とすると, } \mathbf{x}_{k+1} = \mathbf{S}\mathbf{x}_k \text{ で与えられるものとする.}$$

$$\mathbf{x}_0 = \begin{bmatrix} 10 \\ 90 \end{bmatrix} \quad \text{として, 次の問 (1)~(2) に答えよ.}$$

(1) $\mathbf{S} = \begin{bmatrix} 0.9 & 0.2 \\ 0.1 & 0.8 \end{bmatrix}$ とする.

(a) $\mathbf{x}_n = \begin{bmatrix} a_n \\ b_n \end{bmatrix}$ を求めよ.

(b) $\mathbf{x}_3 = \begin{bmatrix} a_3 \\ b_3 \end{bmatrix}$ を求めよ.

(c) $n \rightarrow \infty$ の場合の各社のシェアを求めよ.

(2) $\mathbf{S} = \begin{bmatrix} 0.6 & 0.4 \\ 0.4 & 0.6 \end{bmatrix}$ とする. $n \rightarrow \infty$ の場合の各社のシェアを求めよ.

(京都大 2013) (m20133302)

0.631 実数のパラメータ θ に依存する行列 $A(\theta)$ が

$$A(\theta) = \begin{pmatrix} 1 - \frac{2}{3} \cos^2 \theta & -\frac{2}{3} \cos \theta \sin \theta \\ -\frac{2}{3} \cos \theta \sin \theta & 1 - \frac{2}{3} \sin^2 \theta \end{pmatrix}$$

で与えられている. \mathbb{R}^2 の点 \mathbf{x} をデカルト座標系 $O - x_1x_2$ を用いて $\mathbf{x} = (x_1, x_2)$ と表す. これらを用いて, 集合 $\Omega(\theta)$ を

$$\Omega(\theta) = \{\mathbf{x} | \mathbf{x} \cdot A(\theta)\mathbf{x} \leq 1\}$$

と定義する. ここに, $\mathbf{x}, \mathbf{y} \in \mathbb{R}^2$ に対して

$$\mathbf{x} \cdot \mathbf{y} = \sum_{i=1}^2 x_i y_i$$

である. このとき, 次の (1)~(4) に答えよ.

- (1) $A(\theta)$ のすべての固有値と対応する固有ベクトルを求めよ. ただし, 固有ベクトルは正規化して単位ベクトルとせよ.
- (2) $\Omega(\theta)$ の概形を描け.
- (3) $\Omega(0) \cap \Omega(\pi/2)$ の面積を求めよ.
- (4) $\bigcup_{0 \leq \theta \leq \pi/2} \Omega(\theta)$ を図示し, その面積を求めよ. ここに, $\mathbf{x} \in \bigcup_{0 \leq \theta \leq \pi/2} \Omega(\theta)$ とは, $0 \leq \theta_0 \leq \pi/2$ なる θ_0 があって, $\mathbf{x} \in \Omega(\theta_0)$ となることである.

(京都大 2015) (m20153305)

0.632 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & k \\ -1 & 2 & 1 \\ 1 & 2k & 3 \end{pmatrix}$ について以下の各問に答えよ.

- (1) 行列 A が 2 を固有値として持ち, かつ正則行列となるように k を定めよ.
- (2) (1) で求めた k に対して, A の固有値 2 に対応する固有ベクトルを求めよ.

(京都工芸繊維大 2000) (m20003411)

0.633 行列 $A = \begin{pmatrix} -1 & -1 & a \\ 2 & 1 & -1 \\ a^2 & 2 & 1 \end{pmatrix}$ が固有ベクトル $\begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 2 \end{pmatrix}$ を持つような a の値を求めよ. また, このとき行列 A のすべての固有値及びの行列式を求めよ.

(京都工芸繊維大 2001) (m20013410)

0.634 行列 $A = \begin{pmatrix} -1 & 2 & 0 \\ 0 & -1 & 1 \\ a & 0 & 2 \end{pmatrix}$ について, 次の各問いに答えよ. ただし, a は定数である.

- (1) A の行列式の値が -2 となるように定数 a を定めよ.
- (2) (1) で得られた定数 a の値に対して, A の固有値とその固有ベクトルをすべて求めよ.

(京都工芸繊維大 2002) (m20023410)

0.635 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & a & -1 \\ a & 2 & b \\ -1 & b & 2 \end{pmatrix}$ が固有ベクトル $\begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}$ をもつとする.

- (1) 成分 a, b の値を求めよ. (2) A の固有値をすべて求めよ.

(京都工芸繊維大 2003) (m20033410)

0.636 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & -1 & 1 \\ -1 & 1 & -1 \\ 1 & -1 & 1 \end{pmatrix}$ の固有値をすべて求めよ.

(京都工芸繊維大 2003) (m20033411)

0.637 行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & 0 & 1 \\ -2 & 2 & -2 \\ -1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ の固有値とその固有ベクトルをすべて求めよ.

(京都工芸繊維大 2004) (m20043405)

0.638 行列 $A = \begin{pmatrix} -1 & 1 & -3 \\ 9 & -2 & 9 \\ 5 & -2 & 7 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えよ. ただし, E は 3 次の単位行列を表す.

- (1) A の固有多項式 $f_A(x)$ および A の固有値をすべて求めよ. ただし, $f_A(x)$ は行列 $xE - A$ の行列式のことである.
- (2) 自然数 $n \geq 1$ に対して, 多項式 $(x-1)^{n+2}$ を $f_A(x)$ で割った余りを求め, 行列 $(A-E)^{n+2}$ を求めよ.

(京都工芸繊維大 2005) (m20053405)

0.639 行列 $A = \begin{pmatrix} -1 & -3 & 0 \\ 1 & 3 & -1 \\ -2 & -2 & 1 \end{pmatrix}$ の固有値とその固有ベクトルをすべて求めよ.

さらに, A^n (n は自然数) の行列式の値を求めよ.

(京都工芸繊維大 2006) (m20063411)

0.640 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & -1 & 0 \\ 0 & 1 & -1 & 0 \\ 1 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えよ.

- (1) 行列 $xE - A$ の行列式を求めよ. ただし, x はスカラー, E は 4 次の単位行列を表す.
- (2) A の固有値とその固有ベクトルをすべて求めよ.

(京都工芸繊維大 2007) (m20073401)

0.641 行列 $A = \begin{pmatrix} 5 & 1 & 2 \\ 1 & 5 & -2 \\ 2 & -2 & 2 \end{pmatrix}$ について, 以下の問いに答えよ.

- (1) A の固有値をすべて求めよ.
- (2) A の固有方程式の重解を λ_0 とする. 固有値 λ_0 に対応する 2 つの固有ベクトルで, 正規直交系をなすものを 1 組求めよ.

(京都工芸繊維大 2008) (m20083401)

0.642 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & -1 & -1 \\ -1 & 2 & 1 \\ -1 & 1 & 2 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えよ.

- (1) 行列 A の固有値をすべて求めよ.
- (2) 行列 A の逆行列 A^{-1} を求めよ.

(京都工芸繊維大 2010) (m20103401)

0.643 E を 3 次の単位行列とし, $A = \begin{pmatrix} 4 & 0 & 6 \\ 3 & -1 & 4 \\ -3 & 0 & -5 \end{pmatrix}$ とおく.

- (1) A の固有値をすべて求めよ.
- (2) A の実固有値のうちで最小のものを λ とする. λ に対する固有ベクトル $\vec{v} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$ を 1 つ求めよ.
- (3) $B = A^7 + 5A^4 + E$ とおく. (2) で求めたベクトル \vec{v} が B の固有ベクトルになることを示し, \vec{v} に対する B の固有値を求めよ.

0.644 (1) a を実数とする. 行列 $\begin{pmatrix} 1 & 2 & -1 & 1 \\ a & 3 & 2 & 2 \\ -2 & 1 & 3 & 1 \end{pmatrix}$ の階数を求めよ

(2) 整数を成分とする 3 次正方行列 $A = \begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} & a_{13} \\ a_{21} & a_{22} & a_{23} \\ a_{31} & a_{32} & a_{33} \end{pmatrix}$ がある.

(a) A の固有多項式の 1 次項の係数を求めよ.

(b) A が複素数の範囲でただ一つの固有値 α をもつとき, $3\alpha^2$ は整数であることを示せ.

0.645 (1) 3 次正方行列 $A = \begin{pmatrix} -4 & -1 & -2 \\ 1 & -2 & 1 \\ 2 & 1 & 0 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルをすべて求めよ.

(2) n を自然数とする. 3 次正方行列 $B = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ に対して, B^n を求めよ.

0.646 a, b を実数とし, 行列 $A = \begin{pmatrix} a & 2 & 2 \\ 2 & -1 & b \\ 2 & 0 & -3 \end{pmatrix}$ は固有ベクトル $\begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix}$ を持つとする.

(1) a, b を求めよ.

(2) A の固有値をすべて求めよ.

(3) 行列式 $\begin{vmatrix} 0 & 0 & 0 & 1 \\ a & 2 & 2 & 0 \\ 2 & -1 & b & 0 \\ 2 & 0 & -3 & 0 \end{vmatrix}$ を求めよ.

0.647 a を実数とする. 3 次正方行列 $A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$ を考える. E は 3 次の単位行列を表す.

(1) 行列 $aE + A$ の固有値と固有ベクトルをすべて求めよ.

(2) 行列 $aE + A$ の階数を求めよ.

(3) 3 次正則行列 P で

$$P^{-1}(aE + A)P = aE + A^2$$

を満たすものは存在しないことを示せ.

0.648 4 次正方行列 $A = \begin{pmatrix} 4 & 0 & 2 & 0 \\ 0 & 2 & 0 & -1 \\ 2 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & -1 & 0 & 2 \end{pmatrix}$ について, 以下の問に答えよ.

(1) A の固有値をすべて求めよ.

(2) A の固有ベクトルのみから成る \mathbb{R}^4 の正規直交基底を 1 組求めよ.

(京都工芸繊維大 2021) (m20213401)

0.649 $F = 3x^2 + 2xy + 3y^2$ について以下の各問いに答えよ.

- (1) 2次形式 F の表現行列 A を求めよ.
- (2) A の固有値 α, β およびそれに対応する単位固有ベクトル \mathbf{u}, \mathbf{v} を求めよ.
- (3) \mathbf{u}, \mathbf{v} が直交することを示せ.
- (4) 一般に相異なる固有値に対応する固有ベクトルは直交することを示せ.
- (5) $\mathbf{P} = (\mathbf{u}, \mathbf{v})$ とした時, \mathbf{P} は直交行列であることを示せ.
- (6) A を対角化せよ.
- (7) F の標準形を求めよ.

(大阪大 1995) (m19953506)

0.650 行列 $A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \end{pmatrix}$ に対して,

- (1) 固有値と単位固有ベクトルを求めよ.
- (2) 対角化するための直交行列 P とその逆行列 P^{-1} を求めよ.
- (3) $B = A^9 + 3A$ を求めよ.

(大阪大 1997) (m19973505)

0.651 二つの n 次正方行列 A, B に対して, それらの積 AB の固有値は積の順序を入れ換えた BA の固有値でもあることを示せ.

(大阪大 1998) (m19983503)

0.652 2次曲線 $2x^2 - 4xy + 5y^2 = 3$ を標準化して, そのグラフを書くことを考える.

以下の問に順次答えよ.

- (1) 2次形式 $F = 2x^2 - 4xy + 5y^2$ の行列 A を求めよ.
- (2) 対称行列 A の固有値 α, β を求めると共に, それぞれに対応した大きさ 1 の固有ベクトル \mathbf{u}, \mathbf{v} を計算せよ.
- (3) 直交行列の定義を述べよ. また, (2) で求めた列ベクトル \mathbf{u}, \mathbf{v} より 2 次の正方行列 $P = [\mathbf{u}, \mathbf{v}]$ を作成した場合, P が直交行列となっていることを示せ.
- (4) P を用いて, 行列 A を対角化せよ.
- (5) (3) で求めた P を用いて, 次式のようにもとの (x, y) 座標系から (x', y') 座標系に変換した場合, 新しい座標系ともとの座標系の関係はどのようなになっているか示せ.

$$\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = P \begin{pmatrix} x' \\ y' \end{pmatrix}$$

- (6) 2次曲線 $2x^2 - 4xy + 5y^2 = 3$ に対して, (5) の座標変換を行い, 新しい座標系 (x', y') で表現したときの式を求めよ.
- (7) 与えられた 2次曲線 $2x^2 - 4xy + 5y^2 = 3$ の図形を描け.

(大阪大 1999) (m19993503)

0.653 行列 $A = \begin{pmatrix} -t & t+1 \\ -t+1 & t \end{pmatrix}$ とする.

- (1) A の固有値, 固有ベクトルを求めよ.
- (2) $C^{-1}AC$ が対角行列となるような正則行列 C , および, そのときの対角行列 $C^{-1}AC$ を求めよ.
- (3) A^n を求めよ. ただし, n は正の整数である.

(大阪大 2001) (m20013505)

0.654 X_n ($n = 0, 1, 2, \dots$) は 3 次の正方行列で, $X_{k+1} = AX_k + E$ が成り立つとする.

ここに, $A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \\ 1 & 0 & 0 \end{pmatrix}$, $E = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$, $X_0 = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$ である.

このとき, X_n を求めよ.

(大阪大 2001) (m20013506)

0.655 A を正則行列とする. A の固有値の一つが λ のとき, $\frac{1}{\lambda}$ が A の逆行列 A^{-1} の固有値になることを示せ.

(大阪大 2001) (m20013507)

0.656 s を実数, v を実数を成分とする 3 次元ベクトルとして,

$$A_s = E - sv^t v$$

と定義する. E は単位行列, ${}^t v$ は v の転置ベクトルを表す. ただし, v は零ベクトルではないとする. 以下の問に答えよ.

- (1) A_s が直交行列となる s をすべて求めよ.
- (2) 必要があれば, A_s が対称行列であることを用いて, A_s の固有値をすべて求めよ.
- (3) 実数を成分とする 3 次元列ベクトル x_0 に対して

$$x_{i+1} = A_s x_i \quad i = 0, 1, 2, \dots$$

と定める. このとき, すべてのベクトル x_0 に対して, x_i が収束するための s の範囲を求めよ. また, その時の極限 x_∞ を x_0 と v を用いて表せ. ただし, x_i が x_∞ に収束するとは, x_i の各成分が x_∞ の各成分に収束することである.

(大阪大 2004) (m20043506)

0.657 次の行列

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 1 & -1 \\ 2 & -3 & 2 \\ 4 & -2 & 1 \end{pmatrix}$$

について, 以下の問に答えよ.

- (1) 行列 A の固有値, 固有ベクトルを求めよ.
- (2)

$$(A^8 + 3A - 4I) \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = 0$$

を満足する点 (x, y, z) の集合はどのような図形となるか. 図形の方程式を導出せよ. ただし, I は 3 次の単位行列である.

(大阪大 2004) (m20043507)

0.658 行列

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 2 & 0 \\ 0 & 0 & 2 \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} 4 & -2 & 0 \\ -2 & 4 & -2 \\ 0 & -2 & 8 \end{pmatrix}$$

について、以下の間に答えよ。

- (1) λ を実数とするとき、行列式 $|\lambda A - B|$ を極大ないし極小とする λ の値をすべて求めよ。
- (2) 方程式 $\lambda A \vec{x} = B \vec{x}$ が $\vec{x} = \vec{0}$ 以外のベクトルを解に持つときの λ の値と対応する解 \vec{x} をすべて求めよ。ただし、 $\vec{0}$ は零ベクトルである。

(大阪大 2005) (m20053501)

0.659 行列 $A = \begin{bmatrix} b & 1-a \\ a & b \end{bmatrix}$ として、以下の設問に答えよ。ただし a, b は実数である。

- (1) 行列 A の 2 つの固有値を求めよ。また、固有値が異なる実数値となるための a と b に関する必要十分条件を示せ。
- (2) 行列 A の 2 つの固有値が異なる実数値である場合に、それぞれの固有値に対応する固有ベクトルを求めよ。また、2 つの固有ベクトルが直交するための a と b に関する必要十分条件を示せ。
- (3) 行列 A の 2 つの固有値が異なる実数値である場合に、 $P^{-1}AP$ を対角行列とする正則行列 P 、対角行列 $P^{-1}AP$ を求めよ。また、 A^n を求めよ。ただし n は正の整数である。
- (4) 行列 A の 2 つの固有値が異なる実数値となり、かつ、零ベクトルではない 2 次元ベクトル x に対して

$${}^t x A x > 0$$

を満たすための a と b に関する必要十分条件を示せ。ここで ${}^t x$ は x の転置ベクトルを表す。

(大阪大 2005) (m20053506)

0.660 行列 $A = \begin{pmatrix} 7 & 4 & -16 \\ -6 & 1 & 12 \\ 2 & 2 & -5 \end{pmatrix}$ について、以下の間に答えよ。

- (1) 行列 A の固有値、単位固有ベクトルをすべて求めよ。
- (2) 行列 A の表す 1 次変換によって、直線 $x = 3y = 3z$ が写される直線を示せ。
- (3) 行列 A の表す 1 次変換によって自分自身に写される直線の中で、どの 2 組も平行でないものを 3 つ求めよ。

(大阪大 2006) (m20063501)

0.661 点 $A(1, 0)$ を点 $A'(a, 0)$ に、点 $B(1, 1)$ を点 $B'(a+b, 1-a)$ に移す 1 次変換を f とする。ただし、 a, b は実数とする。また、 f を表す行列を F とする。

- (1) 行列 F を a, b を用いて表せ。
- (2) 行列 F が対角化できるための a, b に関する必要十分条件を求めよ。また、対角化できる場合は対角化せよ。
- (3) 1 次変換 f の n 回の積を f^n とする。点 (x_0, y_0) が 1 次変換 f^n によって移される点 (x_n, y_n) を a, b, x_0, y_0 を用いて表せ。

(大阪大 2006) (m20063506)

0.662 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 5 & 4 \end{pmatrix}$ について以下の問いに答えよ。

- (1) 行列 A の固有値, 固有ベクトルを求めよ.
- (2) 適当な変換行列 (対角化するための正則行列) P を求め, 行列 A を対角化せよ.
- (3) 行列 A の n 乗を求めよ.

(大阪大 2007) (m20073503)

0.663 行列 $A = \begin{pmatrix} a & 1 & 1 \\ 1 & a & 1 \\ a^2 & 1 & a \end{pmatrix}$ について, 以下の設問に答えよ. ただし, a は実数とする.

- (1) A の行列式の値を求めよ.
- (2) $\begin{pmatrix} a \\ 1 \\ a^2 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ a \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ a \end{pmatrix}$ が 1 次独立となる際の a の条件を求めよ.
- (3) A の固有値の一つが 0 であるとき, a の値を求めよ.
また, その場合のすべての固有値と固有ベクトルを求めよ.
- (4) A の固有値の一つが 1 であるとき, A^n を求めよ. ただし, $a < 0$ とする.

(大阪大 2007) (m20073507)

0.664 行列 $A = \begin{pmatrix} a & 0.5 \\ 1 & a+0.5 \end{pmatrix}$ について, 以下の設問に答えよ. ただし, a は実数とする.

- (1) $A\mathbf{x} = \mathbf{0}$ が $\mathbf{x} = \mathbf{0}$ 以外の解をもつために, a が満たすべき条件を示せ.
- (2) x_1, x_2, b_1, b_2 を実数とする. $A \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix}$ に解 $\begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix}$ が存在するために, a, b_1, b_2 が満たすべき条件をすべて述べよ. また, それぞれの場合の解あるいは解集合を求めよ.
- (3) A の固有値と固有ベクトルを求めて, A を対角化せよ.
- (4) A^n を求めよ. ただし, n は自然数とする.
- (5) 任意の 2 次元列ベクトル \mathbf{x} について, $\lim_{n \rightarrow +\infty} A^n \mathbf{x} = \mathbf{0}$ となるための a の範囲を求めよ. ただし, $\lim_{n \rightarrow +\infty} A^n \mathbf{x} = \mathbf{0}$ はベクトル $A^n \mathbf{x}$ の各成分が 0 に収束することをいう.

(大阪大 2008) (m20083502)

0.665 対称行列 $A = \begin{pmatrix} a & b \\ b & c \end{pmatrix}$ について以下の問いに答えよ. ただし, a, b および c は実数であり, また, $b \neq 0$ である.

- (1) 実数の固有値が 2 個存在することを示せ.
- (2) 相異なる固有値に属する固有ベクトルが互いに直交することを示せ.
- (3) 行列 A は対称行列であるので, 適当な直交行列 U によって対角化される. この直交行列 U を使った $\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = U \begin{pmatrix} v \\ w \end{pmatrix}$ という一次変換によって, $(x \ y) \begin{pmatrix} a & b \\ b & c \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ が $\lambda_1 v^2 + \lambda_2 w^2$ となることを示せ. ただし, λ_1 および λ_2 は行列 A の相異なる固有値である.
- (4) (3) の関係を利用して $2x^2 - 2xy + 2y^2$ を $\lambda_1 v^2 + \lambda_2 w^2$ の形にしたい. このときの λ_1 および λ_2 を求めよ.

(大阪大 2008) (m20083508)

0.666 (1) A および B を n 次実対称行列とする. n 次元ベクトル \boldsymbol{x} についての方程式 $\lambda A\boldsymbol{x} = B\boldsymbol{x}$ が実数 $\lambda = \lambda_1, \lambda_2, \lambda_3, \dots, \lambda_n$ のときに $\boldsymbol{x} \neq \mathbf{0}$ である解をもつとする. λ_i ($i = 1, 2, 3, \dots, n$) に対応する解を \boldsymbol{x}_i とする. $\lambda_i \neq \lambda_j$ のとき, ${}^t\boldsymbol{x}_i A \boldsymbol{x}_j = 0$ となることを示せ. ただし, ${}^t\boldsymbol{x}$ は \boldsymbol{x} の転置を表す.

(2) $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 1 \end{pmatrix}$, $B = \begin{pmatrix} 2 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$ であるとき, 上の方程式が $\boldsymbol{x} \neq \mathbf{0}$ であるような解をもつ λ_1, λ_2 と, それに対応する解 $\boldsymbol{x}_1, \boldsymbol{x}_2$ を一つずつ求めよ.

(大阪大 2009) (m20093501)

0.667 行列 $A = \begin{pmatrix} a & b & 0 \\ b & a & 0 \\ 0 & 0 & c \end{pmatrix}$ の指数関数 $\exp(A)$ を求める. ただし, a, b および c は実数ある. また, E を単位行列として, 行列 A の指数関数 $\exp(A)$ を

$$\exp(A) = E + \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n!} A^n$$

のように定義する.

- (1) 行列 A の固有値をすべて求めよ.
- (2) 行列 A は対称行列であるので, 適当な直交行列によって対角化される. 行列 A を対角化する直交行列の中で対称行列となる直交行列 P を 1 つ求めよ.
- (3) 行列 A の指数関数 $\exp(A)$ を求めよ.
- (4) $\exp(A)$ の行列式 $|\exp(A)|$ を求めよ.

(大阪大 2010) (m20103501)

0.668 2次元平面上の点 $A(1, 0)$ を点 $A'(a, 1-b)$ に, 点 $B(1, 1)$ を点 $B'(a+b, 1+a-b)$ に移す 1 次変換を f とする. ただし, a, b は実数とする. また, f を表す行列を F とする.

- (1) 行列 F を a と b を用いて表せ.
- (2) 行列 F の固有値を求めよ. また, 2 つの固有値が異なる実数値となるための a と b に関する必要十分条件を示せ.
- (3) 行列 F の 2 つの固有値が異なる実数値となる場合に, $P^{-1}FP$ を対角行列とする正則行列 P , 対角行列 $P^{-1}FP$ を求めよ. ただし, 正則行列 P の列ベクトルの長さは 1 とする. ここで P^{-1} は行列 P の逆行列である.
- (4) (3) で求めた正則行列 P の列ベクトルが直交するための a と b に関する必要十分条件を示せ.
- (5) 原点 $(0, 0)$ 以外の任意の点を X とする. また, 点 Y は, 点 X が 1 次変換 f によって移された点とする. 原点 $(0, 0)$ から X までの距離, および Y までの距離を, それぞれ d_X, d_Y とする. ここで a と b は (4) で求めた必要十分条件を満たし, 定数とする. また, 点 X は自由に選べるものとする. このとき, 2 つの距離の比 d_Y/d_X の最大値を a と b を用いて表せ.

(大阪大 2010) (m20103506)

0.669 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & a \\ 2 & 2 & 2 \\ a & 2 & 1 \end{pmatrix}$ について考える. ただし, a は実数とする.

- (1) 行列 A の固有値の一つが 0 である場合, a の値を求めよ.
- (2) $a = -1$ の場合について, A の固有値と固有ベクトルを求めて, A を対角化せよ.

- (3) \boldsymbol{x} を長さ 1 のベクトルとする. ベクトル \boldsymbol{y} を, \boldsymbol{x} の A による一次変換 $\boldsymbol{y} = A\boldsymbol{x}$ とする.
 $a = -1$ の場合について, \boldsymbol{y} の長さ $|\boldsymbol{y}|$ を最大とする \boldsymbol{x} を求めよ. また, そのときの長さ $|\boldsymbol{y}|$ を求めよ.

(大阪大 2011) (m20113506)

0.670 数列 $\{a_n\}, \{b_n\}, \{x_n\}, \{y_n\}$ が, 行列 $P = \begin{pmatrix} 3 & -1 \\ -5 & 2 \end{pmatrix}$, $A = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} -11 & 4 \\ -30 & 11 \end{pmatrix}$ を用いて

$$\begin{pmatrix} x_1 \\ y_1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad \begin{pmatrix} x_{n+1} \\ y_{n+1} \end{pmatrix} = A \begin{pmatrix} x_n \\ y_n \end{pmatrix} + \frac{1}{3^n} \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \end{pmatrix}, \quad \begin{pmatrix} a_n \\ b_n \end{pmatrix} = P \begin{pmatrix} x_n \\ y_n \end{pmatrix}$$

と定義される. ここで n は自然数とする. 以下の問いに答えよ.

- (1) PAP^{-1} を求めよ.
- (2) 数列 $\{a_n\}$ の一般項を求めよ.
- (3) 第 n 項が $c_n = 2^n b_n$ で与えられる数列 $\{c_n\}$ の一般項を求めよ.
- (4) $\sum_{n=1}^{\infty} x_n$ ならびに $\sum_{n=1}^{\infty} y_n$ を求めよ.

(大阪大 2012) (m20123501)

0.671 以下の設問に答えよ.

- (1) 実数を要素とする行列 $A = \begin{pmatrix} a & b \\ b & c \end{pmatrix}$ が異なる固有値を有するための条件を求めよ. また, そのとき, 異なる固有値に対する固有ベクトルが直交することを示せ.
- (2) 2次曲線 $7x^2 - 4xy + 7y^2 = 9$ の概形を描け.
- (3) $x^2 + y^2 = 1$ のとき, 関数 $f(x, y) = 2x^2 + dxy + 3y^2$ の最大値と最小値を求めよ. ただし, d は実数の定数とする.

(大阪大 2012) (m20123506)

0.672 (1) 行列 $A = \begin{pmatrix} b & 0 & c \\ 0 & a & 0 \\ c & 0 & b \end{pmatrix}$ のすべての固有値と, それぞれに対応する固有ベクトルを求めよ.

ただし, a, b, c は実数である.

- (2) 行列 A を対角化する直交行列の中で, 対称行列となる P を一つ求めよ.
- (3) A^n を求めよ. ただし, n は自然数を表す.
- (4) (2) で求めた P を用いて $\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$ を $\begin{pmatrix} u \\ v \\ w \end{pmatrix} = P \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$ と 1 次変換することで, $x^2 + 2y^2 + z^2 + xz$

が $\lambda_1 u^2 + \lambda_2 v^2 + \lambda_3 w^2$ と表せることを示せ. また, 定数 $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ の値を求めよ.

(大阪大 2013) (m20133503)

0.673 次の 2 次曲線 (a) について以下の設問に答えよ.

$$5x^2 + 2xy + 5y^2 + c = 0 \cdots \cdots (a)$$

- (1) $\boldsymbol{x} = (x, y)^T$ として, 式 (a) を $\boldsymbol{x}^T A \boldsymbol{x} + c = 0$ の形で表すときの対称行列 A を示せ. ただし, T は転置を表す.

- (2) 行列 A の固有値を求めよ.
- (3) $P^{-1}AP$ を対角行列にする正則行列 P とそのときの対角行列 $B = P^{-1}AP$ を求めよ. ただし, 正則行列の列ベクトルの大きさは 1 とする.
- (4) $\mathbf{x}' = (x', y')^T$ とし設問 (3) の正則行列 P を用いて $\mathbf{x} = P\mathbf{x}'$ で式 (a) を座標変換して得られる $\mathbf{x}'^T B \mathbf{x}' + c = 0$ の概形を x' 軸, y' 軸と共に描け. ただし, $c = -12$ とする.

(大阪大 2014) (m20143502)

0.674 行列の対角化に関する以下の設問に答えよ.

- (1) 次の対称行列 A を直交行列によって対角化せよ. ただし, a は実定数である.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & a \\ a & 1 \end{pmatrix}$$

- (2) 次の行列 B が正則行列によって対角化できるための実定数 b, c の必要十分条件を求めよ. また, 対角化出来る場合は対角化せよ.

$$B = \begin{pmatrix} 1 & c \\ 0 & b \end{pmatrix}$$

(大阪大 2015) (m20153506)

0.675 (1) 実数を成分とする 2 次の正方行列 A, B は対称行列とし, A は相異なる固有値を持つとする. このとき, $AB = BA$ ならば A と B は同じ直交行列によって対角化されることを示せ.

- (2) $\begin{pmatrix} 2 & 2 \\ 2 & -1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 2 & -2 \\ -2 & 5 \end{pmatrix}$ を同じ直交行列によって対角化せよ.

(大阪大 2016) (m20163502)

0.676 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 0 & 1 \\ 0 & 4 & 0 \\ 1 & 0 & 2 \end{pmatrix}$ に関して以下の問いに答えよ.

- (1) A の固有値をすべて求めよ.
- (2) A が対角化する直交行列 P の中で対称行列を求めよ.
- (3) A の逆行列を, 問い (1), (2) で求めた A の固有値と P を用いて表せ.

- (4) 問い (3) の結果を用いて, 連立方程式 $A\mathbf{x} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}$ の解を求めよ.

- (5) 問い (3) の結果および直交行列の性質 $P^T P = I$ を用いて, 正の整数 n に対する連立方程式

$$A^n \mathbf{x} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix} \text{ の解 } \mathbf{x}_{(n)} \text{ を } P, n \text{ および } A \text{ の固有値を用いて表せ. } , n \rightarrow \infty \text{ としたときの } \mathbf{x}_{(n)}$$

の極限を示せ. ただし, P^T は P の転置行列を, I は単位行列を表す.

(大阪大 2016) (m20163510)

0.677 行列 $\begin{pmatrix} 5 & -1 & 2 \\ -1 & 6 & -1 \\ 2 & -1 & 5 \end{pmatrix}$ について, 以下の問いに答えよ.

- (1) すべての固有値と, それぞれの固有値に属する固有ベクトルを求めよ. ただし, 固有ベクトルの大きさは 1 とする.

- (2) 関数 $f(x, y, z)$ の x, y, z についての偏導関数をそれぞれ $f_x(x, y, z), f_y(x, y, z), f_z(x, y, z)$, 関数 $g(x, y, z)$ の x, y, z についての偏導関数をそれぞれ $g_x(x, y, z), g_y(x, y, z), g_z(x, y, z)$ とする. 関数 $f(x, y, z)$ が条件 $g(x, y, z) = 0$ のもとで点 (a, b, c) において極値をとり, $g_x(a, b, c) \neq 0$ または $g_y(a, b, c) \neq 0$ または $g_z(a, b, c) \neq 0$ ならば, 次の式を満たす実数 λ が存在する.

$$f_x(a, b, c) - \lambda g_x(a, b, c) = 0$$

$$f_y(a, b, c) - \lambda g_y(a, b, c) = 0$$

$$f_z(a, b, c) - \lambda g_z(a, b, c) = 0$$

条件 $x^2 + y^2 + z^2 = 1$ のもとで, 次の関数 $f(x, y, z)$ が最小値をとる (x, y, z) を求めよ.

$$f(x, y, z) = (x \ y \ z) \begin{pmatrix} 5 & -1 & 2 \\ -1 & 6 & -1 \\ 2 & -1 & 5 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$$

(大阪大 2017) (m20173503)

- 0.678** 行列 $A = \begin{bmatrix} 2 & 0 & 2 \\ 1 & -4 & 0 \\ 1 & c & 3 \end{bmatrix}$ について以下の問いに答えよ. ただし, c は実定数である.

- (1) 行列 A の固有多項式 $f(\lambda) = |\lambda I - A|$ を変数 λ の関数とみなし, その極値を求めよ. ただし, I は単位行列を表すものとする. さらに, $c = 0$ のときの f のグラフの概形を図示せよ.
- (2) 行列 A のすべての固有値が実数となる, c に関する必要十分条件を示せ.
- (3) $c = 0$ のときの行列 A のすべての固有値と対応する固有ベクトルを求めよ.

(大阪大 2018) (m20183501)

- 0.679** 次式で表される xyz 座標系の 2 次曲面について以下の問いに答えよ.

$$8x^2 + 2\sqrt{3}yz + 7y^2 + 5z^2 = 8$$

- (1) 与式の左辺の対称行列 A を用いて $(x \ y \ z)A \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$ の形式で表せ.
- (2) A のすべての固有値を重複する場合も含めて求め, それぞれに対応する固有ベクトルを求めよ. ただし, 固有ベクトルは互いに直交するものを示すこと.
- (3) A を対角化する直交行列を一つ示し, その直交行列で対角化せよ.
- (4) xyz 座標系の原点から小問 (2) で求めた各固有ベクトルの方向に X 軸, Y 軸, Z 軸をとるとき, 与えられた 2 次曲面の $X - Y, Y - Z, Z - X$ の各平面による切断面をそれぞれ図示せよ. その際, 切断面の輪郭線と各軸との交点の座標を記入すること.

(大阪大 2019) (m20193503)

- 0.680** $\mathbf{x} = {}^t(x, y, z)$ に対する線形変換

$$f(\mathbf{x}) = \begin{pmatrix} x + 3y - z \\ 2x + y + 3z \\ 3x + 2y + 4z \end{pmatrix}$$

について, 以下の問いに答えよ. ただし, t は行列の転置を表すとする.

- (1) ある行列 A を用いて, $f(\mathbf{x}) = A\mathbf{x}$ と表すことができる. この行列 A を求めよ.

- (2) k を実数とし, $\mathbf{b} = {}^t(5, 0, k)$ とする. \mathbf{x} についての方程式 $f(\mathbf{x}) = \mathbf{b}$ が解を持つための, k についての必要十分条件を求めよ. またその条件が満たされるとききの解を求めよ.
- (3) $\mathbf{0} = {}^t(0, 0, 0)$ とする. \mathbf{x} についての方程式 $f(\mathbf{x}) = \mathbf{0}$ の解を求めよ.
- (4) E を 3 次の単位行列とし, 行列 B を $B = A - E$ で定める. 行列 B の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(大阪大 2019) (m20193506)

0.681 行列 $A = \begin{pmatrix} a & 0 & -1 \\ 0 & 1 & 0 \\ -b & 0 & a \end{pmatrix}$ について以下の問いに答えよ. ただし, a, b は実数とする.

- (1) A の固有値と, それぞれの固有値に属する固有ベクトルを求め, すべての固有値と固有ベクトルが実数であるための条件を述べよ.
- (2) A の逆行列が存在するための条件を述べ, 逆行列 A^{-1} を求めよ.
- (3) 問い (2) の結果を用い, 逆行列 A^{-1} が存在するときの連立方程式 $A \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}$ の解を求めよ.
- (4) A を対角化する行列 P を一つ示し, A を対角化せよ.
- (5) A^n を求めよ. また, $n \rightarrow \infty$ のとき A^n のすべての要素が実数を持ち, かつ発散しないための a, b の範囲を示せ.

(大阪大 2020) (m20203501)

0.682 3 次の正方行列 $M = (m_{ij})$ に対して, 対角成分の和 $\sum_{i=1}^3 m_{ii}$ を $\text{tr}(M)$ で表すとする.

また, 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \end{pmatrix}$ とする. 以下の問に答えよ.

- (1) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ.
- (2) (1) で求めた行列 A の 3 つの固有値を, それぞれ $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ とする. このとき, $\text{tr}(A) = \lambda_1 + \lambda_2 + \lambda_3$ が成り立つことを示せ.
- (3) 実数を成分とする 3 次の正方行列 B, C に対して, $\text{tr}(BC) = \text{tr}(CB)$ が成り立つことを示せ.
- (4) 実数を成分とする 3 次の正方行列 D は, 互いに異なる実数の固有値 μ_1, μ_2, μ_3 を持つとする. このとき, $\text{tr}(D) = \mu_1 + \mu_2 + \mu_3$ が成り立つことを示せ.

(大阪大 2020) (m20203506)

0.683 (1) 実数を成分に持つ対称行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & a & a \\ a & 1 & a \\ a & a & 1 \end{pmatrix}$ について, 以下の小問に答えよ.

- (a) A の固有値をすべて求めよ.
- (b) A を直交行列によって対角化せよ.
- (2) 実数を成分に持つ 3 次の対称行列 B が, 3 つの相異なる固有値を持つとする. B の異なる固有値に対応する固有ベクトルは, 互いに直交することを示せ.

(大阪大 2021) (m20213507)

0.684 $0 \leq \theta < 2\pi, 0 \leq \phi < 2\pi$ とする. 3 次の正方行列 A, B を次式で定義し, $C = AB$ とする.

$$A = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta & 0 \\ \sin \theta & \cos \theta & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} \cos \phi & 0 & \sin \phi \\ 0 & 1 & 0 \\ -\sin \phi & 0 & \cos \phi \end{pmatrix}$$

なお, 虚数単位は $i (= \sqrt{-1})$ とする. 以下の設問に答えよ.

- (1) 行列 C の行列式の値を求めよ.
- (2) 行列 C のすべての固有値およびそれらの絶対値を求めよ.

(大阪大 2022) (m20223506)

0.685 次の行列 A に対して, 以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} 6 & -3 & -7 \\ -1 & 2 & 1 \\ 5 & -3 & -6 \end{bmatrix}$$

- (1) A の固有値を求めよ.
- (2) A の各固有値に対する固有ベクトルを求めよ.
- (3) A を対角化する行列 P を求めよ.

(大阪府立大 2001) (m20013604)

0.686 次のような行列 A について, 以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 2 & 2 \\ 2 & 0 & 2 \\ 2 & 2 & 0 \end{pmatrix}$$

- (1) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ.
- (2) $(aI - A)$ が正則でないための必要条件を求めよ. ここで, a はスカラー数, I は 3×3 の単位行列とする.

(大阪府立大 2005) (m20053601)

0.687 次の実二次形式について, 以下の問いに答えよ. $2x_1^2 + 3x_2^2 + 3x_3^2 - 2x_1x_2 - 2x_1x_3$

- (1) この二次形式の係数を要素とする対称行列を A とするとき, 行列 A の固有値を求めよ.
- (2) 直交行列 T を選んで, $T'AT$ が対角行列となるような T を定めよ. ただし, T' は T の転置行列である.
- (3) この二次形式を直交変換により標準形にせよ.

(大阪府立大 2007) (m20073603)

0.688 行列 A をつぎのように定義する:

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & -1 \\ 0 & -1 & 0 \\ -1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

このとき, つぎの各問いに答えよ.

- (1) 行列 A の固有値を求めよ.
- (2) 問い (1) で求めた固有値に対応する行列 A の長さ 1 の固有ベクトルを, それぞれ求めよ.

- (3) 問い(1)と問い(2)の結果を使って, 行列 A を対角化せよ.
 (4) 行列 A の n 乗, A^n を求めよ. ただし n は自然数とする.

(大阪府立大 2010) (m20103604)

0.689 次の問いに答えよ.

- (1) ある実対称行列は異なる固有値をもつとする. このとき, 異なる固有値に対する固有ベクトルは互いに直交することを示せ.
 (2) 行列 A を

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & -1 \\ 1 & 0 & 1 \\ -1 & 1 & 0 \end{pmatrix}$$

とする. このとき, A の固有値, 固有ベクトルを求め, A を対角化せよ.

(大阪府立大 2011) (m20113606)

0.690 3次元空間内の点 A, B の位置ベクトルを \mathbf{x}, \mathbf{y} とする.

- (1) 行列

$$C = \begin{pmatrix} 2 & 0 & 1 \\ 0 & 2 & 0 \\ 1 & 0 & 2 \end{pmatrix}$$

の固有値を求めよ.

- (2) (1) の行列 C を用いて,

$$\mathbf{y} = C\mathbf{x}, \quad \|\mathbf{x}\| \leq 1$$

とするとき, 点 B 全体のなす図形の体積を示せ. ただし, $\|\mathbf{x}\|$ はベクトル \mathbf{x} の大きさを表す.

(大阪府立大 2011) (m20113607)

0.691 3行3列の行列

$$A = \begin{bmatrix} -1 & -1 & -4 \\ -8 & 0 & -10 \\ 4 & 1 & 7 \end{bmatrix}$$

に関して以下の問いに答えなさい.

- (1) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めなさい.
 (2) 行列 A に関する方程式

$$A^3 + aA^2 + bA + cE = O$$

の係数 a, b, c を求めなさい. ただし, E は3行3列の単位行列, O は零行列である.

- (3) (2) の結果を用いて, 下記の式で表される行列

$$A^5 - 5A^4 + 6A^3 - A^2 + 8A - 8E$$

を計算しなさい.

(大阪府立大 2013) (m20133603)

0.692 2×2 の行列 A をつぎのように定義する:

$$A = \begin{pmatrix} 6 & -4 \\ 1 & 2 \end{pmatrix}$$

このとき, つぎの各問いに答えよ.

- (1) 行列 A の固有値を求めよ.
- (2) 問い (1) で求めた固有値に対応する行列 A の長さ 1 の固有ベクトルを求めよ.
- (3) 問い (1) で求めた固有値を λ , 対応する長さ 1 の固有ベクトルを \boldsymbol{x} と置く. 次の等式を満たすベクトル \boldsymbol{y} を求めよ.

$$(A - \lambda E)\boldsymbol{y} = \boldsymbol{x}$$

ただし E は 2×2 の単位行列であるとする.

- (4) ベクトル \boldsymbol{x} とベクトル \boldsymbol{y} が次のように成分表示されるとする.

$$\boldsymbol{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix}, \quad \boldsymbol{y} = \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \end{pmatrix}$$

このとき 2×2 の行列 B を次のように定義する:

$$B = \begin{pmatrix} x_1 & y_1 \\ x_2 & y_2 \end{pmatrix}$$

次の等式を満たす 2×2 の行列 C を求めよ:

$$AB = BC$$

(大阪府立大 2013) (m20133604)

0.693 4 次の正方行列 A を $A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & -1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & -2 & 1 \\ 0 & 0 & 1 & -1 \end{pmatrix}$ により定める.

- (1) 行列 A の階数を求めよ.
- (2) 行列 A の固有値をすべて求めよ. さらに, そのうちで絶対値が最小の固有値に対する固有ベクトルを 1 つ求めよ.

(大阪府立大 2016) (m20163603)

0.694 行列 A を

$$A = \begin{pmatrix} -2 & 0 & 1 & 1 \\ 0 & -1 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & -2 & 1 \\ 1 & 0 & 1 & -2 \end{pmatrix}$$

とするとき, 次の問いに答えよ.

- (1) A の固有値, 固有ベクトルを求めよ.
- (2) A を直交行列を用いて対角化せよ.

(大阪府立大 2016) (m20163605)

0.695 行列 A を

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 2 & 2 \\ 2 & 3 & 4 \\ 2 & 4 & 3 \end{pmatrix}$$

とする.

- (1) A のすべての固有値を求めよ.

- (2) A の各固有値に対する固有空間の基底を 1 組ずつ求めよ.
 (3) 行列 A を対角化する直交行列 P を 1 つ求め、対角行列 $P^{-1}AP$ を求めよ.

(大阪府立大 2018) (m20183609)

0.696 2次正方行列 A を $A = \begin{pmatrix} -7 & 1 \\ -5 & -1 \end{pmatrix}$ により定める. また, E を 2 次の単位行列とする.

- (1) 行列 A の固有値をすべて求めよ.
 (2) 行列 A を対角化せよ.
 (3) 一般に, B を 2 次正方行列とし, P を 2 次の正則行列とする. さらに, $C = P^{-1}BP$ とおく. このとき, $k = 1, 2, \dots$ に対し,

$$(B + uE)^k = P(C + uE)^k P^{-1}$$

が成り立つことを示せ. ただし, u は実数とする.

- (4) $k = 1, 2, \dots$ に対し, $(A + 7E)^k (A + 2E)^3$ を計算せよ.

(大阪府立大 2019) (m20193601)

0.697 行列 A を

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 \end{pmatrix}$$

とし, 内積は標準内積とする.

- (1) A のすべての固有値を求めよ.
 (2) 固有値 0 に対する A の固有空間の正規直交基底を求めよ.
 (3) 行列 A を対角化する直交行列 P を 1 つ求め, 対角行列 $P^{-1}AP$ を求めよ.

(大阪府立大 2019) (m20193610)

0.698 次の 4 次正方行列 A について, 下の問いに答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} 0 & 0 & 0 & -4 \\ 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 5 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \end{bmatrix}$$

- (1) A の固有多項式および固有値を求めよ.
 (2) A は対角化可能 (すなわち, ある正則行列 P をとると, $P^{-1}AP$ は対角成分以外はすべて 0 とできる) か否か, 理由をつけて答えよ.

(関西大 2002) (m20023704)

0.699 $\begin{pmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & 2 \end{pmatrix}$ を対角化せよ. (変換行列も示せ)

(神戸大 1994) (m19943805)

0.700 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 0 & 1 \\ 0 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & 3 \end{pmatrix}$ の固有値及び固有ベクトルを求めよ.

(神戸大 1996) (m19963806)

0.701 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 0 & 1 & -3 \\ 0 & -3 & 1 \end{pmatrix}$ $P = \begin{pmatrix} 1 & 1 & -5 \\ 0 & -3 & 3 \\ 0 & 3 & 3 \end{pmatrix}$ とする.

- (1) P は正則であることを示し, P^{-1} を求めよ.
- (2) $P^{-1}AP$ を計算せよ.
- (3) A の固有値と固有ベクトルを計算せよ.

(神戸大 1996) (m19963807)

0.702 次の行列 A の固有値及び固有ベクトルを求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} 2 & -1 & -1 \\ 3 & 2 & 3 \\ -3 & 1 & 0 \end{pmatrix}$$

(神戸大 1997) (m19973811)

0.703 次の行列の固有値と固有ベクトルを求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 2 & -1 \\ 2 & 5 & -2 \\ -1 & -2 & 2 \end{pmatrix}$$

また $T^{-1}AT$ が対角行列になるような正則行列 T は存在するか. 存在するならそれを求め, 存在しないならその理由を述べよ.

(神戸大 2000) (m20003804)

0.704 行列 A を次のようにするとき, 次の各問に答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ -1 & 2 & 2 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

- (1) A の固有値と固有ベクトルを求めよ.
- (2) A^n ($n \geq 2$) を求めよ.

(神戸大 2001) (m20013811)

0.705 A, B を $AB = BA$ を満たす n 行 n 列の行列とする. \vec{u} を行列 A の固有ベクトルとすると, $B\vec{u}$ が 0 ベクトルでなければ $B\vec{u}$ も行列 A の固有ベクトルであることを示せ.

(神戸大 2001) (m20013812)

0.706 行列 A を次のように定めるとき, 以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 2 & 0 \\ 1 & 2 & 1 \\ 1 & 2 & 1 \end{pmatrix}$$

- (1) A の固有値と固有ベクトルを求めよ.
- (2) A^n を求めよ.

(神戸大 2003) (m20033810)

0.707 行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & 3 & 3 \\ 3 & 3 & 3 \\ 3 & 3 & 3 \end{pmatrix}$ とするとき, 次の間に答えよ.

- (1) A の固有値を求めよ.
 (2) A が対角可能か否か, 理由を述べて答えよ. また対角可能ならば, 対角化せよ.

(神戸大 2004) (m20043809)

0.708 次の 2 次対称行列 $A = \begin{pmatrix} 5 & -\sqrt{3} \\ -\sqrt{3} & 7 \end{pmatrix}$ を直交行列 P を用いて対角化せよ.

(神戸大 2006) (m20063806)

0.709 2 次の正方行列 $A = \begin{bmatrix} 13 & -30 \\ 5 & -12 \end{bmatrix}$ に関する以下の問いに答えよ.

- (1) A の固有値を求めよ.
 (2) A の固有値に対する固有ベクトルを求めよ.
 (3) A を対角化せよ. すなわち, $P^{-1}AP = B$ となるような正則行列 P と対角行列 B を 1 組求めよ.
 (4) 自然数 n に対して, A^n を求めよ.

(神戸大 2007) (m20073811)

0.710 以下の行列 A について, 固有値 λ と各 λ に対する固有空間 $W(\lambda, A)$ を求めよ.

(1) $A = \begin{bmatrix} 1 & 0 & -1 \\ 3 & 2 & 3 \\ 6 & 2 & 3 \end{bmatrix}$ (2) $A = \begin{bmatrix} 4 & 0 & -6 \\ 3 & -2 & -3 \\ 3 & 0 & -5 \end{bmatrix}$

(神戸大 2008) (m20083804)

0.711 a, b を実数, $a \neq 0$ とする. 行列 A を $A = \begin{pmatrix} a-b & a & a \\ a & a-b & a \\ a & a & a-b \end{pmatrix}$ と定める.

- (1) A の固有値と固有ベクトルを求めよ.
 (2) A を対角化する直交行列 P を求めて A を対角化せよ.
 (3) $A^{20} = E_3$ を満たす a, b の値を求めよ. ただし, E_3 は 3 次の単位行列とする.

(神戸大 2009) (m20093802)

0.712 実対称行列 $A = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 0 \end{pmatrix}$ について次の問いに答えよ.

- (1) A の固有値を求めよ.
 (2) 各固有値に対する固有空間の基底を求めよ.
 (3) $P^{-1}AP$ が対角行列になるような直交行列 P を求めよ. なお ${}^tPP = E$ (単位行列) をみたす実正方行列を直交行列という.

(神戸大 2010) (m20103801)

0.713 以下で定義される 3 次の正方行列 A, B について, 固有値と, 各固有値に対する固有空間を求めよ.

(1) $A = \begin{bmatrix} 1 & 0 & -1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 2 & 2 & 3 \end{bmatrix}$ (2) $B = \begin{bmatrix} 1 & 2 & 1 \\ -1 & 4 & 1 \\ 2 & -4 & 0 \end{bmatrix}$

(神戸大 2010) (m20103807)

0.714 次の行列で表される線形変換 T の固有値 λ と固有空間 $W(\lambda; T)$ をすべて求めよ.

$$\begin{bmatrix} -1 & 0 & -2 \\ 3 & 2 & 2 \\ 1 & -1 & 3 \end{bmatrix}$$

(神戸大 2012) (m20123803)

0.715 行列 $A = \begin{pmatrix} u & -4 & 6 \\ 0 & 8 & 0 \\ 0 & 10 & 3 \end{pmatrix}$ は正則でないという. 以下の問いに答えよ.

- (1) u の値を求めよ.
- (2) 行列 $A + E$ の固有値 $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ と対応する固有ベクトル $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2, \mathbf{x}_3$ を求めよ.
- (3) $B\mathbf{x}_1 = \sqrt{\lambda_1}\mathbf{x}_1, B\mathbf{x}_2 = \sqrt{\lambda_2}\mathbf{x}_2, B\mathbf{x}_3 = \sqrt{\lambda_3}\mathbf{x}_3$ を満たす行列 B を求めよ.

(神戸大 2013) (m20133801)

0.716 行列 $A = \begin{bmatrix} 3 & 1 \\ -1 & 1 \end{bmatrix}$ に対し, R^2 でのベクトルを考えると, 以下の間に答えよ.

- (1) A の固有値と固有ベクトルをすべて求めよ.
- (2) A は対角化可能かどうかを答えよ. またその理由も述べよ.
- (3) A の固有ベクトルのうち長さが 1 のものの 1 つ \mathbf{u} を求め, \mathbf{u} と直交する長さ 1 のベクトルのうちの 1 つ \mathbf{v} を求めよ. これらのベクトル \mathbf{u}, \mathbf{v} に対し, $[\mathbf{u} \ \mathbf{v}]^{-1}A[\mathbf{u} \ \mathbf{v}]$ を求めよ.
- (4) 任意の自然数 n に対する A^n を求めよ.

(神戸大 2014) (m20143802)

0.717 (1) 行列

$$A = \begin{bmatrix} 13 & -6 & -20 \\ -12 & 7 & 20 \\ 12 & -6 & -19 \end{bmatrix}$$

の固有値 λ と固有空間 $W(\lambda; A)$ をすべて求めよ.

(2) ベクトル

$$\mathbf{v}_1 = \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix}, \mathbf{v}_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix}, \mathbf{v}_3 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 1 \end{bmatrix}$$

が一次独立であることを示し, これらをシュミットの方法により正規直交系になおせ.

(神戸大 2014) (m20143805)

0.718 実係数行列

$$M = \begin{pmatrix} 0 & -1 & a \\ -1 & 0 & -a \\ a & -a & a^2 - 1 \end{pmatrix}$$

について次の間に答えよ.

- (1) M の固有値 λ と固有空間 $W(\lambda; M)$ を求めよ.
- (2) 固有空間 $W(\lambda; M)$ の正規直交基底を求めよ.

(神戸大 2015) (m20153801)

0.719 行列 $A = \begin{pmatrix} 4 & -1 & -2 \\ -1 & 4 & -2 \\ -2 & -2 & 5 \end{pmatrix}$ に対して、次の問いに答えよ.

- (1) A の固有値 λ と固有空間 $W(\lambda; A)$ を全て求めよ.
- (2) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような直交行列 P を 1 つ求めよ. なお, $PP = E$ (単位行列) を満たす実正方行列 P を直交行列という.
- (3) $n \in \mathbb{N}$ に対して, A^n のトレース $\text{Tr } A^n$ を計算せよ.

(神戸大 2016) (m20163801)

0.720 行列 $A = \begin{pmatrix} \frac{11}{6} & 2 \\ -1 & -1 \end{pmatrix}$ に対して, $B = \lim_{n \rightarrow \infty} \sum_{k=1}^n kA^{k-1}$ とする. ただし, A^0 は単位行列 E を表すものとする. このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) B を求めよ.
- (2) $(E - A)^2 B$ を計算せよ.

(神戸大 2016) (m20163802)

0.721 行列 $\Lambda = \begin{bmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \\ 1 & 0 & 0 \end{bmatrix}$, $A = \begin{bmatrix} a & b & c \\ c & a & b \\ b & c & a \end{bmatrix}$ ($a, b, c \in \mathbb{C}$) に対して, 次の問いに答えよ.

以下, I は 3 次の単位行列を表し, ω は 1 の 3 乗根 $\omega = \frac{1}{2}(-1 + \sqrt{3}i)$ を表す.

- (1) Λ の固有値と固有ベクトルを求めよ.
- (2) A が $A = aI + b\Lambda + c\Lambda^2$ と表されることを用いて, A の固有値と固有ベクトルを求めよ.
- (3) 等式 $\det(A) = (a + b + c)(a + \omega b + \omega^2 c)(a + \omega^2 b + \omega c)$ を示せ.

(神戸大 2017) (m20173801)

0.722 行列 $A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 2 \end{pmatrix}$ に対して, 次の問いに答えよ.

- (1) A の固有値をすべて求めよ.
- (2) (1) で求めたそれぞれの固有値に対して固有ベクトル空間を求めよ.
- (3) $B = P^{-1}AP$ となるような直交行列 P と対角行列 B の組を一つ求めよ.

(神戸大 2018) (m20183801)

0.723 a を実数とする. 3 次の正方行列 $B = \begin{bmatrix} 0 & 0 & 1 \\ 5 - a & 2 & a - 4 \\ -2 & 0 & 3 \end{bmatrix}$ に対し, 以下の各問に答えよ.

- (1) B の固有値をすべて求めよ.
- (2) B の固有値に属する固有空間の各々について, 基底を一組求めよ.
- (3) B が対角化可能であるための a の条件を求めよ.

(神戸大 2018) (m20183807)

0.724 $A = \begin{bmatrix} 2 & 0 & -5 \\ 0 & 2 & 5 \\ -5 & 5 & 7 \end{bmatrix}$ とし, $\mathbf{x} = \begin{bmatrix} x \\ y \\ z \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^3$ に対して

$$f(\mathbf{x}) = (\mathbf{x}, A\mathbf{x}), \quad \|\mathbf{x}\| = \sqrt{x^2 + y^2 + z^2}$$

と定める. ただし, (\mathbf{a}, \mathbf{b}) は \mathbf{a} と \mathbf{b} の内積とする. また, $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ を A の固有値とする (ただし $\lambda_1 < \lambda_2 < \lambda_3$). 以下の各問に答えよ.

- (1) $\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3$ と, 各 $i = 1, 2, 3$ について固有値 λ_i に対する A の固有値ベクトル \mathbf{u}_i で $\|\mathbf{u}_i\| = 1$ を満たすものを一つずつ求めよ. また, その $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \mathbf{u}_3$ について $(\mathbf{u}_i, \mathbf{u}_j)$ (ただし $1 \leq i < j \leq 3$) を計算せよ.
- (2) $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \mathbf{u}_3$ を (1) で求めたベクトルとし, $c_1, c_2, c_3 \in \mathbb{R}$ とする. このとき, $f(c_1\mathbf{u}_1 + c_2\mathbf{u}_2 + c_3\mathbf{u}_3)$ を c_1, c_2, c_3 で表せ.
- (3) $S = \{\mathbf{x} \in \mathbb{R}^3 \mid \|\mathbf{x}\| = 1\}$ とする. S における $f(\mathbf{x})$ の最大値と最小値, および, それらを与える $\mathbf{x} \in S$ を求めよ.

(神戸大 2019) (m20193802)

0.725 正方行列 X の固有値 λ に対する固有空間を $V_X(\lambda)$ とする. 以下の問いに答えよ.

- (1) X, Y を $XY = YX$ となる正方行列とする. $x \in V_X(\lambda)$ のとき, $Yx \in V_X(\lambda)$ を示せ.
- (2) X を対称行列とし, λ, μ を X の異なる固有値とする. $V_X(\lambda)$ の要素と $V_X(\mu)$ の要素は直交することを示せ.
- (3) 行列

$$X = \begin{bmatrix} 0 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \end{bmatrix}, \quad Y = \begin{bmatrix} 3 & 0 & -1 \\ 0 & 2 & 0 \\ -1 & 0 & 3 \end{bmatrix}$$

に対し, X, Y の固有値と固有空間をすべて求めよ.

- (4) (3) の行列 X, Y に対し, $P^{-1}XP$ と $P^{-1}YP$ がともに対角行列になるような正則行列 P を一つ求めよ.

(神戸大 2020) (m20203802)

0.726 実数 a, b に対し 3 次実正方行列

$$A = \begin{pmatrix} a & b & 0 \\ b & a & b \\ 0 & 0 & b \end{pmatrix}$$

を考える. このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) A の固有値を求めよ.
- (2) A が相異なる 3 つの固有値をもつための a, b の条件を求めよ.
- (3) (2) の条件が成り立つとき, $P^{-1}AP$ が対角行列になるような正則行列 P を一つ求めよ. また, そのときの $P^{-1}AP$ を求めよ.

(神戸大 2021) (m20213801)

0.727 S を 2×2 実対称行列とする. このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) 行列 S が正定値 (すべての固有値が正) のとき, S の $(1, 1)$ 成分, $(2, 2)$ 成分は 0 でないことを示せ.

(2) 積分 $\int_0^\infty \int_0^\infty \exp(-x_1^2 - x_2^2) dx_1 dx_2$ を極座標に変換することにより求めよ.

(3) 積分 $\int_{-\infty}^\infty \exp\left(-\frac{1}{2}x^T Sx\right) dx_2$ を x_1 の関数として求めよ. ただし, $x = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix}$ であり, S は正定値とする.

(神戸大 2021) (m20213803)

0.728 $n \geq 2$ を自然数とし, X をすべての成分が $\frac{1}{n}$ であるような n 次正方行列とする. 以下の各問いに答えよ.

(1) X^2 を X で表せ, ただし X^2 以外の形で表すこと.

(2) X の固有値とその重複度を求めよ.

(3) X を対角化せよ. 対角化できる場合は変換の行列 P も与えること.

(神戸大 2021) (m20213807)

0.729 a を実数とし,

$$A = \begin{pmatrix} 0 & a & 2 \\ 1 & 0 & 2 \\ 2 & 2 & 3 \end{pmatrix}$$

とする.

(1) $B = P^{-1}AP$ が対角行列となるような直交行列 P が存在するための必要十分条件を, a を用いて表せ.

(2) (1) の条件が成り立つとき, $B = P^{-1}AP$ となる直交行列 P と対角行列 B の組を一つ求めよ.

(神戸大 2022) (m20223806)

0.730 行列 A とベクトル \mathbf{u} を

$$A = \begin{pmatrix} 1 & -1 & 0 \\ \frac{1}{2} & 1 & -\frac{1}{2} \\ \frac{3}{2} & 0 & -\frac{1}{2} \end{pmatrix}, \quad \mathbf{u} = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 3 \end{pmatrix}$$

で定める. 次の間に答えよ.

(1) \mathbf{u} は A の固有ベクトルであることを示せ.

(2) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような 3 次正方行列 P を 1 つ求めよ.

(3) 上記の P に対し, $\lim_{n \rightarrow \infty} P^{-1}A^n P$ を求めよ.

(4) $\lim_{n \rightarrow \infty} A^n$ を求めよ.

(神戸大 2023) (m20233801)

0.731 次の行列 A に対して以下の設問 (1), (2) に答えよ. $A = \begin{bmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 2 \end{bmatrix}$

(1) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ. 固有ベクトルは第一成分 (x 成分) が 1 のものを求めよ.

(2) 行列 A を用いて, 2 変数関数 $f(x, y)$ を以下の式で定義する.

$$f(x, y) = (x \ y) A \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \quad (x, y \text{ は実数})$$

この 2 変数関数 $f(x, y)$ に対して $f(x, y) = a(x+y)^2 + b(x-y)^2$ となるように a, b を求めよ.

(鳥取大 2006) (m20063914)

0.732 以下に示す行列 A の固有値 λ と対応する固有ベクトル \boldsymbol{x} を求めよ. 但し, 固有ベクトル \boldsymbol{x} は A を掛けたときに定数 λ を比例係数として元の \boldsymbol{x} に比例するような (すなわち, $A\boldsymbol{x} = \lambda\boldsymbol{x}$ となるような) A に固有のベクトルである.

$$A = \begin{bmatrix} 2 & -1 \\ -1 & 2 \end{bmatrix}$$

(鳥取大 2007) (m20073909)

0.733 次の行列 A の固有値および固有ベクトルを求めよ. $A = \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 2 \end{bmatrix}$

(鳥取大 2007) (m20073911)

0.734 行列 $\begin{bmatrix} 2 & 3 \\ 4 & 1 \end{bmatrix}$ の固有値およびその固有値に対応する固有ベクトルを求めよ.

(鳥取大 2007) (m20073920)

0.735 行列 B について以下の問いに答えよ. $B = \begin{bmatrix} 1 & 3 \\ 3 & 1 \end{bmatrix}$

(1) 行列 B の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(2) 固有ベクトルを利用して行列 B を対角化せよ.

(鳥取大 2008) (m20083906)

0.736 $\boldsymbol{x} \in \mathbf{R}^2$ から $\boldsymbol{x}' \in \mathbf{R}^2$ への線形写像 (1 次変換) が次のように与えられた. ただし, \mathbf{R}^n は実数 \mathbf{R} 上の n 次元ベクトル空間を表す.

$$\boldsymbol{x}' = f(\boldsymbol{x}) = A\boldsymbol{x} = \begin{pmatrix} 1 & -4 \\ -1 & 1 \end{pmatrix} \boldsymbol{x}.$$

(1) 表現行列 A の行列式 $|A|$ の値を求めなさい.

(2) 1 次変換 f の逆変換 f^{-1} における表現行列 A^{-1} を求めなさい.

(3) 1 次変換 f について, $A\boldsymbol{x} = \lambda\boldsymbol{x}$ を満たす $\lambda (\in \mathbf{R})$ をすべて求めなさい.

(鳥取大 2008) (m20083908)

0.737 5 つ行列の積 $\begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 1 \end{pmatrix}$ で与えられる行列の固有値と固有ベクトルを求めよ. ただし, 固有ベクトルは正規化すること.

(鳥取大 2009) (m20093904)

0.738 次を証明せよ.

(1) 対称行列 A の異なる固有値に属する固有ベクトルは直交することを証明せよ. ただし, A が対称行列とは A が実正方行列であって $A^T = A$ が成立することをいう.

- (2) 直交行列 A を係数行列としてもつ 1 次変換 (直交変換) $\mathbf{y} = A\mathbf{x}$ はベクトルの内積を不変に保つことを証明せよ. ただし, A が直交行列とは A が実正方行列であって $A^T = A^{-1}$ が成立することをいう.

(鳥取大 2009) (m20093905)

0.739 行列 $A = \begin{bmatrix} -1 & 0 & 2 \\ 0 & -1 & 1 \\ 2 & 1 & 3 \end{bmatrix}$ とする.

- (1) 行列 A の行列式の値を求めよ.
 (2) 行列 A の逆行列を求めよ.
 (3) 行列 A の固有値を求めよ.

(鳥取大 2009) (m20093908)

0.740 行列 $A = \begin{bmatrix} 1 & -1 & 0 \\ 1 & 2 & 1 \\ -2 & 1 & -1 \end{bmatrix}$ について, 以下の問いに答えよ.

- (1) 行列式の値を求めよ.
 (2) 逆行列を求めよ.
 (3) 固有値を求めよ.

(鳥取大 2011) (m20113907)

0.741 行列 $A = \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ -2 & 4 \end{bmatrix}$ について, 以下の問いに答えよ.

- (1) 固有値を求めよ.
 (2) 固有ベクトルを用いて, 行列 A を対角化せよ.
 (3) A のべき乗 A^n (n は正の整数) を求めよ.

(鳥取大 2013) (m20133902)

0.742 正の数 a, b, c が $a + b + c = 1$ を満たすとき, 行列

$$A = \begin{pmatrix} a & b & c \\ c & a & b \\ b & c & a \end{pmatrix}$$

に対し, 次の問いに答えよ.

- (1) 1 は A の固有値であることを示せ.
 (2) 1 以外の A の固有値を求め, それらの絶対値は 1 より小さいことを示せ.
 (3) \mathbf{x} を 3 次元のベクトルとするとき, n を限りなく大きくすれば, $A^n \mathbf{x}$ はある 3 次元ベクトルに限りなく近づくことを示せ.

(岡山大 2001) (m20014003)

0.743 数列 $\{a_n\}_{n=1}^{\infty}$, $\{b_n\}_{n=1}^{\infty}$, $\{c_n\}_{n=1}^{\infty}$ を $a_1 = 3$, $b_1 = 1$, $c_1 = -1$,
 $a_{n+1} = 3a_n + b_n + c_n$, $b_{n+1} = a_n + 2b_n$, $c_{n+1} = a_n + 2c_n$ ($n \geq 1$)
 によって定義する. これらの数列の一般項を求めよ.

(岡山大 2003) (m20034004)

0.744 (1) 行列 $\begin{pmatrix} 2 & 2 & 3 \\ 1 & 2 & 1 \\ 0 & 2 & -1 \end{pmatrix}$ のすべての固有値および固有ベクトルを求めよ.

(2) 一次方程式

$$\begin{pmatrix} 2 & 2 & 3 \\ 1 & 2 & 1 \\ 0 & 2 & -1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a \\ b \\ c \end{pmatrix}$$

が解をもつのは, a, b, c の間にどのような関係が成り立つときか答えよ.

(岡山大 2006) (m20064001)

0.745 2次正方行列 $A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}$ の固有方程式 $x^2 - (a+d)x + (ad-bc) = 0$ が相異なる2つの実数解 α, β をもつとする. このとき, 以下の問いに答えよ.

(1) $(A - \alpha E)(A - \beta E) = O$, $A \neq \alpha E$, $A \neq \beta E$ が成り立つことを示せ. ただし, E は単位行列, O は零行列とする.

(2) $Ax = \alpha x$ と $Ay = \beta y$ をそれぞれ満たす零でない列ベクトル x と y が存在することを示せ. また, x と y は一次独立であることを示せ.

(3) $P^{-1}AP = \begin{pmatrix} \alpha & 0 \\ 0 & \beta \end{pmatrix}$ を満たす2次正則行列 P が存在することを示せ.

(岡山大 2009) (m20094003)

0.746 行列 $A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}$ において, すべての成分 a, b, c, d が正数のとき, 次の問いに答えよ.

(1) A は異なる実数の固有値を持つことを示せ.

(2) 固有ベクトルとして少なくとも一つは $\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ ($x > 0, y > 0$) となるベクトルがとれることを示せ.

(岡山大 2011) (m20114003)

0.747 行列

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 2 \\ 0 & 1 & 1 \\ 2 & 1 & 1 \end{pmatrix}$$

について以下の問いに答えよ.

(1) A の逆行列を求めよ.

(2) A の固有値をすべて求めよ.

(3) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような直交行列 P を求めよ.

(岡山大 2012) (m20124003)

0.748 a を実数とし, 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & a \\ 1 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ を考える. 以下の問いに答えよ.

(1) $A - E$ は逆行列を持たないことを示せ. (ただし, E は単位行列とする.)

(2) ある正の実数 b に対して, $A - bE$ も $A + bE$ も逆行列を持たないとする. このとき a の値を求めよ.

(3) ある正則な行列 P により

$$P^{-1}AP = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 + \sqrt{5} & 0 \\ 0 & 0 & 1 - \sqrt{5} \end{pmatrix}$$

であるとする. このとき a の値を求めよ. また, このような行列 P を一つ求めよ.

(岡山大 2013) (m20134003)

0.749 3次正方行列 A, B を

$$A = \begin{pmatrix} \sqrt{2} & 0 & 1 \\ 0 & 3 & 0 \\ 0 & 0 & \sqrt{2} \end{pmatrix}, \quad B = {}^tAA$$

により与えられる. ここで, tA は A の転置行列である. このとき, 以下の問いに答えよ.

- (1) A および B の行列式を計算せよ.
- (2) $P^{-1}BP$ が対角行列となるような直交行列 P を一つ求めよ.
- (3) $B = C^2$ となる対称行列 C を求めよ.
- (4) C は正則行列であり, AC^{-1} は直交行列であることを示せ.

(岡山大 2015) (m20154004)

0.750 実数を成分とする 3 次正方行列 A で次の条件を満たすものを考える.

$$(*) \quad A^2 \neq O, \quad A^3 = O$$

以下の問いに答えよ.

(1)

$$B = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

とすると, B は上記の条件 (*) を満たすことを示せ.

- (2) $\mathbf{u} \neq \mathbf{0}$ かつ $A^2\mathbf{u} \neq \mathbf{0}$ となる $\mathbf{u} \in \mathbb{R}^3$ が存在することを示せ.
- (3) 上記 (2) における \mathbf{u} に対して, $\mathbf{u}, A\mathbf{u}, A^2\mathbf{u}$ は 1 次独立であることを示せ.
- (4) ある正則行列 P を用いて

$$A = P \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} P^{-1}$$

と表されることを示せ.

(岡山大 2016) (m20164003)

0.751 (1) 3 次正方行列

$$\begin{pmatrix} 1 & -1 & -2 \\ 2 & 1 & 1 \\ 0 & 3 & 5 \end{pmatrix}$$

のすべての固有値および各固有値に属する固有ベクトルを求めよ.

(2) x, y, z を変数とする連立 1 次方程式

$$\begin{cases} x - y - 2z = a \\ 2x + y + z = b \\ 3y + 5z = c \end{cases}$$

が解をもつための a, b, c の条件を答えよ. また, その一般解を求めよ.

(岡山大学 2017) (m20174004)

0.752 n 次正方行列 A に対して固有値を $\lambda_1, \lambda_2, \dots, \lambda_n$ とするとき, 次を示せ.

$$|A| = \lambda_1 \lambda_2 \cdots \lambda_n$$

(広島大学 2001) (m200141110)

0.753 A を 3 次正方行列でその成分はすべて実数であり, $A^3 = I, A \neq I$ を満たすものとする. ただし, I は 3 次単位行列を表す. 次の問いに答えよ.

- (1) 行列 $A^2 + A + I$ は逆行列を持たないことを示せ.
- (2) $\mathbf{v} \in \mathbf{R}^3$ を $A^2 + A + I$ の固有値 0 に対する固有ベクトルとする. ベクトルの組 $\mathbf{v}, A\mathbf{v}$ は 1 次独立であることを示せ.

(広島大学 2001) (m200141111)

0.754 行列 A を $A = \begin{pmatrix} 3 & 2 & -1 \\ 2 & 0 & 2 \\ -1 & 2 & 3 \end{pmatrix}$ と定める. 次に答えよ.

- (1) A の固有値と固有ベクトルを求めよ.
- (2) A を正則行列で対角化せよ.

(広島大学 2003) (m20034108)

0.755 正方行列

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \end{pmatrix}$$

について, 次の問いに答えよ.

- (1) A の固有値と対応する固有ベクトルをすべて求めよ.
- (2) $P^{-1}AP$ が対角行列になるような直交行列 P を一つ求めよ.
- (3) 零ベクトルではないベクトル $\mathbf{x}_0 \in \mathbf{R}^3$ に対して, 次のように帰納的に \mathbf{x}_n を定義する.

$$\mathbf{x}_{n+1} = \frac{1}{\|A\mathbf{x}_n\|} A\mathbf{x}_n \quad (n = 0, 1, 2, \dots)$$

$n \rightarrow \infty$ とするとき, \mathbf{x}_n が A の絶対値が一番大きな固有値に対する固有ベクトルに収束するならば, \mathbf{x}_0 は絶対値が一番大きな固有値に対する固有ベクトルと直交しないことを示せ. ただし, $\|\cdot\|$ は, ベクトルの大きさを表すものとする.

(広島大学 2005) (m20054105)

0.756 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & -1 & 1 \\ 2 & 1 & -4 \\ 1 & 2 & a \end{pmatrix}$ について次の問いに答えよ. ただし, a は実数とする.

- (1) 行列 A の階数を求めよ.

(2) 三つの平面

$$\begin{aligned}\pi_1 &: x - y + z = 0 \\ \pi_2 &: 2x + y - 4z = 0 \\ \pi_3 &: x + 2y + az = 0\end{aligned}$$

の交点全体はどのような図形になるかを述べ、その理由を説明せよ。

(3) $a = -5$ のとき、 A の固有値と固有ベクトルを求めよ。

(広島大 2006) (m20064104)

0.757 次の 3×3 行列の固有値を求めよ。 $\begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 2 & 3 & 4 \\ 3 & 4 & 5 \end{pmatrix}$

(広島大 2006) (m20064109)

0.758 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 4 & -1 \end{pmatrix}$ を対角化せよ。すなわち、 $P^{-1}AP = D$ を満たす正則行列 P および対角行列 D を一組求めよ。

(広島大 2013) (m20134103)

0.759 2×2 行列 A は、固有値 1 に属する固有ベクトル $\begin{pmatrix} 2 \\ -1 \end{pmatrix}$ と固有値 4 に属する固有ベクトル $\begin{pmatrix} -1 \\ 1 \end{pmatrix}$ を持つとする。また、 2×2 行列 B を $\begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 4 \end{pmatrix}$ により定義する。以下の問いに答えよ。

- (1) 2×2 行列 P で $A = PBP^{-1}$ が成り立つようなものをひとつ見つけよ。(答だけで良い。)
- (2) 行列 A を求めよ。
- (3) 2×2 行列 X で $X^2 = B$ となるようなものを全て求めよ。
- (4) 2×2 行列 Y で $Y^2 = A$ となるようなものはいくつあるか。また、そのような Y をひとつ見つけよ。
- (5) 2×2 行列 Z で $Z^2 = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}$ となるようなものを全て求めよ。

(広島大 2015) (m20154101)

0.760 実行列 $A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 0 \end{pmatrix}$ を考える。以下の問いに答えよ。

- (1) A の階数を求めよ。
- (2) A の固有値と固有ベクトルを求めよ。
- (3) 実 3 次元ベクトル空間 \mathbb{R}^3 の中で、次の図形 S を考える。

$$S = \{ \mathbf{v} \in \mathbb{R}^3 \mid \mathbf{v} \cdot A\mathbf{v} = \sqrt{2} \}$$

ただし、 $\mathbf{v} \cdot A\mathbf{v}$ は \mathbf{v} と $A\mathbf{v}$ との内積を表す。 S の概形を図示せよ。

(4) S の点で、原点との距離が最小のものをすべて求めよ。

(広島大 2016) (m20164101)

0.761 行列 A , ベクトル \mathbf{b} を

$$A = \begin{pmatrix} -1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 2 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{b} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$$

とし, 写像 $f: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}$ を次のように定義する.

$$f(\mathbf{x}) = (A\mathbf{x} - \mathbf{b}) \cdot (A\mathbf{x} - \mathbf{b})$$

ただし, \cdot はベクトルの内積を表す. 以下の問いに答えよ.

- (1) A の階数を求めよ.
- (2) $f(\mathbf{x})$ の最小値を求めよ.
- (3) A の固有値 0 に対する固有ベクトルを一つ求めよ.
- (4) $f(\mathbf{x})$ の最小値を与える \mathbf{x} の中で最も原点に近い \mathbf{x} を求めよ.

(広島大 2017) (m20174103)

0.762 $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots$ を零ベクトルでない k 次元実列ベクトルとし, k 次実対称行列 M_n ($n = 1, 2, \dots$) を

$$M_n = \sum_{i=1}^n \mathbf{a}_i {}^t \mathbf{a}_i$$

で定義する. ここで, t は転置を表す記号である. 以下の問いに答えよ. ただし, 任意の実対称行列は直交行列により対角化可能であることは用いてよい.

- (1) α_n を行列 M_n の $(1, 1)$ 成分とする. 数列 $\{\alpha_n\}$ が広義の単調増加列, すなわち, $\alpha_1 \leq \alpha_2 \leq \dots \leq \alpha_n \leq \dots$ となることを示せ.
- (2) M_n の固有値はすべて非負の実数であることを示せ.
- (3) λ_n を M_n の最小固有値とする. $S = \{\mathbf{x} \in \mathbb{R}^k \mid {}^t \mathbf{x} \mathbf{x} = 1\}$ に対し,

$$\min_{\mathbf{x} \in S} {}^t \mathbf{x} M_n \mathbf{x} = \lambda_n$$

を示せ.

- (4) (3) で定義した λ_n に対して, 数列 $\{\lambda_n\}$ が広義の単調増加列となることを示せ.
- (5) (1) で定義した α_n と (3) で定義した λ_n に対して, $\{\alpha_n\}$ が上に有界であれば, $\{\lambda_n\}$ は収束することを示せ.

(広島大 2017) (m20174105)

0.763 (1) 方程式 $2x^2 + 2xy + 2y^2 = 1$ が表す座標平面上の 2 次曲線を図示せよ.

- (2) (1) の 2 次曲線で囲まれた図形の面積を求めよ.
- (3) (1) の 2 次曲線上での xy の最小値を求めよ.

(広島大 2018) (m20184103)

0.764 A, B を n 次正方複素行列とする. 以下の問いに答えよ.

- (1) 行列 $\begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \\ i & -1 & i \end{pmatrix}$ の固有値と対応する固有ベクトルを求めよ. ただし i は虚数単位である.
- (2) ある n 次正則行列 P が存在して $P^{-1}AP = B$ が成り立つとき, A と B の固有値の集合は一致することを示せ.

- (3) A が正則であるとき, AB と BA の固有値の集合は一致することを示せ.
 (4) $AB = BA$ が成り立つとき, A と B は少なくとも 1 つの共通の固有ベクトルを持つことを示せ.

(広島大 2018) (m20184105)

0.765 3次正方行列 A を

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \\ -6 & -1 & 4 \end{pmatrix}$$

と定める. 以下の問いに答えよ.

- (1) A が正則行列であることを示し, A の逆行列 A^{-1} を求めよ.
 (2) A のすべての固有値を求め, さらにそれぞれの固有値に対応する固有ベクトルを一つずつ求めよ.
 (3) 3次正則行列 P で $P^{-1}AP$ が対角行列になるものを一つ求め, さらにそのときの対角行列 $P^{-1}AP$ を求めよ.
 (4) $B = A^{-1} + A^2 + A^3$ とおく. B のすべての固有値を求め, さらにそれぞれの固有値に対応する固有ベクトルを一つずつ求めよ.

(広島大 2021) (m20214102)

0.766 複素数を成分とする 2 次正方行列全体のなす集合を $M(2, \mathbb{C})$ で表す. E_2 を 2 次の単位行列とする.

$A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \in M(2, \mathbb{C})$ に対し, A の随伴行列 A^* を

$$A^* = \begin{pmatrix} \bar{a} & \bar{c} \\ \bar{b} & \bar{d} \end{pmatrix}$$

により定める. ただし, 複素数 z に対し \bar{z} は z の複素共役を表す. また

$$H(2) = \{A \in M(2, \mathbb{C}) \mid A^* = A\}$$

$$U(2) = \{A \in M(2, \mathbb{C}) \mid A \text{ は正則で } A^{-1} = A^*\}$$

とおく. 以下の問いに答えよ.

- (1) $A \in H(2)$ とする. A の固有値は実数であることを示せ.
 (2) $A \in H(2)$ とする. A がただ一つの固有値をもつならば, ある実数 λ が存在して $A = \lambda E_2$ となることを示せ.
 (3) $A \in H(2)$ は異なる二つの固有値をもつとする. \mathbf{v}, \mathbf{w} をそれぞれの固有値に対応する固有ベクトルとするとき,

$$(\mathbf{v}, \mathbf{w}) = 0$$

が成り立つことを示せ. ただし, $(\ , \)$ は \mathbb{C}^2 の標準エルミート内積である.

- (4) $A \in H(2)$ に対し, ある $P \in U(2)$ が存在して P^*AP が対角行列となることを示せ.

(広島大 2021) (m20214104)

0.767 行列 $A = \begin{bmatrix} 4 & 0 & b \\ a & 1 & 0 \\ a & 0 & b \end{bmatrix}$ の固有ベクトルの一つは $C = \begin{bmatrix} -1 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix}$ である.

- (1) 実数 a, b の値を求めよ.
 (2) A の固有値をすべて求めよ.

- (3) $B = A^4 - 3A^3 + 4A + E$ とする. A の対角化を利用して, B の行列式の値を求めよ. ただし, E は単位行列である.

(広島大 2022) (m20224105)

0.768 行列 $A = \begin{bmatrix} 2 & 2 & 1 \\ 3 & 1 & -3 \\ -2 & 2 & 5 \end{bmatrix}$ について, 以下の問いに答えよ.

- (1) A の固有値を求めよ.
- (2) A の固有ベクトルを求めよ.
- (3) A を対角化する行列 P を求め, 対角化を利用して A^3 を計算せよ.

(広島大 2023) (m20234104)

0.769 次の行列 A について, 以下の問い答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 3 & -5 & x \\ -5 & a & -2 \\ x & -2 & 0 \end{pmatrix}$$

- (1) 行列式 $|A|$ を求めよ.
- (2) すべての実数 x に対して, A が正則であるための実数 a の範囲を求めよ.
- (3) $a = 3, x = -2$ のときの A の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(広島市立大 2001) (m20014205)

0.770 次の行列 A について, 以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 4 & 2 & a \\ 3 & 3 & a \\ 1 & 2 & -4 \end{pmatrix}$$

- (1) A の固有値の 1 つが 3 であるとき, a を求めよ.
- (2) (1) で求めた a に対し, A の固有値をすべて求めよ.
- (3) (2) で求めた A のそれぞれの固有値に対する固有ベクトルを求めよ.

(広島市立大 2002) (m20024207)

0.771 次の対称行列について以下の問に答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & \sqrt{2} & 0 \\ \sqrt{2} & -1 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \end{pmatrix}$$

- (1) A の固有値をすべて求めよ.
- (2) (1) で求めた各固有値に対する A の正規化された固有ベクトルを求めよ.
- (3) tPAP が対角行列となる直交行列 P を求め対角化せよ. (tP は P の転置行列を表す)

(広島市立大 2005) (m20054203)

0.772 $A^k = O$ となる自然数 k が存在するような正方行列 A を「べき零行列」という.

- (1) A を正方行列とし, λ を A の固有値とすると, λ^k は A^k の固有値となることを示せ.
- (2) (1) の関係を用いて, べき零行列の固有値は, 0 に限られることを示せ.

(3) 逆に正方行列 A の固有値が 0 に限られるとき, A はべき零行列であることを示せ.

(広島市立大 2005) (m20054204)

0.773 行列 $A = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 5 & -1 \\ -1 & 5 \end{pmatrix}$ に対して, 次の間に答えよ.

- (1) 固有値, 固有ベクトルの組を求めよ.
- (2) (1) で求めた固有値に対する大きさ 1 の固有ベクトルをそれぞれ $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2$ とおく. 列ベクトル $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2$ を並べてできる行列 $P = (\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2)$ が直交行列であることを示せ.
- (3) (2) の P に対して, $P^t A P$ が対角行列であることを示せ. (ただし, P^t は P の転置行列を表すものとする.)

(広島市立大 2006) (m20064205)

0.774 次の行列 A に対し, 以下の問いに答えよ. $A = \begin{pmatrix} 3 & -1 & -1 \\ 3 & -3 & -3 \\ -3 & 5 & 5 \end{pmatrix}$

- (1) 固有値と固有ベクトルを求めよ.
- (2) 正則行列 P で, $P^{-1} A P$ が対角行列となるものを求めよ. なお, P^{-1} も求めること.
- (3) n を正の整数とすると, A^n を求めよ.

(広島市立大 2007) (m20074205)

0.775 次の行列 A に対して, 以下の問いに答えよ. $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 1 & 2 & a \\ 2 & 2 & 3 \end{pmatrix}$

- (1) A の固有値の 1 つが 2 であるとき, a を求めよ.
- (2) A の固有値をすべて求めよ.
- (3) (2) で求めた各固有値に対する, A の固有ベクトルを求めよ.
- (4) 正則行列 P で, $P^{-1} A P$ が対角行列となる P を求めよ.

(広島市立大 2008) (m20084203)

0.776 (1) 次の 3 次正方行列 A の固有値および固有ベクトルをすべて求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} -1 & 0 & 3 \\ 0 & 1 & 0 \\ -2 & 0 & 4 \end{pmatrix}$$

- (2) 上の正則行列 A を対角化する正方行列 P を求めよ. また, 対角化された行列 $P^{-1} A P$ も答えよ.
- (3) n 次正方行列 B の固有値の一つが $b (b \neq 0)$ であるとき, b^2 および b^{-1} がそれぞれ行列 B^2 および B^{-1} の固有値となることを証明せよ. ただし, B は正則であるとする.

(広島市立大 2009) (m20094203)

0.777 次の 3 次正方行列 A に対し, 以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} -1 & -2 & -2 \\ 3 & 4 & 2 \\ -3 & -3 & -1 \end{pmatrix}$$

- (1) A の固有値および固有ベクトルを求めよ。
 (2) $P^{-1}AP$ が対角行列となる正則行列 P , およびその逆行列 P^{-1} を求めよ.

(広島市立大 2010) (m20104205)

0.778 次の 3 次正方行列 A について以下の間に答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} -1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 0 \\ 4 & 0 & -1 \end{pmatrix}$$

- (1) A の固有値をすべて求めよ。
 (2) A の各固有値に対応する固有ベクトル空間の基底をそれぞれ求めよ。
 (3) $D = P^{-1}AP$ が対角行列となるような正則行列 P およびそれに対応する D を求めよ。
 (4) 問 (3) で求めた D に対し, D^n を求めよ. ただし, n は正の整数とする。
 (5) A^n を求めよ. ただし, n は正の整数とする.

(広島市立大 2011) (m20114204)

0.779 次の 3 次正方行列 A について, 以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 5 & -5 \\ 4 & 1 & 4 \\ 4 & 4 & 1 \end{pmatrix}$$

- (1) A の固有値をすべて求めよ。
 (2) A の各固有値に対応する固有ベクトルをそれぞれ求めよ。
 (3) $D = P^{-1}AP$ が対角行列となるような正則行列 P を求めよ。
 (4) (3) で求めた P に対し, P^{-1} を求めよ。
 (5) (3) で求めた P に対応する D を示せ.

(広島市立大 2012) (m20124205)

0.780 次の 3 次正方行列 A について, 以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 6 & 4 \\ 0 & -3 & 0 \\ -1 & -2 & -3 \end{pmatrix}$$

- (1) A の固有値をすべて求めよ。
 (2) A の各固有値に対応する固有ベクトルをそれぞれ求めよ。
 (3) $D = P^{-1}AP$ が対角行列となるような正則行列 P を求めよ。
 (4) 問 (3) で求めた P に対応する D を示せ.

(広島市立大 2013) (m20134204)

0.781 次の行列の固有値, 固有ベクトルを求めよ.

$$\begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \end{pmatrix}$$

(山口大 1999) (m19994304)

0.782 次の行列の固有値, 固有ベクトルを求めよ.

$$\begin{pmatrix} 3 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 0 \\ 1 & 0 & 2 \end{pmatrix}$$

(山口大 2000) (m20004304)

0.783 次の行列の固有値, 固有ベクトルを求めよ.

$$\begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 1 & 2 & -1 \\ -2 & -2 & 3 \end{pmatrix}$$

(山口大 2001) (m20014317)

0.784 次の行列の固有値, 固有ベクトルを求めよ.

$$\begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 4 & 2 \end{pmatrix}$$

(山口大 2001) (m20014318)

0.785 行列 $\begin{pmatrix} 1 & 4 \\ -1 & 5 \end{pmatrix}$ に対する固有値 λ および固有ベクトル \vec{v} を求めよ. ただし, 固有ベクトル \vec{v} は 1 つ示せばよい.

(山口大 2003) (m20034311)

0.786 行列 $\begin{pmatrix} 4 & 3 \\ 1 & 2 \end{pmatrix}$ に対する固有値および固有ベクトルを求めよ. 固有ベクトルはひとつの固有値に対してひとつ求めればよい.

(山口大 2004) (m20044310)

0.787 行列 $\begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 2 & -2 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めなさい. ただし, 固有ベクトルはひとつの固有値に対してひとつ求めればよい.

(山口大 2005) (m20054304)

0.788 行列 $\begin{pmatrix} 4 & 3 \\ 6 & 7 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めなさい. 固有ベクトルは一つの固有値に対して一つ求めればよい.

(山口大 2006) (m20064304)

0.789 行列 $\begin{pmatrix} 6 & 4 \\ -2 & 0 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めなさい. なお, 固有ベクトルは, 一つの固有値に対して一つ求めること.

(山口大 2008) (m20084306)

0.790 次の行列の固有値を求めなさい.

$$\begin{pmatrix} 2 & -1 \\ 1 & 4 \end{pmatrix}$$

(山口大 2009) (m20094307)

0.791 $B = \begin{bmatrix} 2 & b \\ 4 & -6 \end{bmatrix}$ について, 固有値が実数となるための b の条件を求めなさい.

(山口大 2009) (m20094311)

- 0.792 $B = \begin{pmatrix} 2 & -1 & -1 \\ -1 & 2 & -1 \\ 1 & 1 & 4 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めなさい. 固有ベクトルは, いずれか一つの固有値に対して求めればよい.

(山口大 2010) (m20104302)

- 0.793 行列 $\begin{bmatrix} 3 & 1+i \\ 1-i & 1 \end{bmatrix}$ の固有値を求めなさい. また, その固有値の中で絶対値の最も大きな固有値に対する固有ベクトルを求めなさい. ただし, i は虚数単位を表し, 固有値と固有ベクトルは複素数の範囲で求めることとする..

(山口大 2011) (m20114302)

- 0.794 行列 $\begin{bmatrix} 1 & -2 \\ 4 & 7 \end{bmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めなさい.

(山口大 2012) (m20124302)

- 0.795 次に示す行列 A の固有値および対応する固有ベクトルを求めなさい. 固有ベクトルは, いずれか一つの固有値に対して求めればよい.

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 2 & 2 \\ 2 & 1 & 0 \\ 2 & 0 & -1 \end{pmatrix}$$

(山口大 2016) (m20164302)

- 0.796 次に示す行列 A の固有値が全て負の実数となる時, x のとりうる範囲を求めなさい.

$$A = \begin{pmatrix} -1 & 1 & 2 \\ 0 & x^2 - 1 & -1 \\ 0 & 0 & x - 0.5 \end{pmatrix}$$

(山口大 2017) (m20174302)

- 0.797 次の行列 A を対角化した行列 B を求めなさい. また, A を対角化させる正則行列 C を求めなさい.

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 2 \end{pmatrix}$$

(山口大 2018) (m20184302)

- 0.798 次のような定数行列 A によるベクトル \vec{x}_i からベクトル \vec{y}_i への変換を考える.

$$\vec{y}_i = A \vec{x}_i \quad (i = 1, 2, \dots)$$

この変換により, $\vec{x}_1 = (4 \ 2)^T$ は $\vec{y}_1 = (6 \ 3)^T$, $\vec{x}_2 = (8 \ 6)^T$ は $\vec{y}_2 = (13 \ 8)^T$ へ変換される場合の行列 A を求めなさい. また, その行列 A の固有値と固有ベクトルを求めなさい. ここで, $()^T$ は転置行列を表している.

(山口大 2021) (m20214302)

- 0.799 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 2 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトル (ただし, 長さ 1 のもの) を求めよ.

(徳島大 1999) (m19994404)

0.800 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 2 \\ 2 & 1 & -2 \\ -1 & 0 & 4 \end{pmatrix}$ と行列 $E = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ について、次の問に答えよ。

- (1) 行列式 $|A - \lambda E|$ の値を求めよ。ただし、 λ は定数とする。
- (2) $|A - \lambda E| = 0$ を満たす λ の値をすべて求めよ。
- (3) (2) で求めたそれぞれの λ に対して、 $Ax = \lambda x$ を満たす 3次元列ベクトル x のうち長さ 1 であるものを求めよ。

(徳島大 2000) (m20004404)

0.801 (1) 次の行列の固有値を求めよ。

$$\begin{pmatrix} -3 & -2 & -1 \\ 0 & 1 & 2 \\ 3 & 4 & 5 \end{pmatrix}$$

- (2) 最小な固有値に対する固有ベクトルを求めよ。

(徳島大 2001) (m20014404)

0.802 $A(\theta) = \begin{pmatrix} \cos \theta & 0 & -\sin \theta \\ 1 - \cos \theta & 1 & \sin \theta \\ \sin \theta & 0 & \cos \theta \end{pmatrix}$ とする。

- (1) $A(\theta)$ が正則であることを示せ。
- (2) 1 が $A(\theta)$ の固有値であることを示せ。
- (3) $A^2(\theta) (= A(\theta)A(\theta))$ に対して、 $A^2(\theta) = A(m\theta)$ となる自然数 m を求めよ。

(徳島大 2003) (m20034404)

0.803 行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & -1 \\ 1 & 1 \end{pmatrix}$ に対して、次の問に答えよ。

- (1) A の固有値 λ と、それに対応する長さが 1 の固有ベクトル $x = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix}$ を求めよ。
- (2) 上で求めた λ と x に対して、 $Ay = \lambda y + x$ となるベクトル $y = \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \end{pmatrix}$ で x と直交するものを求めよ。
- (3) このとき $P = \begin{pmatrix} x_1 & y_1 \\ x_2 & y_2 \end{pmatrix}$ とおいて、 $\Lambda = P^{-1}AP$ を求めよ。

(徳島大 2004) (m20044404)

0.804 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 2 & -2 \end{pmatrix}$ について答えよ。

- (1) 固有値を求めよ。
- (2) 各固有値に対応する長さ 1 の固有ベクトルを求めよ。
- (3) 直交行列 P を求めて tPAP を対角行列にせよ。ここで、 tP は P の転置行列を表す。

(徳島大 2006) (m20064401)

0.805 a を実数とする。行列 $A = \begin{pmatrix} 1-a & a \\ 1-2a & 2a \end{pmatrix}$ に対して、次の問いに答えよ。

- (1) $a = 3$ のとき、 A の固有値を求めよ。

(2) A の固有値が重複するように, a の値を定めよ.

(3) (2) で求めた a の値に対して, A の固有ベクトルで大きさが 1 であるものをひとつ求めよ.

(徳島大 2007) (m20074401)

0.806 行列 $A = \begin{pmatrix} -1 & a & -2 \\ 1 & 4 & 1 \\ 2 & 2 & 3 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えよ.

(1) A が逆行列を持たないような a の値を求めよ.

(2) 2 が A の固有値となるような a の値を求めよ.

(3) 1 が A の重複した固有値となるような a の値を求めよ.

(徳島大 2008) (m20084401)

0.807 行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & 0 & 2 \\ 0 & 1 & 0 \\ 6 & 0 & 4 \end{pmatrix}$ に対して, 次の問いに答えよ.

(1) 固有値を求めよ.

(2) 最大である固有値に対応する大きさ 1 の固有ベクトルを求めよ.

(徳島大 2010) (m20104401)

0.808 行列 $A = \begin{pmatrix} 5 & 4 \\ 4 & 5 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えよ.

(1) A の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(2) $A = B^2$ となる行列 B をすべて求めよ.

(徳島大 2012) (m20124401)

0.809 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 2 \\ 1 & -2 & 0 \\ 0 & 1 & 1 \end{pmatrix}$ に対して, 次の問いに答えよ.

(1) A の固有値を求めよ.

(2) $A\mathbf{p} = \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$ となる列ベクトル \mathbf{p} の中で, 大きさ $|\mathbf{p}|$ が最小となる \mathbf{p} を求めよ. また, そのと

きの $|\mathbf{p}|$ を求めよ.

(徳島大 2012) (m20124405)

0.810 行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & 4 \\ 4 & -3 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えよ.

(1) 固有値を求めよ.

(2) 各固有値に対応する長さ 1 の固有ベクトルを求めよ.

(3) 直交行列 P を求めて tPAP を対角行列にせよ. ここで, tP は P の転置行列を表す.

(徳島大 2013) (m20134401)

0.811 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 & 1 & 1 \\ 2 & 2 & 2 & 2 \\ 2 & 1 & 0 & 2 \\ -2 & -1 & -1 & 2 \end{pmatrix}$, $B = \begin{pmatrix} 3 & -1 & -1 & -1 \\ 1 & -1 & -1 & -1 \\ 0 & 0 & 1 & 1 \\ 3 & 0 & 0 & 3 \end{pmatrix}$, $\boldsymbol{x} = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix}$ とする. 次の問いに答えよ.

- (1) A と B の積 AB を求めよ.
- (2) $AB\boldsymbol{x} = \alpha\boldsymbol{x}$ を満たす定数 α を求めよ.
- (3) $B^{-1}A^{-1}\boldsymbol{x} = \beta\boldsymbol{x}$ を満たす定数 β を求めよ.

(徳島大 2014) (m20144401)

0.812 3次実正方行列 A は, -2 と 7 を固有値にもつ. $\boldsymbol{p}_1 = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ -2 \end{pmatrix}$ と $\boldsymbol{p}_2 = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ a \end{pmatrix}$ は固有値 -2 に対応

する A の固有ベクトル, $\boldsymbol{p}_3 = \begin{pmatrix} b \\ c \\ 1 \end{pmatrix}$ は固有値 7 に対応する A の固有ベクトルである. 3つのベク

トル $\boldsymbol{p}_1, \boldsymbol{p}_2, \boldsymbol{p}_3$ が, どの2つも直交するとき, 次の問いに答えよ.

- (1) 実数 a, b, c を求めよ.
- (2) $\boldsymbol{p}_1, \boldsymbol{p}_2, \boldsymbol{p}_3$ を並べた3次正方行列を $P = \begin{pmatrix} \boldsymbol{p}_1 & \boldsymbol{p}_2 & \boldsymbol{p}_3 \end{pmatrix}$ とする. P^{-1} を求めよ.
- (3) A を求めよ.

(徳島大 2018) (m20184401)

0.813 以下の問いに答えよ. ただし, 計算過程は書かなくともよい.

- (1) 2次行列 $A = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$ の固有値・固有ベクトルを求めよ.
- (2) 2次行列 $B = \begin{pmatrix} 2 & 3 \\ 3 & 2 \end{pmatrix}$ の固有値・固有ベクトルを求めよ.
- (3) 4次行列 $C = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 2 & 3 \\ 1 & 0 & 3 & 2 \\ 2 & 3 & 0 & 1 \\ 3 & 2 & 1 & 0 \end{pmatrix}$ の固有値・固有ベクトルを求めよ.

(高知大 2001) (m20014505)

0.814 A を複素数を成分とする2次正方行列とし, ω を1の3乗根の一つとする. さらに

$$Ax_1 = \omega x_1, \quad Ax_2 = \omega^2 x_2$$

を満たすベクトル $x_1, x_2 (\neq 0)$ があったとする. このとき, 次の各問いに答えなさい.

- (1) $AP = P \begin{pmatrix} \omega & 0 \\ 0 & \omega^2 \end{pmatrix}$ を満たす行列 P があることを示しなさい.
- (2) $\omega \neq 1$ のとき, x_1, x_2 は一次独立であることを示しなさい.
- (3) $\omega \neq 1$ のとき, A^3 を求めなさい.

(高知大 2001) (m20014506)

0.815 3次行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 5 & -7 \\ 1 & 3 & -5 \\ 1 & 1 & -3 \end{pmatrix}$ のすべての固有値・固有ベクトルを求めよ.
(高知大 2008) (m20084506)

0.816 $n \times n$ 行列 A が n 個の 1 次独立な固有ベクトルをもてば, A は対角化可能であることを示せ. また,
 $A = \begin{pmatrix} -1 & 1 & -1 \\ -2 & 2 & -1 \\ -2 & 2 & -1 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求め, A を対角化せよ.
(高知大 2009) (m20094504)

0.817 3×3 行列 A を
$$A = \begin{pmatrix} \frac{1}{3} & \frac{1}{3} & -\frac{1}{3} \\ \frac{1}{3} & \frac{4}{3} & \frac{2}{3} \\ -\frac{1}{3} & \frac{2}{3} & \frac{4}{3} \end{pmatrix}$$

とする. このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) A の固有値と固有ベクトルを求めよ.
- (2) 次の関数式を満たす直交行列 T をひとつ求めよ.

$$T^{-1}AT = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 2 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

- (3) α と β を定数とし, 3×3 行列 B を次で定義する.

$$B = T \begin{pmatrix} \alpha & 0 & 0 \\ 0 & \beta & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} T^{-1}$$

このとき, B と B^2 を計算せよ.

- (4) $C^2 = A$ を満たす行列 C をひとつ求めよ.
(高知大 2010) (m20104504)

0.818 2次正方行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えよ.

- (1) $\tau = \frac{1 + \sqrt{5}}{2}$ とする. A の固有値は τ と $\bar{\tau} = -\frac{1}{\tau}$ であることを示せ.
- (2) $\mathbf{u}_1 = \frac{1}{\sqrt{1 + \tau^2}} \begin{pmatrix} \tau \\ 1 \end{pmatrix}$ と $\mathbf{u}_2 = \frac{1}{\sqrt{1 + \tau^2}} \begin{pmatrix} -1 \\ \tau \end{pmatrix}$ は固有値 τ と $\bar{\tau}$ に対する固有ベクトルで, 単位ベクトルとなることを示せ.
- (3) $\mathbf{v}_0 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}$, $\mathbf{v}_n = A^n \mathbf{v}_0$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) とするとき, $\mathbf{v}_n = \frac{\tau^n \mathbf{u}_1 - \bar{\tau}^{n-1} \mathbf{u}_2}{\sqrt{1 + \tau^2}}$ を示せ.

(高知大 2011) (m20114503)

0.819 a を正の実数とし, 行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & 0 & 1 \\ a & 0 & -1 \\ 1 & 1 & 3 \end{pmatrix}$ とおく. このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) 行列 A の行列式の値が 6 となるような a の値を求めよ.
- (2) 行列 A の固有値が二つの実数となるような a の値を求めよ.
- (3) (2) で求めた a に対し, 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(高知大 2011) (m20114505)

0.820 2次正方行列 A と 4次正方行列 B を

$$A = \begin{pmatrix} -27 & 75 \\ -10 & 28 \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} -27 & 75 & 0 & 0 \\ -10 & 28 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

で定める. このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) A の行列式を求めよ.
- (2) B の行列式を求めよ.
- (3) A の固有値と固有ベクトルを求めよ.
- (4) B の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(高知大 2012) (m20124504)

0.821 $J = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 \end{pmatrix}$ とする. このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) J のすべての固有値を求めよ.
- (2) J の異なる固有値に対して, それぞれの固有空間の基底を求めよ.
- (3) J は対角化可能かどうか, 理由をつけて答えよ. また 対角化可能である場合には, $P^{-1}JP$ が対角行列となるような P を求めよ.

(高知大 2013) (m20134504)

0.822 行列 $A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & -1 \\ 1 & 0 & 1 \\ -1 & -1 & 0 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えよ.

- (1) A の固有値と固有ベクトルをすべて求めよ.
- (2) $A = PDP^{-1}$ を満たす正則行列 P とその逆行列 P^{-1} , および対角行列 D を求めよ.
- (3) 正の整数 n に対し, A^{2n} を求めよ.

(高知大 2013) (m20134505)

0.823 3次正方行列 A の固有値が 3, 2, 1 で, それらに対応する固有ベクトルが順に $\mathbf{u}, \mathbf{v}, \mathbf{w}$ であったとする. また,

$$P = (\mathbf{u} \ \mathbf{v} \ \mathbf{w})$$

とおく. このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) A の行列式を求めよ.
- (2) 正の整数 n に対して, $A^n - A$ は逆行列を持つかどうかを理由を挙げて答えよ.
- (3) P は逆行列を持つかどうかを理由を挙げて答えよ.

- (4) A を P を用いて表わせ.
 (5) 正の整数 n に対して, A^n を P を用いて表わせ.

(高知大 2014) (m20144503)

0.824 行列 $A = \begin{pmatrix} 5 & -2 & 4 \\ 10 & -3 & 5 \\ 2 & -1 & 3 \end{pmatrix}$ について次の問いに答えよ.

- (1) A の固有値を求めよ.
 (2) A の各固有値に対して, 固有空間の基底を一組求めよ.
 (3) A は対角化可能かどうかを理由を付けて答えよ

(高知大 2016) (m20164503)

0.825 3 次行列

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 2 & 3 \\ 3 & -1 & 3 \\ 4 & -4 & 1 \end{pmatrix}$$

の固有値・固有ベクトルを求めよ.

(高知大 2017) (m20174501)

0.826 A を $A^2 = O$ (零行列) を満たす複素数を成分とする 4 次の方行列とする. さらに, $A\mathbf{p}, A\mathbf{q}$ が一次独立となる 4 次元複素ベクトル \mathbf{p}, \mathbf{q} があるとする. このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) $\mathbf{p}, \mathbf{q}, A\mathbf{p}, A\mathbf{q}$ は一次独立であることを示せ.
 (2) 行列 A の固有値と階数を求めよ.
 (3) $P = (A\mathbf{p} \ \mathbf{p} \ A\mathbf{q} \ \mathbf{q})$ とおくと P は正則であることを示し, さらに

$$P^{-1}AP = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

となることを示せ.

(高知大 2017) (m20174505)

0.827 零ベクトルを $\vec{0}$ と記す.

- (1) A を n 次正方形行列とする. 実数 λ に対して, n 次元数ベクトル \vec{u}, \vec{v} が条件

$$\vec{u} \neq \vec{0}, A\vec{u} = \lambda\vec{u}, A\vec{v} = \vec{u} + \lambda\vec{v} \quad (*)$$
 を満足していると仮定する. このとき, \vec{u}, \vec{v} は 1 次独立であることを示せ.
 (2) a, b, c, d を実数とする. 2 次方程式 $x^2 - (a+d)x + ad - bc = 0$ が, a とは異なる実数 λ を 2 重解としてもつと仮定する. 2 次正方形行列 $A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}$ について, (1) の条件 (*) を満足する 2 次元数ベクトル \vec{u}, \vec{v} が存在することを示せ.
 (3) (2) における \vec{u}, \vec{v} を $\vec{u} = \begin{pmatrix} u_1 \\ u_2 \end{pmatrix}, \vec{v} = \begin{pmatrix} v_1 \\ v_2 \end{pmatrix}$ とおく. 行列 $P = \begin{pmatrix} u_1 & v_1 \\ u_2 & v_2 \end{pmatrix}$ は正則であることを示し, $P^{-1}AP$ を求めよ.

(愛媛大 2004) (m20044610)

0.828 行列 $A = \begin{pmatrix} -2 & a & 1 \\ 2 & -2 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ は 0 を固有値として持つとする. ただし, a は定数とする.

- (1) 定数 a を求めよ.
- (2) A の 0 でない固有値をすべて求めよ.
- (3) 固有値 0 に対する固有ベクトルをすべて求めよ.

(愛媛大 2005) (m20054604)

0.829 $A = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -2 \end{pmatrix}$, $C = \begin{pmatrix} 2 & -3 & -1 \\ 0 & 0 & 0 \\ -4 & 6 & 2 \end{pmatrix}$ とする.

- (1) $AB = C$ となる行列 B を求めよ.
- (2) 行列 C の固有値と固有ベクトルをすべて求めよ.

(愛媛大 2008) (m20084611)

0.830 $A = \begin{pmatrix} 1 & \frac{a}{\sqrt{2}} & 0 \\ \frac{a}{\sqrt{2}} & 1 & \frac{a}{\sqrt{2}} \\ 0 & \frac{a}{\sqrt{2}} & 1 \end{pmatrix}$ とする. (ただし, $a > 0$)

- (1) 行列式 $|A|$ を求めよ.
- (2) 逆行列 A^{-1} が存在しないときの a の値を求めよ.
- (3) 行列 A の固有値をすべて求めよ.
- (4) 行列 A の最大の固有値に対する固有ベクトルをすべて求めよ.

(愛媛大 2009) (m20094604)

0.831 3次正方行列

$$A = \begin{bmatrix} 3 & 7 & 9 \\ 1 & 9 & 3 \\ 1 & -1 & 3 \end{bmatrix}$$

について次の問に答えよ.

- (1) A の固有値を求めよ.
- (2) A の階数を求めよ.
- (3) A の各固有値に対する固有空間をそれぞれ求めよ.
- (4) 適当な正則行列 P によって A を対角化せよ.

(愛媛大 2011) (m20114601)

0.832 (1) 行列式 $\begin{vmatrix} 56 & 4 & -2 \\ 6 & 54 & -2 \\ 180 & 120 & -10 \end{vmatrix}$ の値を求めよ.

(2) 行列 $\begin{pmatrix} 106 & 4 & -2 \\ 6 & 104 & -2 \\ 180 & 120 & 40 \end{pmatrix}$ の固有値をすべて求めよ.

(愛媛大 2013) (m20134604)

0.833 $A = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 & -1 \\ 1 & 0 & 0 & -4 \\ 0 & 1 & 0 & -6 \\ 0 & 0 & 1 & -4 \end{pmatrix}$ とする.

- (1) 行列 A の固有値をすべて求めよ.
 (2) (1) で求めた行列 A の固有値に対する固有ベクトルをすべて求めよ.

(愛媛大 2014) (m20144605)

0.834 $A = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 0 \end{pmatrix}$, $E = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ とする, また, n を自然数とする.

次の行列の固有値と固有ベクトルをすべて求めよ.

- (i) E (ii) A (iii) A^n

(愛媛大 2015) (m20154605)

0.835 (1) 行列 A を $A = \begin{bmatrix} -3 & 2 & -10 \\ 2 & 3 & 4 \\ 0 & -3 & 2 \end{bmatrix}$ で定める.

- (a) A のすべての固有値を求めよ.
 (b) 適当な正則行列 P を用いて, A を対角化せよ.
 (2) B を正方行列とし, B^2 が零行列になるとする. このとき, B は 0 を固有値にもつこと, および 0 以外には固有値をもたないことを示せ.

(愛媛大 2016) (m20164602)

0.836 $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 2 & 3 & 2 \\ 3 & 2 & 3 \end{pmatrix}$ とする.

- (1) 行列式 $|A|$ を求めよ.
 (2) 行列 A の固有値をすべて求めよ.
 (3) (2) で求めた行列 A の固有値に対する固有ベクトルをすべて求めよ.

(愛媛大 2017) (m20174605)

0.837 (1) 行列

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 2 & -2 \\ -2 & -3 & 2 \\ 2 & 2 & -3 \end{bmatrix}$$

について考える.

- (a) A の固有値を全て求め, 各固有値に対する固有ベクトルを求めよ.
 (b) 適当な正則行列 P を用いて, 行列 A を対角化せよ.
 (2) a を実数とし, 行列

$$B = \begin{bmatrix} 1+a & a & 0 & 0 \\ -a & 1-a & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 3 \\ 0 & 0 & 0 & 2 \end{bmatrix}$$

を考える. B の固有値を全て求め, 各固有値に対する固有空間の次元を求めよ.

(愛媛大 2017) (m20174607)

0.838 行列 $A = \begin{pmatrix} -1 & -2 & 0 \\ a & 3 & -1 \\ 2 & 2 & -2 \end{pmatrix}$ は 0 を固有値として持つとする。ただし、 a は定数とする。

- (1) 定数 a を求めよ。
- (2) A の 0 でない固有値をすべて求めよ。
- (3) 固有値 0 に対する固有ベクトルをすべて求めよ。

(愛媛大 2018) (m20184605)

0.839 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & -1 \\ -6 & 1 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルをすべて求めよ。

(愛媛大 2021) (m20214607)

0.840 a, b, c を実定数とするとき

$$Q = Q(x, y) = ax^2 + 2bxy + cy^2, \quad -\infty < x, y < +\infty$$

について、次の間に答えよ。

- (1) $Q = (x, y)A \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ となる実対称行列 A を求めよ。
- (2) $(x, y) \neq (0, 0)$ ならば $Q < 0$ となる a, b, c の条件を求めよ。
- (3) (2) で求めた条件のもとで A の固有値がすべて負になることを示せ。

(九州大 1997) (m19974704)

0.841 正則行列 $A = \begin{bmatrix} a & 0 & 0 \\ 0 & b & c \\ 0 & c & b \end{bmatrix}$ について以下の各問いに答えよ。

- (1) 行列 A の逆行列 A^{-1} の (2, 3) 要素を求めよ。
- (2) 行列 A の固有値を求めよ。
- (3) $A^2 = \begin{bmatrix} 4 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 2i \\ 0 & 2i & 0 \end{bmatrix}$ を満たす a, b, c の各値を求めよ。ただし、 i は虚数単位を表す。
- (4) $A^n(2, 2) + A^n(3, 2)$ を n, b, c を用いて表せ。ただし、 $A^n(i, j)$ は行列 A^n の (i, j) 要素を表し、 n は 1 以上の整数とする。

(九州大 1998) (m19984707)

0.842 $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ とする。

- (1) A の固有値と重複度を求めよ。
- (2) 直交行列を使って A を対角化せよ。

(九州大 1999) (m19994706)

0.843 行列 $A = \begin{bmatrix} \frac{1}{2} & a & 0 \\ a & 0 & \frac{1}{4} \\ 0 & \frac{1}{4} & \frac{1}{2} \end{bmatrix}$ について以下の各問いに答えよ。ただし、 a は正の実数であるとする。

- (1) 行列 A の固有値を求めよ.
- (2) 行列の列 A, A^2, A^3, \dots が零行列でない定数行列 C に収束したとする. このとき, 次の問いに答えよ.
- (a) a の値を求めよ.
- (b) 最大固有値に対応する固有ベクトルを求めよ.
- (c) 行列 C を求めよ.

(九州大 2001) (m20014705)

0.844 行列 $A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}$ に対して, 正則行列 $P = \begin{pmatrix} p & q \\ r & s \end{pmatrix}$ で,

$$P^{-1}AP = \begin{pmatrix} \lambda & 0 \\ 0 & \mu \end{pmatrix}$$

を満たすものが存在すると仮定する. 次の各設問に答えよ.

- (1) λ, μ は A の固有値でなければならないことを示せ.
- (2) $A = \begin{pmatrix} 3 & 1 \\ 1 & 3 \end{pmatrix}$ のとき, A の固有値と固有ベクトルを求めよ.
- (3) $A = \begin{pmatrix} 3 & 1 \\ 1 & 3 \end{pmatrix}$ に対して上の条件を満たす P を直交行列で求めよ.

(九州大 2003) (m20034707)

0.845 3変数 x, y, z の2次形式 $f(x, y, z) = 3x^2 + 3y^2 + 3z^2 + 2xy - 2yz + 2zx$ は, 適当な直交行列 P で変換変数

$$\begin{pmatrix} X \\ Y \\ Z \end{pmatrix} = {}^tP \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$$

すれば, $f(x, y, z) = aX^2 + bY^2 + cZ^2$ (a, b, c は実数) になるという, ただし tP は行列 P の転置行列である. 次の問に答えよ.

- (1) 等式 $f(x, y, z) = (x, y, z)A^t(x, y, z)$ を満たす実対称行列 A を求めよ.
- (2) 上の直交行列 P と実数 a, b, c を求めよ.

(九州大 2004) (m20044705)

0.846 ベクトル y がベクトル x と行列 A によって次のように関係づけられる.

$$y = Ax \quad \text{ここで, } y = \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \\ y_3 \end{pmatrix}, A = \begin{pmatrix} a & b & c \\ c & a & b \\ b & c & a \end{pmatrix}, x = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix}$$

- (1) 次の3つのベクトルが行列 A の固有ベクトルであることを示せ.

$$p_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, p_2 = \begin{pmatrix} 1 \\ z_0 \\ z_0^2 \end{pmatrix}, p_3 = \begin{pmatrix} 1 \\ z_0^2 \\ z_0 \end{pmatrix}, \quad \begin{array}{l} \text{ここで, } z_0 = e^{i2\pi/3} \text{ である.} \\ (i: \text{虚数単位}) \\ (\text{ヒント: } z_0^3 = 1) \end{array}$$

- (2) 行列 A の固有値 λ_k ($k = 1, 2, 3$) を求めよ.
- (3) a, b, c を行列 A の固有値 λ_k と z_0 を用いて表せ. (ヒント: $1 + z_0 + z_0^2 = 0$)
- (4) $a = c = 0, b = 1$ となる場合の, 行列 A の (イ) 固有値, (ロ) 固有ベクトル を求めよ.

(5) (イ) ベクトル $p = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ を固有ベクトル p_1, p_2, p_3 の線形和で表せ.

(ロ) 上記のベクトル p を x とするとき, ベクトル y を求めよ.

(九州大 2005) (m20054701)

0.847 次の連立定数係数線形同次微分方程式

$$\frac{dy_1(x)}{dx} + 2y_1(x) - y_2(x) = 0$$

$$\frac{dy_2(x)}{dx} - y_1(x) + 2y_2(x) = 0$$

を, 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & -1 \\ -1 & 2 \end{pmatrix}$ を用いて,

$$\frac{dy(x)}{dx} + Ay(x) = 0 \quad \text{ただし, } y(x) = \begin{pmatrix} y_1(x) \\ y_2(x) \end{pmatrix}$$

のように表現する. 解 $y(x)$ を行列 A の対角化を利用して以下の設問に沿って求めよ.

- (1) 行列 A の固有値 λ_1, λ_2 と固有ベクトル c_1, c_2 を求めよ.
- (2) c_1, c_2 を列ベクトルとする行列を $P = (c_1, c_2)$ とする. $P^{-1}AP$ を求めよ.
- (3) $z(x) = \begin{pmatrix} z_1(x) \\ z_2(x) \end{pmatrix} = P^{-1}y(x)$ とするとき, $z(x)$ に関する微分方程式を導き, $z(x)$ の一般解を求めよ.
- (4) $y(0) = \begin{pmatrix} 2 \\ 0 \end{pmatrix}$ のとき, $y(x)$ を求めよ.

(九州大 2005) (m20054702)

0.848 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & c & c \\ c & 1 & c \\ c & c & 1 \end{pmatrix}$ について, 次の問に答えよ.

- (1) 行列 A の行列式の値を求めよ.
- (2) A が逆行列を持たないときの c の値は
 - (a) $c = \square$ のときと
 - (b) $c = \square$ のときである.
- (3) (2) の 2 つの場合 (a),(b) それぞれについて, 行列 A の階数 (ランク) を求めよ.
- (4) (2) の 2 つの場合 (a),(b) それぞれについて, 行列 A の固有値をすべてを求めよ.

(九州大 2006) (m20064701)

0.849 A は n 次正方行列で, その対角成分はすべて 2, それ以外の成分はすべて 1 であるとする. α は実数で, 次の条件 (C) をみたす n 次の列ベクトル (縦ベクトル) \boldsymbol{x} が存在するとする.

条件 (c) : \boldsymbol{x} の成分はすべて正で, $A\boldsymbol{x} = \alpha\boldsymbol{x}$

- (1) $n = 2$ の場合に, α を求めよ.
- (2) n が 3 以上の自然数の場合に, α を求めよ.

(九州大 2007) (m20074713)

- 0.850 xy 平面上の任意の点の 1 秒ごとの移動の様子が、次の行列 A で表される一次変換によって与えられるとする。

$$A = \begin{pmatrix} 5/4 & 1/2 \\ 1/4 & 1 \end{pmatrix}$$

xy 平面上の点 (x_0, y_0) が n 秒後に到達する点 (x_n, y_n) は、次の漸化式によって与えられる。ただし、 n は $n \geq 1$ の整数。

$$\begin{pmatrix} x_n \\ y_n \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 5/4 & 1/2 \\ 1/4 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_{n-1} \\ y_{n-1} \end{pmatrix}$$

- (1) 原点から見たいくつかの方向では、時間と共に向きが変化しない。すなわち、ゼロベクトルでない $\mathbf{X} = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ に対し、次の関係式が成り立つ。

$$A\mathbf{X} = \lambda\mathbf{X}$$

上式を満たす固有値 λ の値 a, b と、それぞれに対する固有ベクトル $\mathbf{X} = \begin{pmatrix} p \\ q \end{pmatrix}$, $\begin{pmatrix} r \\ s \end{pmatrix}$ を求めよ。ただし、 $a < b$ とし、 (p, q) , (r, s) はそれぞれ整数の組で、 $p > 0$, $r > 0$ とする。

- (2) 前問の結果を用いて、 $P = \begin{pmatrix} p & r \\ q & s \end{pmatrix}$ とおくと、 $P^{-1}AP = \begin{pmatrix} a & 0 \\ 0 & b \end{pmatrix}$ が成り立つことを示せ。

- (3) 座標 (x_n, y_n) を (x_0, y_0) と n を用いて表せ。

$$(\text{ヒント}) (P^{-1}AP)^n = (P^{-1}AP)(P^{-1}AP)\cdots(P^{-1}AP) = P^{-1}A^nP$$

- (4) 前問の (x_0, y_0) が、媒介変数 s を用いて $(x_0, y_0) = (s, s)$ で表される直線上の任意の点であるとする。 s が実数全体を動くとき、 (x_n, y_n) の描く図形の方程式を求めよ。また、 $n \rightarrow \infty$ のとき、この図形はどのような図形に近づくか答えよ。

(九州大 2008) (m20084701)

- 0.851 (1) 実数からなる行列 $A = \begin{pmatrix} a & b \\ 0 & a \end{pmatrix}$ について、以下の問いに答えよ。

(a) $\begin{pmatrix} a & b \\ 0 & a \end{pmatrix}^2$ および $\begin{pmatrix} a & b \\ 0 & a \end{pmatrix}^3$ を求めよ。

(b) $\begin{pmatrix} a & b \\ 0 & a \end{pmatrix}^n$ を求めよ。ただし、 n は自然数である。

- (2) 行列 $B = \begin{pmatrix} 1 & -1 \\ 1 & 3 \end{pmatrix}$ について、以下の問いに答えよ。

(a) ベクトル $\mathbf{v}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \end{pmatrix}$ について $B\mathbf{v}_1 = 2\mathbf{v}_1$ が成り立つ。

\mathbf{v}_1 と一次独立な大きさ 1 のベクトル $\mathbf{v}_2 = \begin{pmatrix} v_{21} \\ v_{22} \end{pmatrix}$ を用いて、 $B\mathbf{v}_2$ を \mathbf{v}_1 と \mathbf{v}_2 の一次結合

$$B\mathbf{v}_2 = \alpha\mathbf{v}_1 + 2\mathbf{v}_2$$

と表したい。 \mathbf{v}_2 と α の組み合わせを 1 つ、具体的な数値で求めよ。

(b) $P = \begin{pmatrix} 1 & v_{21} \\ -1 & v_{22} \end{pmatrix}$ とすると、 $BP = PC$ と表すことができる。行列 C を記せ。

(c) B^n を求めよ。

(九州大 2008) (m20084709)

0.852 x_0, x_1, \dots, x_{n-1} を実数とすると、次の n 次正方行列 A を考える：

$$A = \begin{pmatrix} x_0 & x_1 & x_2 & \cdots & x_{n-1} \\ x_{n-1} & x_0 & x_1 & \cdots & x_{n-2} \\ \vdots & & & & \vdots \\ x_1 & x_2 & \cdots & x_{n-1} & x_0 \end{pmatrix}$$

ζ を $\zeta^n = 1$ を満たす複素数とすると、ベクトル $\mathbf{u}_\zeta = \begin{pmatrix} 1 \\ \zeta \\ \zeta^2 \\ \vdots \\ \zeta^{n-1} \end{pmatrix}$ を考える。

- (1) $A\mathbf{u}_\zeta$ を求めよ。
- (2) $A\mathbf{u}_\zeta = \alpha\mathbf{u}_\zeta$ となる複素数 α が存在することを示せ。
- (3) A の固有値を全て求めよ。
- (4) A の行列式を因数分解された形で求めよ。

(九州大 2009) (m20094711)

0.853 A, B を 3 次実対称行列とする。一般に、 tP は行列 P の転置行列を表わすものとする。

- (1) tPAP と tPBP とが共に対角行列となるような直交行列 P が存在するならば、 $BA = AB$ であることを示せ。
- (2) A の固有値がすべて等しいならば、 tPAP と tPBP とが共に対角行列となるような直交行列 P が存在することを示せ。
- (3) $BA = AB$ であるならば、 tPAP と tPBP とが共に対角行列となるような直交行列 P が存在することを示せ。

(九州大 2010) (m20104706)

0.854 3×3 行列 B, C をそれぞれ

$$B = \frac{1}{4} \begin{pmatrix} 0 & 1 & -1 \\ -3 & 4 & -1 \\ 1 & -1 & 2 \end{pmatrix}, \quad C = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 2 \\ 0 & -1 & -1 \end{pmatrix}$$

とし、点 $P_n(x_n, y_n, z_n)$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) を $x_1 = y_1 = z_1 = 1$,

$$\begin{pmatrix} x_{n+1} \\ y_{n+1} \\ z_{n+1} \end{pmatrix} = B \begin{pmatrix} x_n \\ y_n \\ z_n \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

によって定める。このとき、次の問いに答えよ。

- (1) 行列 C の逆行列 C^{-1} を求めよ。
- (2) ベクトル $\begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$, $\begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix}$, $\begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ -1 \end{pmatrix}$ はそれぞれ行列 B の固有ベクトルであることを示せ。

(3) a_n, b_n, c_n ($n = 1, 2, 3, \dots$) を,

$$\begin{pmatrix} a_n \\ b_n \\ c_n \end{pmatrix} = C^{-1} \begin{pmatrix} x_n \\ y_n \\ z_n \end{pmatrix}$$

によって定めるとき, a_{n+1}, a_n の間に成立する関係式を求めよ.

(4) $n \rightarrow \infty$ としたとき, 点 P_n はある点 P_∞ に近づくことを示し, 点 P_∞ を求めよ.

(九州大 2011) (m20114704)

0.855 行列 $A = \begin{pmatrix} -1 & 6 & 0 \\ 0 & 2 & 0 \\ 4 & -12 & 1 \end{pmatrix}$ に対し以下の問いに答えよ.

- (1) A の行列式を求めよ.
- (2) A の逆行列を求めよ.
- (3) A の固有値, 固有ベクトルを求めよ.

(九州大 2012) (m20124701)

0.856 $A = \begin{pmatrix} 8 & -2 & 4 \\ 2 & 13 & 4 \\ 0 & 0 & 3 \end{pmatrix}$ とするとき, 以下の問いに答えよ.

- (1) 行列 A の固有値を求めよ.
- (2) それぞれの固有値に対する第 2 成分が 1 の固有ベクトルを求めよ.

(九州大 2012) (m20124707)

0.857 行列 $A = \begin{pmatrix} 5 & 6 & 0 \\ -1 & 0 & 0 \\ 1 & 2 & 2 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えよ.

- (1) A の固有値を求めよ.
- (2) 各固有値に対する固有空間の基底を求めよ.
- (3) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような正則行列 P と $P^{-1}AP$ を求めよ.

(九州大 2012) (m20124709)

0.858 n 次実正方行列 $A = (a_{ij})$ は, どの行についても $\sum_{j=1}^n a_{ij} = 1$ とする, 以下の問いに答えよ.

- (1) 1 は A の固有値であることを示せ.
- (2) 2 は $2A$ の固有値であることを示せ.
- (3) 行列 $B = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めよ.
- (4) B が対角化可能かどうか判定せよ.

(九州大 2013) (m20134701)

0.859 行列

$$A = \begin{bmatrix} 0 & -1 & 0 & 2 \\ 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \end{bmatrix}$$

に対し，以下の各問いに答えよ．

- (1) A の逆行列を求めよ．
- (2) A の固有値を求めよ．

(九州大 2014) (m20144708)

0.860 行列

$$A = \begin{bmatrix} 2 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 3 \\ 0 & 3 & 1 \end{bmatrix}$$

に対し，以下の各問いに答えよ．

- (1) A の固有値を求めよ．
- (2) $P^{-1}AP$ が対角行列となる直交行列 P を一つ求めよ．

(九州大 2014) (m20144709)

0.861 次の行列 A について，以下の問いに答えよ．ただし， a は実数値とする．

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 0 & 3 \\ 0 & 1 & a \\ 0 & a & 1 \end{pmatrix}$$

- (1) A の逆行列が存在するための a の必要十分条件を示せ．
- (2) a が小問 (1) の条件を満たす時， A の逆行列を求めよ．
- (3) A の固有値を求めよ．
- (4) A が対角化可能であるための a の必要十分条件を示せ．

(九州大 2015) (m20154701)

0.862 x, y を実数とし，行列 A, B および \mathbf{p} を下記のように定義する．

$$A = \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 1 & -1 & 0 \\ 1 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & \sqrt{2} \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} 2 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 3 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{p} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ 0 \end{pmatrix}$$

また， $C = AB({}^tA)$ とする．ここで tA は A の転置行列である．以下の問いに答えよ．

- (1) 行列 A^{-1} を求めよ．
- (2) 行列 C の固有値を求めよ．
- (3) 行列 C の行列式 $\det(C)$ を求めよ．
- (4) $x > 0$ ， $x^2 + y^2 = 1$ および $\mathbf{p} \cdot (C\mathbf{p}) = 1$ を満たす x と y を求めよ．

(九州大 2016) (m20164701)

0.863 3次正方行列 A を次のように定義する.

$$A = \begin{pmatrix} 4 & -5 & -2 \\ -5 & 4 & -2 \\ -2 & -2 & -8 \end{pmatrix}$$

このとき、以下の各問いに答えよ

- (1) A の固有値をすべて求めよ.
- (2) A の固有値のうちで最小なものを λ_0 とおく. (固有値がただ一つの場合には, それを λ_0 とおく.) λ_0 に対応する固有ベクトルで, 「ベクトルの長さ (大きさ) は 1」かつ「第 1 成分は負ではない」という条件を満たすものを求めよ.

(九州大 2016) (m20164706)

0.864 x は実数とし, n は 2 以上の自然数とする. A は n 次の正方行列で, その対角成分はすべて x , それ以外の成分はすべて 1 であるとする. このとき, 以下の各問いに答えよ.

- (1) すべての成分が 1 である n 次の列ベクトル (縦ベクトル) を \mathbf{v} で表す. このとき, n と x に依存して決まるある実数 c_n に対して $A\mathbf{v} = c_n\mathbf{v}$ が成り立つことを示せ, また, c_n を求めよ.
- (2) $c_n = 0$ となる x の値を x_n とおく. x_n を求めよ.
- (3) $n = 3, x = x_3$ の場合に, A の固有値をすべて求めよ.
- (4) $n = 4, x = x_4$ の場合に, A の階数 (rank) を求めよ.
- (5) n は 2 以上の任意の自然数とし, $x = x_n$ とする. A の n 個の列ベクトル (縦ベクトル) を左から順に $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ とする. このとき, $A\mathbf{v}$ を $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ を用いて表せ. また, $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ は一次独立であるか, それとも一次従属であるか, 答えよ. その理由も示すこと.

(九州大 2017) (m20174702)

0.865 a, b を実数として, 次の行列 A について考える.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & a \\ 0 & 2 & b \\ a & b & 3 \end{pmatrix}$$

- (1) A が正則であるための条件を求めよ.
- (2) A に掃き出し法 (ガウスの消去法) を適用して次の行列 U を得たとする.

$$U = \begin{pmatrix} 1 & 0 & a \\ 0 & 2 & b \\ 0 & 0 & c \end{pmatrix}$$

この時, a, b を用いて c を表せ.

- (3) U の各列ベクトルが直交するように a, b, c を求めよ.
- (4) a, b, c が小問 (3) を満たすとき, $A = LU$ が成り立つような行列 L を求めよ.
- (5) a, b, c が小問 (3) を満たすとき, U の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(九州大 2017) (m20174704)

0.866 次の行列 A について, 以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} 3 & -1 & -1 \\ -1 & 3 & 1 \\ -1 & -1 & 3 \end{bmatrix}$$

- (1) A のすべての固有値を求めよ.
- (2) A^n を求めよ. ただし, n は自然数とする.
- (3) $AC = A^2 + \alpha E$ を満たす行列 C の行列式 $|C|$ が, $|C| = 0$ を満たす定数 α の値をすべて求めよ. ただし, E は単位行列である.

(九州大 2018) (m20184702)

0.867 4次正方行列 A を次のように定義する.

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 1 & 0 & -1 \\ 1 & 2 & 0 & -1 \\ 0 & 0 & 2 & 0 \\ -1 & -1 & 0 & 2 \end{pmatrix}$$

このとき, 以下の各問いに答えよ.

- (1) A の固有値をすべて求めよ.
- (2) A の固有値のうちで最大のものを λ_0 とおく. λ_0 に対応する固有ベクトルで, 第1成分が1であるものを求めよ.

(九州大 2018) (m20184705)

0.868 xy 座標平面上の点 P の移動について考える.

時刻 $t = n$ (n は正の整数) における点 P の位置ベクトル $\mathbf{p}_n = (x_n, y_n)$ を次の漸化式で定める.

$$\begin{pmatrix} x_n \\ y_n \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & \frac{1}{2} \\ \frac{1}{4} & \frac{3}{4} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_{n-1} \\ y_{n-1} \end{pmatrix}, \quad n = 1, 2, 3, \dots$$

点 P の始点は, 正の実数 s を用いて, $\mathbf{p}_0 = (x_0, y_0) = (1, s)$ で与えられるとする.

以下の問いに答えよ.

- (1) (x_n, y_n) を n と s を用いて表せ.
- (2) $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{y_n}{x_n}$ を求めよ.

(九州大 2019) (m20194701)

0.869 行列

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 2 \\ 1 & 0 & 2 \\ 2 & 2 & 3 \end{pmatrix}$$

について, 以下の問いに答えよ.

- (1) A の固有値, および, それぞれの固有値に属する固有空間の基底を一組ずつ求めよ.
- (2) A を直交行列により対角化せよ, すなわち, $P^{-1}AP$ が対角行列となる直交行列 P を求め, $P^{-1}AP$ がどのような対角行列となるかを表示せよ.

(九州大 2019) (m20194707)

0.870 3次の実正方行列

$$A = \begin{pmatrix} a & b & c \\ b & c & a \\ c & a & b \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} b & c & a \\ c & a & b \\ a & b & c \end{pmatrix}$$

について, 以下の問いに答えよ.

- (1) A のトレースが 0 のとき, A の行列式を求めよ.
 (2) $BA = AB$ のとき, 行列 A の固有値を求めよ.

(九州大 2019) (m20194708)

0.871 3次正方行列 A を次のように定義する.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 1 \\ -1 & 4 & 1 \\ 2 & -4 & 0 \end{pmatrix}$$

このとき, 以下の各問いに答えよ.

- (1) A の固有値をすべて求めよ.
 (2) A の固有値のうちで最小なものを λ_0 とおく. (固有値がただ一つの場合には, それを λ_0 とおく.) λ_0 に対応する固有ベクトルで, 「ベクトルの長さ (大きさ) は 1」かつ「第 1 成分は負ではない」という条件をみたすものを求めよ.

(九州大 2019) (m20194709)

0.872 行列

$$A = \begin{pmatrix} 1 & -3 & 3 \\ 3 & -5 & 3 \\ 6 & -6 & 4 \end{pmatrix}$$

について考える. このとき次の問いに答えよ.

- (1) A の固有値を求めよ.
 (2) A の固有値のうちで最大なものを λ_0 とおく (固有値がただ一つの場合には, それを λ_0 とおく). このとき λ_0 に対応する固有ベクトルで, 「ベクトルの長さ (大きさ) は 1」かつ「第 1 成分は負でない」という条件を満たすものを求めよ.

(九州大 2020) (m20204701)

0.873 次の行列 A について, 以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} 3 & 2 & 4 \\ 1 & 4 & 4 \\ 0 & -2 & -1 \end{bmatrix}$$

- (1) A の固有値をすべて求めよ.
 (2) A を対角化する正則行列 P , および逆行列 P^{-1} を求めよ.
 (3) (2) の結果を用いて $P^{-1}AP$ を計算せよ.

(九州大 2021) (m20214701)

0.874 3次正方行列 A を次のように定義する.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & -1 \\ 2 & 1 & 2 \\ 1 & 2 & 3 \end{pmatrix}$$

- (1) A の固有値をすべて求めよ.
 (2) A の固有値のうちで最小のものを λ_0 とおく. λ_0 に対応する固有ベクトルで, 「ベクトルの長さ (大きさ) は 1」かつ「第 1 成分は負ではない」という条件を満たすものを求めよ.

0.875 $a \geq 0$ として、行列

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 3 & a \\ 0 & 2 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

について、以下の問いに答えよ。

- (1) A の固有値を求めよ。
- (2) $a = 4$ のとき、 A の各固有値に対する固有空間を求めよ。
- (3) A が対角化可能でないような a の値をすべて求めよ。

(九州大 2021) (m20214709)

0.876 A, B, Q を n 次実正方行列とし、 A は正則行列で、 Q は対称行列であるとする。このとき、以下の問いに答えよ。ただし、必要ならば、実対称行列は実直交行列により対角化可能であることを証明なしで用いてよい。

- (1) BA を AB, A, A^{-1} の積で表せ。
- (2) BA がある正則行列により対角行列 D に対角化可能ならば、 AB も D に対角化可能であることを示せ。
- (3) $A = Q^2$ かつ B が対称行列であるとき、 AB は対角化可能で、かつその固有値はすべて実数であることを示せ。
- (4) A は固有値がすべて正である対称行列で、 B は対称行列であるとする。このとき、 AB は対角化可能で、かつその固有値はすべて実数であることを示せ。

(九州大 2021) (m20214711)

0.877 3次正方行列 A を次のように定義する。

$$A = \begin{pmatrix} 5 & -1 & -9 \\ -20 & -3 & 10 \\ 4 & 1 & 0 \end{pmatrix}$$

このとき、以下の各問いに答えよ。

- (1) A の固有値をすべて求めよ。
- (2) A の固有値のうちで最小のものを λ_0 とおく。 λ_0 に対応する固有ベクトルで、「ベクトルの長さ（大きさ）は 1」かつ「第 1 成分は負ではない」という条件を満たすものを求めよ。

(九州大 2022) (m20224704)

0.878 次の行列 A について、以下の問いに答えよ。 a, b は実数である。

$$A = \begin{pmatrix} a & 1 \\ 1 & b \end{pmatrix}$$

- (1) 行列 A の固有値が 2 つの異なる実数で得られることを示せ。
- (2) 以下に示す行列 P を用いると $P^{-1}AP$ は対角行列となった。このとき、 a, b の満たすべき条件を示せ。

$$P = \begin{pmatrix} \cos \frac{\pi}{4} & -\sin \frac{\pi}{4} \\ \sin \frac{\pi}{4} & \cos \frac{\pi}{4} \end{pmatrix}$$

0.879 α が行列 A の固有値であるとき、以下が成り立つことを証明せよ.

- (1) α は tA の固有値である. ただし, tA は A の転置行列である.
- (2) k が自然数のとき, α^k は $A^k = \overbrace{A \cdots A}^k$ の固有値である.
- (3) A が正則であるとき, α^{-1} は A^{-1} の固有値である.

(九州芸術工科大 2000) (m20004807)

0.880 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & -2 \\ -2 & 1 \end{pmatrix}$ に対して固有値と固有ベクトルを求め, A を対角化せよ. また, A^n を求めよ.

(九州芸術工科大 2001) (m20014809)

0.881 2次形式 $2x^2 + 3y^2 + 2z^2 - 2xy + 2yz$ の標準形を求めよ.

(九州芸術工科大 2003) (m20034808)

0.882 F の直交行列 P を求めて, $P^{-1}FP$ を対角行列にする.

$$F = \begin{pmatrix} 1 & 6 \\ 6 & 6 \end{pmatrix}$$

以下の手順に従って求めよ.

- (1) F の固有値を求め,
- (2) 長さ 1 の固有ベクトルを求め,
- (3) 直交行列 P を求め,
- (4) 対角行列 $P^{-1}FP$ を求めよ.

(佐賀大 2003) (m20034930)

0.883 次の問いに答えよ.

(1) $\begin{pmatrix} 0 & 0 & 1 \\ 1 & 0 & 0 \\ -1 & -1 & -1 \end{pmatrix}$ のすべての固有値と, 各固有値に対する固有空間の基底を求めよ.

(2) 複素数 λ が実正方形行列 (すなわち実数を成分とする正方形行列) A の固有値ならば, λ の共役複素数 $\bar{\lambda}$ も A の固有値になることを証明せよ.

(3) 実対称行列のすべての固有値は実数になることを証明せよ.

(4) n を偶数とするとき, すべての固有値が 0 でない純虚数になるような n 次実正方形行列の例を与えよ. また n が奇数ならばそのような例が存在しないことを証明せよ.

(佐賀大 2003) (m20034931)

0.884 次の対称行列の階数および行列式を求め, この行列が正則であるかどうか判断せよ. 正則な場合は, 逆行列を求めよ. さらに, 固有値と対応する固有ベクトルを求めて, この行列を対角化せよ.

$$\begin{pmatrix} 3 & 0 & 1 \\ 0 & 3 & 1 \\ 1 & 1 & 2 \end{pmatrix}$$

(佐賀大 2004) (m20044932)

0.885 R^3 を実の 3 次列ベクトル全体のなすベクトル空間とする. 3 次正方実行列 A と 3 次列ベクトル $\mathbf{a} \in R^3$ を

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ -1 & 4 & 2 \\ 1 & -3 & -1 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ -3 \end{pmatrix}$$

とする. さらに, $f : R^3 \rightarrow R^3$ を $f(x) = Ax$ ($x \in R^3$) で定義された R^3 の線形変換とする.

(1) A^2 および逆行列 A^{-1} を計算せよ.

(2) ベクトル $f(f(\mathbf{a}))$ を計算せよ.

(3) $f(\mathbf{u}) = \mathbf{a}$ となるベクトル $\mathbf{u} = \begin{pmatrix} u \\ v \\ w \end{pmatrix} \in R^3$ を求めよ.

(4) $f(\mathbf{x}) = \mathbf{x}$ となるベクトル $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} \in R^3$ を求めよ.

(5) A の固有値とそれぞれの固有値に属する固有ベクトルを求めよ.

(佐賀大 2004) (m20044933)

0.886 行列 $A = \begin{pmatrix} a & 0 & c \\ 0 & b & 0 \\ a & 0 & c \end{pmatrix}$ について, 次の (1),(2),(3) に答えよ. ただし, $a \neq 0$ または $c \neq 0$ とする.

(1) A の固有値を求めよ.

(2) ベクトル

$$\mathbf{x}_1 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{x}_2 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{x}_3 = \begin{pmatrix} c \\ 0 \\ -a \end{pmatrix}$$

は A の固有ベクトルであることを示し, それぞれのベクトルに対する固有値を答えよ.

(3) $a + c \neq 0$ のとき, A は対角化可能であることを示せ.

(佐賀大 2005) (m20054907)

0.887 次の問に答えよ.

(1) 行列 $\begin{pmatrix} 3 & 2 & 2 \\ 2 & -2 & -1 \\ 1 & 1 & 1 \end{pmatrix}$ の逆行列を求めよ.

(2) 行列 $\begin{pmatrix} 2 & -1 & 1 \\ -1 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & 2 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(3) (2) の行列を直交行列によって対角化せよ.

(佐賀大 2005) (m20054909)

0.888 次の問に答えよ.

(1) 行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & -4 \\ -2 & 1 \end{pmatrix}$ の固有値, 固有ベクトルを求めよ.

(2) 行列 A を対角化せよ.

- (3) (2) で得られた対角行列を B とすると $P^{-1}AP = B$ (ただし P は正則行列) の関係が成り立つ. この関係を利用して A^n を求めよ.

(佐賀大 2005) (m20054926)

0.889 行列 $A = \begin{bmatrix} 2 & -4 \\ 1 & -3 \end{bmatrix}$ について以下の間に答えよ.

- (1) A の行列式を求めよ.
- (2) A の逆行列 A^{-1} を求めよ.
- (3) A の固有多項式 $g_A(t)$ を求めよ.
- (4) A の固有値 λ を求めよ.
- (5) A の各固有値の固有ベクトル \mathbf{p} を求めよ.

(佐賀大 2005) (m20054928)

0.890 $A = \begin{bmatrix} 1 & 7 \\ 6 & 2 \end{bmatrix}$, $B = \begin{bmatrix} 4 & -1 & 1 \\ 1 & 1 & 5 \end{bmatrix}$ とするとき, 以下の間に答えよ.

- (1) \mathbf{AB} および $\mathbf{B}^T\mathbf{B}$ を求めよ.
- (2) 行列 \mathbf{A} の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(佐賀大 2005) (m20054937)

0.891 行列 $A = \begin{pmatrix} a & b & c \\ b & c & a \\ c & a & b \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えよ.

- (1) A の固有値を a, b, c を用いて表せ.
- (2) a, b, c が実数のとき, A の固有値も実数になることを証明せよ. また, A が対角化できることを証明せよ.
- (3) $a = 1 + i, b = 1 - i, c = 0$ のとき, A を対角化せよ. ただし, i は虚数単位とする.
- (4) $a = 1, b = \frac{-1 + \sqrt{3}i}{2}, c = \frac{-1 - \sqrt{3}i}{2}$ のとき, A の固有値がすべて 0 になること, および A は対角化できないことを証明せよ. ただし, i は虚数単位とする.

(佐賀大 2006) (m20064904)

0.892 次の行列の固有値と固有ベクトルを求めよ. $A = \begin{pmatrix} 4 & 2 & 2 \\ 1 & 3 & 1 \\ -4 & -4 & -2 \end{pmatrix}$

(佐賀大 2006) (m20064912)

0.893 $A = \begin{bmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & 2 \end{bmatrix}$ とするとき, 次の問いに答えよ.

- (1) A の固有値, 固有ベクトルを求めよ.
- (2) 適当な直交行列 P を求め, A を対角化せよ.

(佐賀大 2006) (m20064923)

0.894 次の行列の固有値, 固有ベクトルを求めよ. ただし, i は虚数単位である. $\begin{bmatrix} 2 & -i \\ i & 2 \end{bmatrix}$

(佐賀大 2006) (m20064929)

0.895 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 1 \end{pmatrix}$ について,

- (1) 行列 A の固有値 λ_1, λ_2 を求めよ.
- (2) 固有値 λ_1, λ_2 に対応する大きさ 1 の固有ベクトルを求めよ.
- (3) 行列 A を対角化する行列を示し, 対角化せよ.

(佐賀大 2006) (m20064934)

0.896 (1) 行列 $\begin{pmatrix} 2 & 1 & -1 \\ 1 & 2 & 1 \\ -1 & 1 & 0 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めよ.

- (2) (1) の行列を対角化する直交行列を求め, 対角化せよ.

(佐賀大 2007) (m20074905)

0.897 3次正方行列 $B = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 0 \\ 1 & 0 & 2 \end{bmatrix}$ の固有値と, それぞれの固有値に属する固有ベクトルを求めよ.

(佐賀大 2007) (m20074914)

0.898 3次正方行列 $A = \begin{bmatrix} 2 & 1 & -1 \\ 1 & 1 & 1 \\ 2 & 1 & 1 \end{bmatrix}$, $B = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 2 \end{bmatrix}$ について, 次の問いに答えよ.

- (1) $PAP^{-1} = B$ となる 3 次正則行列 P を求めよ.
- (2) A の固有値を求めよ.
- (3) 自然数 $n \geq 1$ について, B^n を求めよ.
- (4) 自然数 $n \geq 1$ について, A^n を求めよ.

(佐賀大 2009) (m20094909)

0.899 行列 $A = \begin{pmatrix} 13 & -30 \\ 5 & -12 \end{pmatrix}$ に対して, A^n を計算せよ.

(佐賀大 2009) (m20094919)

0.900 $C = \begin{bmatrix} 6 & 5 \\ 4 & 5 \end{bmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを全て求めよ.

(佐賀大 2009) (m20094927)

0.901 行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & 4 & -4 \\ -2 & -1 & 0 \\ -1 & 0 & -1 \end{pmatrix}$, $P = \begin{pmatrix} 1 & 3 & -3 \\ -1 & -2 & 2 \\ 0 & -1 & 2 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えよ.

- (1) 行列 P の行列式 $\det P$ を求めよ.
- (2) 行列 P の逆行列 P^{-1} を求めよ.
- (3) PAP^{-1} を計算せよ.
- (4) 行列 A の固有値を求めよ.
- (5) 行列 A が対角化可能かどうか理由を述べて答えよ.

(佐賀大 2010) (m20104912)

0.902 行列 $A = \begin{bmatrix} 8 & -3 \\ -2 & 7 \end{bmatrix}$ について, 以下の問いに答えよ.

- (1) A の固有方程式を求めよ.
- (2) A の固有値 λ_1, λ_2 を求めよ.
- (3) A の固有値 λ_1, λ_2 に対する各々の固有ベクトル $\boldsymbol{x}_1, \boldsymbol{x}_2$ を求めよ.
- (4) A を対角化したときの対角行列 $B(=P^{-1}AP)$ および正則行列 P を求めよ.
- (5) A^n (n : 自然数) を求めよ.

(佐賀大 2010) (m20104921)

0.903 次の対称行列を対角化せよ. 対角化するための直交行列も求めよ.

$$\begin{pmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & 2 \end{pmatrix}$$

(佐賀大 2011) (m20114916)

0.904 3次正方行列 $B = \begin{bmatrix} 0 & 1 & 2 \\ 1 & 0 & 2 \\ 1 & 1 & 1 \end{bmatrix}$ について, 次の問いに答えよ.

- (1) B の固有値と, それぞれの固有値に属する固有ベクトルを求めよ.
- (2) PBP^{-1} が対角行列となるような3次正則行列 P を求めよ.

(佐賀大 2012) (m20124906)

0.905 次の行列 A について, 以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 1 \end{pmatrix}$$

- (1) A の固有値と固有ベクトルを求めよ.
- (2) A に対して, $P^{-1}AP$ が対角行列になるような直交行列 P を求めよ.
- (3) $A^n = PXP^{-1}$ となるような行列 X を求めよ. ただし, n は自然数とする.

(佐賀大 2013) (m20134909)

0.906 3次正方行列 $B = \begin{bmatrix} 1 & c & -c \\ 0 & c & 1-c \\ c & 0 & -c \end{bmatrix}$ の固有値と, それぞれの固有値に属する固有ベクトルを求めよ.

ただし, c は定数とする.

(佐賀大 2013) (m20134915)

0.907 $C = \begin{bmatrix} 7 & 4 \\ 4 & 1 \end{bmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(佐賀大 2013) (m20134922)

0.908 行列

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 4 \\ 1 & -2 \end{pmatrix}$$

に対して, $P^{-1}AP$ が対角行列になるような正則行列 P を一つ求めよ. さらに, 対角行列 $P^{-1}AP$ も書け.

(佐賀大 2014) (m20144908)

0.909 n 次の正方行列 A について、以下の問いに答えよ。

- (1) A が次のように与えられたとき、すべての固有値と対応する大きさ 1 となる固有ベクトルをすべて求めよ。

$$A = \frac{1}{2} \begin{bmatrix} 5 & -1 \\ -1 & 5 \end{bmatrix}$$

- (2) (1) で求めた固有ベクトルを列ベクトルとして並べて作られる行列を P とするとき、行列 P の転置行列 P^T と逆行列 P^{-1} をそれぞれ求めよ。また、求めた P^T と P^{-1} の関係を満足する n 次正方行列の名称を答えよ。

(佐賀大 2014) (m20144911)

0.910 3 次正方行列 $B = \begin{bmatrix} 0 & -3 & -1 \\ 2 & -1 & -2 \\ -4 & 0 & 3 \end{bmatrix}$ の固有値と それぞれの固有値に属する固有ベクトルを求めよ。

(佐賀大 2014) (m20144918)

0.911 次の行列について、問いに答えよ。ただし E は単位行列、 O はゼロ行列である。

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 1 \end{pmatrix}$$

- (1) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ。
(2) 行列 A が $A^2 - 2A - 3E = O$ を満たすことを示せ。
(3) (2) で求めた結果を使って ($A^4 = A^2 A^2$ の計算を行うことなく) A^4 , A^{-1} を求めよ。

(佐賀大 2015) (m20154903)

0.912 次の行列 A について以下の問いに答えよ。

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 3 \\ 1 & 5 & 1 \\ 3 & 1 & 1 \end{pmatrix}$$

- (1) A のすべての固有値を求めよ。
(2) 3 つの固有値に対応する規格化された (長さが 1 の) 固有ベクトルをそれぞれ求めよ。
(3) 行列 A を対角化した行列 A_d を求めよ。
(4) 次の関係式を満たす直交行列 O を求めよ。ここで、 O^T は O の転置行列である。

$$A_d = O^T A O$$

(佐賀大 2015) (m20154911)

0.913 行列 $A = \begin{bmatrix} 3 & 2 & -2 \\ -5 & -4 & 2 \\ -3 & -3 & 4 \end{bmatrix}$ について、以下の問いに答えよ。

- (1) 行列式 $\det A$ を求めよ。
(2) 逆行列 A^{-1} を求めよ。
(3) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ。
(4) 行列 A は対角化可能かどうか理由を述べて答えよ。

(佐賀大 2015) (m20154918)

0.914 行列 $A = \begin{bmatrix} 3 & -7 & 3 \\ 3 & -5 & 1 \\ 4 & -5 & 0 \end{bmatrix}$ について、次の問いに答えよ.

- (1) A の行列式を求めよ.
- (2) A の逆行列を求めよ.
- (3) A の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(佐賀大 2016) (m20164905)

0.915 行列 $A = \begin{bmatrix} 3 & 1 \\ \alpha & 2 \end{bmatrix}$ について、固有値の 1 つが $\lambda = 1$ であるとき、次の問いに答えよ.

- (1) α の値を求めよ.
- (2) 残りの固有値を求めよ.
- (3) $P^{-1}AP$ が対角行列となるように、行列 P とその逆行列 P^{-1} をそれぞれ求めよ.

(佐賀大 2016) (m20164913)

0.916 次の行列 P について以下の問いに答えよ.

$$P = \begin{pmatrix} -3 & 0 & 0 \\ 4 & 5 & -4 \\ 2 & 4 & -5 \end{pmatrix}$$

- (1) 行列 P の固有値を求めよ.
- (2) 行列 P の固有ベクトルを求めよ.

(佐賀大 2016) (m20164920)

0.917 行列 $A = \begin{bmatrix} 0 & -2 & 2 \\ 1 & -3 & 1 \\ 2 & -2 & 0 \end{bmatrix}$ について、次の問いに答えよ.

- (1) 行列式 $\det A$ を求めよ.
- (2) 逆行列 A^{-1} を求めよ.
- (3) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ.
- (4) 行列 A を対角化して得られる行列 B を求めよ. また、 $B = PAP^{-1}$ を満たす正則行列 P とその逆行列 P^{-1} を求めよ.

(佐賀大 2016) (m20164929)

0.918 次の行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} 4 & -3 & -3 \\ -1 & 2 & 1 \\ 3 & -3 & -2 \end{pmatrix}$$

(佐賀大 2017) (m20174906)

0.919 行列 $A = \begin{bmatrix} k & 6 \\ 1 & 2 \end{bmatrix}$ について、次の問いに答えよ.

- (1) 行列 A の行列式の値が 0 になる k を求めよ.
- (2) $k = 4$ であるとき、行列 A の逆行列 A^{-1} を求めよ.

(3) $k = -3$ であるとき, 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ,

(4) (3) の条件において, 行列 A を対角化せよ.

(佐賀大 2017) (m20174909)

0.920 行列 $A = \begin{bmatrix} 3 & -6 & -2 \\ 1 & -2 & -1 \\ -2 & 6 & 3 \end{bmatrix}$ について, 次の問いに答えよ.

(1) 行列式 $\det A$ を求めよ.

(2) 逆行列 A^{-1} を求めよ.

(3) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(4) 行列 A を対角化して得られる行列 B を求めよ. また, $B = PAP^{-1}$ を満たす正則行列 P とその逆行列 P^{-1} を求めよ.

(佐賀大 2017) (m20174920)

0.921 (1) 2 次式 $5x^2 + 4xy + 5y^2$ を対称行列 A を用いて, 以下のように表す. 行列 A を求めなさい.

$$5x^2 + 4xy + 5y^2 = \begin{bmatrix} x & y \end{bmatrix} A \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$$

(2) 行列 A の固有値を求めなさい.

(3) 固有値に対する大きさ 1 の固有ベクトルを求めなさい.

(4) 固有値の小さい順に, その固有ベクトルを第 1 列, 第 2 列とする正方行列を P とおく. 変換

$$\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} = P \begin{bmatrix} X \\ Y \end{bmatrix}$$

により, 方程式 $5x^2 + 4xy + 5y^2 - 1 = 0$ を X, Y を用いて表すとともに, この図形がどんな図形を表すか答えなさい.

(佐賀大 2018) (m20184906)

0.922 次の行列 A について以下の問いに答えよ.

(1) 固有値と固有ベクトルを求めよ.

(2) 正則行列 P を求め, 対角化せよ.

$$A = \begin{pmatrix} 4 & 2 \\ 2 & 1 \end{pmatrix}$$

(佐賀大 2018) (m20184915)

0.923 次の行列 A と列ベクトル \mathbf{x}, \mathbf{b} について, 以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} 3 & 2 & -2 \\ -5 & -4 & 2 \\ -3 & -3 & 4 \end{bmatrix} \quad \mathbf{x} = \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{bmatrix} \quad \mathbf{b} = \begin{bmatrix} 1 \\ 5 \\ 10 \end{bmatrix}$$

(1) 行列 A の行列式を求めよ.

(2) 行列 A の逆行列を求めよ.

(3) 連立方程式 $A\mathbf{x} = \mathbf{b}$ の解を求めよ.

(4) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(佐賀大 2018) (m20184919)

0.924 次の2次正方行列 A について、以下の問いに答えよ。

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 3 & -4 \end{pmatrix}$$

- (1) 行列 A の行列式の値を求めよ。
- (2) 行列 A の逆行列を求めよ。
- (3) 行列 A の固有値をすべて求めよ。
- (4) (3) で求めた行列 A の各固有値に属する固有ベクトルを求めよ。
- (5) 行列 A が対角化可能か調べ、対角化可能であれば適当な正則行列 P を求め、対角化せよ。

(佐賀大 2021) (m20214905)

0.925 次の行列 A と列ベクトル \mathbf{x} , \mathbf{b} , \mathbf{c} について、以下の問いに答えよ。

$$A = \begin{bmatrix} 5 & 2 & -2 \\ -2 & 1 & 2 \\ 2 & 2 & 1 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{x} = \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{b} = \begin{bmatrix} -3 \\ 0 \\ 3 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{c} = \begin{bmatrix} 3 \\ 6 \\ 9 \end{bmatrix}$$

- (1) 行列 A の行列式 $\det(A)$ を求めよ。
- (2) 方程式 $A\mathbf{x} = \mathbf{b}$ の解 \mathbf{x} を求めよ。
- (3) 行列 A は固有値 1 をもつ。1 以外の A の固有値をすべて求めよ。また、求めた固有値に対応する固有ベクトルを1つ求めよ。
- (4) A が対角化可能か否かを示し、もし対角化可能であれば対角化せよ。
- (5) 外積 $\mathbf{b} \times \mathbf{c}$ と、その \mathbf{b} との内積 $\mathbf{b}^t(\mathbf{b} \times \mathbf{c})$ をそれぞれ求めよ。ただし \mathbf{b}^t は \mathbf{b} の転置を表す。

(佐賀大 2021) (m20214919)

0.926 $\begin{cases} x_n = 3x_{n-1} + 2y_{n-1} \\ y_n = x_{n-1} + 4y_{n-1} \end{cases}$ (ただし、 $\begin{bmatrix} x_0 \\ y_0 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}$) で表される数列について、
 x_n, y_n を n で表しなさい。

(佐賀大 2021) (m20214925)

0.927 次の2次正方行列に関する以下の問いに答えよ。

$$A = \begin{pmatrix} -9 & 2 \\ 2 & -7 \end{pmatrix}$$

- (1) A の固有値をすべて求めよ。
- (2) ある直交行列 P に対して ${}^tPAP = B$ が対角行列になるとき、対角行列 B を求めよ。
ただし、 tP は P の転置行列である。
- (3) \mathbf{x} を2次元実ベクトルとして、

$$\max_{\|\mathbf{x}\|=1} \|A\mathbf{x}\| = \max_{\|\mathbf{x}\|=1} \|B\mathbf{x}\|$$

を示し、その値を求めよ。

(佐賀大 2022) (m20224912)

0.928 (1) 次の行列 A と列ベクトル \mathbf{x} , \mathbf{b} について、問いに答えよ。

$$A = \begin{bmatrix} 2 & 2 & -2 \\ 2 & 1 & 0 \\ 2 & 2 & -1 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{x} = \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{b} = \begin{bmatrix} 4 \\ 7 \\ 6 \end{bmatrix}$$

- (a) 行列 A の行列式 $\det(A)$ を求めよ.
 - (b) 行列 A の逆行列 A^{-1} を求めよ.
 - (c) 方程式 $A\mathbf{x} = \mathbf{b}$ の解 \mathbf{x} を求めよ.
 - (d) 行列 A は固有値 1 をもつ. 1 以外の A の固有値をすべて求めよ. また, A の固有値を 1 つ選び, その固有値に対応する固有ベクトルを 1 つ求めよ.
 - (e) 行列 A が対角化可能か否かを示し, もし対角化可能であれば $P\Lambda = AP$ となる正則行列 P と対角行列 Λ の組を 1 つ求めよ.
- (2) A を $n \times n$ 実対称行列, \mathbf{x} を n 次元実ベクトルとする. \mathbf{x}^t は \mathbf{x} の転置を表すとする. A が相異なる n 個の固有値を持ち, 全ての固有値が非負であるとき, $\mathbf{x}^t A \mathbf{x} \geq 0$ を示せ.

(佐賀大 2022) (m20224918)

0.929 行列 $A = \begin{bmatrix} 1 & a \\ -1 & b \end{bmatrix}$ について 以下の間に答えなさい. 答えだけでなく途中経過 も記載すること.

- (1) 固有値が, $2, 3$ のとき, a, b を求めなさい.
- (2) (1) のとき, 固有ベクトルを全て求めなさい.
- (3) (1) のとき, A^n を求めなさい.

(佐賀大 2022) (m20224928)

0.930 次の行列 A について, 以下の間に答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} -2 & 3 \\ -1 & 2 \end{pmatrix}$$

- (1) 行列 A の固有値を求めよ.
- (2) 行列 A の固有ベクトルを求めよ.
- (3) 行列 A を以下のように

$$B = P^{-1}AP$$

対角化する行列 P と対角行列 B を求めよ.

(長崎大 2005) (m20055009)

0.931 次の行列 A について以下の間に答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} \cos^2 \theta & \cos \theta \sin \theta \\ \cos \theta \sin \theta & \sin^2 \theta \end{pmatrix}$$

- (1) 行列 A の固有値を求めよ.
- (2) 固有値に対応する固有ベクトルを求めよ.
- (3) 大きさを 1 に規格化した固有ベクトルを列ベクトルとして並べてできる行列 P の逆行列 P^{-1} を求めよ.
- (4) $P^{-1}AP$ を計算せよ.

(長崎大 2005) (m20055013)

0.932 a, b を任意の実数とする次の対称行列 A について, 以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & a \\ 0 & b & 2 \\ a & 2 & 4 \end{pmatrix}$$

- (1) 行列 A が逆行列を持たないとき, $b > 0$ であるような a の範囲を示せ.

- (2) 行列 A の固有値の一つが 1 であるとき b の値を求めよ。また、1 以外の固有値を a を用いて表せ。ただし、 $a \neq 0$ とする。

(長崎大 2007) (m20075001)

- 0.933** 次式で与えられる行列 A について以下の小問に答えよ。 $A = \begin{bmatrix} 2 & a \\ 1 & b \end{bmatrix}$

ただし、各小問は互いに無関係である。

- (1) 行列 A に左から $B = \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ 1 & -1 \end{bmatrix}$ を乗じて得られる行列 BA の行列式の値が 2 であった。このときの a と b の関係を求めよ。
- (2) 行列 A が固有値 1 を持つとき、 a と b の関係を求めよ。
- (3) 行列 A が固有ベクトル $\begin{bmatrix} 3 \\ 1 \end{bmatrix}$ を持つとき、 a と b の関係を求めよ。

(長崎大 2007) (m20075005)

- 0.934** 次の行列の固有値および固有ベクトルを求めよ。 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ -5 & 8 \end{pmatrix}$

(長崎大 2007) (m20075008)

- 0.935** 行列 $A = \begin{pmatrix} \alpha & 4 \\ 1 & \beta \end{pmatrix}$ の固有値が 1 と 6 であるとき、実数 α 及び β の値を求めよ。なお、 $\alpha \geq \beta$ とする。求める過程も記述すること。

(長崎大 2008) (m20085010)

- 0.936** (1) $N \times M$ の行列 A と $P \times Q$ の行列 B があるとき、行列の積 AB が定義できる条件を述べよ。
 (2) 連立方程式 $Ax = \mathbf{0}$ が $x = \mathbf{0}$ 以外の解を持つための条件を述べよ。ただし、 A は $N \times N$ の正方行列、 x は N 次元の列ベクトル、 $\mathbf{0}$ は N 次元の 0 ベクトルである。

- (3) 行列式 $\begin{vmatrix} x & 1 & z & 1 \\ x & 1 & z & 2 \\ 1 & 0 & b & c \\ 2 & 0 & b & c \end{vmatrix}$ の値を求めよ。

- (4) 行列 $A = \begin{pmatrix} 2a & 1-2a \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$ の固有値、固有ベクトルを求めよ。また、 A^n が $n \rightarrow \infty$ のとき収束するための条件および $\lim_{n \rightarrow \infty} A^n$ を求めよ。ただし、 $a \neq 1$ である。

(長崎大 2009) (m20095010)

- 0.937** 2 つの実数列 $\{a_n\}$, $\{b_n\}$ ($n = 0, 1, 2, 3, \dots$) が $a_n = a_{n-1} + b_{n-1}$, $b_n = 3a_{n-1} - b_{n-1}$ を満たすとき、以下の手順に従って $\{a_n\}$, $\{b_n\}$ の一般項を求めよ。ただし、 $a_0 = 1$, $b_0 = -1$ である。

- (1) $\begin{pmatrix} a_n \\ b_n \end{pmatrix} = A \begin{pmatrix} a_{n-1} \\ b_{n-1} \end{pmatrix}$ を満たす行列 A を求めよ、
 (2) 行列 A の固有値、固有ベクトルを求めよ。
 (3) A を対角化する行列 P を求めよ。
 (4) A^n を求めよ。ただし、 n は正の整数である。
 (5) 実数列 $\{a_n\}$, $\{b_n\}$ の一般項を求めよ。

(長崎大 2009) (m20095014)

0.938 次の行列 A の固有値, 固有ベクトルを求めよ.

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 2 & 0 \\ 0 & -2 & 0 \\ 1 & 0 & -1 \end{bmatrix}$$

(長崎大 2010) (m20105006)

0.939 次の 2 次曲線の標準形を求めよ.

$$2x^2 + 6xy + 2y^2 + 6x + 4y + 1 = 0$$

(長崎大 2010) (m20105007)

0.940 次の行列について考える. 以下の設問に答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} 3 & 2 \\ 1 & 4 \end{bmatrix}$$

- (1) 行列式 $|A|$ の値を求めよ.
- (2) $A^2 = A \times A$ を求めよ.
- (3) A の逆行列 A^{-1} を求めよ.
- (4) A の固有値を求めよ.

(長崎大 2010) (m20105008)

0.941 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & a \\ 2 & b \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルが $\lambda_1 = -1$, $\mathbf{x}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ c \end{pmatrix}$, $\lambda_2 = 2$, $\mathbf{x}_2 = \begin{pmatrix} d \\ 1 \end{pmatrix}$ となるように, a, b, c, d を求めよ.

(長崎大 2010) (m20105018)

0.942 以下の行列 A の固有値, および長さ 1 の固有ベクトルを求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \end{pmatrix}$$

(長崎大 2011) (m20115007)

0.943 行列 $A = \frac{1}{\alpha\beta + 3} \begin{pmatrix} \alpha & -2 \\ 1.5 & \beta \end{pmatrix}$ の逆行列の固有値が 2 と 2.5 であるとき, 実数 α 及び β の値を求めよ. なお, $\alpha \geq \beta$, $\alpha\beta \neq -3$ とする. 求める過程も記述すること.

(長崎大 2011) (m20115017)

0.944 次の行列に対して, 固有値および固有ベクトルを求め, 対角化しなさい.

$$A = \begin{bmatrix} 2 & 1 \\ 4 & -1 \end{bmatrix}$$

(大分大 2011) (m20115106)

0.945 行列 A が

$$\begin{pmatrix} 1 & a \\ a & 1 \end{pmatrix}$$

と与えられている. ただし, a は正の実数とする.

- (1) A の行列式を求めなさい.
- (2) A の余因子 \tilde{a}_{ij} ($i = 1, 2; j = 1, 2$) を求めなさい.
- (3) A の逆行列が存在するための条件と, そのときの逆行列を求めなさい.
- (4) A の固有値と長さ 1 の固有ベクトルを求めなさい.

(大分大 2011) (m20115107)

0.946 2次の対称な正方行列 $A = \begin{pmatrix} 17 & -6 \\ -6 & 8 \end{pmatrix}$ を考える. このとき, 行列 A と 2次元のベクトル $\mathbf{v} = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ を用いて, 2次式 $f(x, y)$ を $f(x, y) = \mathbf{v}^T A \mathbf{v}$ と定義する. ただし, 記号 T は, 行列やベクトルの転置を示し, \mathbf{v}^T はベクトル \mathbf{v} の転置を示すものとする.

- (1) 行列 A の固有値, 固有ベクトル (ベクトルの大きさは 1 とする) を求めなさい.
- (2) 適当な直交行列 U により行列 A を対角化し, $U^T A U = D$ と表現する. ただし, D は 2 次の対角行列とする. 行列 U と D を求めなさい.
- (3) (2) の結果を利用して, $f(x, y)$ は負の値をとらないことを証明しなさい.

(大分大 2012) (m20125108)

0.947 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 3 & 4 \end{pmatrix}$, 行列 $P = \begin{pmatrix} 1 & a \\ -1 & 3a \end{pmatrix}$, ($a \neq 0$), 行列 $B = P^{-1} A P$ とする.

ここで, P^{-1} は P の逆行列を表す. このとき, 次の問いに答えなさい.

- (1) 行列 P^{-1} を求めなさい.
- (2) 行列 B を求めなさい.
- (3) n を正の整数とすると, $A^n = P B^n P^{-1}$ が成り立つことを証明しなさい.

(大分大 2014) (m20145101)

0.948 $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & a \\ 0 & 1 & b \\ 0 & 0 & c \end{pmatrix}$ とおく. このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) 行列 A が逆行列をもつための $\begin{pmatrix} a \\ b \\ c \end{pmatrix}$ の条件を求めよ.
- (2) A の逆行列を求めよ.
- (3) A の固有値, 固有ベクトルを求めよ.

(熊本大 2001) (m20015205)

0.949 3次の実正方行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & -2 \\ 2 & -1 & -2 \\ -2 & 2 & 0 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えよ.

- (1) A の固有値と対応する固有ベクトルを求めよ.
- (2) $P^{-1} A P$ が対角行列となる 3 次の正則行列 P を 1 つ求めよ.

(熊本大 2004) (m20045204)

0.950 $\mu \neq \lambda > 0$ として, 3つの行列

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 2 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} \lambda & 0 \\ 0 & \mu \end{pmatrix}, \quad P = \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ x & y \end{pmatrix}$$

が, $AP = PB$ を満たすような λ, μ, x, y を求めよ.

(熊本大 2006) (m20065204)

0.951 行列 $\begin{pmatrix} 0 & 4 & 1 \\ 1 & 1 & -1 \\ -1 & 0 & 2 \end{pmatrix}$ の固有値を求めよ.

(熊本大 2007) (m20075203)

0.952 $A = \begin{pmatrix} 5 & 2 \\ -3 & 0 \end{pmatrix}$. $B = \lambda I_2 - A$ とする. ただし, λ は定数で, I_2 は 2 次の単位行列である. 次の問いに答えなさい.

(1) B を求めなさい.

(2) $B \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ に自明でない解 ($x = y = 0$ ではない解) が存在するような λ を全て求め, それぞれの λ に対して, $B \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ の自明でない解を求めなさい.

(3) A の固有値と固有ベクトルを求めなさい.

(4) A の対角化により, A^n を求めなさい. ただし, n は自然数とする.

(熊本大 2008) (m20085201)

0.953 次の行列は対角化可能かどうか判定しなさい. ただし, α, β, γ はいずれも 0 でない実数であり,かつ, $\alpha \neq \beta$ とする.

$$A = \begin{pmatrix} \alpha & 0 & 0 \\ 0 & \alpha & \gamma \\ 0 & 0 & \beta \end{pmatrix}$$

(熊本大 2009) (m20095202)

0.954 対称行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & -1 & 1 \\ -1 & 2 & -1 \\ 1 & -1 & 2 \end{pmatrix}$ に関して, 次の問いに答えなさい.

(1) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めなさい.

(2) それぞれの固有ベクトルからなる空間を V とし, V の正規直交基底を求めなさい.

(3) 設問 (2) の結果を用いて, 行列 A を $R^T A R$ により対角化する直交行列 R を求めなさい. ただし, R^T は R の転置行列である.

(熊本大 2011) (m20115201)

0.955 xy 平面上の点 $\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ を同じ平面上の点 $\begin{pmatrix} X \\ Y \end{pmatrix}$ に移す写像

$$\begin{pmatrix} X \\ Y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & 1/2 \\ 1/2 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \quad \text{①}$$

について, 以下の問いに答えなさい.

- (1) この写像を表す行列の固有値と固有ベクトルの組は、次に示す ② と ③ の二つであることを示しなさい。なお、固有ベクトルの大きさは、 $\sqrt{2}$ に選んである。

$$\text{固有値 } \lambda_1 = \frac{3}{2}, \quad \text{固有ベクトル } \mathbf{x}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix} \quad \text{②}$$

$$\text{固有値 } \lambda_2 = \frac{1}{2}, \quad \text{固有ベクトル } \mathbf{x}_2 = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \end{pmatrix} \quad \text{③}$$

- (2) 二つの固有ベクトル \mathbf{x}_1 と \mathbf{x}_2 は 1 次独立なので、 xy 平面上の点を表すベクトル $\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ は \mathbf{x}_1 と \mathbf{x}_2 の 1 次結合によって

$$\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = \alpha \mathbf{x}_1 + \beta \mathbf{x}_2$$

のように表現できる。 α および β を、 x および y を用いて表しなさい。

- (3) この写像によって $\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ が移る点 $\begin{pmatrix} X \\ Y \end{pmatrix}$ を、 $\alpha, \beta, \mathbf{x}_1$ および \mathbf{x}_2 を用いて表しなさい。

(熊本大 2013) (m20135202)

- 0.956** ベクトル $\mathbf{x}(n) = \begin{bmatrix} x_1(n) \\ x_2(n) \end{bmatrix}$ に、次の関係があるとする。

$$\mathbf{x}(n+1) = \mathbf{A}\mathbf{x}(n)$$

ただし、 $\mathbf{A} = \begin{bmatrix} 3 & -1 \\ -1 & 3 \end{bmatrix}$, $\mathbf{x}(0) = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}$ である。

- (1) \mathbf{A} の固有値および固有ベクトルを求めよ。
 (2) $\mathbf{x}(n)$ を求めなさい。
 (3) $\lim_{n \rightarrow \infty} \mathbf{x}(n)$ を求めなさい。

(熊本大 2015) (m20155201)

- 0.957** 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 1 & 2 & -3 \\ 1 & 1 & -2 \end{pmatrix}$ に対して、以下の間に答えなさい。

- (1) A の逆行列を求めなさい。
 (2) A の固有値と固有ベクトルを求めなさい。
 (3) A は対角化可能かどうか調べ、その理由を示しなさい。
 (4) A^n を求めなさい。

(熊本大 2017) (m20175201)

- 0.958** xy 平面上の点 $\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$ を同じ平面上の点 $\begin{bmatrix} X \\ Y \end{bmatrix}$ に移す写像

$$\begin{bmatrix} X \\ Y \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$$

について、以下の問いに答えよ。

- (1) この写像の表す固有値 λ_1, λ_2 と固有ベクトル $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2$ の組を求めなさい。なお、固有ベクトルの大きさは $\sqrt{2}$ とすること。

(2) xy 平面上の点 $\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$ は $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2$ により以下のように表せる.

$$\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} = \alpha \mathbf{x}_1 + \beta \mathbf{x}_2$$

α, β を x, y を用いて表しなさい.

(3) $\begin{bmatrix} X \\ Y \end{bmatrix}$ を $\alpha, \beta, \mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2$ を用いて表しなさい.

(熊本大 2019) (m20195203)

0.959 次の漸化式で表される数列 $\{a_n\}$ を考える.

$$a_{n+1} = 3a_n - 2a_{n-1}$$

この漸化式は行列を用いて次のように表現できる.

$$\begin{pmatrix} a_{n+1} \\ a_n \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 3 & -2 \\ 1 & 0 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} a_n \\ a_{n-1} \end{pmatrix}$$

以下の問いに答えなさい.

- (1) 行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & -2 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$ の固有値および対応する固有ベクトルを求めなさい.
- (2) $B = P^{-1}AP$ が対角行列となるような行列 P を用いて, 対角行列 B を求めなさい.
- (3) 行列 A^n を求めなさい. ただし, A^n は次式で定義される.

$$A^n = \underbrace{AAA \cdots A}_n$$

- (4) 上記 (3) の結果を利用して, $a_0 = 0, a_1 = 1$ を初期値としたときの数列 $\{a_n\}$ の一般項 a_n を求めなさい.

(熊本大 2020) (m20205203)

0.960 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 2 & 3 \end{pmatrix}$ の固有値および固有ベクトルを求めよ.

(熊本大 2022) (m20225202)

0.961 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & -1 & -2 \\ 0 & -1 & -1 \\ 0 & 0 & -1 \end{pmatrix}$ および行列 $B = \begin{pmatrix} -1 & 1 & -1 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & -1 \end{pmatrix}$ に対して, 以下の問いに答えなさい.

- (1) A の固有値を全て求めなさい.
- (2) B の逆行列を求めなさい.
- (3) 行列 $(AB)^n$ を求めなさい. ただし, n は自然数である.
- (4) 行列 $(BA)^n$ を求めなさい. ただし, n は自然数である.
- (5) (4) の結果を用いて, A の逆行列を A と B を使って表しなさい.

(熊本大 2022) (m20225203)

0.962 行列 $A = \begin{pmatrix} -1 & 2 \\ 2 & 2 \end{pmatrix}$ について, 次の各問に答えよ.

(1) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(2) ベクトル $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \end{pmatrix}$ を 2 つの固有ベクトルの和で表せ.

(3) (2) の結果と固有ベクトルの性質を用いて, $A \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 5 \\ 8 \end{pmatrix}$ を示せ.

(宮崎大 2004) (m20045305)

0.963 次の各問に答えよ.

(1) 平面上の点 $P(2, 3)$ および点 $Q(1, 4)$ を点 $P'(8, 3)$ および点 $Q'(9, 4)$ にそれぞれ移す 1 次変換を表す行列 A を求めよ.

(2) (1) で求めた行列 A の固有値と固有ベクトルをそれぞれ求めよ.

(宮崎大 2005) (m20055301)

0.964 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 2 \end{pmatrix}$ について次の問いに答えよ.

(1) A の固有値 λ_1 と λ_2 を求めよ.

(2) λ_1 と λ_2 に対応する固有ベクトル \mathbf{x}_1 と \mathbf{x}_2 をそれぞれ求めよ.

(宮崎大 2006) (m20065301)

0.965 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 3 \\ 3 & 2 \end{pmatrix}$ について, 次の各問に答えよ.

(1) 行列 A の固有値を全て求めよ.

(2) 行列 A の固有ベクトルを全て求めよ.

(宮崎大 2008) (m20085301)

0.966 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 2 \\ 0 & 3 & 3 \\ 2 & 0 & 4 \end{pmatrix}$ について, 次の各問に答えよ.

(1) $A\mathbf{x} = \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \\ 2 \end{pmatrix}$ を満たす列ベクトル \mathbf{x} を求めよ.

(2) 行列 A の固有値の 1 つは 0 である. この固有値に対応する固有ベクトルを求めよ.

(宮崎大 2011) (m20115301)

0.967 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ について, 次の各問に答えよ.

(1) 行列 A の固有値を求めよ.

(2) (1) で求めた固有値に対応する固有ベクトルをすべて求めよ.

(宮崎大 2012) (m20125303)

0.968 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & -3 \\ 4 & -5 \end{pmatrix}$ について, 次の問いに答えよ.

(1) 行列 A の固有値をすべて求めよ.

(2) 行列 A の固有ベクトルをすべて求めよ.

(宮崎大 2013) (m20135301)

0.969 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & -1 \\ 3 & -2 \end{pmatrix}$ について, 次の各問に答えよ.

- (1) A の固有値をすべて求めよ.
- (2) A の固有ベクトルをすべて求めよ.
- (3) A^{99} を求めよ.

(宮崎大 2016) (m20165303)

0.970 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 2 \end{pmatrix}$ について, 次の各問に答えよ.

- (1) A の固有値をすべて求めよ.
- (2) (1) で求めたそれぞれの固有値に対応する固有ベクトルを求めよ.
- (3) 適当な直交行列 P により, $P^{-1}AP$ は対角行列となる. そのような直交行列 P を 1 つ求めよ.

(宮崎大 2022) (m20225301)

0.971 行列 $K = \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 1 \end{bmatrix}$ について.

固有値方程式: $\begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} a \\ b \end{bmatrix} = \lambda \begin{bmatrix} a \\ b \end{bmatrix}$ を解いて.

行列 K の固有値 λ_1, λ_2 と対応する規格化された固有ベクトル $\begin{bmatrix} a_1 \\ b_1 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} a_2 \\ b_2 \end{bmatrix}$ を求めなさい.

* 規格化とは, ベクトルの大きさを 1 にとることである.

(鹿児島大 2005) (m20055415)

- 0.972**
- (1) 2 点 $P_1(1, -1, 1), P_2(3, 1, 2)$ を通る直線の式を求めよ.
 - (2) x 軸, y 軸, z 軸との切片が, それぞれ, 3, -5 , 4 である平面の方程式を求めよ.
 - (3) 座標の原点を $O(0, 0, 0)$, 2 点 P_1, P_2 の座標を, それぞれ $(2, 1, 3), (4, 0, 1)$ とする.
 $\overline{OP_1}$ と $\overline{OP_2}$ のなす角を求めよ.

(4) 2 つの行列 $A = \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ 0 & 1 \end{bmatrix}, B = \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ 1 & 0 \end{bmatrix}$ について,

$(A - B)(A + B) = A^2 - B^2$ が成立するか調べよ.

(5) 行列 $\begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 1 \end{bmatrix}$ の固有値に対応する固有ベクトルを求めよ.

(鹿児島大 2007) (m20075415)

0.973 (1) $|B| = \begin{vmatrix} 7 & 3 & -5 & 4 \\ 3 & 1 & -2 & 0 \\ 5 & 4 & -5 & 2 \\ 8 & 2 & 2 & 3 \end{vmatrix}$ の値を求めよ.

(2) $U = \begin{bmatrix} \frac{\sqrt{3}}{2} & a \\ \frac{1}{2} & b \end{bmatrix}$ が直交行列になるように a, b を求めなさい.

(3) $A = \begin{bmatrix} 5 & 2 \\ 1 & 4 \end{bmatrix}$ を対角化せよ.

(鹿児島大 2008) (m20085413)

0.974 未知の二次元ベクトル $\mathbf{x} = \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix}$ に関する方程式, $A\mathbf{x} = \lambda\mathbf{x}$ の解を次の手順に従って求めよ. ただし, λ は未知のスカラーであり, また A は 2×2 行列で, $A = \begin{bmatrix} -5 & 2 \\ 2 & -2 \end{bmatrix}$ とする.

(1) \mathbf{x} が自明な解, $x_1 = 0, x_2 = 0$ 以外の解を持つように λ の値を決定せよ. (注: λ の値は二つある.)

(2) 各 λ の値に対し, $A\mathbf{x} = \lambda\mathbf{x}$ の解, (x_1, x_2) を決定せよ.

(鹿児島大 2009) (m20095404)

0.975 未知の二次元ベクトル $\mathbf{x} = \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix}$ に関する方程式, $A\mathbf{x} = \lambda\mathbf{x}$ の解を次の手順に従って求めよ. ただし, λ は未知のスカラーであり, また A は 2×2 行列で, $A = \begin{bmatrix} 3 & 4 \\ 4 & -3 \end{bmatrix}$ とする.

(1) \mathbf{x} が自明な解, $x_1 = 0, x_2 = 0$ 以外の解を持つように λ の値を決定せよ. (注: λ の値は二つある.)

(2) 各 λ の値に対し, $A\mathbf{x} = \lambda\mathbf{x}$ の解, (x_1, x_2) を決定せよ.

(鹿児島大 2009) (m20095416)

0.976 行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & 4 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$ が,

$$A \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = \lambda \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \quad (\lambda : \text{定数}) \quad \dots\dots(a)$$

を満たす時, 以下の問いに答えなさい.

(1) (a) 式を満たす 2 つの定数 λ (固有値) と 2 つのベクトル (x, y) (固有ベクトル) を求めなさい.

(2) (1) で求めた固有ベクトルを用いて, 行列 A を対角化しなさい.

(鹿児島大 2009) (m20095418)

0.977 行列 $A = \begin{bmatrix} 5 & -3 \\ -2 & 6 \end{bmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めなさい.

(鹿児島大 2011) (m20115416)

0.978 2×2 の正方行列: $A = \begin{pmatrix} 3 & 2 \\ 1 & 4 \end{pmatrix}$ があるとき, 以下の問いに答えなさい.

(1) 行列 A の逆行列 A^{-1} を求めなさい.

(2) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めなさい.

(鹿児島大 2012) (m20125418)

0.979 行列 $A = \begin{bmatrix} 4 & 3 \\ -2 & -1 \end{bmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めなさい.

(鹿児島大 2012) (m20125436)

0.980 行列 $\begin{bmatrix} -2 & -3 \\ 4 & 5 \end{bmatrix}$ の固有値を求めなさい.

(鹿児島大 2013) (m20135414)

0.981 次の行列 A について, 以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} 2 & -3 \\ -1 & 5 \end{bmatrix}$$

- (1) A の行列式 $|A|$ を求めよ.
- (2) A の逆行列 A^{-1} を求めよ.
- (3) A の二つの固有値 λ_1, λ_2 を求めよ.

(鹿児島大 2014) (m20145410)

0.982 行列 $A = \begin{pmatrix} \frac{2}{5} & \frac{1}{5} \\ -\frac{4}{5} & \frac{6}{5} \end{pmatrix}$ の固有値は $\frac{4}{5}$ であり, 固有単位ベクトルは $\vec{a} = (a_x, a_y) = \frac{\sqrt{5}}{5}(1, 2)$ である.

以下の問いに答えなさい.

- (1) \vec{a} と直交する単位ベクトル $\vec{b} = (b_x, b_y)$ を求めなさい. ただし, $b_x < 0$ とする.
- (2) 行列 P を $\begin{pmatrix} a_x & b_x \\ a_y & b_y \end{pmatrix}$ とおく. ${}^t P P$ と $P {}^t P$ を求めなさい. ただし, ${}^t P$ は P の転置行列とする.
- (3) ${}^t P A P$ を求めなさい.

(鹿児島大 2014) (m20145414)

0.983 次の行列 A の固有値と固有ベクトルを求め, 行列 A を対角化しなさい.

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 3 \\ -2 & -4 \end{bmatrix}$$

(鹿児島大 2015) (m20155420)

0.984 次の行列 A の固有値と固有ベクトルを求め, 行列 A を対角化しなさい.

$$A = \begin{bmatrix} -2 & 1 \\ 1 & -2 \end{bmatrix}$$

(鹿児島大 2016) (m20165416)

0.985 下記の行列 A について以下の問いに答えよ. ただし, 虚数単位は i とする.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 4 \\ -2 & 5 \end{pmatrix}$$

- (1) A の行列式 $|A|$ を求めよ.
- (2) A の逆行列 A^{-1} を求めよ.
- (3) A の2つの固有値 λ_1, λ_2 を求めよ.

(鹿児島大 2017) (m20175405)

0.986 行列 $A = \begin{bmatrix} 2 & 3 & 4 \\ 0 & 1 & 3 \\ 0 & 3 & 5 \end{bmatrix}$ について, 以下の問いに答えよ.

(1) 行列式 $|A|$ を求めよ.

(2) 行列 A の固有値を λ とするとき, 固有方程式ならびに固有値を求めよ.

(鹿児島大 2018) (m20185405)

0.987 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & -3 \\ -4 & 2 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めなさい.

(鹿児島大 2018) (m20185410)

0.988 次の行列 A がある. 以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 4 & 6 \\ 4 & 2 \end{pmatrix}$$

(1) 行列 A の逆行列 A^{-1} を求めよ.

(2) 以下の連立方程式の解を求めよ.

$$4x + 6y = 8, \quad 4x + 2y = 24$$

(3) 行列 A の固有値を求めよ.

(鹿児島大 2018) (m20185424)

0.989 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 0 \\ -1 & 1 & 3 \end{pmatrix}$, $B = \begin{pmatrix} 2 & -1 \\ 1 & 1 \end{pmatrix}$ について, 以下の問いに答えよ.

(1) 行列 A の転置行列を tA とするとき, tAB を計算せよ.

(2) 行列 B の逆行列 B^{-1} を求めよ.

(3) 行列 B の固有値 λ を求めよ.

(鹿児島大 2021) (m20215405)

0.990 行列 $B = \begin{pmatrix} 5 & -6 \\ -1 & 4 \end{pmatrix}$ の固有ベクトル $\vec{v}_1 = \begin{pmatrix} -3 \\ 1 \end{pmatrix}$ に対応する固有値 λ_1 を求めなさい. また, 行列 B の固有値 $\lambda_2 = 2$ に対応する大きさが 1 の固有ベクトル \vec{v}_2 をすべて求めなさい.

(鹿児島大 2021) (m20215410)

0.991 行列 C の固有値とその固有ベクトルを求めなさい. $C = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 0 \\ 3 & 1 & 2 \\ 0 & 3 & 1 \end{pmatrix}$

(室蘭工業大 2006) (m20065504)

0.992 行列 $A = \begin{pmatrix} a & 1 & 1 \\ 1 & a & 1 \\ 1 & 1 & a \end{pmatrix}$ の固有値を求めよ ($a > 1$).

(室蘭工業大 2007) (m20075501)

0.993 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 3 & 4 \end{pmatrix}$ の固有値 λ_1, λ_2 と固有ベクトル u_1, u_2 を求めなさい.

(室蘭工業大 2007) (m20075505)

0.994 行列 A が $A = \begin{bmatrix} 3 & -1 \\ 4 & -2 \end{bmatrix}$ と与えられているものとする. このとき, 以下の問題に答えなさい.

(1) 行列 A の 2 つの固有値とそれらに対応する固有ベクトルを求めなさい.

- (2) 行列 A を対角化しなさい. すなわち, 下の関係を満たす正則行列 P と対角行列 Λ を求めなさい. もし, 対角化が不可能な場合はその理由を述べなさい.

$$P^{-1}AP = \Lambda$$

- (3) A^{10} (すなわち A の 10 乗) を求めなさい.

(室蘭工業大 2008) (m20085506)

- 0.995** (1) 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 3 & 0 \\ 0 & 0 & 2 \end{pmatrix}$ の固有値と各々の固有値に対応する固有ベクトルを求めなさい.

- (2) P を正則な正方行列として $B = P^{-1}AP$ のときに A の固有値と B の固有値は一致することを示しなさい.

- (3) $P = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \\ 1 & 0 & 0 \end{pmatrix}$ のとき $B = P^{-1}AP$ として B の固有値と各々の固有値に対応する固有ベクトルを求めなさい.

(室蘭工業大 2008) (m20085509)

- 0.996** 次の行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 4 & 3 \end{pmatrix}$$

(室蘭工業大 2011) (m20115501)

- 0.997** 以下の問いに答えよ.

- (1) 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & -1 \\ -1 & 1 \end{pmatrix}$ の固有値と各々の固有値に対応する固有ベクトルを求めよ.

- (2) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような, 正則な正方行列 P を求めよ. ただし, 行列 P は直交行列 (逆行行列と転置行列が等しい行列) とする.

(室蘭工業大 2011) (m20115508)

- 0.998** 行列 $A = \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ -1 & 4 \end{bmatrix}$ について, 以下の問いに答えよ.

- (1) A の固有値を求めよ.

- (2) A の固有ベクトルを求めよ.

- (3) A を対角化せよ.

(室蘭工業大 2014) (m20145501)

- 0.999** 行列 $\begin{pmatrix} -2 & 4 \\ 1 & -5 \end{pmatrix}$ の固有値を求めよ.

(室蘭工業大 2015) (m20155501)

- 0.1000** 行列に関する設問に答えよ.

- (1) 下記に示す行列 A の固有値, 固有ベクトルを全て求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} -5 & -2 \\ 4 & 1 \end{pmatrix}$$

(2) 下記に示す行列 B の固有値, 固有ベクトルを全て求めよ.

$$B = \begin{pmatrix} 3 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 3 \\ 1 & 3 & 1 \end{pmatrix}$$

(室蘭工業大 2015) (m20155515)

0.1001 次の行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 2 & 3 \end{pmatrix}$$

(室蘭工業大 2016) (m20165513)

0.1002 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & -2 \\ 1 & 4 \end{pmatrix}$, $B = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ -1 & 2 \end{pmatrix}$ に関する以下の問いに答えよ.

(1) 行列 A の固有値を求め, 各固有値に対応する固有ベクトルを求めよ.

(2) $AX = BA$ を満足する行列 X を求めよ.

(室蘭工業大 2017) (m20175506)

0.1003 2次正方行列 $A = \begin{bmatrix} 1 & -2 \\ 1 & 4 \end{bmatrix}$ について以下を答えよ.

(1) A の固有多項式と固有値を求めよ.

(2) A の各々の固有値に対する固有ベクトルを求めよ.

(室蘭工業大 2018) (m20185501)

0.1004 次の行列 A の固有値及び固有ベクトルを求めよ.

$$A = \begin{pmatrix} 5 & 3 \\ 4 & 9 \end{pmatrix}$$

(室蘭工業大 2022) (m20225503)

0.1005 以下の行列 A の固有値と固有ベクトルを求めなさい.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 0 \\ 2 & -1 & 2 \\ 0 & 2 & 1 \end{pmatrix}$$

(室蘭工業大 2022) (m20225507)

0.1006 $A = \begin{pmatrix} a & 1 \\ 4 & 2 \end{pmatrix}$ の固有値の1つが0とする.

(1) a を求めよ.

(2) 0以外の固有値を求めよ.

(岡山県立大 2008) (m20085602)

0.1007 行列 A について, 以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 0 \\ 0 & -1 & 0 \\ 1 & 0 & 2 \end{pmatrix}$$

(1) $|A|$ の値を求めよ.

- (2) A の逆行列を求めよ.
 (3) A の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(香川大 2005) (m20055702)

- 0.1008** 行列 $A = \begin{bmatrix} 2 & 0 \\ 1 & 2 \end{bmatrix}$ に対して, ある 2×1 ベクトル $\boldsymbol{x} (\neq \mathbf{0})$ を右からかけたところ, \boldsymbol{x} のスカラー倍となった. このようなベクトル \boldsymbol{x} を求めよ.

(香川大 2008) (m20085703)

- 0.1009** 以下に示す行列 A について次の問いに答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & 2 \end{bmatrix}$$

- (1) 行列 A の行列式を求めよ.
 (2) 行列 A の逆行列を求めよ.
 (3) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(香川大 2013) (m20135703)

- 0.1010** 次の行列の固有値と固有ベクトルを求めよ.

$$(1) A = \begin{bmatrix} 2 & 1 \\ 2 & 3 \end{bmatrix} \quad (2) A = \begin{bmatrix} 5 & -7 & 3 \\ 3 & -5 & 3 \\ 3 & -7 & 5 \end{bmatrix}$$

(香川大 2014) (m20145703)

- 0.1011** 以下に表す対称行列 A について, 次の各問に答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} 2 & -1 & -1 \\ -1 & 3 & 0 \\ -1 & 0 & 3 \end{bmatrix}$$

- (1) 行列 A の固有値を求めよ.
 (2) 行列 A の固有ベクトルを求めよ.
 (3) 直交行列 P を求めよ.
 (4) 直交行列 P を用いて, 行列 A を対角化せよ.

(香川大 2015) (m20155702)

- 0.1012** 以下に示す対称行列 A について各設問に答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} 5 & 1 & -1 \\ 1 & 4 & 0 \\ -1 & 0 & 4 \end{bmatrix}$$

- (1) 行列 A の固有値を求めよ.
 (2) 行列 A の固有ベクトルを求めよ.
 (3) 直交行列 P を求めよ.
 (4) 直交行列 P を用いて行列 A を対角化せよ.

(香川大 2017) (m20175705)

0.1013 以下の行列 V に関して, 次の問いに答えよ.

$$V = \begin{bmatrix} \frac{2\sqrt{2}}{3} & a \\ \frac{1}{3} & b \end{bmatrix}$$

- (1) 行列 V の固有値が $1, \sqrt{2}$ となる a, b を求めよ.
- (2) 行列 V が直交行列になるための a, b を求めよ.

(香川大 2018) (m20185705)

0.1014 以下に示す行列 A について各設問に答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} 4 & -1 \\ 6 & -3 \end{bmatrix}$$

- (1) 行列 A の固有値を求めよ.
- (2) 行列 A の固有ベクトルを求めよ.
- (3) 行列 A を対角化せよ.

(香川大 2019) (m20195705)

0.1015 以下に示す行列 U, V について各設問に答えよ.

$$U = \begin{bmatrix} 1 & 3 & -1 & -1 \\ 2 & 3 & -5 & -8 \\ -1 & -2 & 2 & 3 \end{bmatrix}, \quad V = \begin{bmatrix} 4 & \sqrt{3} \\ \sqrt{3} & 2 \end{bmatrix}$$

- (1) 行列 U の階数 (ランク) を求めよ.
- (2) 直交行列を求め, 行列 V を対角化せよ.

(香川大 2020) (m20205705)

0.1016 (1) 次の行列の階数 (ランク) を求めよ.

$$\begin{bmatrix} -1 & 2 & 1 \\ 2 & -1 & -4 \\ 1 & 1 & -3 \end{bmatrix}$$

- (2) 次の行列の固有値を求めよ.

$$\begin{bmatrix} 1 & 2 & 2 \\ 1 & -1 & 3 \\ 0 & 1 & -3 \end{bmatrix}$$

(香川大 2021) (m20215707)

0.1017 以下の行列 A は, 適当な正則行列 P を用いて $P^{-1}AP = B$ のように相似変換し, 行列 B を対角行列にすることができる. 対角行列となる B を求めよ. また, P の一例を示せ.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & -2 \\ -1 & 2 & 1 \\ 0 & 1 & -1 \end{pmatrix}$$

(香川大 2022) (m20225706)

0.1018 行列 $A = \begin{bmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & 2 \end{bmatrix}$ について、以下の問に答えよ。

- (1) 行列式 $|A|$ を第 1 列について余因数展開して、2 行 2 列の行列式にして計算せよ。
- (2) 行列 A の逆行列を求めよ。
- (3) 行列 A の固有値 λ_i とその固有ベクトル x_i ($i = 1, 2, 3$) を求めよ。
- (4) 適当な行列 P と相似変換 ($P^{-1}AP$) を利用して、 A を対角化せよ。

(島根大 2005) (m20055801)

0.1019 行列 $A = \begin{pmatrix} 3 & 1 \\ 2 & 4 \end{pmatrix}$ について、以下の設問に答えよ。

- (1) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ。ただし、固有ベクトルの第 1 成分の大きさが 1 となるように定めよ。
- (2) 設問 (1) で求めた固有ベクトルと、それらを行列 A によって 1 次変換したベクトルを、直交座標系 $O - xy$ 上に原点 O を始点として描け。
- (3) ある四辺形を行列 A によって 1 次変換した像が、 $(1, 1)$, $(-1, 1)$, $(-1, -1)$, $(1, -1)$ を頂点とする正方形になった。変換前の四辺形のすべての頂点を求め、その四辺形を直交座標系 $O - xy$ 上に描け。
- (4) 設問 (3) で求めた四辺形の面積を求めよ。

(島根大 2005) (m20055809)

0.1020 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & -5 \\ -3 & 4 \end{pmatrix}$ について、以下の設問に答えよ。

- (1) 行列 A の固有値 λ_1, λ_2 を求めよ。
- (2) 固有値 λ_1, λ_2 それぞれに対応する固有ベクトル p_1, p_2 を、長さ 1 となるように求めよ。
- (3) 設問 (2) で求めた p_1, p_2 を列ベクトルとみなして構成された行列 $P = (p_1 \ p_2)$ と、その逆行列 P^{-1} を求めよ。
- (4) P, P^{-1} を用いて A を対角行列に変換せよ。

(島根大 2005) (m20055815)

0.1021 次の行列の固有ベクトルを求め、この行列を対角化せよ。 $A = \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ i & i \end{bmatrix}$

ただし、 i は虚数単位である。

(島根大 2006) (m20065813)

0.1022 行列 $A = \begin{bmatrix} 0 & -1 & 1 \\ -1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & -2 \end{bmatrix}$ について、以下の問いに答えよ。

- (1) 行列式 $|A|$ を第 1 列について余因数展開して、2 行 2 列の行列式にして計算せよ。
- (2) 行列 A の逆行列を求めよ。
- (3) 行列 A の固有値 λ_i とその固有ベクトル x_i ($i = 1, 2, 3$) を求めよ。
- (4) 行列 A の階数を求めよ。

(島根大 2007) (m20075812)

0.1023 次の微分方程式について、以下の設問に答えよ。

$$\frac{dx(t)}{dt} = Ax(t) \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

ただし、 $x(t) = \begin{bmatrix} x_1(t) \\ x_2(t) \end{bmatrix}$, $A = \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 1 \end{bmatrix}$, $x(0) = \begin{bmatrix} 2 \\ 0 \end{bmatrix}$ である。

- (1) 行列 A の固有値 λ_1, λ_2 を求めよ。
- (2) 行列 A の固有ベクトル ν_1, ν_2 を求めよ。
- (3) 行列 $T = [\nu_1, \nu_2]$ とする $x(t) = Ty(t)$ の変換によって、 $\textcircled{1}$ を $y(t)$ に関する微分方程式に変形せよ。ただし、 $y(t) = \begin{bmatrix} y_1(t) \\ y_2(t) \end{bmatrix}$ である。
- (4) 設問 (3) で求めた $y(t)$ に関する微分方程式を解け。
- (5) 設問 (4) で求めた解 $y(t)$ を用いて、 $\textcircled{1}$ の解 $x(t)$ を求めよ。

(島根大 2007) (m20075815)

0.1024 行列 $A = \begin{bmatrix} 0 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \end{bmatrix}$ について、以下の問いに答えよ。

- (1) 行列式 $|A|$ を求めよ。
- (2) 行列 A の階数を求めよ。
- (3) 行列 A の逆行列を求めよ。
- (4) 行列 A の固有値 λ_i とその固有ベクトル x_i ($i = 1, 2, 3$) を求めよ。

(島根大 2008) (m20085806)

0.1025 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & -1 \\ 1 & 0 & a \\ 2 & -4 & 4 \end{pmatrix}$ とする。次の問いに答えよ。

- (1) R^3 から R^3 への写像 f_A を

$$f_A \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} = A \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix}$$

と定義する。 f_A は線形写像であることを示せ。

- (2) f_A が単射とならないような a の値を求めよ。
- (3) f_A の像の次元は 2 以上であることを示せ。
- (4) A は 2 を固有値としてもつことを示せ。
- (5) A が 1 を固有値としてもつとき、次の (a),(b) に答えよ。
 - (a) a の値を求めよ。
 - (b) A は対角化可能であることを示せ。

(島根大 2009) (m20095801)

0.1026 (1) 次の行列 A の固有値と、それぞれの固有値に対応する固有ベクトルを求めよ。ただし、固有ベクトルを大きさが 1 になるように規格化すること。

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 3 \\ 3 & 2 \end{pmatrix}$$

- (2) 設問 (1) の行列 A に対し, tPAP が対角行列となるような直交行列 P を求めよ. ただし, tP は P の転置行列を表す.

(島根大 2010) (m20105807)

0.1027 行列 $A = \begin{bmatrix} 1 & 1 & -1 \\ -1 & 3 & -1 \\ -1 & 1 & 1 \end{bmatrix}$ について, 以下の間に答えよ.

- (1) 行列 A の行列式を 1 列について余因子展開して求めよ.
- (2) 行列 A の 3 つの列ベクトルは線形独立といえるか. その根拠と共に示せ.
- (3) 行列 A の逆行列を求めよ.
- (4) 行列 A の固有値 λ_i とその固有ベクトル \boldsymbol{x}_i ($i = 1, 2, 3$) を求めよ.

(島根大 2010) (m20105809)

0.1028 次の行列 A について以下の設問に答えよ. ただし, $0 < a < 1/2$ とする.

$$A = \begin{pmatrix} a & 1-a \\ 1-a & a \end{pmatrix}$$

- (1) A^2 を計算せよ.
- (2) $|A|$ を計算せよ.
- (3) A^{-1} を求めよ.
- (4) A の固有値と, それぞれの固有値に対応する固有ベクトルを求めよ. ただし, 固有ベクトルを大きさが 1 になるように規格化すること.
- (5) A^{-1} , A^2 および A^n の固有値を求めよ. ただし, n は自然数とする.
- (6) A^n を求めよ.
- (7) $\lim_{n \rightarrow \infty} A^n$ を求めよ.

(島根大 2010) (m20105812)

0.1029 $A = \begin{pmatrix} 2 & -1 & -1 \\ -1 & 2 & -1 \\ -1 & -1 & 2 \end{pmatrix}$ とするとき, 次の問いに答えよ.

- (1) A の固有値と固有ベクトルを求めよ.
- (2) A を直交行列を用いて対角化せよ.

(島根大 2012) (m20125806)

0.1030 次を示す連立方程式が与えられている時, 以下の設問に答えよ. ただし, c は定数である.

$$\begin{aligned} x_1 + x_2 + cx_3 &= 5 \\ x_1 + 2x_2 + x_3 &= 1 \\ 2x_1 + 5x_2 + 3x_3 &= 4 \end{aligned}$$

- (1) 上の方程式を $A\boldsymbol{x} = \boldsymbol{b}$ のように表現する場合に, 行列 A と \boldsymbol{b} を示せ. ただし, $\boldsymbol{x} = \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{bmatrix}$ とする.
- (2) 行列式 $|A|$ を求めよ.

(3) $c = 0$ の時, 以下の問いに答えよ.

(a) 行列 A の固有値をすべて求めよ.

(b) 問い (a) で求めた固有値の最大なものに関する固有ベクトルを求めよ.

(島根大 2015) (m20155802)

0.1031 次の 3 次 の 正 方 行 列 A について, 以下の設問に答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} -1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & -1 \end{bmatrix}$$

(1) 行列 A の固有値をすべて求めよ.

(2) 設問 (1) で求めた固有値に対応する固有ベクトルをそれぞれ求めよ. ただし, 固有ベクトルは大きさが 1 となるように正規化 (規格化) すること.

(3) 設問 (2) で求めた固有ベクトルを用いて, 行列 A を対角化せよ.

(4) A^{12} を計算せよ.

(島根大 2016) (m20165805)

0.1032 次の微分方程式について, 以下の設問に答えよ.

$$\frac{d\mathbf{x}(t)}{dt} = A\mathbf{x}(t)$$

ただし, $\mathbf{x}(t) = \begin{bmatrix} x_1(t) \\ x_2(t) \end{bmatrix}$, $A = \begin{bmatrix} 1 & 4 \\ 4 & 1 \end{bmatrix}$, $\mathbf{x}(0) = \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \end{bmatrix}$ である.

(1) 行列 A の固有値 λ_1, λ_2 と固有ベクトル $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2$ を求めよ. ただし, 固有ベクトルは単位ベクトルとして求めること.

(2) 設問 (1) で求めた固有ベクトルが互いに直交していることを示せ.

(3) 固有ベクトルからなる行列 $T = [\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2]$ の逆行列 T^{-1} を求めよ.

(4) $\mathbf{x}(t) = T\mathbf{y}(t)$ の変数変換を行い, $\mathbf{y}(t)$ に関する微分方程式を導け.

(5) 設問 (4) で求めた $\mathbf{y}(t)$ に関する微分方程式を解け.

(6) 設問 (5) で求めた解 $\mathbf{y}(t)$ を用い, 微分方程式の解 $\mathbf{x}(t)$ を求めよ.

(島根大 2017) (m20175802)

0.1033 $A = \begin{pmatrix} 1 & 3 & -3 \\ -1 & 5 & -1 \\ -1 & 1 & 3 \end{pmatrix}$ とする. このとき, 次の問いに答えよ.

(1) A の固有値を求めよ.

(2) $P^{-1}AP$ が対角行列になるような正則行列 P を求めよ.

(島根大 2017) (m20175803)

0.1034 次の 3 行 3 列 の 正 方 行 列 A について, 以下の設問に答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} 3 & 0 & 1 \\ 0 & -2 & 0 \\ 1 & 0 & 3 \end{bmatrix}$$

(1) 行列 A の対角成分の和 (トレース) を求めよ.

- (2) $\vec{a} = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix}$ が行列 A の固有ベクトルであることを確認し, 対応する固有値を求めよ.
- (3) 行列 A の他の 2 つの固有ベクトル \vec{b} と \vec{c} , およびそれらに対応する固有値を求めよ. ただし, 固有ベクトルは正規化 (規格化) し, 固有値の小さい方の固有ベクトルを \vec{b} とすること.
- (4) 行列 A の 3 つの固有値の和を求めよ.
- (5) 行列 A の 3 つの固有ベクトル \vec{a} , \vec{b} と \vec{c} から 3 行 3 列の正方行列 $P = [\vec{a} \ \vec{b} \ \vec{c}]$ を作り, その逆行列 P^{-1} を求めよ.
- (6) 3 行 3 列の正方行列 $L = P^{-1}AP$ を求めよ.
- (7) 行列 L のトレースを求めよ.
- (8) 行列 P と行列 L を用いて, 行列 A^4 を求めよ.
- (9) 行列 A^5 のトレースを求めよ.

(島根大 2019) (m20195802)

0.1035 $A = \begin{pmatrix} 2 & 0 & 0 \\ 1 & 3 & 2 \\ -1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$ とする.

- (1) A の固有値, 固有ベクトルを求めよ. (2) A^n を求めよ.

(島根大 2020) (m20205803)

0.1036 行列 A を $A = \begin{pmatrix} 3 & -7 & 3 \\ 3 & -5 & 1 \\ 4 & -5 & 0 \end{pmatrix}$ とするとき.

- (1) 行列 A の固有値及び固有ベクトルを求めよ.
 (2) 行列 $Q = P^{-1}AP$ が対角行列となるような, 行列 P, Q を求めよ.
 (3) A^k を求めよ.

(首都大 2003) (m20035903)

0.1037 $n \times n$ 正方行列 A の特性多項式は

$$f_A(\lambda) = \det(A - \lambda I) = \lambda^n + a_{n-1}\lambda^{n-1} + \cdots + a_1\lambda + a_0$$

である. (ただし, 係数 a_{n-1}, \dots, a_0 は定数であり, I は単位行列である.)

ここでこの多項式の λ に行列 A を代入した行列多項式は

$$f_A(A) = A^n + a_{n-1}A^{n-1} + a_{n-2}A^{n-2} + \cdots + a_1A + a_0I = 0$$

となる. (これをケイリーハミルトンの定理という)

この定理を用いて

$A = \begin{pmatrix} 3 & 1 \\ -1 & 1 \end{pmatrix}$ のときに, 次の行列をそれぞれ求めよ.

- (1) A^3
 (2) A^{-1}

注意：この定理を用いたことがわかるように解答すること

(首都大 2004) (m20045903)

0.1038 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & -1 \\ -1 & 2 \end{pmatrix}$ が与えられているとき、次の問に答えよ.

- (1) 行列 A の固有値を全て求めよ.
- (2) その全ての固有値に対応する固有ベクトルを求めよ.
- (3) 二次形式 $\Phi = \mathbf{x}^T \mathbf{A} \mathbf{x}$ の標準形が $\Phi = a\xi_1^2 + b\xi_2^2$ で与えられるとき、係数比 $\frac{b}{a}$ を求めよ.
ただし、 $\mathbf{x} = (x_1, x_2)^T$, $\boldsymbol{\xi} = (\xi_1, \xi_2)^T$ は直交行列 U を用いて $\mathbf{x} = U\boldsymbol{\xi}$ で表されるベクトルとする.

(首都大 2005) (m20055903)

0.1039 行列 C を $C = \begin{bmatrix} 3 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 0 \\ 1 & 0 & 2 \end{bmatrix}$ とするとき、以下の問に答えよ.

- (1) C の固有値および固有ベクトルを求めよ.
- (2) 行列 $D = P^{-1}CP$ が対角行列となるような行列 P を求めよ.
- (3) 行列 C^n を求めよ.

(首都大 2007) (m20075902)

0.1040 (1) 連立方程式
$$\begin{cases} (\lambda - 4)x + 2y - 15z = 0 \\ 2x + (\lambda - 1)y - 30z = 0 \\ 4x - 2y - 5(\lambda - 5)z = 0 \end{cases}$$
 が自明でない解をもつように、 λ の値を定めよ.

- (2) 前問で定めた λ の値の全てについて、それぞれに対応する自明でない解を求めよ.

(首都大 2008) (m20085901)

0.1041 行列 A を $A = \begin{bmatrix} 4 & 1 \\ -2 & 1 \end{bmatrix}$ とするとき、以下の問に答えよ.

- (1) A の固有値および固有ベクトルを求めよ.
- (2) A^n を求めよ. 但し n は正の整数とする.

(首都大 2010) (m20105903)

0.1042 行列 $A = \begin{bmatrix} 1 & -2 \\ -2 & 4 \end{bmatrix}$ を対角化する直交行列 P を求め、行列 A を対角化しなさい.

(首都大 2011) (m20115903)

0.1043 行列 A を $A = \begin{bmatrix} 1 & \sqrt{2} & 0 \\ \sqrt{2} & 1 & \sqrt{2} \\ 0 & \sqrt{2} & 1 \end{bmatrix}$ とするとき、以下の問に答えなさい.

- (1) A の固有値をすべて求めなさい.
- (2) A の各固有値に対応する大きさ 1 の固有ベクトルを求めなさい.
- (3) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような直交行列 P と $P^{-1}AP$ を求めなさい.

(首都大 2012) (m20125903)

0.1044 行列 $A = \begin{bmatrix} 7 & -5 \\ 2 & 0 \end{bmatrix}$ と行列 $B = \begin{bmatrix} -3 & 5 \\ -2 & 4 \end{bmatrix}$ について、以下の問いに答えなさい。

- (1) AB と BA を求めなさい。
- (2) A の固有値と大きさ 1 の固有ベクトルをすべて求めなさい。
- (3) A, B, AB を同一の正則行列を用いてそれぞれ対角化しなさい。

(首都大 2013) (m20135903)

0.1045 $A = \begin{bmatrix} 4 & 1 \\ 2 & 3 \end{bmatrix}$ のとき、以下の問いに答えなさい。

- (1) A の固有値、および各固有値に対する固有ベクトルを求めなさい。
- (2) A を対角化する正則行列 P を求めて、 A を対角化しなさい。
- (3) A^n の各成分を n を用いた式で表しなさい。ただし、 n は自然数である。

(首都大 2014) (m20145903)

0.1046 行列 A について以下の (1),(2) に答えよ。

$$A = \begin{bmatrix} 1 & -2 & 0 \\ -1 & 1 & -1 \\ 0 & -2 & 1 \end{bmatrix}$$

- (1) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めなさい。
- (2) 行列 A を対角化しなさい。

(首都大 2015) (m20155903)

0.1047 行列 A について下記の (1),(2),(3) に答えなさい。

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ -1 & 4 \end{bmatrix}$$

- (1) すべての固有値とそれぞれの固有値の固有ベクトルをすべて求めなさい。
- (2) $P^{-1}AP$ が対角行列となるような正則行列 P と $P^{-1}AP$ を求めなさい。
- (3) A^5 を求めなさい。

(首都大 2016) (m20165902)

0.1048 (1) 次の 2 次正方行列 A の固有値および長さが 1 であるすべての固有ベクトルを求めよ。ただし、実数の範囲で扱うものとする。

$$A = \begin{bmatrix} 3 & 1 \\ 2 & 2 \end{bmatrix}$$

- (2) 次の 3 次正方行列 P が直交行列であるとき、 a, b, c の値をすべて求めよ。

$$P = \begin{bmatrix} \frac{1}{\sqrt{6}} & \frac{1}{\sqrt{3}} & a \\ \frac{2}{\sqrt{6}} & \frac{-1}{\sqrt{3}} & b \\ \frac{1}{\sqrt{6}} & \frac{1}{\sqrt{3}} & c \end{bmatrix}$$

(首都大 2016) (m20165910)

0.1049 行列 $A = \begin{bmatrix} 1 & -1 & 0 \\ -1 & 2 & -1 \\ 0 & -1 & 1 \end{bmatrix}$ につて、以下の問いに答えなさい。

- (1) A のすべての固有値と対応する固有ベクトルを求めなさい。
- (2) $P^{-1}AP$ が対角行列となる正則行列 P とその逆行列を求め、行列 A を対角化しなさい。
- (3) A^n を求めなさい。ただし、 n は任意の自然数とする。

(首都大 2019) (m20195902)

0.1050 行列 $A = \begin{bmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}$ について、以下の問いに答えなさい。

- (1) A のすべての固有値と対応する固有ベクトルを求めなさい。
- (2) $P^{-1}AP$ が対角行列となる正則行列 P をひとつ示し、 A を対角化しなさい。
- (3) A^n を求めなさい。ただし、 n は任意の自然数とする。

(東京都立大 2020) (m20205902)

0.1051 2行2列の行列 $A = \begin{bmatrix} -1 & -2 \\ -2 & 2 \end{bmatrix}$ が与えられているとする。

このとき、以下の問いに答えよ。ただし、 T は、行列の転置を表す。

- (1) 行列 A の固有値、固有ベクトルを求めよ。
- (2) P^TAP が対角行列となる直交行列 P を求めよ。
- (3) 行列 A の固有値を λ_1, λ_2 とするとき、以下のすべての条件を満たす2行2列の行列 B, C を求め、以下の条件を満足していることを示せ。
 - (a) $A = \lambda_1 B + \lambda_2 C$
 - (b) $B = B^T, C = C^T$
 - (c) $BC = CB = \mathbf{O}_{2 \times 2}$, なお、 $\mathbf{O}_{2 \times 2}$ は、すべてのの要素が0の2行2列の行列を表す。
 - (d) $B^2 = B, C^2 = C$

(東京都立大 2020) (m20205908)

0.1052 $A = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 & -1 \\ 1 & 0 & 0 & -4 \\ 0 & 1 & 0 & -6 \\ 0 & 0 & 1 & -4 \end{pmatrix}$ について 次の問いに答えよ。

- (1) A の固有値を求めよ。ただし、重複がある場合は、その重複度も答えよ。
- (2) A の固有ベクトルを求めよ。

(滋賀県立大 2016) (m20166002)

0.1053 行列 $A = \begin{pmatrix} -3 & 2 \\ -3 & 4 \end{pmatrix}$ は対角化可能である。対角化のための正則行列 P を求めて、 A を対角化せよ。

(滋賀県立大 2021) (m20216004)

0.1054 以下の問に答えよ。

(1) $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 3 & 2 & 1 \\ 6 & 3 & 1 \end{pmatrix}$ とする. A が正則行列かどうか調べ, 正則ならば A^{-1} を求めよ.

(2) $B = \begin{pmatrix} 4 & -1 & 0 \\ 0 & 5 & -2 \\ -3 & 9 & -3 \end{pmatrix}$ とする.

(a) B の固有値および固有ベクトルを求めよ. ただし, 固有ベクトルの第 1 成分が 1 となるようにせよ.

(b) $P^{-1}BP$ が対角行列となるような P , およびそのときの $P^{-1}BP$ を求めよ.

(宇都宮大 2004) (m20046101)

0.1055 (1) 行列 A を $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & a \\ 1 & a & 1 \\ a & 1 & 1 \end{pmatrix}$ とする. A の階数 (ランク) を求めよ.

(2) 行列 B を $B = \begin{pmatrix} \alpha & 4 & 3 \\ 0 & 2 & 1 \\ -1 & -5 & -3 \end{pmatrix}$ とする.

(a) $\det B = 0$ となるように α を求めよ.

(b) この α に対する B の固有値および対応する固有ベクトルを求めよ. ただし, 固有ベクトルの第 1 成分が 1 となるようにせよ.

(宇都宮大 2005) (m20056101)

0.1056 次の行列 $A = \begin{bmatrix} -1 & 0 & 0 \\ 0 & 2 & 1 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}$ に関して, 以下の問いに答えよ.

(1) A の固有値と固有ベクトル λ_i, \mathbf{u}_i ($i = 1, 2, 3$) を求めよ. ただし, 各固有ベクトルの最大の成分が 1 となるようにせよ.

(2) A の固有ベクトル \mathbf{u}_i ($i = 1, 2, 3$) が, 数ベクトル空間 \mathbf{R}^3 の基底となることを示せ.

(宇都宮大 2007) (m20076105)

0.1057 (1) $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 2 \\ a & a & 1 \\ a & 2 & 1 \end{pmatrix}$ としたとき, $|A| = -2$ となった. この時の a の値を求めよ.

(2) a が (1) の条件を満たすとき, A の固有値および固有ベクトルを求めよ. ただし, a が 2 つ以上の値を取るときは最も小さい値を採用する. また, 固有ベクトルの第 1 成分が 1 となるようにせよ.

(3) (2) で求めた固有値および固有ベクトルを用いて, A を対角化せよ. その時の対角化行列も求めよ.

(宇都宮大 2010) (m20106102)

0.1058 次の行列 A について下の問いに答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & -1 & 0 \\ 0 & 1 & -8 \end{bmatrix}$$

(1) 行列 A の固有値と固有ベクトルを求めよ. 計算経過も記入せよ.

(2) 行列 A が対角化可能か調べよ. 対角化可能であるときは適当な正則行列を求め, 行列 A を対角化せよ. 計算経過も記入せよ.

(3) $A = B^3$ を満たす行列 B を 1 つ求めよ. 計算経過も記入せよ.

(宇都宮大 2015) (m20156102)

0.1059 次の行列 A について下の問いに答えよ. なお, 計算過程も記入せよ.

$$A = \begin{bmatrix} 5 & 6 \\ 1 & 4 \end{bmatrix}$$

- (1) 行列 A の固有値を求めよ.
- (2) 行列 A が対角化可能かどうか調べ, 対角化可能であるときは適当な正則行列を求めて対角化せよ.

(宇都宮大 2016) (m20166102)

0.1060 次の行列 A について, 下の問いに答えよ.

$$A = \begin{bmatrix} 3 & 1 \\ 5 & -1 \end{bmatrix}$$

- (1) 行列 A の固有値と, その固有値に対する固有ベクトルを求めよ. なお, 計算過程も記入せよ.
- (2) 行列 A が対角化可能であるかを調べ, 対角化可能であるときは行列 A を適当な正則行列で対角化せよ. なお, 計算過程も記入せよ.
- (3) A^n を求めよ. ここで, n は自然数とする. なお, 計算過程も記入せよ.

(宇都宮大 2019) (m20196101)

0.1061 次の行列 B について, 下の問いに答えよ.

$$B = \begin{bmatrix} 1 & -2 & 0 \\ 3 & 6 & 0 \\ 2 & -1 & -5 \end{bmatrix}$$

- (1) 行列 B の固有値と固有ベクトルを求めよ. なお, 計算過程も記入せよ.
- (2) 行列 B は対角化が可能であるかを調べよ, 対角化が可能であるならば適当な正則行列を求めて行列 B を対角化せよ. なお, 計算過程も記入せよ.

(宇都宮大 2020) (m20206102)

0.1062 (1) 行列 $A = \begin{bmatrix} \cos \theta & \sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{bmatrix}$ の固有値が実数となることを証明せよ.

(2) 行列 A の逆行列 A^{-1} を求め, $AA^{-1} = E$ となることを証明せよ. ただし, E は単位行列である.

(工学院大 2004) (m20046205)

0.1063 2次実行列 $A = \begin{pmatrix} p & 1-q \\ 1-p & q \end{pmatrix}$ について, 以下の問いに答えよ.

- (1) A の固有値をすべて求めよ.
- (2) $p = q = \frac{1}{2}$ のとき, A^n ($n = 2, 3, 4, \dots$) を求めよ

(はこだて未来大 2007) (m20076301)

0.1064 2次の正方行列 $A = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ -2 & 3 \end{pmatrix}$ に対して, 以下の問いに答えよ.

- (1) A の対角成分の和と A の固有値の和は等しいことを示せ.
- (2) A をその固有値と固有ベクトルを用いて対角化せよ.

0.1065 次の行列 A について、以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & -1 \end{pmatrix}$$

- (1) A の固有値をすべて求めよ.
- (2) A の階数 $\text{rank}A$ を求めよ.
- (3) $\{A\mathbf{x} \mid \mathbf{x} \in \mathbb{R}^3\}$ が平面となることを示せ.

0.1066 3次正方行列

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 1 \\ 0 & 2 & 0 \\ 1 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

について、以下の問いに答えよ.

- (1) A の固有値をすべて求めよ.
- (2) (1) で求めた固有値に対応する固有ベクトルのうち、成分がすべて整数であるものをそれぞれ一つ求めよ.

0.1067 行列 $\begin{pmatrix} -1 & 5 & 3 \\ 1 & -1 & -1 \\ -3 & 7 & 5 \end{pmatrix}$ の固有値をすべて求めよ.

0.1068 2次実対称行列について、以下の問いに答えよ.

- (1) 2次実対称行列 $B = \begin{pmatrix} 5 & -2 \\ -2 & 2 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めよ.
- (2) 2次実対称行列 S が正定値であるとは、すべての $\mathbf{x} \in \mathbf{R}^2$ ($\mathbf{x} \neq \mathbf{0}$) に対して $\mathbf{x}S\mathbf{x} > 0$ が成立することをいう. ここで \mathbf{x} は \mathbf{x} の転置である. (1) の行列 B が正定値であることを示せ.
- (3) 2次実対称行列 $C = \begin{pmatrix} a & b \\ b & a \end{pmatrix}$ の固有値をそれぞれ λ_1, λ_2 とする. 行列 C が正定値となるための λ_1, λ_2 の条件を求めよ.

0.1069 次の行列 A について、以下の問いに答えよ.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 1 \\ 1 & 0 & -1 \\ 0 & 2 & 2 \end{pmatrix}$$

- (1) A の固有値をすべて求めよ.
- (2) A の階数を求めよ.

(3) $\{A\mathbf{x} \mid \mathbf{x} \in R^3\}$ の基底を求めよ。ただし、 R^3 は実 3 次元数ベクトル空間を表す。

(はこだて未来大 2013) (m20136303)

0.1070 行列 $B = \begin{pmatrix} 1 & \frac{1}{2} \\ \frac{1}{2} & 1 \end{pmatrix}$ および、実ベクトル $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ によって ${}^t\mathbf{x}B\mathbf{x} = 1$ で表される 2 次曲線 C

について、以下の問いに答えよ。ここで、 ${}^t\mathbf{x}$ は \mathbf{x} の転置を表す。

- (1) 行列 B を対角化せよ。
- (2) 2 次曲線 C を座標平面上に図示せよ。

(はこだて未来大 2014) (m20146302)

0.1071 3 次正方行列

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & -1 \\ 0 & 2 & 1 \\ 0 & 0 & 3 \end{pmatrix}$$

について、以下の問いに答えよ。

- (1) 行列 A の固有値をすべて求めよ。
- (2) (1) で求めた固有値に対応する固有ベクトルをそれぞれ求めよ。
- (3) 行列 A が対角化可能かどうか調べよ。さらに、対角化可能であれば行列 A を対角化せよ。

(はこだて未来大 2015) (m20156301)

0.1072 実数 $a > 0$ に対して、行列 A, P, B を

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & a & 0 \\ 0 & 0 & -1 \end{pmatrix}, \quad P = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 0 & 1 & 0 \\ 1 & 3 & 2 \end{pmatrix}, \quad B = P^{-1}AP$$

と定める。以下の問いに答えよ。

- (1) P^{-1} を求めよ。
- (2) B が異なる 3 個の固有値をもたないとき、 a の値を定めよ。
- (3) a が (2) で求めた値であるとき、 $n = 1, 2, 3, \dots$ に対し

$$B^n \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

を満たす x, y, z を求めよ。

(はこだて未来大 2016) (m20166301)

0.1073 3 次正方行列

$$A = \begin{pmatrix} 3 & 0 & 0 \\ -1 & 2 & 1 \\ -1 & -1 & 4 \end{pmatrix}$$

について、以下の問いに答えよ。

- (1) 行列 A の固有値をすべて求めよ。

(2) (1) で求めた固有値に対応する固有ベクトルをそれぞれ求めよ.

(3) 行列 A が対角化可能かどうか調べよ. さらに, 対角化可能であれば行列 A を対角化せよ.

(はこだて未来大 2018) (m20186301)

0.1074 行列 $\begin{pmatrix} 1 & -1 & 1 \\ -7 & 2 & 1 \\ 2 & 1 & 2 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(東京海洋大 2007) (m20076403)

0.1075 行列 $\begin{pmatrix} 4 & 0 & -6 \\ 3 & -2 & -3 \\ 3 & 0 & -5 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(東京海洋大 2008) (m20086402)

0.1076 行列 $\begin{pmatrix} 1 & 2 & 2 \\ 2 & 1 & 2 \\ 2 & 2 & 1 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(東京海洋大 2009) (m20096402)

0.1077 行列 $\begin{pmatrix} 2 & -1 & 1 \\ -1 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & 2 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(東京海洋大 2010) (m20106402)

0.1078 行列 $\begin{pmatrix} 2 & 0 & -8 \\ -1 & 2 & 14 \\ 0 & -1 & -5 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(東京海洋大 2011) (m20116402)

0.1079 行列 $\begin{pmatrix} 5 & -3 & -6 \\ -3 & 5 & -6 \\ -3 & -3 & 2 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(東京海洋大 2012) (m20126403)

0.1080 行列 $\begin{pmatrix} 4 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 3 & 2 & 0 \\ 0 & 2 & 3 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 4 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めよ.

(東京海洋大 2016) (m20166406)

0.1081 $A = \begin{pmatrix} 5 & 1 & 1 \\ 1 & 5 & -1 \\ 1 & -1 & 5 \end{pmatrix}$ に対して, $B = P^{-1}AP$ が対角行列になるような正則行列 P と対角行列 B を求めよ.

(東京海洋大 2021) (m20216407)

0.1082 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 1 & 2 \\ 1 & 2 & 2 \\ 2 & 2 & 1 \end{pmatrix}$ に対して, $B = P^{-1}AP$ が対角行列となるような正則行列 P と対角行列 B を求めよ.

(東京海洋大 2022) (m20226402)

0.1083 行列 $\begin{pmatrix} 17 & -15 \\ -15 & 17 \end{pmatrix}$ の固有値と固有ベクトルを求めなさい.

(和歌山大 2007) (m20076501)

0.1084 次の行列 A について, 以下の各問いに答えなさい. ただし, k は実数である.

$$A = \begin{pmatrix} -3 & -4 & 0 \\ 2 & 3 & 0 \\ 0 & k & 5 \end{pmatrix}$$

- (1) 逆行列 A^{-1} を求めなさい.
- (2) 行列 A のすべての固有値と, 絶対値が最大の固有値に対する固有ベクトルを求めなさい.
- (3) 行列 A の第2列, 第3列をそれぞれ \mathbf{x} , \mathbf{y} とするとき, ベクトル \mathbf{x} と \mathbf{y} のなす角が $\frac{\pi}{4}$ となるような k の値を求めなさい.

(和歌山大 2008) (m20086501)

0.1085 (1) $A = \begin{bmatrix} -3 & 1 & -2 \\ -1 & 4 & 3 \\ 1 & 2 & 3 \end{bmatrix}$ のとき, A の行列式と, トレースを求めなさい.

(2) $B = \begin{bmatrix} -1 & 2 \\ 2 & -1 \end{bmatrix}$ として, 以下の問いに答えなさい.

- (a) B の行列式を求めなさい.
- (b) B の固有値 λ_1, λ_2 を求めなさい. ただし $\lambda_1 \geq \lambda_2$ とする.
- (c) 固有値 λ_1, λ_2 に対する固有ベクトル $\mathbf{x}_1 = \begin{bmatrix} x_{11} \\ x_{21} \end{bmatrix}$, $\mathbf{x}_2 = \begin{bmatrix} x_{12} \\ x_{22} \end{bmatrix}$ を求めなさい. ただし, 各成分は $x_{11} \geq x_{21}, x_{12} \geq x_{22}$ を満たし, 絶対値の最も小さい整数とする.
- (d) 行列 P が $P = [\mathbf{x}_1 \quad \mathbf{x}_2] = \begin{bmatrix} x_{11} & x_{12} \\ x_{21} & x_{22} \end{bmatrix}$ で定義されるとき, $BP = P \begin{bmatrix} \lambda_1 & 0 \\ 0 & \lambda_2 \end{bmatrix}$ となることを示しなさい.
- (e) 行列 P の逆行列を求めなさい.
- (f) B^n を求めなさい.

(和歌山大 2009) (m20096501)

0.1086 $P = \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 1 & -1 \\ 1 & 1 \end{pmatrix}$, $Q = \begin{pmatrix} a & 0 \\ 0 & b \end{pmatrix}$ とするとき, 次の問いに答えよ. ただし, $a \neq b$ である.

- (1) P の行列式の値と逆行列とを求めなさい.
- (2) PQP^{-1} の固有値と固有ベクトルを求めなさい.

(和歌山大 2010) (m20106501)

0.1087 行列 $A = \begin{bmatrix} -1 & 0 & 0 \\ 7 & 1 & 2 \\ 3 & 0 & 2 \end{bmatrix}$ を対角化する正則行列 P を求め, 対角化しなさい.

(和歌山大 2012) (m20126501)

0.1088 $P = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 2 \end{pmatrix}$, $Q = \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 2 & 2 \end{pmatrix}$ のとき, 次の各問いに答えなさい.

(1) 行列 P の行列式の値と逆行列を求めなさい.

(2) $P^{-1}Q$ の値と固有値を求めなさい.

(和歌山大 2013) (m20136501)

0.1089 $A = \begin{pmatrix} -1 & 0 & 0 \\ 8 & 1 & 2 \\ 3 & 0 & 2 \end{pmatrix}$ とするとき、次の各問いに答えなさい.

(1) A のすべての固有値を求めなさい.

(2) A の各固有値に対する固有ベクトルを求めなさい.

(3) A を対角化する正則行列 P を求め、 A を対角化しなさい.

(和歌山大 2016) (m20166504)

0.1090 行列 $\begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 4 & 2 \end{pmatrix}$ について、以下の (1), (2) を求めなさい.

(1) この行列の固有値

(2) この行列の固有ベクトル

(和歌山大 2017) (m20176506)

0.1091 2次正方行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 1 \end{pmatrix}$ について、次の (1)~(3) に答えなさい.

(1) 固有値を求めなさい.

(2) 固有ベクトルを求めなさい.

(3) 固有値 α, β に対して、次式が成り立つように、正則行列 P を求めなさい. ただし、 $\alpha > \beta$ とする.

$$P^{-1}AP = \begin{pmatrix} \alpha & 0 \\ 0 & \beta \end{pmatrix}$$

(和歌山大 2018) (m20186501)

0.1092 3次の正方行列 $A = \begin{bmatrix} 1 & -1 & 2 \\ -1 & 1 & -1 \\ -1 & 1 & -2 \end{bmatrix}$ につて、次の (1)~(3) に答えなさい.

(1) 固有値をすべて求めなさい.

(2) 各固有値に対応する固有ベクトルを1つずつ求めなさい.

(3) $P^{-1}AP$ により A を対角化する正則行列 P を一つ求め、 A を対角化しなさい.

(和歌山大 20221) (m20216501)

0.1093 行列 $A = \begin{bmatrix} 3 & -1 \\ 2 & 0 \end{bmatrix}$ の固有値を α, β とし、 α と β に対する固有ベクトルをそれぞれ

$$\mathbf{x} = k \begin{bmatrix} 1 \\ a \end{bmatrix} \quad (k \neq 0), \quad \mathbf{y} = h \begin{bmatrix} 1 \\ b \end{bmatrix} \quad (h \neq 0)$$

とすると、次の問1~問4に答えよ.

問1 α, β を求めよ.

問2 a, b を求めよ.

問3 $P^{-1}AP$ が対角行列となるような行列 P をひとつ求めよ.

問4 次式が成り立つように a_n を求めよ.

$$A^n = \begin{bmatrix} 2a_n - 1 & -a_n + 1 \\ 2a_n - 2 & -a_n + 2 \end{bmatrix}$$

(和歌山大 2022) (m20226501)

0.1094 $A = \begin{pmatrix} -1 & 2 \\ 4 & 1 \end{pmatrix}$ のとき, 次の問いに答えよ. $I = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$ とする.

- (1) A の固有値, 固有ベクトルを求めよ.
- (2) $A^4 + 3A^3 - 6A^2 - 26A - 12I$ を求めよ.
- (3) $(A^4 + 3A^3 - 6A^2 - 26A - 12I)^{-1}$ を求めよ.

(京都府立大 2008) (m20086703)

0.1095 行列 $A = \begin{bmatrix} 2 & -2 \\ 1 & 5 \end{bmatrix}$ を考える.

- (1) A の行列式の値と逆行列を求めよ.
- (2) A の2つの固有値と, 各々の固有値に属する固有ベクトルを求めよ. ただし, 固有値の1つにつき固有ベクトル1つを求めればよい.

(東京工科大 2010) (m20106908)

0.1096 次のベクトル \mathbf{v} と行列 A, B, C について, あとの問いに答えなさい. 回答は途中の式も省略せずに書きなさい.

$$\mathbf{v} = \begin{pmatrix} 4 \\ 1 \\ 2 \end{pmatrix}, \quad A = \begin{pmatrix} 5 & -3 \\ -2 & 1 \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} -1 & 1 & 1 \\ 1 & -1 & 1 \\ 1 & 1 & -1 \end{pmatrix}, \quad C = \begin{pmatrix} -1 & 8 & 3 \\ -7 & 2 & 0 \end{pmatrix}$$

- (1) $A\mathbf{v}, B\mathbf{v}, C\mathbf{v}$ について, 定義されるときは, それぞれの値を計算しなさい. 定義されないときはその理由を答えなさい.
- (2) 行列式 $|A|, |B|$ をそれぞれ答えなさい.
- (3) 行列 A, B の逆行列をそれぞれ答えなさい.
- (4) 行列 B の固有値と固有ベクトルをそれぞれ答えなさい.

(岩手県立大 2014) (m20147001)

0.1097 次の行列 A, B, C, D について, あとの問いに答えなさい. 解答は途中の式も省略せずに書きなさい.

$$A = \begin{pmatrix} -1 & 3 & 2 \\ -3 & 0 & -2 \\ -1 & 2 & 1 \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ -1 & -2 \\ 1 & 3 \end{pmatrix}, \quad C = \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ -4 & -1 \end{pmatrix}, \quad D = \begin{pmatrix} -3 & -1 \\ 4 & 2 \end{pmatrix}$$

- (1) AB を答えなさい.
- (2) 行列 A, B の階数 (ランク) をそれぞれ答えなさい.
- (3) 行列式 $|A|, |C|$ をそれぞれ答えなさい.
- (4) 行列 A, C の逆行列をそれぞれ答えなさい. 定義されないときには「定義されない」と答えなさい.
- (5) 行列 D の固有値と固有ベクトルを答えなさい.

(岩手県立大 2016) (m20167001)